CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

大学院生生活実態調査報告書

第8回

ま　え　が　き

大学院生生活実態調査も第８回となりました。この調査は，本学大学院生の生活実態や要望を調査することで，福利厚生等並びに修学指導における課題を把握し，本学における大学院教育全般の改善を図る目的で２年ごとに行われております。今回は令和２年11月に１研究科・７教育部の修士・博士前期及び博士・博士後期の学生全員（1,370 人）にアンケート調査を実施しました（回収率 37.4%）。その結果がまとまりましたのでご報告いたします。

本報告書は，調査の概要，続いて調査項目①基本的事項，②家族・住居・通学，③収入・支出，④健康状態，⑤学生生活上の問題点，⑥修学状況，⑦進路選択・就職について，総計 103 問の質問により調査（日本語と英語）し，各質問項目について分析結果とデータを示しています。更にこの調査から得られた各研究科・教育部の現状と課題並びに総括と提言を記載しております。

本調査からは，本学大学院生の生活実態がよく分かります。例えば前期課程学生の半数以上がアルバイトをしていること，前期課程学生，後期課程学生の約７割が何らかの悩みや不安を抱えており，学生の半数が現在気になる身体症状があると答えていること，そして，こういった悩みを相談するのはほとんどが友人や家族であること，交通事故に約３割の大学院生が遭遇していること，指導教員とのコミュニケーションは「充分とれている」，「ある程度とれている」は前期・後期課程学生とも約９割であること，また海外渡航が少なく（前期課程学生の約８割は入学後なし），国際学会での発表も新型コロナウイルスの影響もあり，未経験の学生が多いことなど，これから本学の大学院教育の改善・改革を進める上で貴重なデータが得られています。

大学院教育に関して文部科学省は，平成 17 年度より「新時代の大学院教育」，平成 23 年度には，「グローバル化社会の大学院教育」を謳い，その充実と改革を進めてきています。更に平成 30 年度には「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」で高等教育が目指すべき姿が示されました。本学におきましても，各大学院研究科・教育部において，グローバル人材を育成するため，英語講義の開設や英語コース等の充実を図っています。

一方で教育システムの充実と同様に学生を取り巻く環境を整備することが，研究活動を支える必要条件と考えられます。グローバル化に伴い世界各国からの留学生も増加しており，大学には多様なサービスが求められる時代となっています。多くの言語文化を背景にする学生が集うことからも各々への対応が必要です。また，社会人学生への支援の充実も欠かすことができません。大学院での学びには，奨学金などの経済的支援，就労支援等，生活基盤の安定が必要条件となり，学業に専念することが可能となります。

本調査には研究活動上の関わりでは教員に伝わらないデータも含まれており，さらなる支援のための手がかりとして，ご活用いただければ幸甚です。

最後になりますが，本学高等教育研究センターキャリア支援部門学生生活支援室の委員の先生方，ご協力いただいたキャンパスライフ健康支援センターおよびキャリア支援部門の先生方，学務部職員の方々には，アンケート項目の設定，調査の実施，集計，結果の分析まで，ご多忙の中精力的に遂行していただき，早期に報告書を作成していただきました。本年度の本調査に関わられた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。また，調査にご協力いただきました多数の大学院生の皆様にもこの場を借りて深く感謝いたします。

令和３年３月

徳島大学理事（教育担当）

河　村　保　彦

目　　次

まえがき…… 1

序　章　大学院生生活実態調査の概要…… 4
1　調査の目的…… 4
2　調査の組織…… 4
3　調査の対象及び方法…… 4
4　調査の時期…… 4
5　調査の内容…… 4
6　回答票の回収状況…… 5
7　図中の％表示…… 5
8　前期課程・後期課程…… 5
9　教育部（研究科）等の略語表示…… 5

附表　「令和２年度学生生活実態調査」（日本人学生用）…… 8
附表　「2020 STUDENT LIFE SURVEY」（外国人留学生用）……22

第１章 本調査の対象者について……36
１－１　出身地……36
１－２　最終学歴……37
１－３　社会人大学院生と留学生……38

第２章 家族・住居・通学について……40
２－１　家庭の年間所得……40
２－２　住居区分……42
２－３　住居費……43
２－４　配偶者や子供の有無……44
２－５　通学方法……46
２－６　通学時間……47

第３章　収入・支出について……48
３－１　１か月の平均収入額……48
３－２　親等からの援助額……50
３－３　１か月の平均支出額（授業料支出は除く）……52
３－４　奨学金……54
３－５　アルバイト……56
３－６　アルバイト従事時間数……58
３－７　アルバイトの目的……60
３－８　アルバイト収入金額……62
３－９　アルバイトにおけるトラブル……64

第４章　健康状態について……67
４－１　睡眠時間……67
４－２　気になる症状……68
４－３　症状の内容……69
４－４　主な悩みと不安……70

４－５　相談相手……71
４－６　現在の精神状態……72
４－７　喫煙……73
４－８　飲酒……73
４－９　キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門……73

第５章　学生生活上の問題点について……75
５－１　迷惑行為……75
５－２　総合相談部門（学生相談室）の利用……78
５－３　犯罪被害・交通事故・違法薬物使用……80
５－４　大学事務室の対応……83

第６章　修学状況について……84
６－１　教育理念・方針と教育に対する満足度……84
６－２　本学を選んだ理由と目的……87
６－３　研究活動と研究指導……92
６－４　研究環境と所属大学院に対する満足度……99
６－５　図書館の利用状況……102
６－６　学習への取り組み……105
６－７　海外渡航の経験と英会話……107
６－８　日本語会話……112
６－９　本学の教育への期待……115

第７章　進路選択・就職について……118
７－１　後期課程への進学意思……118
７－２　進学希望先……119
７－３　就職希望職種……120
７－４　進路選択の要件……122
７－５　進路選択の情報入手手段……123
７－６　キャリア支援室の利用状況……125
７－７　就職に関する大学への要望……127

第８章　教育部の現状と課題……132
８－１　創成科学研究科……132
８－２　総合科学教育部……134
８－３　医科学教育部……136
８－４　口腔科学教育部……142
８－５　薬科学教育部……145
８－６　栄養生命科学教育部……148
８－７　保健科学教育部……153
８－８　先端技術科学教育部……158
特　記　留学生の現状と課題……162

第９章　総括と提言……165

あとがき……167

序章　大学院生生活実態調査の概要

1．調査の目的

この調査は，本学大学院生の生活の実態や要望を把握し，今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2．調査の組織

この調査は，徳島大学高等教育研究センターキャリア支援部門学生支援班学生生活支援室の委員及び協力者が中心となり調査を実施し，分析作業を行った。

区　分	氏　名	所　属	職名
室　長	吉村　弘	大学院医歯薬学研究部	教　授
委　員	中村　豊	大学院社会産業理工学研究部	教　授
委　員	鶴尾吉宏	大学院医歯薬学研究部	教　授
委　員	滝口祥令	大学院医歯薬学研究部	教　授
委　員	松本健志	大学院社会産業理工学研究部	教　授
委　員	田井章博	大学院社会産業理工学研究部	教　授
委　員	TRAN HOANG NAM	高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班	講　師
委　員	井ノ崎敦子	キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門	講　師
協力者	武藤裕則	高等教育研究センターキャリア支援部門	部門長 教　授
協力者	井﨑ゆみ子	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門	センター長 教　授

3．調査の対象及び方法

この調査は，本学大学院修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程に在学する学生全員1,370人（令和２年11月１日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は，教務システムのアンケート機能を利用し，WEBにより実施した。

4．調査の時期

この調査は，令和２年11月２日から11月13日まで実施し，11月１日現在の実状について回答を依頼した。

5．調査の内容

調査項目は，大学院生の生活全般を把握できるように精選した。

6．回答票の回収状況

調査票の回収状況は，調査対象者 1,370 人のうち回答数は 513 人で，回収率は 37.4％であった。教育部（研究科）・専攻別，学年別，男女別の回収状況は次表のとおりである。

7．図中の％表示

端数処理の関係で合計が 100％にならない場合がある。

8．前期課程・後期課程

報告書中では，修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程，博士後期課程と４年生博士課程(医・歯・薬）を合わせて後期課程と表現した。

9．教育部（研究科）等の略語表示

本報告書中，教育部（研究科）名等を以下のとおり略語で記載する。

創成科学研究科 ⟶ 創成科学
総合科学教育部 ⟶ 総合科学
医科学教育部 ⟶ 医科学
口腔科学教育部 ⟶ 口腔科学
薬科学教育部 ⟶ 薬科学
栄養生命科学教育部 ⟶ 栄養生命科学
保健科学教育部 ⟶ 保健科学
先端技術科学教育部 ⟶ 先端技術科学
第１回大学院生生活実態調査（平成 17 年度実施） → 第１回調査
第２回大学院生生活実態調査（平成 20 年度実施） → 第２回調査
第３回大学院生生活実態調査（平成 22 年度実施） → 第３回調査
第４回大学院生生活実態調査（平成 24 年度実施） → 第４回調査
第５回大学院生生活実態調査（平成 26 年度実施） → 第５回調査
第６回大学院生生活実態調査（平成 28 年度実施） → 第６回調査
第７回大学院生生活実態調査（平成 30 年度実施） → 第７回調査

令和２年度　大学院生生活実態調査　集計表〈教育部（研究科）・専攻・学年別〉

教育部(研究科)名	専攻名	課程	修士・博士前期課程														博士・博士後期課程																			
		学年	１年				２年				小計				回収率		１年				２年				３年				４年				小計				回収率	
			全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体	うち留学生	全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体	うち留学生
			在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	(%)	(%)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	在学者数(人)	提出者数(人)	(%)	(%)
創成科学研究科	地域創成専攻		10	7	5	3					10	7	5	3	70.0	60.0																				
	臨床心理学専攻		10	9	0	0					10	9	0	0	90.0																				
	理工学専攻		322	110	16	7					322	110	16	7	34.2	43.8																				
	生物資源学専攻		42	19	11	11					42	19	1	1	45.2	100.0																				
	小計		384	145	22	11					384	145	22	11	37.8	50.0																				
総合科学教育部	地域科学専攻						25	12	11	5	25	12	11	5	48.0	45.5	5	4	1	0	3	1	0	0	3	1	0	0					11	6	1	0	54.5	
	臨床心理学専攻						14	12	0	0	14	12	0	0	85.7																					
	小計						39	24	11	5	39	24	11	5	61.5	45.5	5	4	1	0	3	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	11	6	1	0	54.5	
医科学教育部	医科学専攻		6	6	0	0	5	2	1	0	11	8	1	0	72.7																					
	医学専攻																32	10	3	1	43	9	7	4	29	1	3	1	71	3	6	0	175	23	19	6	13.1	31.6
	小計		6	6	0	0	5	2	1	0	11	8	1	0	72.7		32	10	3	1	43	9	7	4	29	1	3	1	71	3	6	0	175	23	19	6	13.1	31.6
口腔科学教育部	口腔保健学専攻		2	2	0	0	7	6	0	0	9	8	0	0	88.9		1	1	0	0	3	2	0	0	5	2	0	0					9	5	0	0	55.6	
	口腔科学専攻																9	3	2	2	13	9	7	6	14	7	4	1	20	9	8	4	56	28	21	13	50.0	61.9
	小計		2	2	0	0	7	6	0	0	9	8	0	0	88.9		10	4	2	2	16	11	7	6	19	9	4	1	20	9	8	4	65	33	21	13	50.8	61.9
薬科学教育部	創薬科学専攻		39	26	0	0	30	12	2	2	69	38	2	2	55.1	100.0	11	4	2	2	10	6	1	1	8	1	2	0					29	11	5	3	37.9	60.0
	薬学専攻																1	1	0	0	1	1	1	1	4	4	1	1	1	0	0	0	7	6	2	2	85.7	100.0
	小計		39	26	0	0	30	12	2	2	69	38	2	2	55.1	100.0	12	5	2	2	11	7	2	2	12	5	3	1	1	0	0	0	36	17	7	5	47.2	71.4
栄養生命科学教育部	人間栄養科学専攻		24	19	0	0	24	10	1	1	48	29	1	1	60.4	100.0	10	2	0	0	9	5	1	0	9	2	1	0					28	9	2	0	32.1	
保健科学教育部	保健学専攻		25	22	1	1	33	20	1	1	58	42	2	2	72.4	100.0	4	2	0	0	8	5	2	0	10	2	0	0					22	9	2	0	40.9	
先端技術科学教育部	知的力学システム工学専攻						98	33	3	1	98	33	3	1	33.7	33.3	4	3	1	1	8	2	0	0	9	1	0	0					21	6	1	1	28.6	100.0
	物質生命システム工学専攻						72	23	4	3	72	23	4	3	31.9	75.0	9	5	1	0	8	0	0	0	12	3	2	1					29	8	3	1	27.6	33.3
	システム創生工学専攻						150	31	10	1	150	31	10	1	20.7	10.0	8	5	1	1	14	6	10	5	23	10	16	8					45	21	27	14	46.7	51.9
	小計						320	87	17	5	320	87	17	5	27.2	29.4	21	13	3	2	30	8	10	5	44	14	18	9					95	35	31	16	36.8	51.6
	合計		480	220	23	12	458	161	33	14	938	381	56	26	40.6	46.4	94	40	11	7	120	46	29	17	126	34	29	12	92	12	14	4	432	132	83	40	30.6	48.2

注）在学者数欄は11月1日現在で，休学者を除いた数である。

〈学年別〉

課程	学年	全体		回収率
		対象者数（人）	回収数（人）	全体（%）
修士・博士前期課程	1年	480	220	45.8
	2年	458	161	35.2
	小計	938	381	40.6
博士・博士後期課程	1年	94	40	42.6
	2年	120	46	38.3
	3年	126	34	27.0
	4年	92	12	13.0
	小計	432	132	30.6
	合計	1,370	513	37.4

〈男女別〉

課程	教育部名	回収率（%）		
		男	女	計
修士・博士前期課程	創成科学研究科	35.5	50.0	37.8
	総合科学教育部	61.9	61.1	61.5
	医科学教育部	66.7	100.0	72.7
	口腔科学教育部	100.0	87.5	88.9
	薬科学教育部	54.3	56.5	55.1
	栄養生命科学教育部	100.0	51.3	60.4
	保健科学教育部	73.9	71.4	72.4
	先端技術科学教育部	25.5	41.2	27.2
	小計	36.0	55.7	40.6
博士・博士後期課程	総合科学教育部	50.0	66.7	54.5
	医科学教育部	10.3	20.4	13.1
	口腔科学教育部	51.4	50.0	50.8
	薬科学教育部	50.0	33.3	47.2
	栄養生命科学教育部	12.5	40.0	32.1
	保健科学教育部	16.7	50.0	40.9
	先端技術科学教育部	25.4	64.3	36.8
	小計	24.8	41.3	30.6
	合計	32.9	49.9	37.4

附表１

令和２年度　学生生活実態調査

令 和 ２ 年 １ １ 月
徳　　島　　大　　学

お願い

この調査は，みなさんの学生生活を把握し，今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は，令和２年１１月１日現在，本学に在学する大学院学生全員を対象に匿名で行います。他の目的に使用することはありませんので，ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く，大変とは思いますが，この調査の趣旨をご理解のうえ，ご協力をお願いします。

［調査実施期間　１１月２日（月）～１１月１３日（金)］

＜回答記入上の注意事項＞

１　令和２年１１月１日現在で記入してください。

２　回答内容の該当するものを一つだけ選んでください。ただし，複数回答可を指定している場合は，複数選んでも差し支えありません。

３　回答者を指定している箇所は，指定された人のみ回答してください。

４　末尾に自由記載欄を設けています。学生生活全般について，気づいたことや要望したいこと，あるいは期待することがあれば，自由に記入してください。

学生生活実態調査票（大学院）

A．基本的事項について

1　【常三島地区】所属はどこですか。

1．創成科学研究科（地域創成専攻）
2．創成科学研究科（臨床心理学専攻）
3．創成科学研究科（生物資源学専攻）
4．創成科学研究科（理工学専攻・社会基盤デザイン）
5．創成科学研究科（理工学専攻・機械科学）
6．創成科学研究科（理工学専攻・応用化学）
7．創成科学研究科（理工学専攻・電気電子システム）
8．創成科学研究科（理工学専攻・知能情報システム）
9．創成科学研究科（理工学専攻・光システム）
10．創成科学研究科（理工学専攻・数理科学）
11．創成科学研究科（理工学専攻・自然科学）
12．総合科学教育部（地域科学専攻）
13．総合科学教育部（臨床心理学専攻）
14．先端技術科学教育部（知的力学システム工学専攻）
15．先端技術科学教育部（物質生命システム工学専攻）
16．先端技術科学教育部（システム創生工学専攻）

2　【蔵本地区】所属はどこですか。

1．医科学教育部（医科学専攻）　　2．医科学教育部（医学専攻）
3．口腔科学教育部（口腔保健学専攻）　　4．口腔科学教育部（口腔科学専攻）
5．薬科学教育部（創薬科学専攻）　　6．薬科学教育部（薬学専攻）
7．栄養生命科学教育部（人間栄養科学専攻）　　8．保健科学教育部（保健学専攻）

3　【全員】何年生ですか。

1．修士・博士前期課程１年生　　2．修士・博士前期課程２年生
3．博士後期課程１年生　　4．博士後期課程２年生
5．博士後期課程３年生　　6．博士課程１年生
7．博士課程２年生　　8．博士課程３年生
9．博士課程４年生

4　【全員】性別はどちらですか。

1．男
2．女

5　【全員】出身地はどこですか。

1．徳島県　　2．四国（徳島県以外）　　3．九州　　4．中国　　5．近畿
6．中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）
7．関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
8．東北　　9．北海道

6　【全員】現在所属している研究科又は教育部に進学する前の最終学歴はどこですか。

1．徳島大学　　2．徳島大学以外の国内の大学
3．高等専門学校の専攻科　　4．外国の大学
5．徳島大学大学院修士・博士前期課程　　6．徳島大学大学院以外の国内の大学院
7．外国の大学院

7　【全員】社会人または留学生ですか。
1．社会人大学院生
2．留学生
3．どちらでもない

B．家族・住居・通学について

8　【全員】あなたの家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか。
1．２５０万円未満　　2．２５０～５００万円未満
3．５００～７５０万円未満　　4．７５０～1,０００万円未満
5．1,０００～1,５００万円未満　　6．1,５００万円以上

9　【全員】あなたの住居区分はどれですか。
1．自宅（家族と同居）　　2．アパート・マンション（家族と別居）
3．国際交流会館　　4．間借り
5．親戚・知人宅　　6．その他

10　【国際交流会館及び日亜会館留学生宿舎入居者を除く自宅外通学者】１か月の家賃（電気代，ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。
1．３万円未満　　2．３万円～４万円未満
3．４万円～５万円未満　　4．５万円～６万円未満
5．６万円～７万円未満　　6．７万円～８万円未満
7．８万円～９万円未満　　8．９万円～１０万円未満
9．１０万円以上

11　【全員】あなたには現在，生計を共にしている配偶者・子供がいますか。
1．配偶者なし，子供なし　　2．配偶者なし，子供あり
3．配偶者あり，子供なし　　4．配偶者あり，子供あり

12　【問１１で「2」「4」を選んだ方】授業や研究をしているとき，子供の世話は誰がみていますか。（複数回答可）
1．配偶者　　2．親や親戚
3．保育施設にあずける　　4．小学校等の学校に通っている
5．その他
（注：要望事項があれば末尾の自由記入欄にＱ１２とともに書いてください）

13　【全員】あなたの主な通学方法は何ですか。
1．徒歩　　2．自転車
3．バイク（原付自転車・自動二輪）　　4．自動車
5．バス・ＪＲ

14　【全員】通学時間はどれですか。

1．１５分未満　　2．１５分～３０分未満
3．３０分～１時間未満　　4．１時間～２時間未満
5．２時間以上

C．収入・支出について

１５　【全員】あなたの１か月の平均収入額（親等からの援助を除く）はいくらですか。
1．３万円未満　　2．３～５万円未満
3．５～７万円未満　　4．７～１０万円未満
5．１０～１５万円未満　　6．１５～２０万円未満
7．２０～２５万円未満　　8．２５～３０万円未満
9．３０万円以上

１６　【全員】親等からの援助はいくらありますか。
1．全くない　　2．３万円未満
3．３～５万円未満　　4．５～７万円未満
5．７～１０万円未満　　6．１０～１５万円未満
7．１５～２０万円未満　　8．２０万円以上

１７【全員】あなたの１か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。
1．３万円未満　　2．３～５万円未満
3．５～７万円未満　　4．７～１０万円未満
5．１０～１５万円未満　　6．１５～２０万円未満
7．２０～２５万円未満　　8．２５～３０万円未満
9．３０万円以上

１８【全員】奨学金を受けることを希望しますか。
1．現在受給中であるが，更に希望する
2．現在受給していないが，希望する
3．現在受給していないし，希望もしない

１９【全員】現在，アルバイトをしていますか。
1．はい
2．いいえ

２０　問１９で「1」を選んだ方】①１週間の従事時間は平均何時間ですか。（移動に要する時間も含む）
1．５時間未満　　2．５～１０時間未満
3．１０～１５時間未満　　4．１５～２０時間未満
5．２０～２５時間未満　　6．２５時間以上

２１　【問１９で「1」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。（複数回答可）
1．生活費や学費のため　　2．学会参加のため
3．レジャー・旅行費のため　　4．日常の娯楽・嗜好品等購入のため
5．高額商品（パソコン，バイク，自動車等）購入のため
6．社会体験のため　　7．その他

２２　【問１９で「1」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入（１か月平均）はいくらですか。

1．３万円未満　　2．３～５万円未満
3．５～７万円未満　　4．７～１０万円未満
5．１０～１５万円未満　　6．１５万円以上

２３　【問１９で「1」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。（複数回答可）

1．ない　　2．給料の不払い
3．給料が契約より低かった　　4．客とのトラブル
5．解雇　　6．雇用者との意見の不一致
7．事故・ケガ　　8．その他

２４　【問２３で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

D．健康状態について

２５　【全員】１日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。（休日を除く）

1．４時間未満　　2．４～６時間未満
3．６～８時間未満　　4．８～１０時間未満
5．１０時間以上

２６　【全員】現在気になる身体症状はありますか。

1．ない
2．時々ある
3．常にある

２７　【問２６で「3」を選んだ方】気になる症状は何ですか。（複数回答可）

1．頭痛　　2．腹痛・嘔気
3．下痢・便秘　　4．動悸・不整脈
5．めまい・立ちくらみ　　6．咳・痰
7．生理痛・生理不順　　8．アトピー・アレルギー
9．不眠　　１０．その他

２８　【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。（複数回答可）

1．ない　　2．経済状態
3．勉学　　4．交友・異性関係
5．身体的不調　　6．家族関係
7．自分の性格　　8．就職や進路
9．生き甲斐や目標　　１０．その他

２９　【全員】悩み事は誰に相談しますか。（複数回答可）

1．友人　　2．家族
3．教員　　4．総合相談部門（学生相談室）
5．保健管理部門　　6．学務（教務）係
7．１～６以外の人　　8．誰にもしない

３０　【全員】現在の精神状態はどうですか。

1．充実している　　2．気分は普通
3．いらいらする　　4．なんとなく不安
5．落ち込みやすい　　6．やる気がでない
7．その他

３１　【全員】喫煙しますか。

1．喫煙しない　　2．ときどき喫煙する
3．毎日喫煙する　　4．過去に喫煙していたが，現在はしない

３２　【全員】飲酒をしますか。

1．飲酒はしない　　2．たまに飲酒する
3．１週間に１～２日飲酒する　　4．１週間に３～４日飲酒する
5．１週間に５日以上飲酒する

３３　【全員】キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門を利用したことがありますか。（複数回答可）

1．健康診断のために行ったことがある
2．健康診断以外（診療，相談，健康機器の利用，証明書作成など）で利用したことがある
3．キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門があることを知らなかった
4．キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門は知っているが，行ったことがない

E．学生生活上の問題点

３４　【全員】あなたは，現在所属の大学院入学以来，迷惑行為を受けたことがありますか。（複数回答可）

1．受けたことはない　　2．悪徳商法に引っかかった
3．いたずら電話を受けた　　4．ストーカーにあった
5．大学内でセクハラを受けた　　6．大学内でアカハラを受けた
7．飲酒を強要された　　8．インターネットによる誹謗・中傷を受けた
9．カルトのような集団への勧誘を受けた
10．その他

セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）とは 相手を不快にさせる性的な言動を行い，それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり，精神的な苦痛などを与えること。
アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは 大学などで，指導教員が学生に対し，教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

３５　【問３４で「５」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1．友人　　2．家族
3．教員　　4．キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）
5．学務（教務）係　　6．１～５以外の人
7．誰にもしない

３６　【問３４で「６」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1．友人　　2．家族

3．教員　　4．キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）
5．学務（教務）係　　6．１～５以外の人
7．誰にもしない

３７　【問３４で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

３８　【全員】キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）を利用したことがありますか。

1．利用したことがある
2．総合相談部門（学生相談室）があるのは知っているが，利用したことがない
3．総合相談部門（学生相談室）を知らない

３９　【問３８で「１」を選んだ方】総合相談部門（学生相談室）を利用して対応はどうでしたか。

1．満足である　　2．どちらかといえば満足である
3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

４０　【問３９で「3」「4」を選んだ方】内容を記載して下さい。

４１　【全員】あなたは，現在所属の大学院入学以来，盗難（盗み），強盗，傷害，痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。（複数回答可）

1．被害に遭ったことがない
2．盗難（盗み）に遭ったことがある
3．強盗に遭ったことがある
4．傷害に遭ったことがある
5．痴漢に遭ったことがある
6．その他

４２　【問４１で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

４３　【全員】あなたは，交通事故の被害者または加害者になったことがありますか。

1．被害者・加害者の両方になったことがある　　2．被害者になったことがある
3．加害者になったことがある　　4．被害者・加害者両方ともなったことがない

４４　【全員】大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物を使用したことがありますか。

1．ある　　2．ない

４５　【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1．満足している　　2．どちらかといえば満足である

3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

４６　【問４５で「3」「4」を選んだ方】理由」を記載して下さい。

F．修学状況

４７　【全員】所属する研究科又は教育部の教育理念や教育方針を知っていますか。

1．良く知っている　　2．だいたい知っている
3．あまり知らない　　4．知らない

４８　【問４１で「1」「2」を選んだ方】上記の教育部の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。

1．思う　　2．思わない

４９　【全員】あなたは学位の授与（修了）に至るまでの教育課程について満足していますか。

1．満足している　　2．どちらかといえば満足している
3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

５０　【問４９で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

５１　【徳島大学卒業者】大学院進学の際，現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1．第一志望だった　　2．第二志望だった
3．第三志望だった　　4．その他

５２　【他大学卒業者】大学院進学の際，現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1．第一志望だった　　2．第二志望だった
3．第三志望だった　　4．その他

５３　【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。（複数回答可）

1．出身大学だから　　2．希望する研究分野があるから
3．指導教員に勧められたから　　4．地元の大学だから
5．就職等将来を考慮して　　6．研究環境が整っているため
7．希望する就職先がなかったから　　8．継続して修学するため
9．先輩や友人に勧められて　　10．その他

５４　【問５３で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

５５　【全員】大学院で勉学することにより，あなたの目指すものは何ですか。

１．高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人
２．創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者
３．確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員
４．知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
５．その他

５６　【問５５で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

５７　【全員】あなたは，あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。

１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

５８　【問５７で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

５９　【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。

１．３０分未満　　２．３０分～９０分未満
３．９０分～5時間未満　　４．５～１０時間未満
５．１０～２０時間未満　　６．２０～４０時間未満
７．４０～６０時間未満　　８．６０時間以上

６０　【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。

１．教授　　２．准教授
３．講師　　４．助教
５．その他

６１　【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導を受けていますか。

１．３０分未満　　２．３０～９０分未満
３．９０分～5時間未満　　４．５～１０時間未満
５．１０時間以上

６２　【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。

１．満足している　　２．どちらかといえば満足している
３．どちらかといえば不満足である　　４．不満足である

６３　【問６２で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

６４　【全員】あなたは修士（博士）論文の研究テーマに満足していますか。

1．満足している　　2．どちらかといえば満足している
3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

６５　【問６４で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

６６　【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。
1．充分とれている　　2．ある程度とれている
3．あまりとれていない　　4．まったくとれていない

６７　【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。
1．充分に行われている　　2．ある程度行われている
3．あまり行われていない　　4．全く行われていない

６８　【問６７で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

６９　【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。
1．満足している　　2．どちらかといえば満足している
3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

７０　【問６９で「3」「4」を選んだ方】その理由はどれですか。（複数回答可）
1．施設・設備　　2．研究費用
3．研究時間　　4．その他

７１　【問７０で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

７２　【全員】あなたは所属している教育部・専攻に全体として満足していますか。
1．満足している　　2．どちらかといえば満足している
3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

７３　【問７２で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

７４　【全員】図書館をどのくらいの頻度で来館しますか。
1．ほぼ毎日**来館**している
2．１週間に２～３回くらい**来館**する

3．１週間に１回程度**来館**する
4．２週間に１回程度**来館**する
5．１か月に１回程度**来館**する
6．半年に１回程度**来館**する
7．１年に１回程度か，それ以下の**来館**頻度である

７５　【全員】図書館を利用する主な目的は何ですか（非来館利用も含む）。（複数回答可）
1．図書等の貸し出し
2．図書等の閲覧やコピー
3．自習
4．グループ研究(学習)
5．パソコンの利用
6．電子ジャーナル・データベース
7．授業等の間の時間調整
8．その他

７６　【全員】図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。
1．満足している　　2．どちらかといえば満足している
3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

７７　【問７６で「3」「4」を選んだ方】内容を記載して下さい。

７８　【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。
1．よく学習している　　2．かなりしている
3．あまりしていない　　4．全然していない

７９　【全員】入学後，海外渡航をしたことがありますか。
1．ない　　2．１回
3．２回　　4．３回
5．４回以上

８０　【問７９で「ない」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。（複数回答可）
1．留学　　2．語学研修
3．学会参加　　4．学術調査
5．社会活動　　6．観光
7．一時帰国　　8．その他

８１　【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。
1．海外の国際学会で口頭発表したことがある
2．海外の国際学会でポスター発表したことがある
3．国内の国際学会で口頭発表したことがある
4．国内の国際学会でポスター発表したことがある
5．国際学会で研究発表をしたことはない

８２　【日本人の方】英会話はどの程度できますか。

1．専門用語を使った会話ができる　　2．日常会話ができる
3．なんとか日常会話ができる　　4．あまりできない
5．できない

８３　【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。（複数回答可）
1．英会話等の学校に通っている
2．ラジオ・テレビの英会話番組で学習している
3．TOEIC，TOEFL 等を受験する
4．外国語の新聞，雑誌を購読している
5．外国のラジオ，テレビを視聴している
6．つとめて外国人と英語でコミュニケーションする
7．何もしていない

８４　【留学生の方】日本語会話はどの程度できますか。
1．専門用語を使った会話ができる　　2．日常会話ができる
3．なんとか日常会話ができる　　4．あまりできない
5．できない

８５　【留学生の方】徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。
1．受講している　　2．以前受講したことがある
3．今後受講する予定である　　4．受講の予定はない

８６　【問８５で「1」「2」を選んだ方】日本語コースの満足度はどの程度ですか。
1．満足している　　2．どちらかといえば満足している
3．どちらかといえば不満足である　　4．不満足である

８７　【問８６で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

８８　【全員】あなたの将来のために，本学の教育に何を望みますか。（複数回答可）
1．統合的な学習課題を体系的に履修するコース
2．複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導
3．企業等での長期間の実践的なインターンシップ
4．高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会
5．産業界，地域社会との積極的な連携，共同研究
6．個々の教員の教育・研究指導能力の向上
7．その他
8．特にない

８９　【問８８で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

９０　【全員】本学は国際化への対応について積極的であると思いますか。

1．非常に積極的であると思う　　2．どちらかといえば積極的であると思う
3．どちらかといえば積極的とは思わない　　4．積極的とは思わない

９１　【問９０で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

G. 進路選択・就職について

９２　【修士・博士前期課程の方】博士（後期）課程への進学を考えていますか。
1．進学したい（進学予定者を含む）
2．奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3．就職したい
4．未定

９３　【問９２で「1」「2」を選んだ方】それは本学ですか，他大学ですか。
1．本学
2．他大学
3．未定

９４　【問９２で「3」「4」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】希望職種は何ですか。（複数回答可）
1．大学・官公庁の教育・研究職　　2．１以外の公務員
3．技術職　　4．事務職
5．企業等の研究職　　6．教育職
7．マスコミ関係　　8．専門職（医師等）
9．既に就職している　　10．その他

９５　【問９４で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

９６　【全員】進路選択で重視するものは何ですか。（３個以内で回答）
1．収入
2．就職先の将来性・安定性
3．社会的評価
4．能力を発揮できること
5．勤務地の地理的条件
6．先端技術を駆使しているところ
7．経営方針
8．企業規模
9．転勤・異動の有無
10．その他

９７　【問９６で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

９８　【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。（複数回答可）

1．指導教員
2．就職担当教員
3．就職相談員
4．先輩・知人
5．直接会社に照会
6．就職情報誌・新聞・マスコミ
7．家族等
8．大学内資料
9．Ｗｅｂ・インターネット
10．その他

９９　【問９８で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

１００　【全員】本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。

1．現在も利用している
2．以前に利用したことがある
3．利用したことがない

１０１　【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。（複数回答可）

1．就職情報誌など就職関係書籍の充実
2．面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実
3．公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
4．企業説明会の内容充実
5．就職ガイダンスの充実
6．求人企業の開拓
7．その他

１０２　【問１０１「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

１０３　自由記載欄

その他ご意見・ご要望等があれば，具体的に記載してください

ご協力ありがとうございました

附表 2

2020 STUDENT LIFE SURVEY

November 2020
Tokushima University

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in UT. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.
This is an anonymous survey administered to all students enrolled at Tokushima University as of November 1, 2020. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.
It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

[Survey Period: November 2—13]

NOTES

1. Please answer questions as of November 1, 2020.
2. Please choose one answer for each question. Note that some questions allow multiple answers.
3. Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
4. You may also write comments or requests regarding school life on the entry space "103" at the end of this questionnaire (if any).

STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY (GRADUATE SCHOOL)

A . BASIC INFORMATION

1【Subject:Josanjima Area】

Which Graduate School do you belong to?

1.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Regional Development)
2.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Clinical Psyshology)
3.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Science and Technology・Civil and Environmental Engineering)
4.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Science and Technology・Mechanical Science)
5.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Science and Technology・Applied Chemistry)
6.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Science and Technology・Electrical and Electronic Engineering)
7.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Science and Technology・Computer Science)
8.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Science and Technology・Optical Science)
9.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Science and Technology・Mathematical Science)
10.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Science and Technology・Natural Science)
11.Graduate School of Sciences and Technology for Innovation(Bioresource Science)
12.Graduate School of Integrated Arts and Science (Regional Sciences)
13.Graduate School of Integrated Arts and Science (Clinical Psychology)
14.Graduate School of Advanced Technology and Science (Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering)
15.Graduate School of Advanced Technology and Science (Earth and Life Environmental Engineering)
16.Graduate School of Advanced Technology and Science (Systems Innovation Engineering)

2【Subject:Kuramoto Area】

Which Graduate School do you belong to?

1.Graduate School of Medical Sciences (Medicine)
2.Graduate School of Medical Sciences (Medical Science)
3.Graduate School of Oral Sciences (Oral Science)
4.Graduate School of Oral Sciences (Oral Health Science)
5.Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Pharmaceutical Sciences)
6.Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Pharmacy)
7.Graduate School of Nutrition and Bioscience (Human Nutrition)
8.Graduate School of Health Sciences (Health Sciences)

3【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

4.【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male　　2. Female

5.【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region (other than Tokushima)
3. Kyushu Region

4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region (Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region (Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country on the back of your answer sheet)

6【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. Tokushima University
2. University in Japan other than Tokushima University
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of Tokushima University
6. Graduate School in Japan other than Tokushima University
7. Graduate School abroad

7【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus　2. Foreign student　3. Neither

B . FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING

8【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?

1. Less than ¥2,500,000　2. ¥2,500,000—4,999,999　3. ¥5,000,000—7,499,999
4. ¥7,500,000—9,999,999　5. ¥10,000,000—14,999,999　6. More than ¥15,000,000

9【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)　2. Apartment (Not living with family)
3. International House of Tokushima University　4. Boarding house
5. Home of a relative/acquaintance　6. Others

10.【Subject: All excluding International House/Nichia Kaikan International House residents 】How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities)?

1. Less than ¥30,000　2. ¥30,000—39,999　3. ¥40,000—49,999　4. ¥50,000—59,999
5. ¥60,000—69,999　6. ¥70,000—79,999　7. ¥80,000—89,999　8. ¥90,000—99,999
9. More than ¥100,000

11.【Subject: ALL】

Do you have a spouse or child(ren) living with you?

1. No spouse or child　2. No spouse, but have child(ren)
3. Have a spouse, but no child　4. Have a spouse and child(ren)

12.【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q10】

Who takes care of your child(ren) while you are attending a class or doing research? (Multiple answers allowed)

1. Spouse　2. Your or spouse's parent(s)/relative(s)
3. Daycare facility　4. School (elementary school, etc.)
5. Others

(Note: Please use the back of entry space"103" at the end of this questionnaire to write the number of this question (12) and the specifics.)

13.【Subject: ALL】

How do you usually commute to the university?

1. By walking 2. By bicycle 3. By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle)
4. By car 5. By bus/JR

14.【Subject: ALL】

How long does it take to commute to the university?

1. Less than 15 minutes 2. 15—less than 30 minutes 3. 30 minutes—less than 1 hour
4. 1—less than 2 hours 5. More than 2 hours

C . INCOME/EXPENDITURE

15.【Subject: ALL】

How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents)?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000—49,999 3. ¥50,000—69,999 4. ¥70,000—99,999
5. ¥100,000—149,999 6. ¥150,000—199,999 7. ¥200,000—249,999 8. ¥250,000—299,999
9. More than ¥300,000

16.【Subject: ALL】

How much is the average amount of financial assistance from your parents?

1. None 2. Less than ¥30,000 3. ¥30,000—49,999 4. ¥50,000—69,999
5. ¥70,000—99,999 6. ¥100,000—149,999 7. ¥150,000—199,999 8. More than ¥200,000

17.【Subject: ALL】

How much is the average monthly expenditure (excluding tuition)?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000—49,999 3. ¥50,000—69,999 4. ¥70,000—99,999
5. ¥100,000—149,999 6. ¥150,000—199,999 7. ¥200,000—249,999 8. ¥250,000—299,999
9. More than ¥300,000

18.【Subject: ALL】

Do you wish to receive a scholarship?

1. Yes. I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2. Yes. I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.
3. No. I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

19.【Subject: ALL】

Do you have a part-time job?

1. Yes 2. No

20.【Subject: Those who chose (Yes) for Q19】

① How much is the average weekly work hours (including commuting time)?

1. Less than 5 hours 2. 5—less than 10 hours 3. 10—less than 15 hours
4. 15—less than 20 hours 5. 20—less than 25 hours 6. More than 25 hours

21.【Subject: Those who chose (Yes) for Q19】

② What is the purpose of having a part-time job?

1. For living expenses or tuitions 2. To attend academic conferences
3. For leisure/travel 4. For daily leisure (ex. favorite food or beverages, etc.)
5. To purchase expensive products (PC, motorcycle, car, etc.)
6. To gain social experiences 7. Others

22.【Subject: Those who chose (Yes) for Q19】

③ How much is the average monthly income from your part-time job?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000—49,999 3. ¥50,000—69,999
4. ¥70,000—99,999 5. ¥100,000—149,999 6. More than ¥150,000

23.【Subject: Those who chose (Yes) for Q19】

④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?

1. No 2. Unpaid salary 3. Paid less than agreed in contract

4. Trouble with customer(s) 5. Termination of employment 6. Disagreement with employer
7. Accident/injury 8. Others

24.【Subject: Those who chose (Others) for Q23】
Please write the details.

D . HEALTH CONDITIONS

25.【Subject: ALL】

How long do you sleep per day (excluding weekends and holidays)?

1. Less than 4 hours 2. 4—less than 6 hours 3. 6—less than 8 hours
4. 8—less than 10 hours 5. More than 10 hours

26.【Subject: ALL】

Are there any physical conditions you are concerned about?

1. Yes 2. Sometimes 3. Constantly

27.【Subject: Those who chose (Constantly) for Q26】

What is/are the symptom(s)? (Multiple answers allowed)

1. Headache 2. Stomachache/ nausea 3. Dizziness/light headedness
4. Palpitation/irregular heartbeat 5. Diarrhea/ constipation 6. Coughs/sputum
7. Menstrual cramps/ menstrual irregularities 8. Atopy/allergy 9. Insomnia
10. Others

28.【Subject: ALL】

Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern(s)? (Multiple answers allowed)

1. No 2. Financial concerns 3. Research and Study
4. Friends/relationships 5. Poor physical condition 6. Family relation
7. Own personality 8. Future career 9. Motivation or purpose in life
10. Others

29.【Subject: ALL】

Who do you usually consult concerns or worries? (Multiple answers allowed)

1. Friend(s) 2. Family
3. Teacher/professor 4. Student and Staff Counseling Division
5. Health Service Division 6. Section of Academic Affairs in your Department/Faculty
7. Those other than 1—6 8. Nobody

30.【Subject: ALL】

What is your current emotional state?

1. Fulfilled 2. Normal 3. Irritated 4. Anxious for no apparent reason
5. Easily depressed 6. Low energy 7. Others

31.【 Subject: ALL 】Do you smoke?

1. Never 2. Sometimes
3. Everyday 4. Smoked in the past but not anymore

32.【Subject: ALL】

Do you drink alcoholic beverages?

1. No 2. Sometimes 3. 1—2 times a week
4. 3—4 times a week 5. More than 5 times a week

33【Subject: ALL】

Have you ever visited the Health Service Division of the Health service,Counseling and Accessibility Center ? (Multiple answers allowed)

1. Yes, I have visited there for health check-ups
2. Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups (examination, consultation, healthcare equipment, issuance of certificate, etc.)
3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.
4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

E . ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE

34.【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of any nuisance since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes, I have been a victim of an illegal business practice.
3. Yes, I have received an obscene phone call.
4. Yes, I have been a stalking victim.
5. Yes, I have experiences sexual harassment on campus.
6. Yes, I have experienced academic harassment on campus.
7. Yes, I have been forced to drink alcohol.
8. Yes, I have been defamed on the internet.
9. Cult-like group recruitment
10. Others

SEXUAL HARASSMENT:	ACADEMIC HARASSMENT:
It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.	It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.

35.【Subject: Those who chose (5) for Q34】

Have you consulted someone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

1. Friend
2. Family
3. Teacher/professor
4. Student and Staff Counseling Division
5. School Affairs (Educational Affairs) Section
6. Those other than 1—5
7. Nobody

36.【Subject: Those who chose (6) for Q34】

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

1. Friend
2. Family
3. Teacher/professor
4. Student and Staff Counseling Division
5. School Affairs (Educational Affairs) Section
6. Those other than 1—5
7. Nobody

37.【Subject: Those who chose (10) for Q34】

Please write the details.

38.【Subject: ALL】

Have you ever visited Student and Staff Counseling Division of the Health service,Counseling and Accessibility Center?

1. Yes
2. No. I have never been there although I have heard of the facility.
3. No. I have never heard of such facility.

39.【Subject: Those who chose (1) for Q38】

How was the service at the Student and Staff Counseling Division of the Health service,Counseling and Accessibility Center?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfying
4. Unsatisfying

40.【Subject: Those who chose (3)or(4) for Q39】

Please write the reason.

41.【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of a crime, such as theft, burglary, assault, or sexual molestation since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes. I have been a victim of theft.
3. Yes. I have been a victim of burglary.
4. Yes. I have been a victim of assault.
5. Yes. I have been a victim of sexual molestation.
6. Others

42.【Subject: Those who chose (others) for Q41】

Please write the detils.

43.【Subject: ALL】

Have you ever been a victim or a cause of a road accident?

1. Ihave been both a victim and a cause.
2. I have been a victim.
3. I have been a cause.
4. I have never been either a victim or a cause.

44.【Subject: ALL】

Have you ever used any illegal drug(s) such as marijuana or methamphetamine?

1. Yes
2. No

45.【Subject: ALL】

How would you rate the service of the administration office of Tokushima University?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

46.【Subject: Those who chose (3)or(4) for Q45】

Please write the reason.

F . EDUCATION ENVIRONMENT

47.【Subject: ALL】

Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

1. Very familiar　　2. Moderately familiar
3. Slightly unfamiliar　　4. Unfamiliar

48.【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q47】

Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

1. Yes　　2. No

49.【Subject: ALL】

How would you rate the curriculums of your graduate school?

1. Excellent　　2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactor　　4. Unsatisfactory

50.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q49】

Please write the reason.

51.【Subject: Graduates of Tokushima University】

Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.　　2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.　　4. Others

52.【Subject: Graduates of universities other than Tokushima University】

Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.　　2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.　　4. Others

53.【Subject: ALL】

What is (are) the reason(s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed) Because:

1. I am a graduate of Tokushima University.
2. the field that meets my interests is available.
3. it was recommended by the previous professor.
4. it is in my hometown.
5. the field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. it has a well-developed research environment.
7. there were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. it was recommended by an experienced person or friend.
10. Others

54.【Subject: Those who chose (others) for Q53】

Please write the reason.

55.【Subject: ALL】

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education

4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others

56.【Subject: Those who chose (others) for Q55】
Please write the reason.

57.【Subject: ALL】
How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?
1. Excellent 2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory 4. Unsatisfactory

58.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q57】
Please write the reason.

59.【Subject: ALL】
What is the average amount of hours spent for self research per week?
1. Less than 30 minutes 2. 30—less than 90 minutes 3. 90 minutes—less than 5 hours
4. 5—less than 10 hours 5. 10—less than 20 hours 6. 20—less than 40 hours
7. 40—less than 60 hours 8. More than 60 hours

60.【Subject: ALL】
Who provides guidance to you throughout your research?
1. Professor 2. Associate Professor 3. Lecturer
4. Assistant Professor 5. Others

61.【Subject: ALL】
How long do you receive guidance from the person you answered in Question 51?
1. Less than 30 minutes per week 2. 30—less than 90 minutes per week
3. 90 minutes—less than 5 hours per week 4. 5—less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week

62.【Subject: ALL】
How would you rate the contents and structures of the research guidance?
1. Excellent 2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory 4. Unsatisfactory

63.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q62】
Please write the reason.

64.【Subject: ALL】
Are you satisfied with the research thesis for your Master's (Doctoral) Degree?
1. Satisfied 2. Relatively satisfied

3. Relatively dissatisfied　　4. Dissatisfied

65.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q64】
Please write the reason.

66.【Subject: ALL】
How is the communication between you and your instructor?
1. Excellent　　2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory　　4. Unsatisfactory

67.【Subject: ALL】
Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?
1. Highly appropriate　　2. Moderately appropriate
3. Minimally appropriate　　4. Not appropriate

68.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q67】
Please write the reason.

69.【Subject: ALL】
How would you rate your satisfaction with the research environment?
1. Satisfied　　2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied　　4. Dissatisfied

70.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q69】
What is (are) the reason(s)? (Multiple answers allowed)
1. Facility/equipment　　2. Research funding　　3. Research time
4. Others

71.【Subject: Those who chose (others) for Q70】
Please write the details.

72.【Subject: ALL】
How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?
1. Satisfied　　2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied　　4. Dissatisfied

73.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q72】
Please write the reason.

74.【Subject: ALL】

How often do you visit the library?

1. Almost everyday　2. 2—3 times a week　3. Once a week
4. Once in two weeks　5. Once a month　6. Once in six month
7. Once a year or less

75.【Subject: ALL】

What is the main purpose of using the library ? (including non-visiting use)

1. Lending books.　2. Browsing and copying books　3. Self-study
4. Group study (learning)　5. Use of PC
6. Electronic journal database　7. Spending time between classes
8. Others

76.【Subject: ALL】

How would you rate your satisfaction with the library services(facilities,books,magazines,and electronic journal)?

1. Satisfied　2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied　4. Dissatisfied

77.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q76】

Please write the reason.

78.【Subject: ALL】

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

1. Very high　2. High　3. Low　4. No effort

79.【Subject: ALL】

Have you ever been abroad (other than Japan) since the enrollment in the current graduate school?

1. No　2. Once　3. Twice　4. Three times　5. More than four times

80.【Those who chose other than (No) for Q79】

What was the purpose of the travel abroad? (Multiple answers allowed)

1. To study　2. To learn language　3. To attend academic conference
4. For academic research　5. For social activities　6. Sightseeing
7. Returning home temporarily　8. Others

81.【Subject: JAPANESE students】

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5. No, I have never made a presentation at an international academic conference.

82.【Subject: JAPANESE students】

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

83.【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.
3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

84.【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

85.【Subject: FOREIGN students】

Are you taking the Japanese Courses provided by Tokushima University?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

86.【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q85】

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of Tokushima University?

1. Satisfied　　2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied　　4. Dissatisfied

87.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q86】

Please write the reason.

88.【Subject: ALL】

For the sake of your future, what do you expect from the education of Tokushima University?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.
2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others
8. No particular expectations

89.【Subject: Those who chose (others) for Q86】

Please write the details.

90.【Subject: ALL】

How would you rate the efforts of Tokushima University in responding to the trend of internationalization?

1. Very high　　2. Relatively high
3. Relatively low　　4. Very low

91.【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q90】

Please write the reason.

G . FUTURE CAREER

92.【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course 】

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program)?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. I would like to seek an employment.
4. Not decided yet.

93.【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q92 】Where are you planning to receive the education?

1. Tokushima University　　2. Other university　　3. Not decided yet.

94.【 Subject: Those who chose (3) or (4) for Q92 / Those who are currently enrolled in the Doctoral Course/ second program of the Doctoral Course】

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than above　　3. Technical career
4. Administrative career　　5. Corporate researcher
6. Educator　　7. Media
8. Professional career (medicalpractitioner, etc.)　　9. Currently employed
10. Others

95.【Subject: Those who chose (others) for Q94】

Please write the details.

96.【Subject: ALL】

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

1. Income　　2. Potential and stability of the employer
3. Social recognition/evaluation　　4. That I can demonstrate my full potential and skills 5. Geographic condition　　6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
7. Managerial policies　　8. Business size
9. Possibility of transfer or relocation
10. Others

97.【Subject: Those who chose (others) for Q96】

Please write the details.

98.【Subject: ALL】

What is (are) the method(s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

1. Teacher/instructor
2. Occupational assistant teacher/instructor
3. Occupational counselor
4. Older students/friends
5. Direct inquiry to the companies/schools
6. Job information magazine/newspapers/media
7. Family
8. Information available at the university
9. Web/Internet
10. Others

99.【Subject: Those who chose (others) for Q98】

Please write the details.

100.【Subject: ALL】

Have you ever used Career Support Room of Tokushima University ?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

101.【Subject: ALL】

Do you have any requests for Tokushima University regarding future career? (Multiple answers allowed)

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of practical support for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation, i.e., workshops for civil service employee exam, teacher certification exam, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Enhancement of the employment guidance
6. Identifying companies with job openings
7. Others

102.【Subject: Those who chose (others) for Q101】

Please write thedetails.

103. If you have any other comment or request,please write"Comments/Requests"

Thank you for your cooperation.

第１章　本調査の対象者について

本調査は，本学大学院の創成科学，総合科学，医科学，口腔科学，薬科学，栄養生命科学，保健科学，先端技術科学の１研究科７教育部の前期課程に在籍する 938 名，および後期課程に在籍する 432 名の計 1,370 名を対象とした。

回答数は，前期課程で 381，後期課程で 132，計 513 であった。回収率は前期課程が 41%，後期課程が 31%，全体では 37%であった。研究科・教育部ごとの回収率をみると，前期課程で 27%から 89%，後期課程で 13%から 55%で，前期課程での創成科学・先端技術科学の回収率の低さが目についたがおおむね堅調で，一方の後期課程では医科学・栄養生命科学・先端技術科学の回収率が低かった。また，学年ごとの回収率では後期課程３年・４年の回収率の低さが依然目立っており，調査結果の解釈の際には注意を要する。なお，男女間での回収率にはそれほど大きな差は認められなかった。

１－１　出身地（図１－１－１，図１－１－２）

最初に出身地をみる。前期課程では近畿（30%），徳島県（31%），中国（14%）と，県内出身者が近畿出身者を上回った。また，それに続いたのが徳島県を除く四国の出身者ではなく中国である。前回調査から徳島県出身者が回復し，中国出身者が多い傾向が続いている。徳島県出身者の割合についてさらにみておくと，全体では第７回調査からやや増加した。研究科・教育部別では，減少傾向が続いていた口腔科学が今回は50%となった。薬科学が11%と減少傾向にある。なお，回答した留学生のうち，日本以外を出身地と回答したのは 22%で，前回から大幅に減少している。

後期課程においても前期課程と同様に近県出身者の割合は高いが，特に徳島県出身者の割合が高い。一方，栄養生命科学は近畿出身者が 56%を占め，他専攻にない特色を持っている。また，日本以外を出身地と回答した留学生は 46%であり，前期課程と同様減少傾向にある。

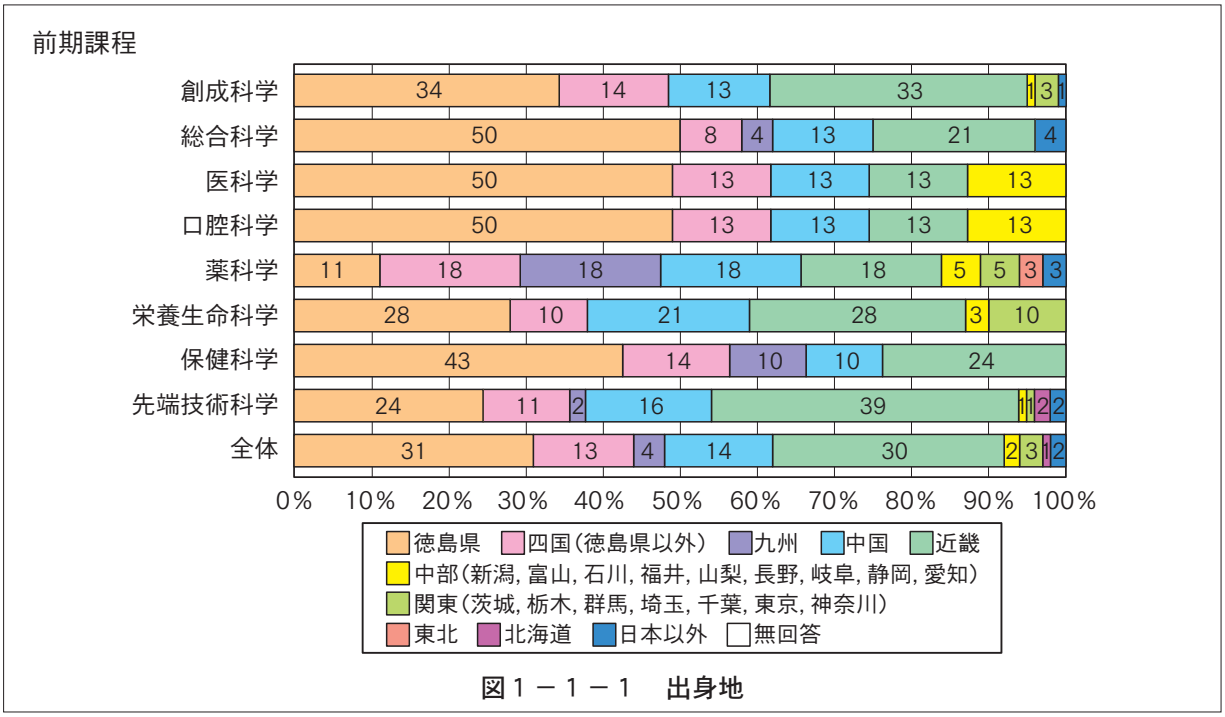


図１－１－１　出身地

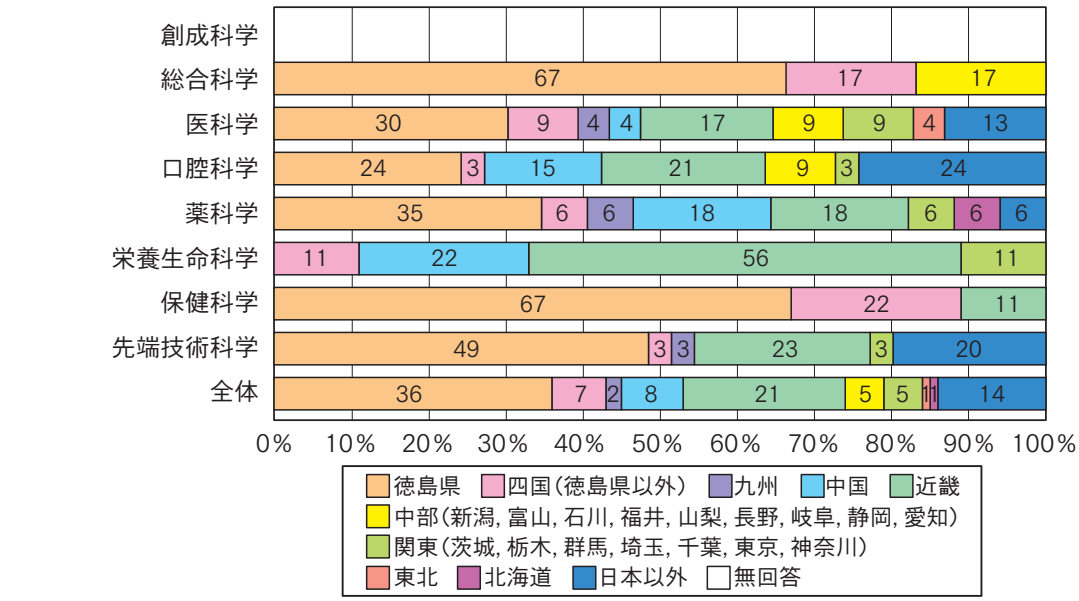


図１－１－２　出身地

１－２ 最終学歴（図１－２－１，図１－２－２）

次に出身大学（大学院）についてみる。前期課程では，全体で81%が本学出身者であった。研究科・教育部別では，最も低い総合科学でも過半数を超える54%となっている。特に口腔科学は，第７回調査の20%から75%と，大幅に増加している。いずれの研究科･教育部も過半数が本学出身者であった。一方，外国の大学（大学院）の出身者は１%と減少している。

後期課程における徳島大学および徳島大学大学院修士・博士前期課程出身者は，第４回調査以来，63%，50%，51%，56%，33%と推移し，今回減少している。なお，外国の大学（大学院）の出身者は14%であった。

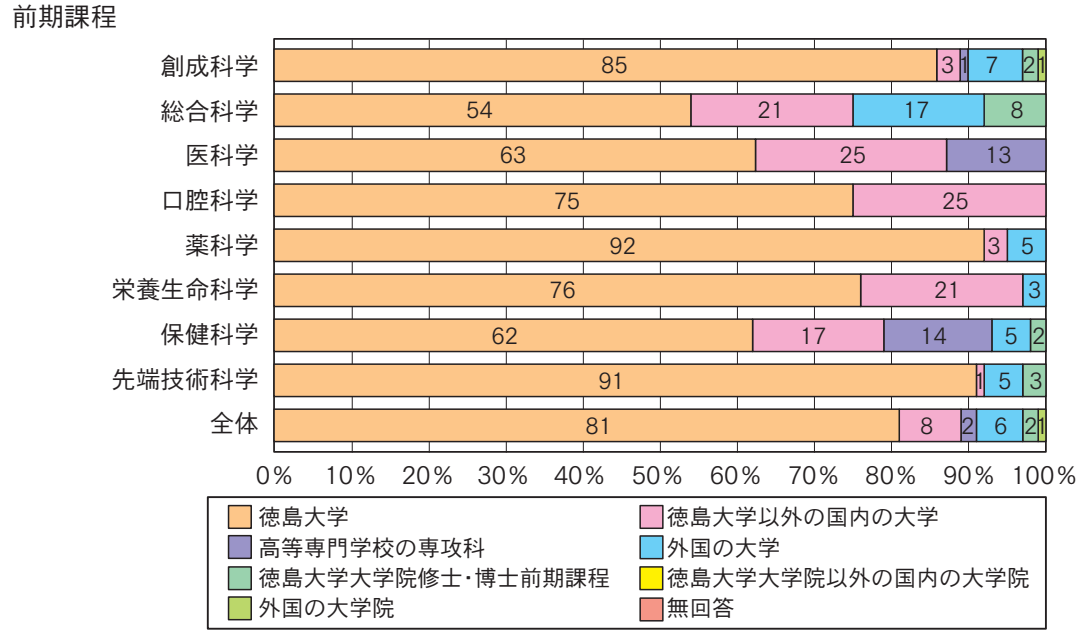


図１－２－１　最終学歴

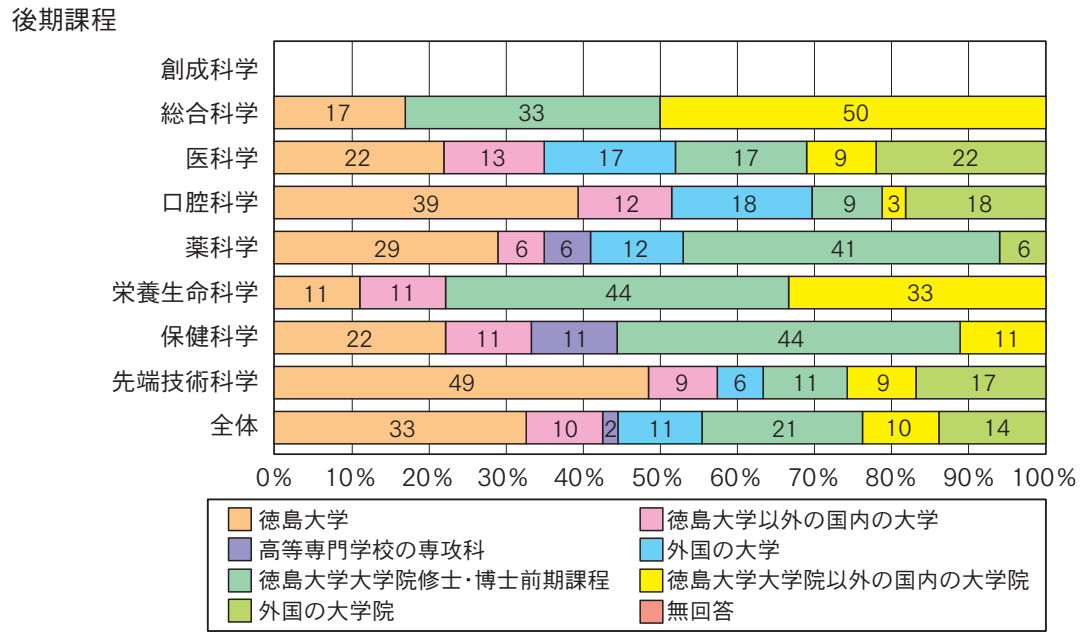


図１－２－２　最終学歴

１－３　社会人大学院生と留学生（図１－３－１，図１－３－２）

次に社会人からみる。前期課程においては，全体の 10%は第７回調査より増加しており，研究科・教育部ごとの違いが大きい。傾向としては，40～50%の医科学・口腔科学・保健科学が目立ち，総合科学が 21%，数%にとどまる薬科学・栄養生命科学・先端技術科学の３つに分かれている。第７回調査では 27%に減じた医科学は 50%に増加した。一方で，80%を占めた口腔科学は 50%に減少した。後期課程においては，全体で 35%であり，例年通り前期課程に比べてかなりの高率を示している。なかでも保健科学と総合科学，医学科の高率が目立つ。

留学生の割合は，前期課程で７%，後期課程で 31%である。 留学生のアンケートの回収率は，前期課程は 46%，後期課程では 48%であった。

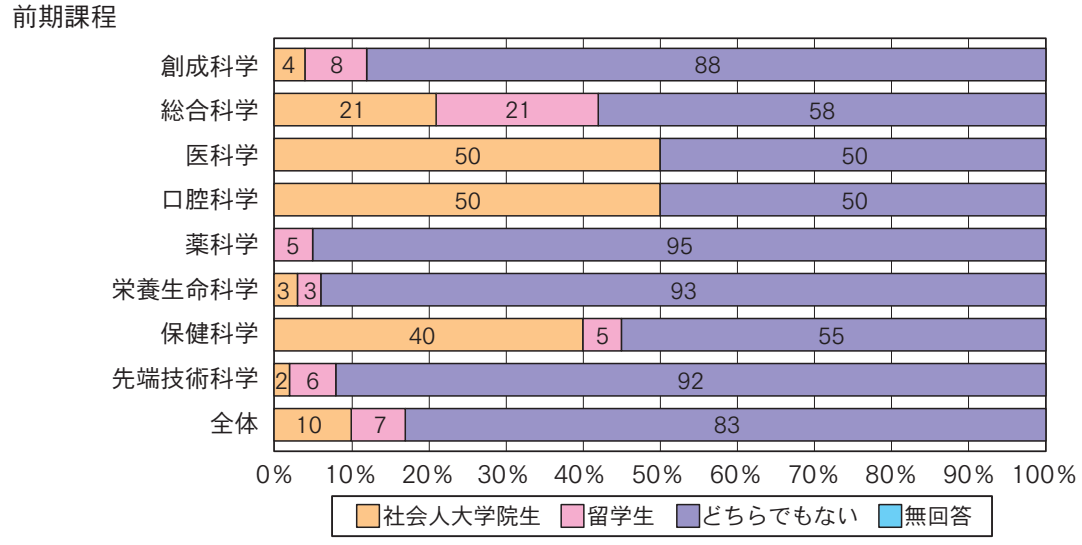


図１－３－１　社会人学生，留学生

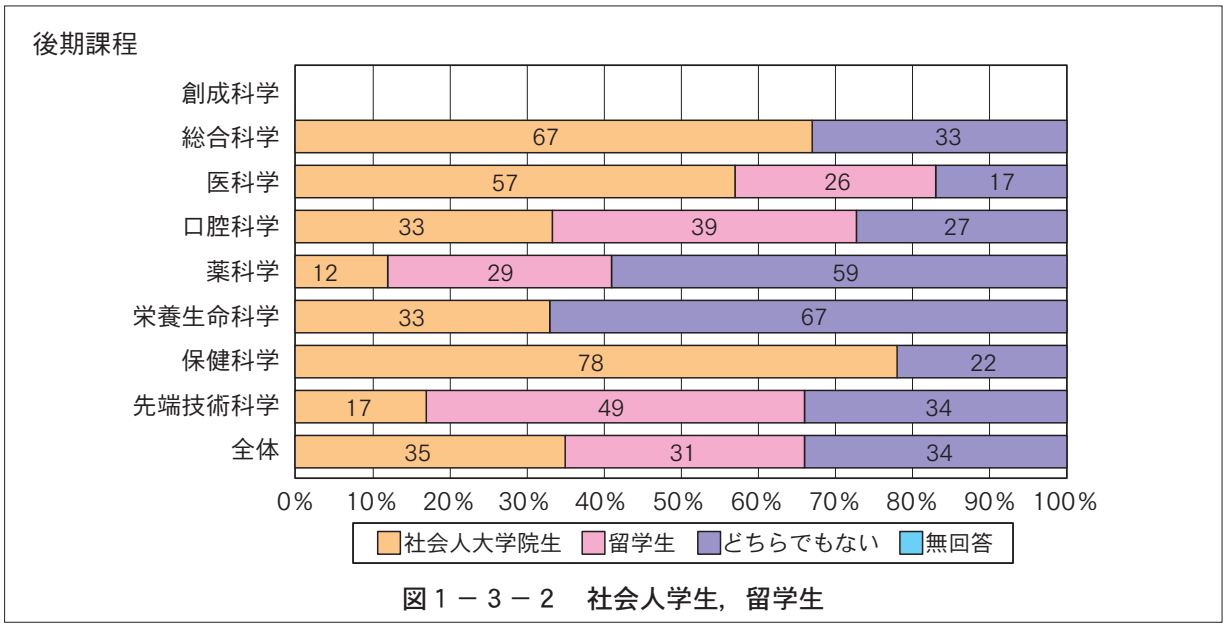


図１－３－２　社会人学生，留学生

第２章　　家族・住居・通学について

２－１　家庭の年間所得（図２－１－１，図２－１－２）

大学院生の年間所得については，全体としては前期及び後期課程ともに平成 30 年度の第７回調査に比べて，その割合に大きな変化はみられなかった。しかし，前期課程と後期課程で，研究科・教育部によっては変化がみられた。

前期課程のうち，創成科学では全体の割合とほぼ同様であったが，総合科学では 500 ～ 750 万円未満の割合が 42%に増加，750 ～ 1,000 万円未満が４％に減少，1,000 ～ 1,500 万円が４％に減少した。医科学では，250 万円未満が 25%に増加，500 ～ 750 万円未満が 25%に減少，1,000 ～ 1,500 万円がみられなかった。口腔科学では，250 万円未満が 13%に減少，250 ～ 500 万円未満が 13%に減少，750 ～

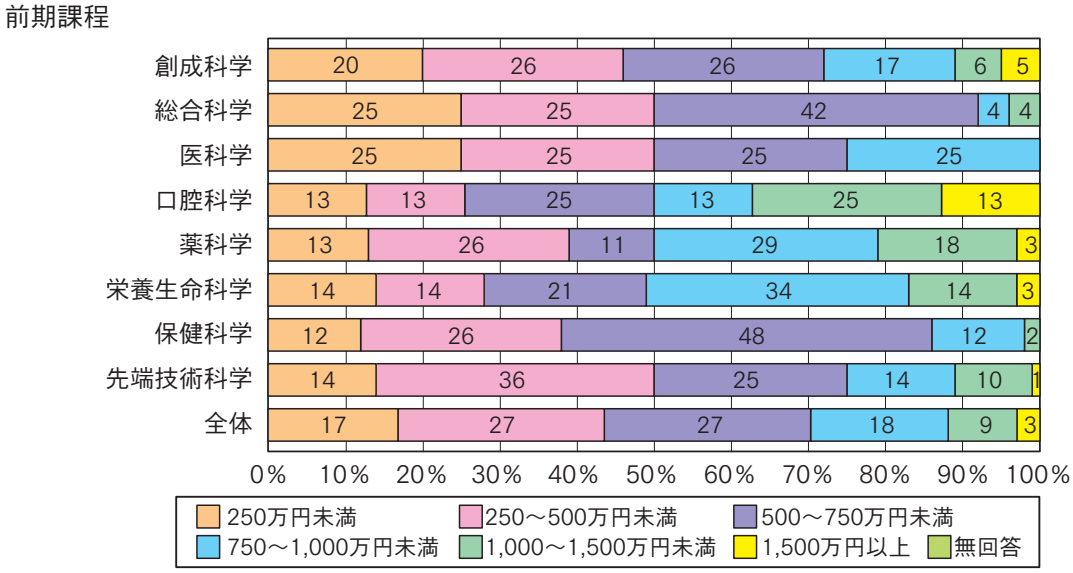


図２－１－１　家庭の年間所得

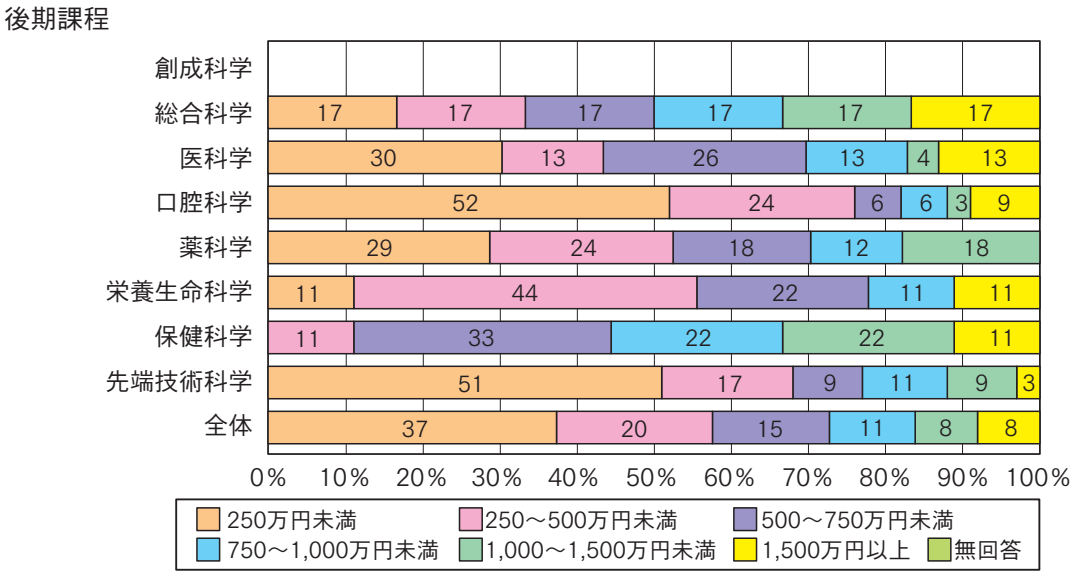


図２－１－２　家庭の年間所得

1,000 万円未満が 13%みられ，1,500 万円以上が 13%みられた。薬科学では，250 ～ 500 万円が 26%に増加，500 ～ 750 万円未満が 11%に減少した。栄養生命科学では，250 万円未満が 14%に減少，250 ～ 500 万円未満が 14%に減少，750 ～ 1,000 万円未満が 34%に増加した。保健科学では，500 ～ 750 万円未満が 48%に増加，1,000 ～ 1,500 万円が 2 %に減少した。先端技術科学では，250 ～ 500 万円未満が 36%に増加，750 ～ 1,000 万円未満が 14%に減少した。

前期課程全体では，250 ～ 500 万円未満と 500 ～ 750 万円未満の割合が 27%と最も高く，次いで 750 ～ 1,000 万円未満が 18%，250 万円未満が 17%，1,000 ～ 1,500 万円が 9 %であった。この割合は，前期課程の大学院生数の各々約 34%を占める創成科学と先端技術科学での割合とほぼ同様であった。

後期課程のうち，総合科学では 250 万円未満，250 ～ 500 万円，500 ～ 750 万円，750 ～ 1,000 万円，1,000 ～ 1,500 万円，1,500 万円以上の割合が各々 17%と均一であった。医科学では，250 ～ 500 万円未満が 13%に増加，500 ～ 750 万円が 26%に増加，750 ～ 1,000 万円が 13%に減少，1,000 ～ 1,500 万円が 4 %に減少した。口腔科学では，250 万円未満が 52%に増加，250 ～ 500 万円未満が 24%に増加，500 ～ 750 万円が 6 %に減少した。薬科学では，250 万円未満が 29%に減少，250 ～ 500 万円が 24%に増加，1,000 ～ 1,500 万円が 18%に増加した。栄養生命科学では，250 万円未満が 11%に減少，250 ～ 500 万円が 44%に増加，500 ～ 750 万円が 22%に増加した。保健科学では，250 万円未満がみられず，500 ～ 750 万円が 33%に減少，750 ～ 1,000 万円が 22%に増加，1,000 ～ 1,500 万円が 22%に増加，1,500 万円以上が 11%に増加した。先端技術科学では，250 万円未満が 51%に増加した。

後期課程全体では，年収 250 万円未満の割合が 37%と最も高く，次いで 250 ～ 500 万円が 20%，500 ～ 750 万円が 15%，250 ～ 500 万円が 14%，750 ～ 1,000 万円が 11%，1,000 ～ 1,500 万円と 1，500 万円以上が各々 8 %であった。

前期課程では，全ての研究科・教育部で年収 500 万円以上の割合は 50%以上であったが，後期課程では，薬科学が 48%，栄養生命科学が 44%，先端技術科学が 32%，口腔科学が 24%であった。

留学生の全体では，年収 250 万円以下の割合が，前期課程では 37%に減少，後期課程では 80%で大きな変化はなかった。留学生数の割合は，前期課程では 12%であるが，後期課程では 33%であるため，後期課程の大学院生の年間所得については，留学生の低所得の割合が影響していると考えられる。

２－２　住居区分（図２－２－１，図２－２－２）

大学院生の住居区分については，全体としては前期及び後期課程ともに平成 30 年度の第７回調査とほぼ同様な傾向がみられた。大学院生のうち，約 20 ～ 30%は前期及び後期課程ともに自宅から通学しており，約 60 ～ 70%はアパート・マンションに居住していた。前期課程において，自宅から通学は，薬科学が８％，栄養生命科学が 14%と低く，総合科学と保健科学が各々 38%，医科学が 50%，口腔科学が 63%と高く，研究科･教育部によってばらつきがみられた。後期課程においては，保健科学で 89%，その他の教育部では約 10 ～ 30%の大学院生が自宅から通学していた。

留学生については，前期課程では，自宅（家族と同居）はみられず，67%がアパート・マンション（家族と別居），15%が国際交流会館，11%が間借りであったが，後期課程では５％が自宅（家族と同居），73%がアパート・マンション（家族と別居），15%が国際交流会館に居住しており，前回の調査とほぼ同様な傾向であった。

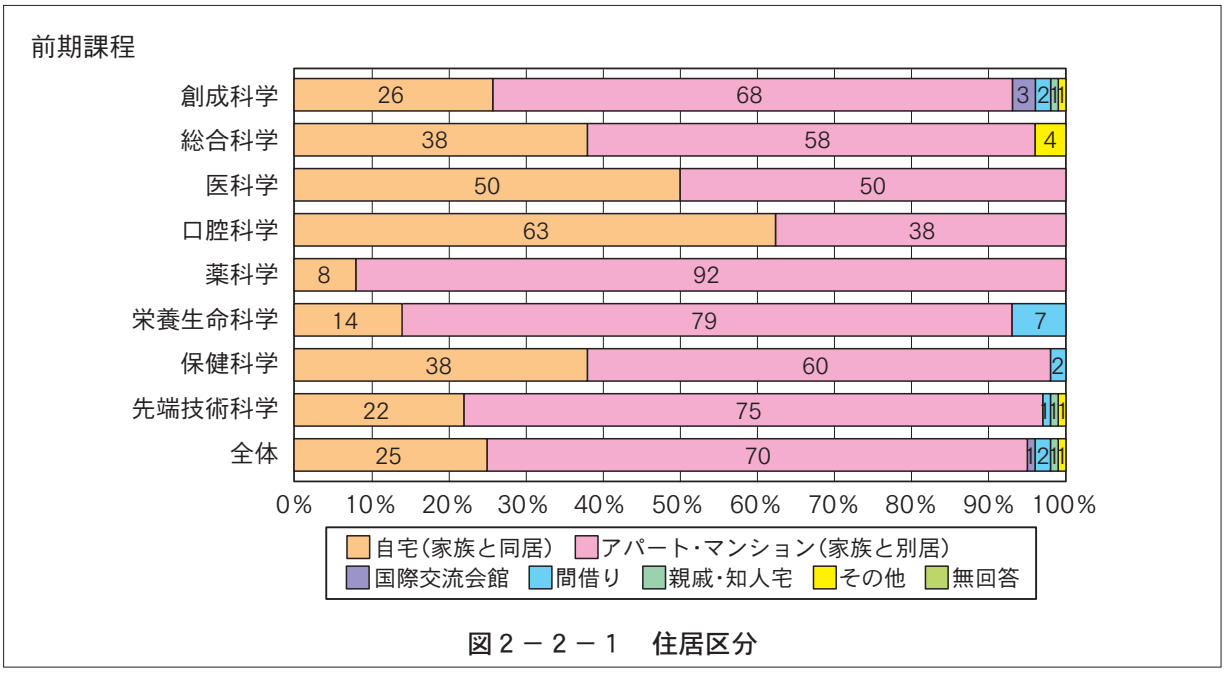


図２－２－１　住居区分

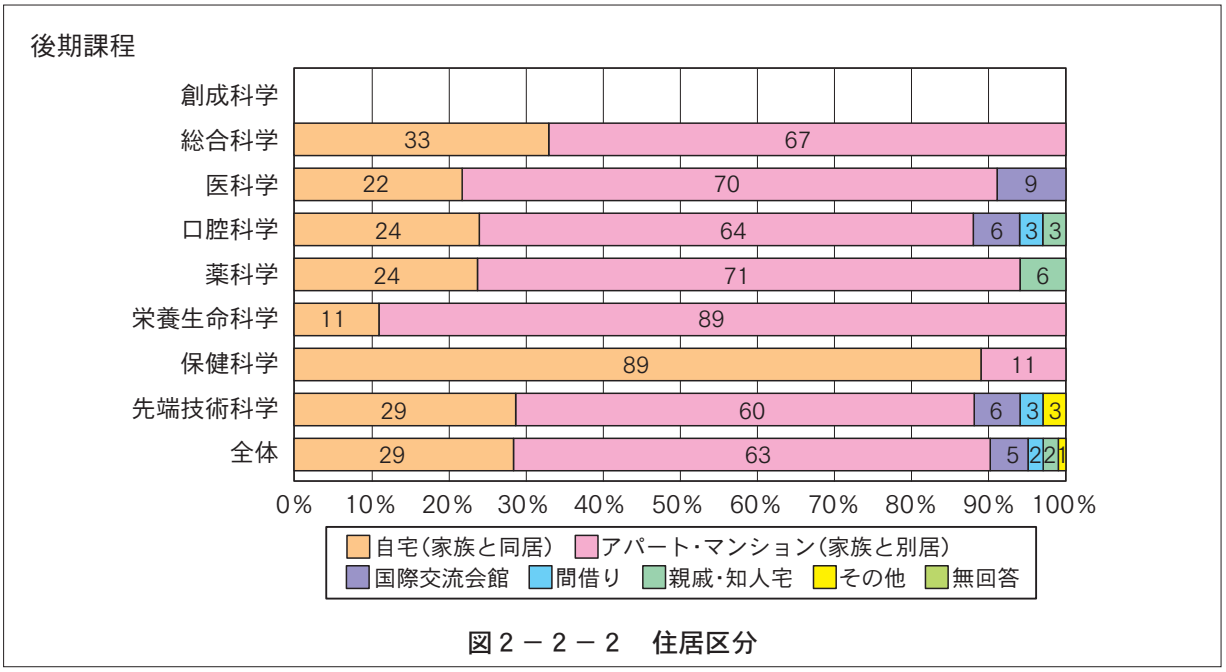


図２－２－２　住居区分

２－３　住居費（図２－３－１，図２－３－２）

大学院生の住居費については，前期及び後期課程ともに平成 30 年度の第７回調査と比べて無回答（約 20 ～ 30%）が多かった。

前期課程では，３～４万円未満が 29%，４～５万円未満が 20%，３万円未満が 15%であった。これは前期課程の大学院生数の 70%を占める先端技術科学の割合とほぼ同様である。３万円未満の住居費の割合は，医科学ではみられず，３～４万円未満も 13%と低かった。３～４万円未満は，口腔科学ではみられなかった。４～５万円未満は，総合科学で４％，保健科学で 12%，口腔科学で 13%と低かった。５万円以上は先端技術科学では７％で他の研究科・教育部と比べて低かった。

後期課程では，３万円未満が 28%，３～４万円未満が 17%，４～５万円未満が 14%，５～６万円未満

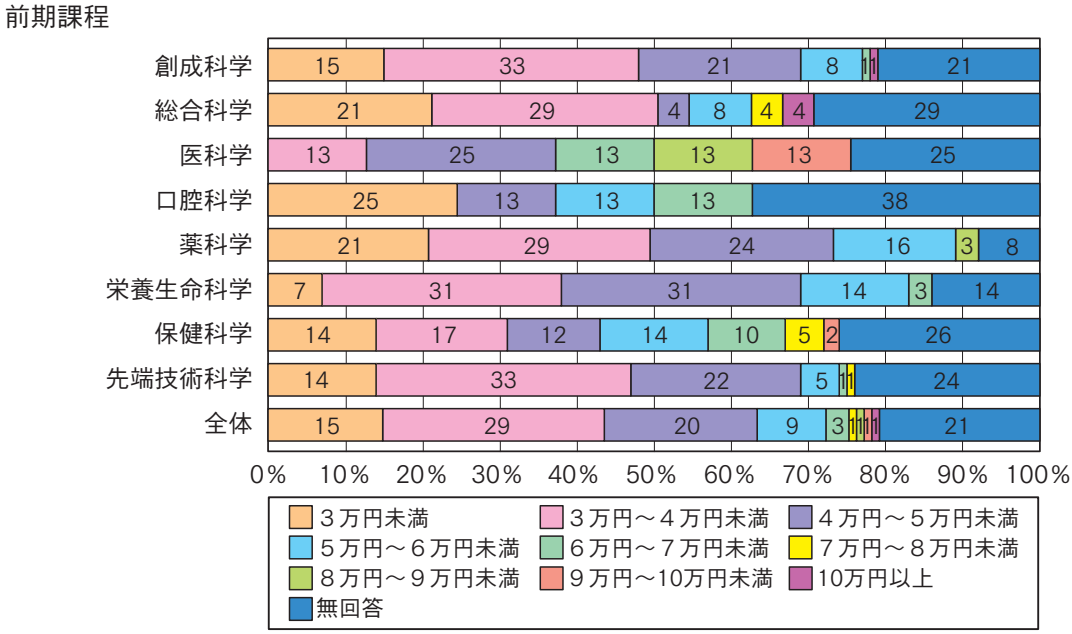


図２－３－１　住居費

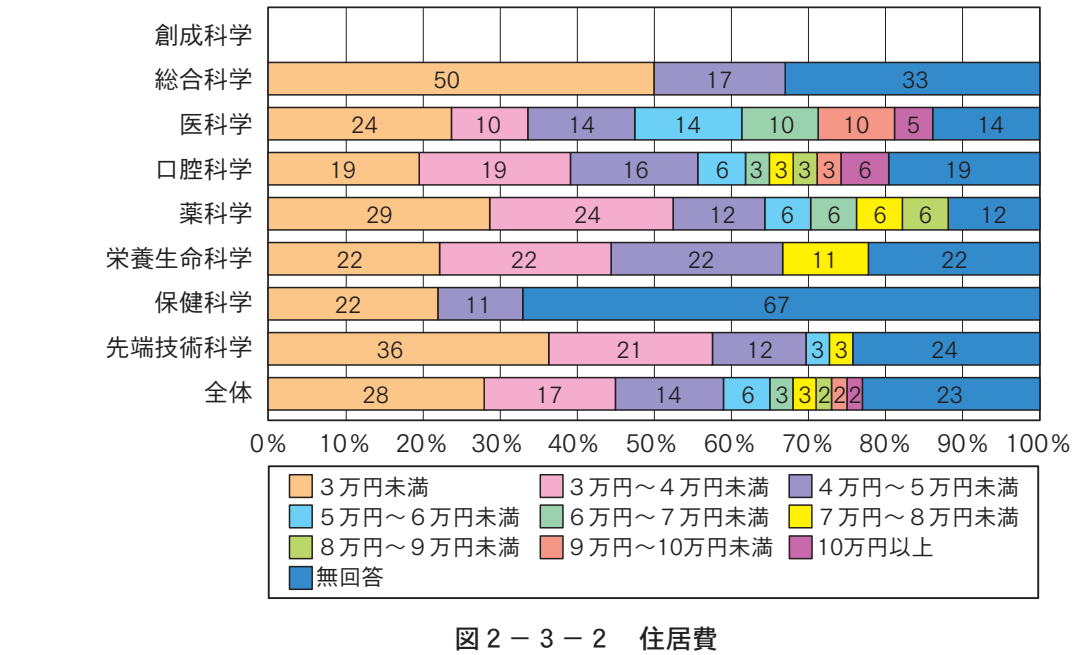


図２－３－２　住居費

が６％であった。後期課程では，３万円未満が，総合科学で 50%，先端技術科学で 36%であり他の教育部と比べて高かった。

留学生については，全体として居住費は，３万円未満の割合が前期課程では 65%，後期課程では 57%であり，３～４万円未満の割合が前期課程で 13%，後期課程で 29%であった。留学生のほぼ半数が，３万円未満の居住費で生活していた。

２－４　配偶者や子供の有無（図２－４－１～図２－４－４）

大学院生の配偶者や子供については，全体として配偶者や子供がない割合は，前期課程で 92%，後期課程で 65%であり，全体としては前期及び後期課程ともに平成 30 年度の第７回調査とほぼ同様な傾向がみられた。配偶者がある割合は，前期課程では医科学で 63%，保健科学で 29%，総合科学で 21%であり，後期課程では，保健科学が 56%，口腔科学が 48%であった。

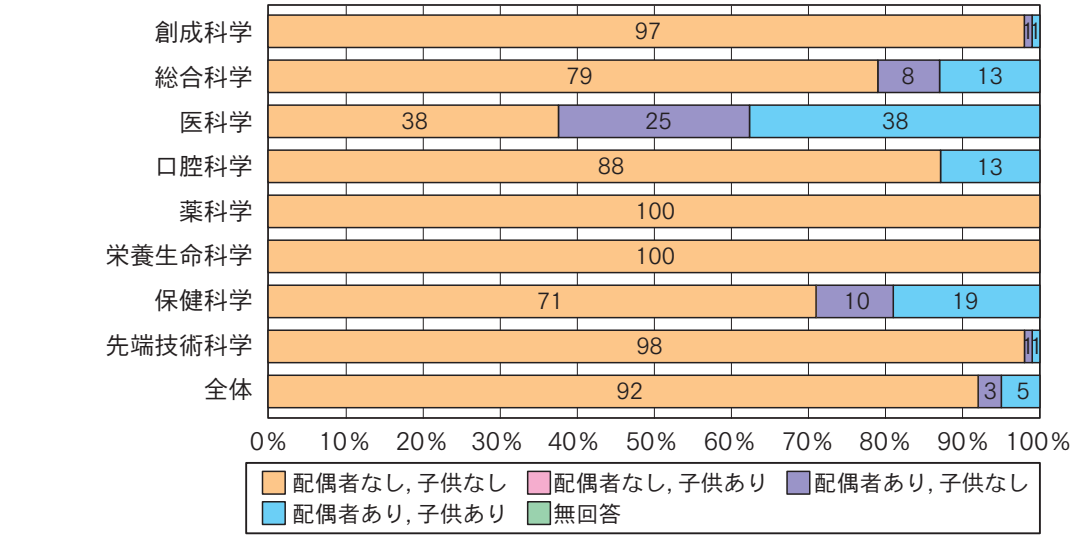


図２－４－１　配偶者や子供の有無

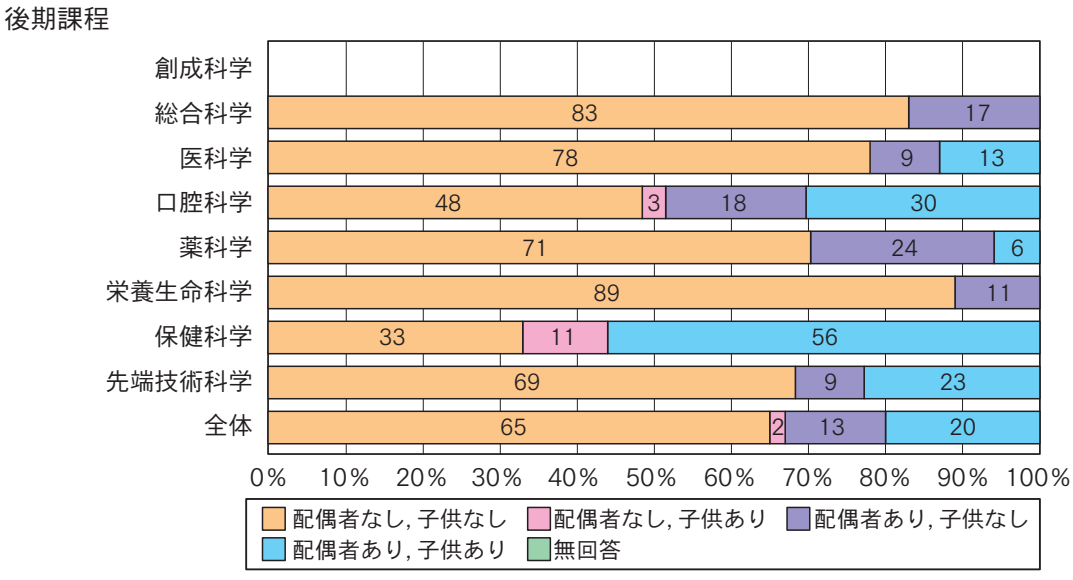


図２－４－２　配偶者や子供の有無

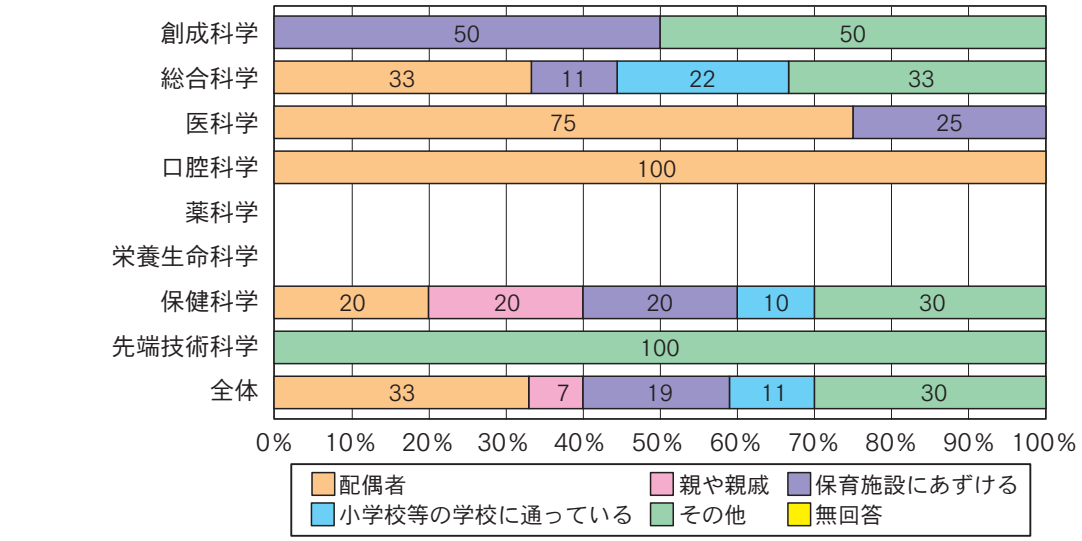


図２－４－３　配偶者や子供の有無（複数回答可）

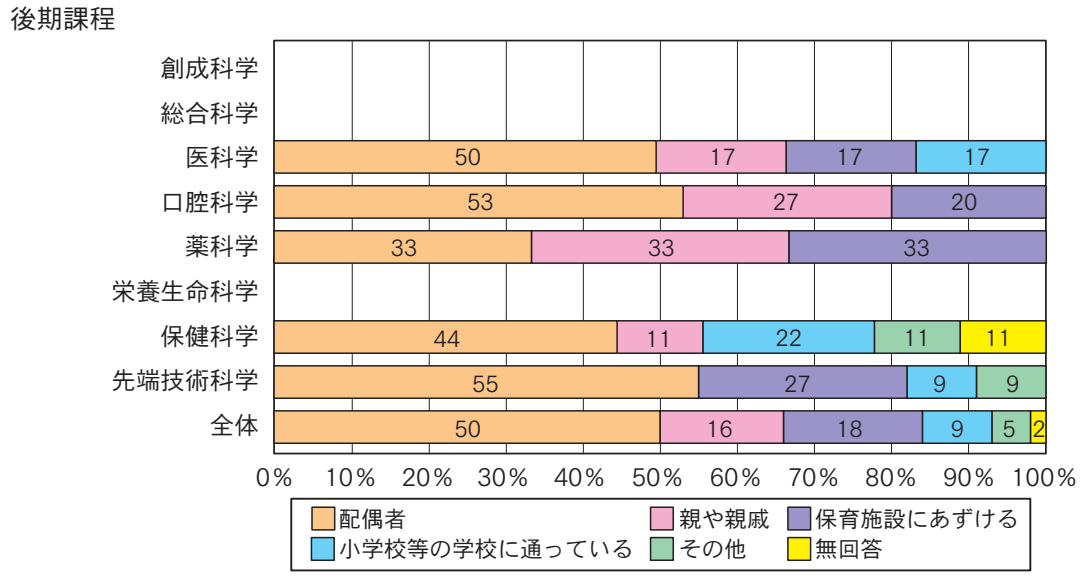


図２－４－４　配偶者や子供の有無（複数回答可）

留学生についても，全体として同様な割合がみられ，配偶者や子供がない割合は，前期課程では 93%，後期課程では 66%であった。

子供がいる大学院生について，授業や研究をしているときに子供の世話をしているのは，全体として前期及び後期課程において，配偶者（33%，50%），親や親戚（７%，16%），保育所にあずける（19%，18%）であり，全体として前期及び後期課程ともに平成 30 年度の第７回調査とほぼ同様な傾向であった。留学生については，前期課程では回答がなかった。後期課程では，口腔科学と先端技術科学のみの回答であり，78%が配偶者，22%が保育所にあずけていた。

２－５　通学方法（図２－５－１，図２－５－２）

大学院生の通学方法については，全体として平成30年度の第７回調査の結果とほぼ同様であり，前期及び後期課程ともに，自転車（66%，41%）の割合が最も高く，徒歩（12%，19%），バイク（原付自転車・自動二輪）（４%，７%），自動車（14%，23%）であった。

前期課程では，徒歩の割合は，医科学が38%，総合科学が25%と高く，　自転車の割合は，医科学と口腔科学が38%，総合科学が46%と低く，自動車の割合は，医科学が38%，保健科学が31%，総合科学が29%と高く，バス・ＪＲの割合は口腔科学が25%と高かった。

後期課程では，徒歩は，総合科学と保健科学でみられず，自転車の割合は保健科学が22%と低く，自動車の割合は保健科学が78%と高かった。

留学生についても，前回と同様に全体として大学院生と同じ傾向がみられ，前期及び後期課程ともに，自転車の割合（70%，59%）が最も高く，徒歩（22%，27%），バス・ＪＲ（７%，7%）であった。

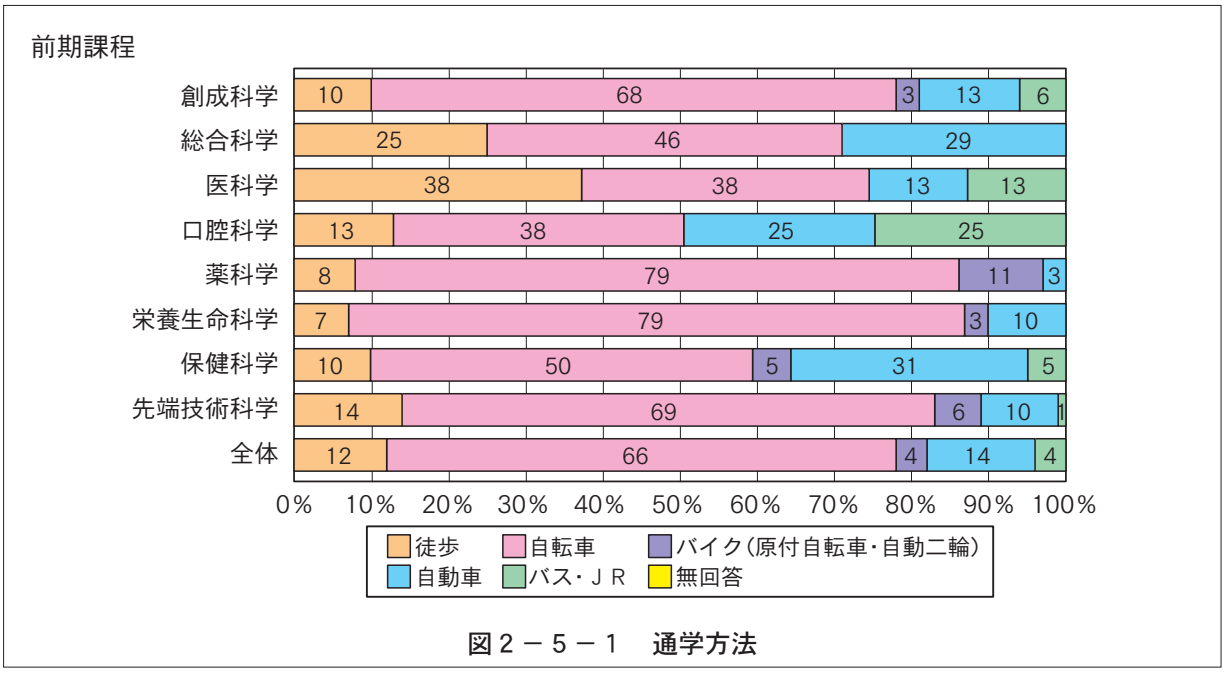


図２－５－１　通学方法

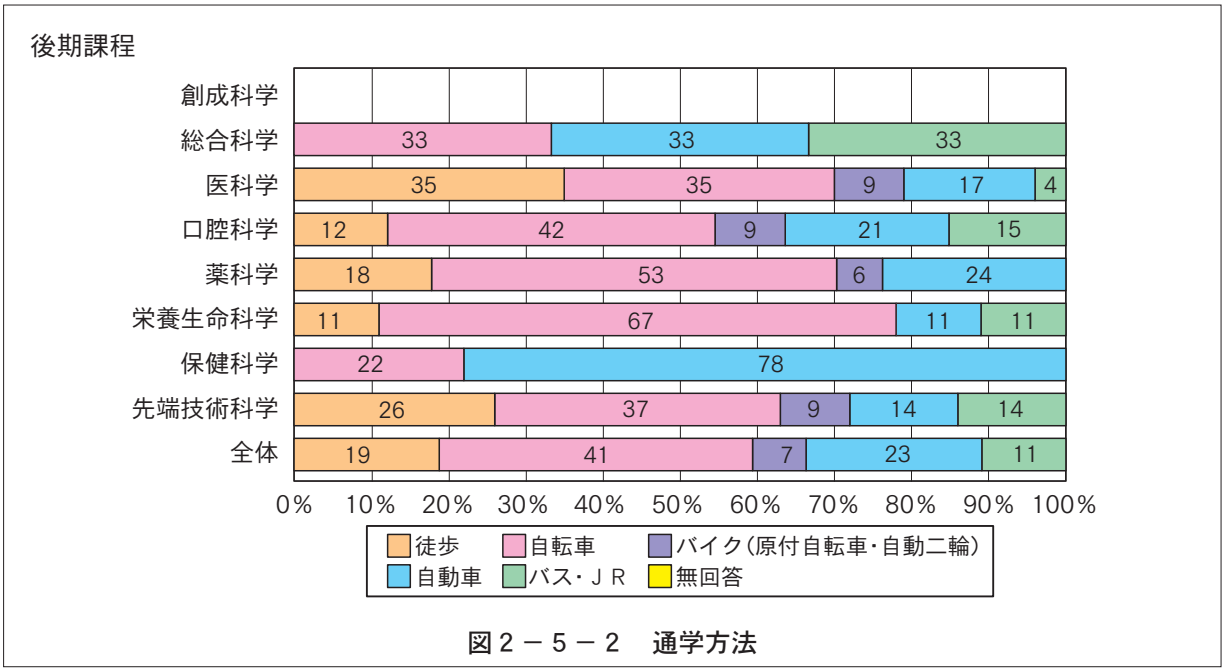


図２－５－２　通学方法

２－６　通学時間（図２－６－１，図２－６－２）

大学院生の通学時間については，全体として平成30年度の第７回調査の結果とほぼ同様の結果であり，前期及び後期課程ともに，15分未満(71%，54%)の割合が最も高く，次いで15分～30分未満(13%，21%)，30分～１時間未満（12%，11%）であった。

前期課程では，口腔科学で15分未満の割合（25%）が低く，30分～１時間未満の割合（38%）が高かった。

後期課程では，総合科学で15分未満，15分～30分未満，２時間以上の割合が各々33%であった。医科学では，15分未満の割合が74%と高かった。保健科学では，15分未満の割合が11%と低く，15分～30分未満の割合は56%と高かった。

留学生についても，前回と同様に全体として大学院生と同じ傾向がみられ，前期及び後期課程ともに，15分未満（81%，66%）の割合が最も高く，15分～30分未満（７%，15%），30分～１時間未満（７%，12%）であった。

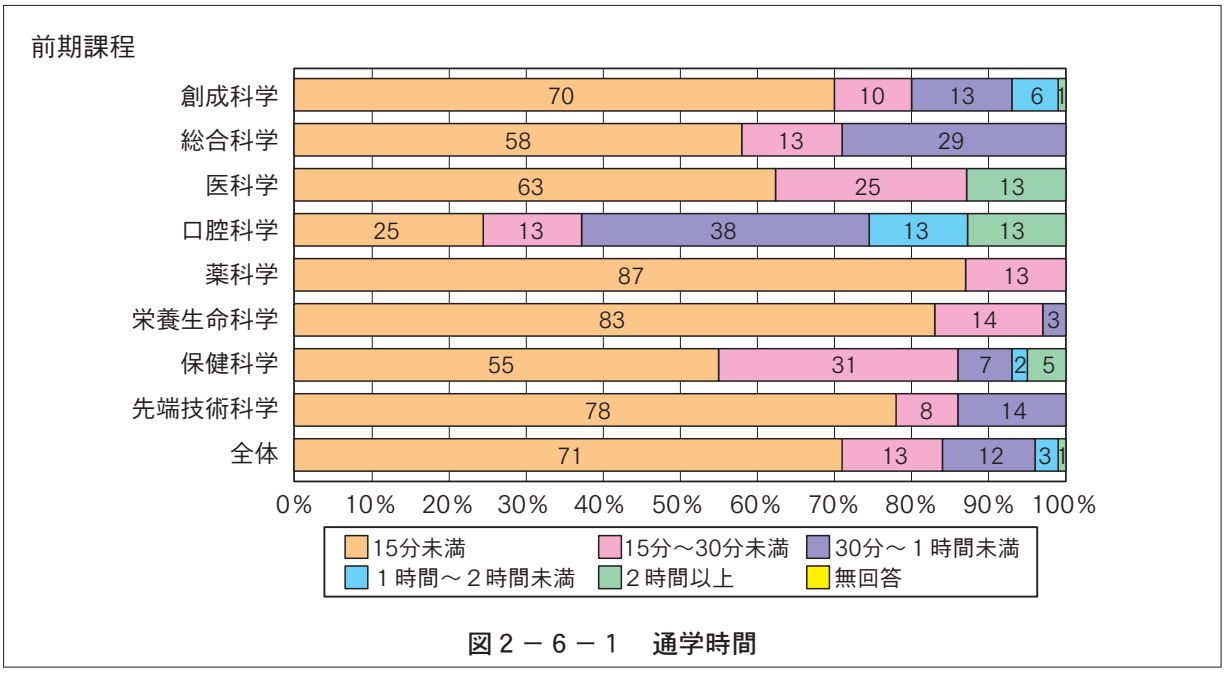


図２－６－１　通学時間

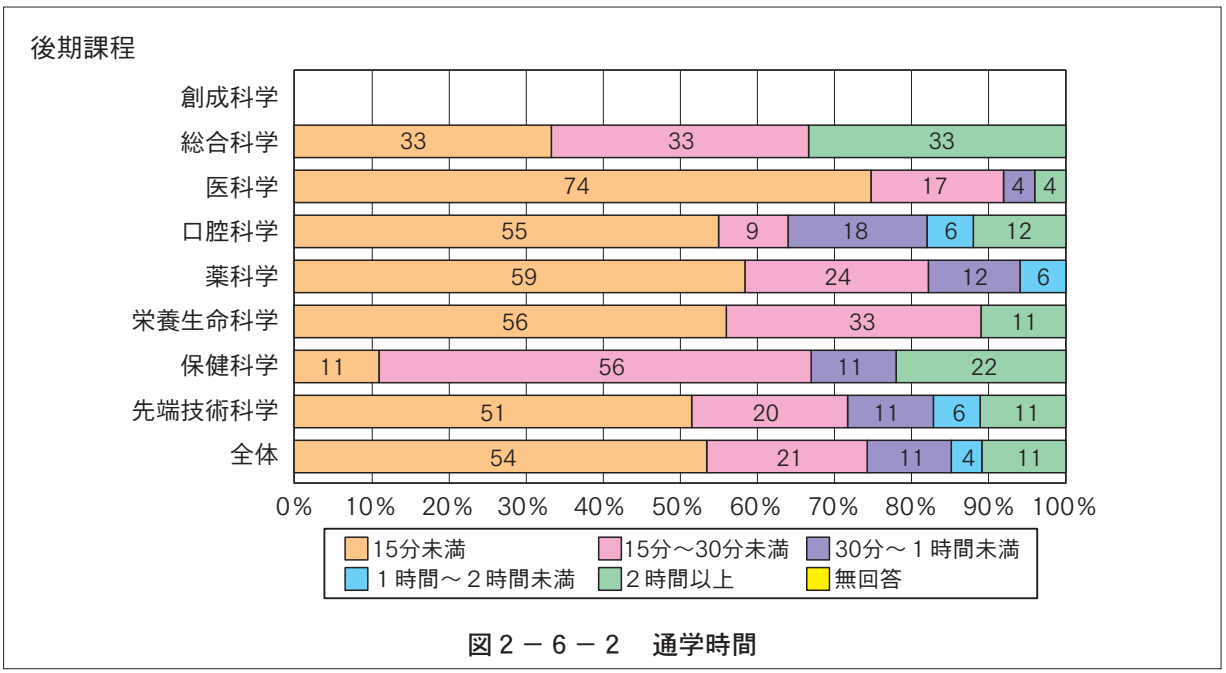


図２－６－２　通学時間

第３章　収入・支出について

３－１　１か月の平均収入額（図３－１－１～図３－１－４）

前期課程では，全体の 49%は月平均収入額（親等からの援助を除く）が３万円未満であり，10 万円未満では 88%であった。これは第７回の調査結果とほぼ同様である。研究科・教育部別にみると，３万円未満については，栄養生命科学が 72%で，それに創成科学の 59%，薬科学の 58%と続く。３万円未満が最も少ないのは医科学の 13%で，前回調査の 50%から大きく減少した。一方，月平均収入額 25 万円以上については，保健科学が 28%と最も高く，医科学 26%，口腔科学 25%と続き，他の研究科・教

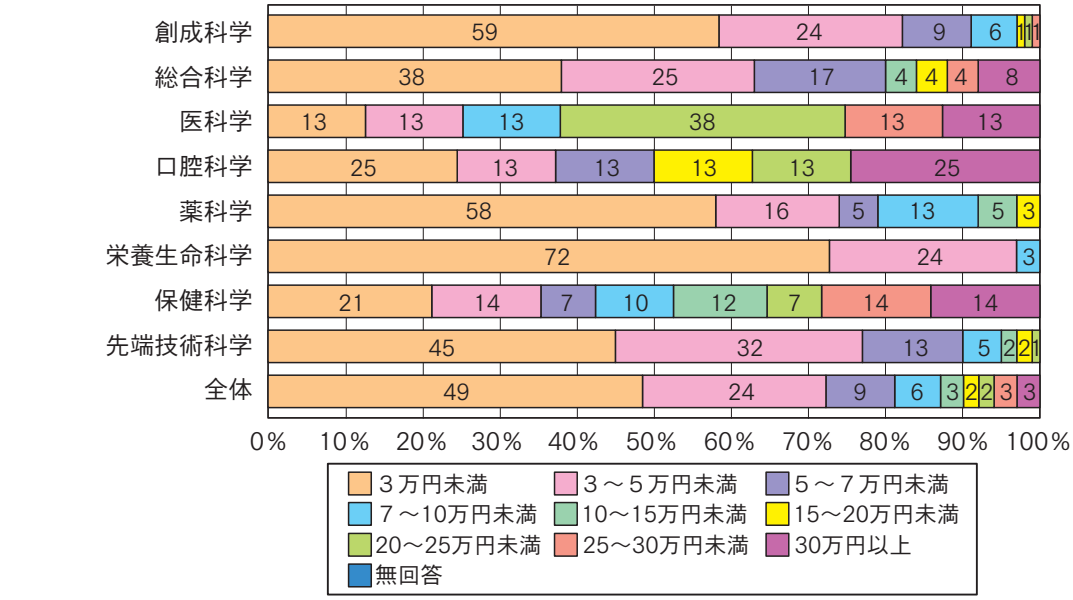


図３－１－１　１か月の平均収入額

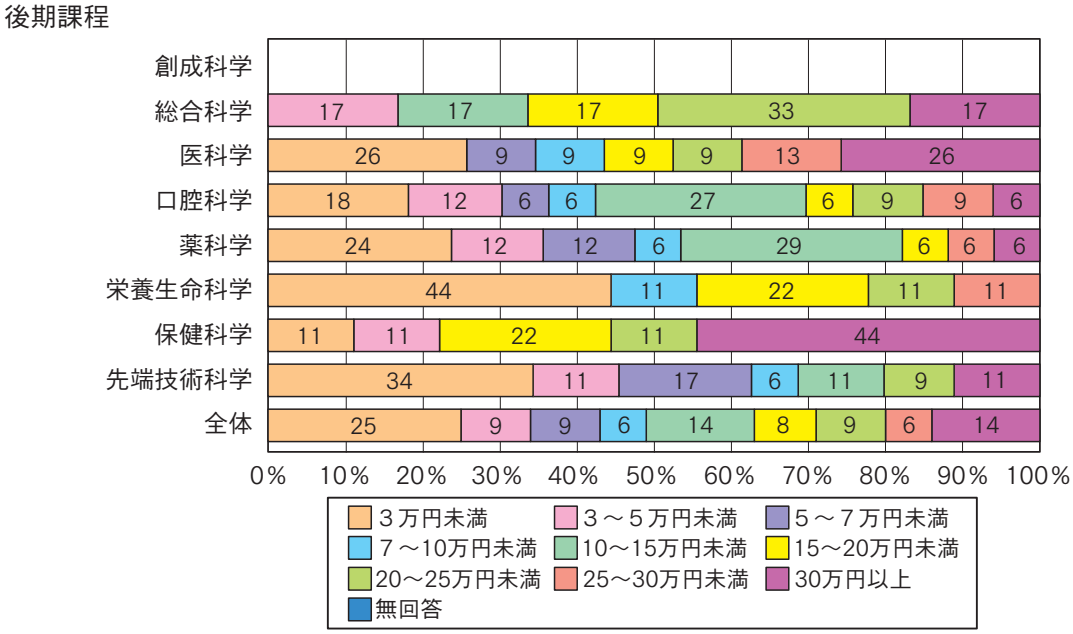


図３－１－２　１か月の平均収入額

育部と比べて特に高い。３万円未満の比率が高い栄養生命科学，創成科学，薬科学，先端技術科学では25万円以上の割合が特に低い。研究科･教育部間でのこのような違いは，前回調査に比べて著明になっている。

後期課程では１か月の平均収入額のばらつきが大きく，全体の25%が平均収入３万円未満である一方，14%は30万円以上の収入を得ている。これは第７回の調査結果と比べると，３万円未満が増加し，30万円以上は減少した。教育部別では，総合科学で３万円未満がみられず，保健科学では11%と低く，30万円以上が44%で最も高かった。逆に，栄養生命科学では，３万円未満が44%と最も高く，30万円以上は０%であった。前回調査との比較でみると，医科学では３万円未満が８%から26%に増加し，30万円以上は58%から26%と減少した。口腔科学では３万円未満が10%から18%に増加し，30万円以上は15%から６%と減少した。教育部別で収入額の差があるが，全体の収入額を見ると，前回調査と比べて

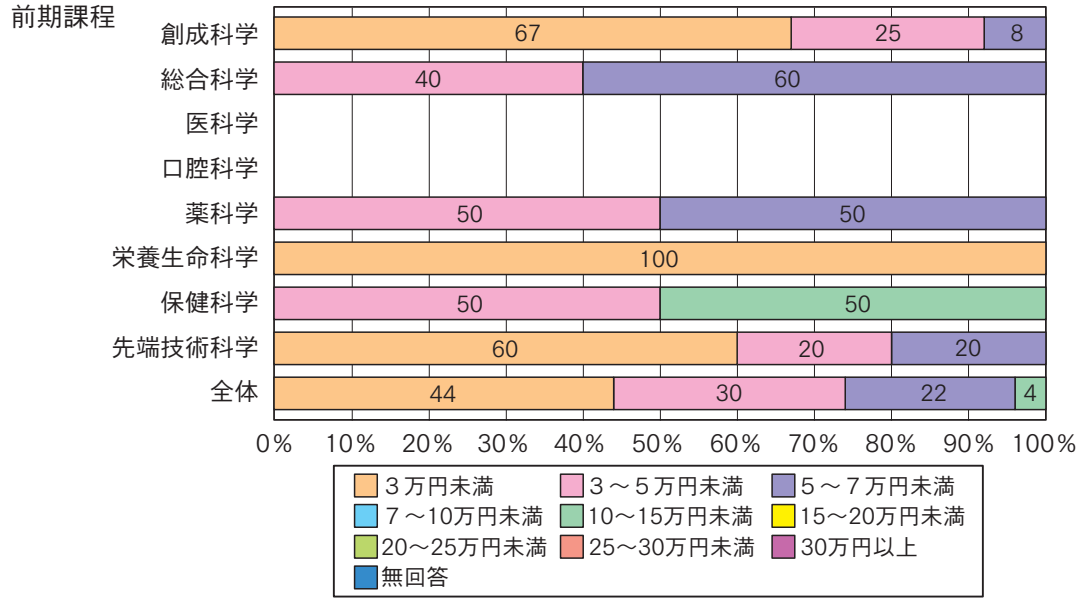


図３－１－３　１か月の平均収入額

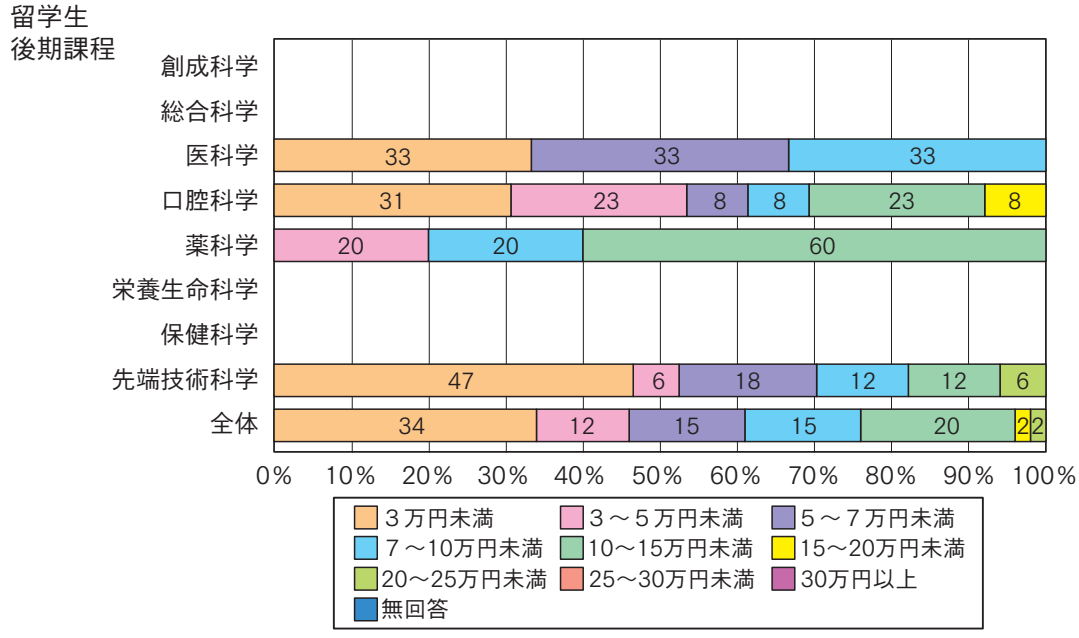


図３－１－４　１か月の平均収入額

低い方にシフトしている。

留学生前期課程（医科学と口腔科学を除く）の１か月の平均収入は，74%が５万円未満であり，さらに44%は３万円未満であった。この範囲の収入額の多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。栄養生命科学では３万円未満が100%であった。また，創成科学では92%が，先端技術科学では80%が５万円未満となっている。保健科学については10～15万円未満が50%であったが，それ以外の研究部で７万円以上の割合はゼロであった。

医科学，口腔科学，薬科学，先端技術科学の留学生後期課程の１か月の平均収入は，46%が５万円未満で，さらに34%は３万円未満であり，この範囲の多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。研究別では，薬科学の80%が７～15万円未満，口腔科学の31%が10～20万円未満であり，留学生としては比較的高い収入を得ている。

３－２親等からの援助額（図３－２－１～図３－２－４）

前期課程では，親等からの援助が全くない大学院生は全体の28%であり，第７回の調査結果(22%)と比べてやや増加した。また，48%は３万円未満の援助額である。研究科・教育部によりばらつきがあり，親等からの援助が全くない大学院生の割合は医科学と口腔科学で75%，保健科学で60%であるのに対し，薬科学16%，栄養生命科学17%，先端技術科学18%であった。

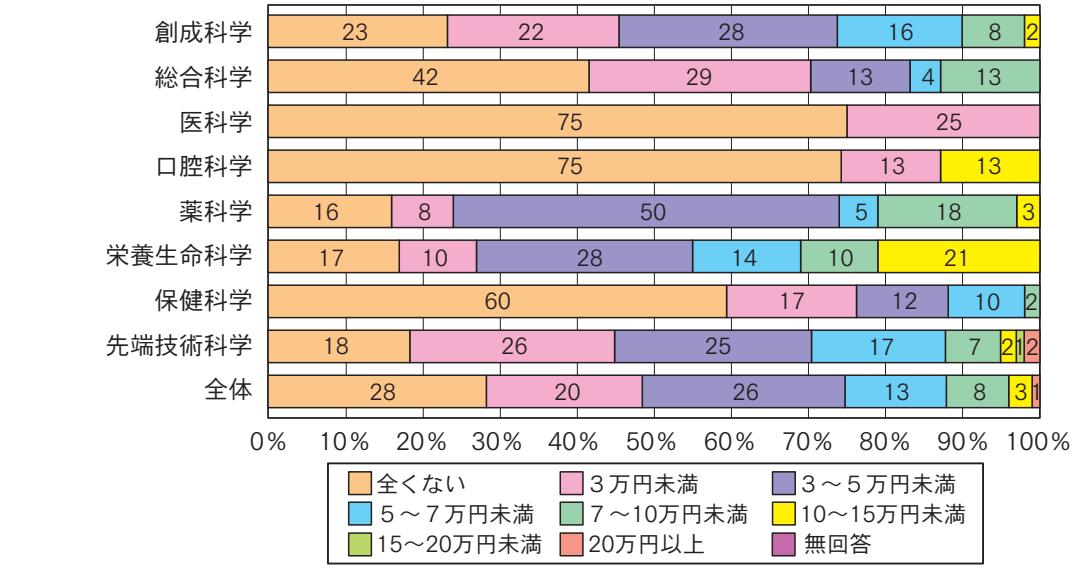


図３－２－１　親等からの援助額

後期課程では，前期課程（28%）と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が全体の64%と高く，援助があったとしても援助額５万円未満のものは21%であり，収入面での独立傾向が伺える。これは第７回の調査の結果と比べて少し増加した。一方，援助額７万円以上の大学院生の割合は前期課程（12%）よりも少なく，4%であった。教育部別に比較すると，親等からの援助を全く受けていない割合は，医科学87%，総合科学83%，保健科学78%，の順で高く，いずれの教育部も後期課程大学院生の半数以上は援助を受けていない。

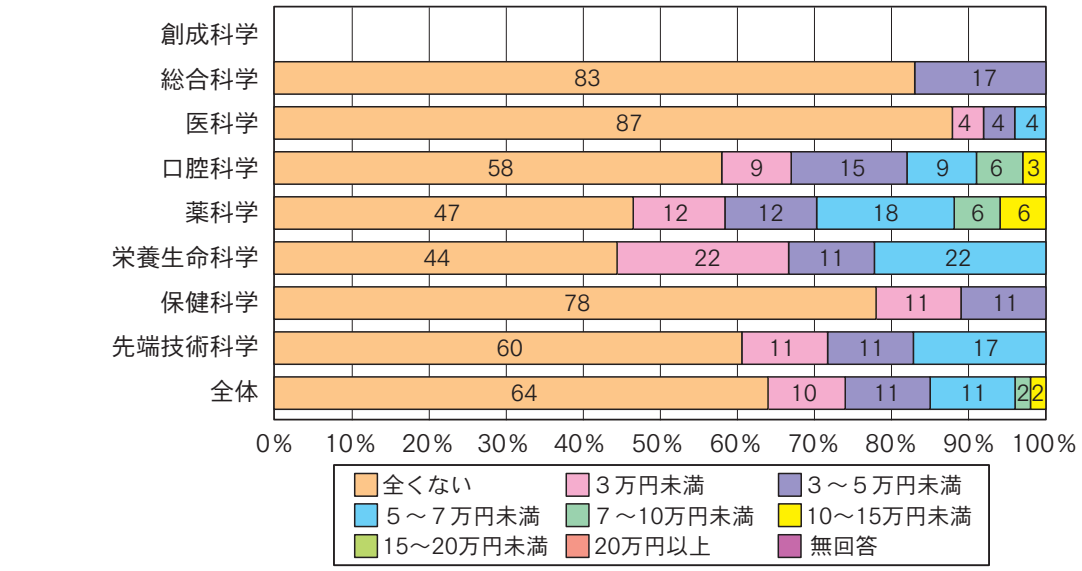


図３－２－２　親等からの援助額

留学生前期課程（医科学，口腔科学を除く）については，全体の 19%が親等からの援助はなく，援助があったとしても 66%が７万円未満である。ただし，研究科・教育部間での差が大きく，総合科学の 60%で親等からの援助はなく，薬科学と保健科学の 100%で３～５万円未満，栄養生命科学の 100%で 10 ～ 15 万円の援助を受けている。

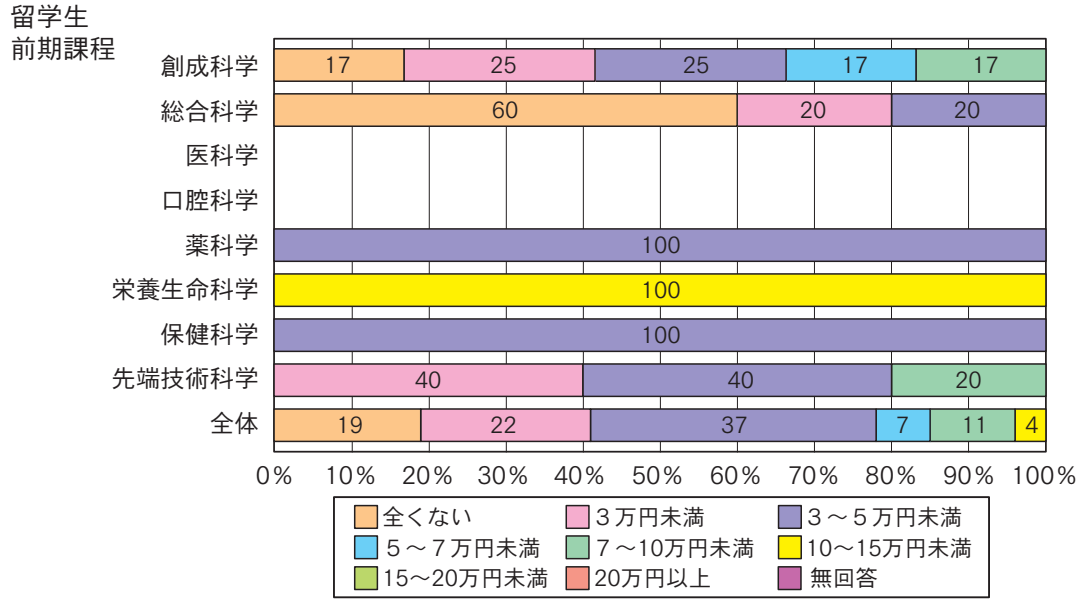


図３－２－３　親等からの援助額

医科学，口腔科学，薬科学，先端技術科学の留学生後期課程については，全体の 51%で親等からの援助はなく，援助があったとしても 47%が７万円未満である。前期課程と比べると，援助を受けていない割合は高いが，質問 15 の１か月の平均収入を考慮すると，独立傾向がうかがえる。

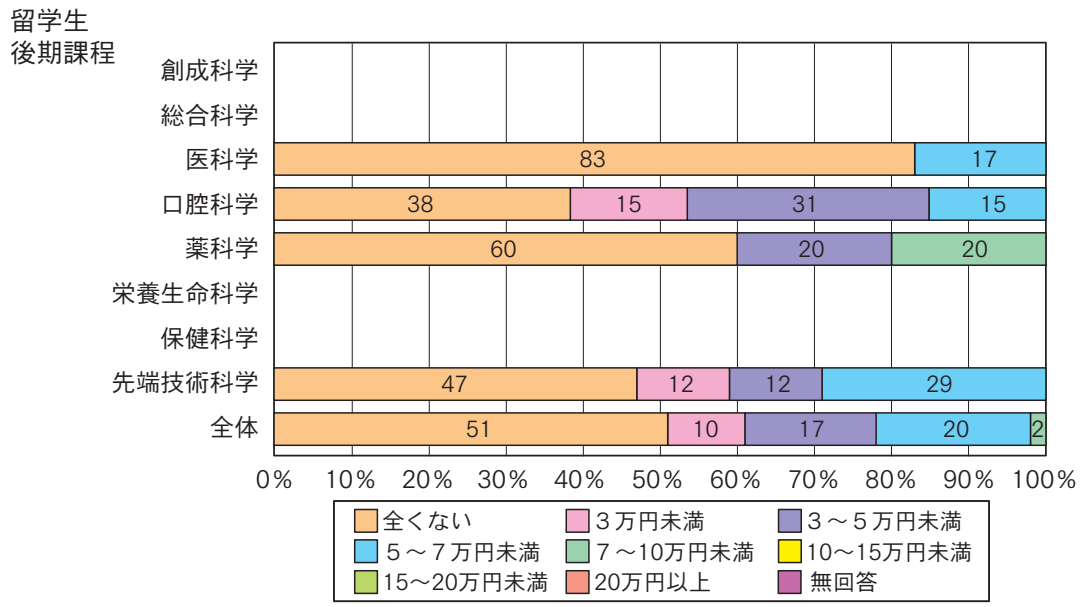


図３－２－４　親等からの援助額

３－３　１か月の平均支出額（授業料支出は除く）（図３－３－１～図３－３－４）

前期課程では，全体の53%が１か月平均５万円未満の支出であり，89%が月平均10万円未満の支出で生活をしている。これは第７回の調査の結果とほぼ同様である。研究科・教育部別に比較すると，月平均10万円未満の支出で生活している大学院生の割合は，創成科学の98%，総合科学の96%，薬科学の95%，先端技術科学の93%，の順に高い。一方，平均支出額については，医科学の39%が15～30万円未満，保健科学の33%が15～25万円未満となっており，比較的支出額は高い。

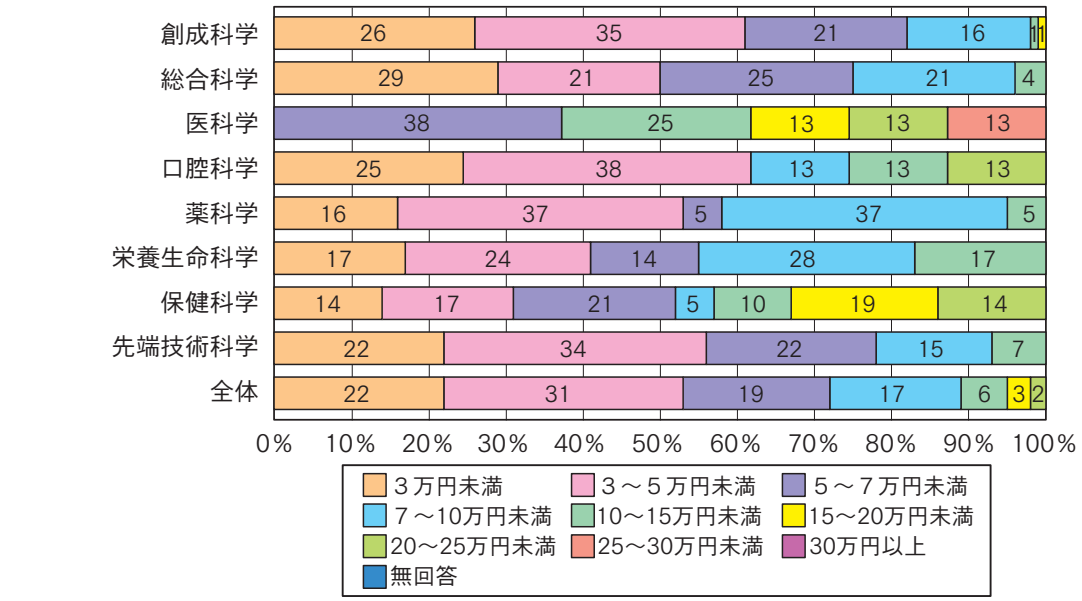


図３－３－１　１か月の平均支出額

後期課程では，大学院生の61%は月平均10万円未満で生活し，さらに月平均支出額５万円未満である割合は全体の25%であり，第７回の調査の結果と比較して５%増加した。教育部別で比較すると，支出額15万円以上の大学院生の割合は保健科学で77%と特に高く，さらに30万円以上が33%を占めている。

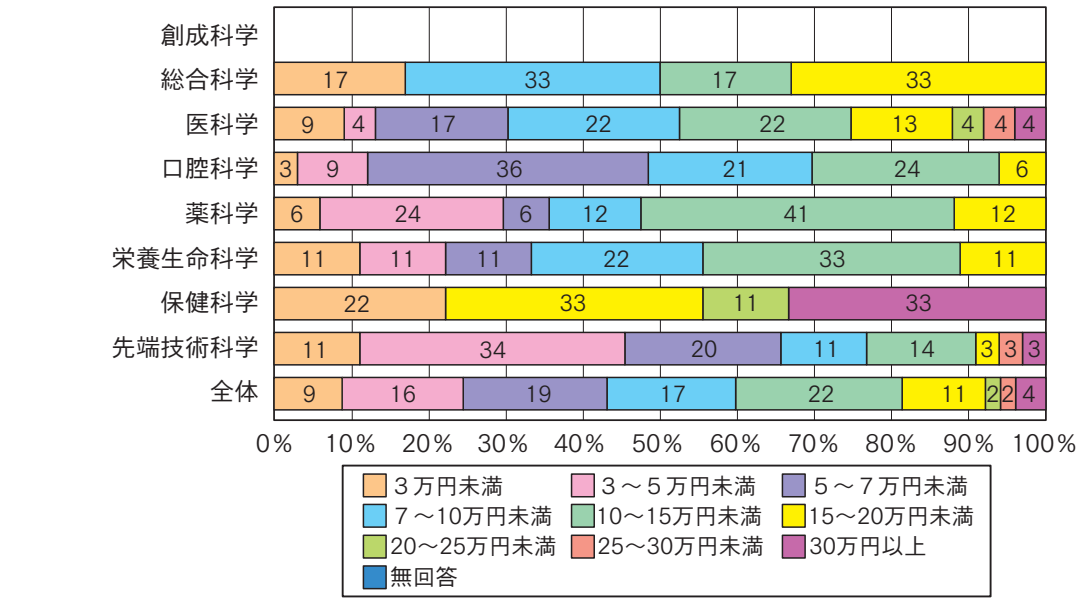


図３－３－２　１か月の平均支出額

留学生前期課程（医科学と口腔科学を除く）については，全体の 89%が月平均 10 万円未満で生活し，さらに月平均支出額５万円未満である割合は全体の 37%であった。研究科・教育部別では，月平均支出額 10 ～ 15 万円が栄養生命科学では 100%，保健科学で 50%，先端技術科学で 20%となっている。

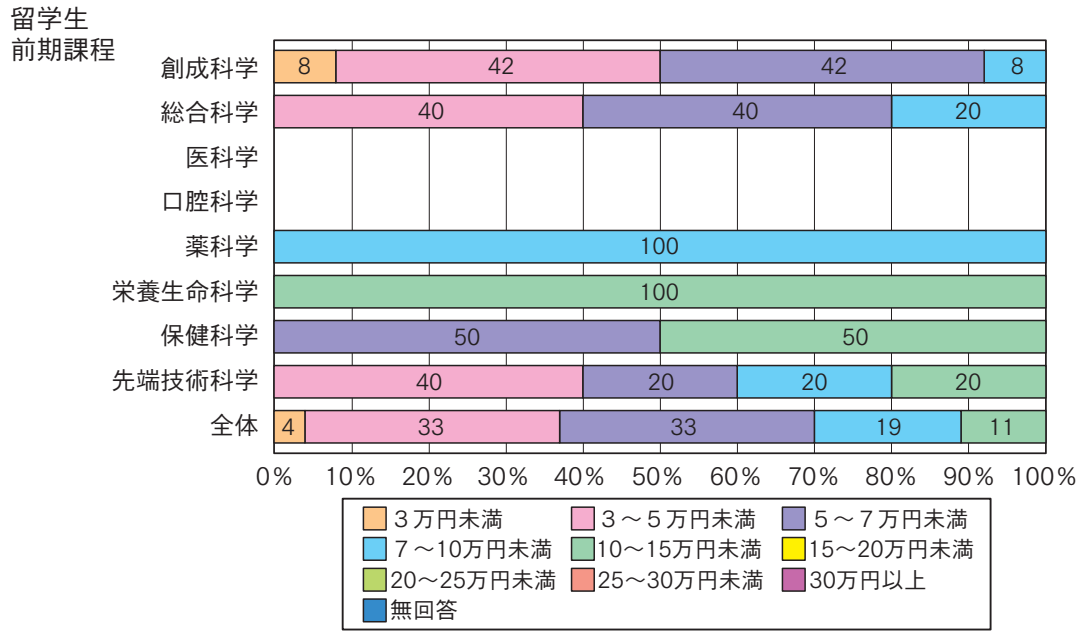


図３－３－３　１か月の平均支出額

医科学，口腔科学，薬科学，先端技術科学の留学生後期課程については，全体の 79%が月平均 10 万円未満で生活し，さらに月平均支出額５万円未満である割合は全体の 20%であった。研究科・教育部別では，月平均支出額 10 ～ 15 万円が薬科学で 60%，口腔科学で 23%，さらに月平均支出額 10 ～ 20 万円が先端技術科学で 18%となっている。医科学では月平均 10 万円未満が 100%であった。

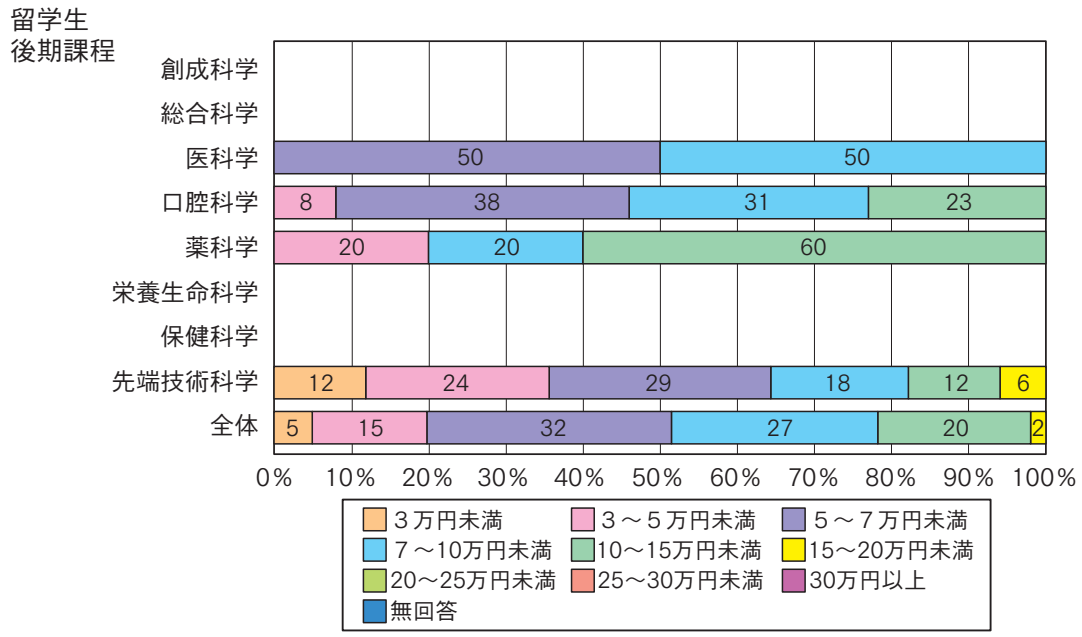


図３－３－４　１か月の平均支出額

３－４　奨学金を受けることを希望しますか（図３－４－１～図３－４－４）

前期課程では，奨学金希望者は全体の 46%であり，第７回の調査と比較して少し減少した。一方，55%は奨学金受給を希望せず，こちらについては前回調査と比較して少し増加した。現在の奨学金受給者の割合は薬科学が 47%と最も高く，次いで先端技術科学 39%，栄養生命科学 38%と続く。現在受給していないし希望もしない割合は口腔科学が最も高く 75%，保健科学が 64%，医科学が 63%と続く。

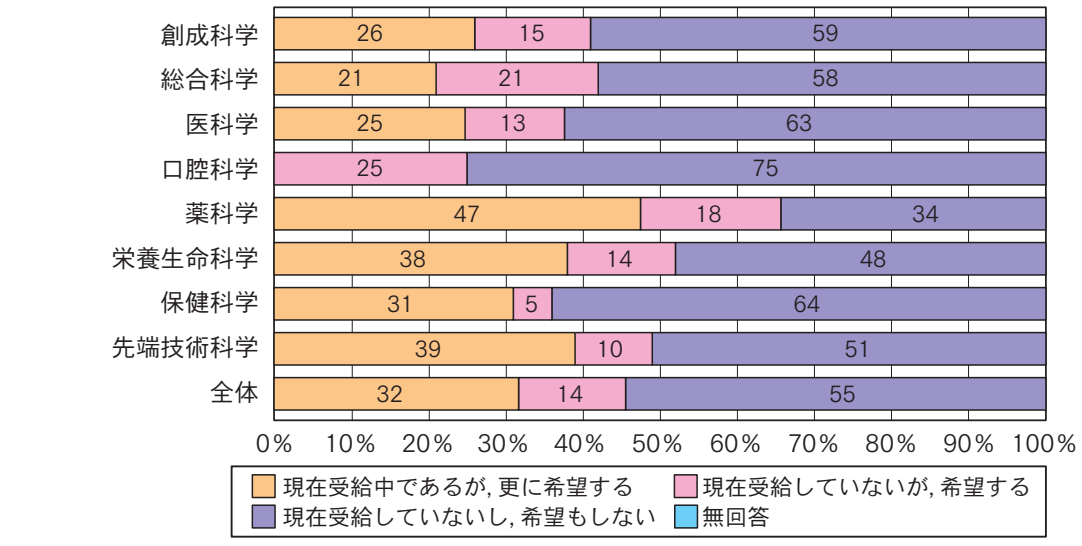


図３－４－１　奨学金

後期課程では，全体として奨学金を希望する割合は前期課程の 46%よりも少し高く，59%であり，第７回の調査の結果と比較してわずかに増加した。教育部別に比較すると，奨学金受給の割合は栄養生命科学 56%，薬科学 53%，口腔科学 45%，先端技術科学 43%の順に高い。現在受給していないが，将来的に希望する割合は先端技術科学 31%，薬科学 24%で，そのほかの教育部では０～11%でありあまり

高くない。

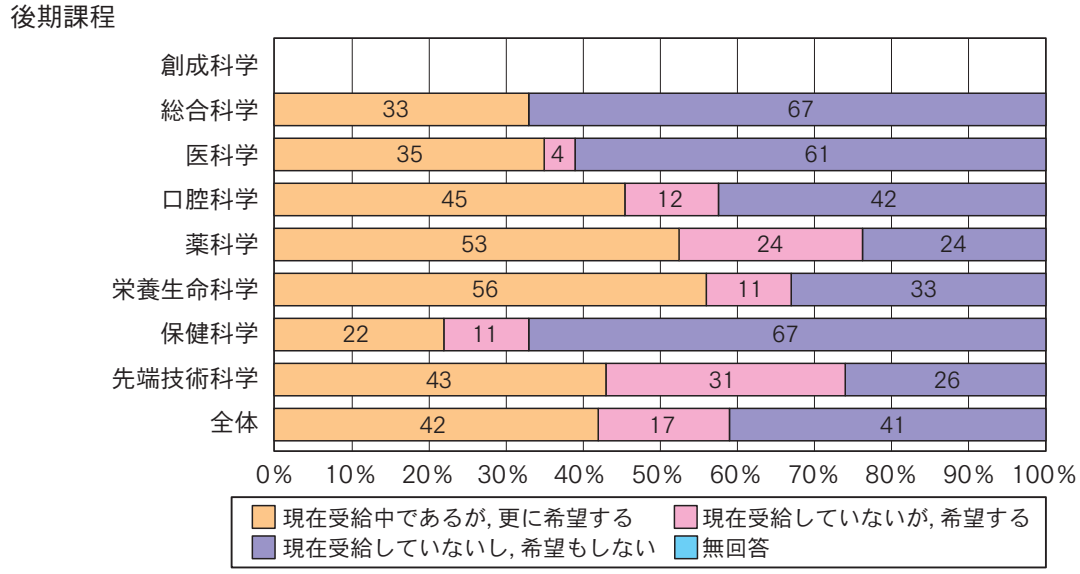


図３－４－２　奨学金

留学生前期課程（医科学と口腔科学を除く）については，調査対象のすべての研究科・教育部において100%が奨学金受給を希望している。薬科学，栄養生命科学，保健科学ではすでに全員が奨学金を受給しており，今後も希望している。

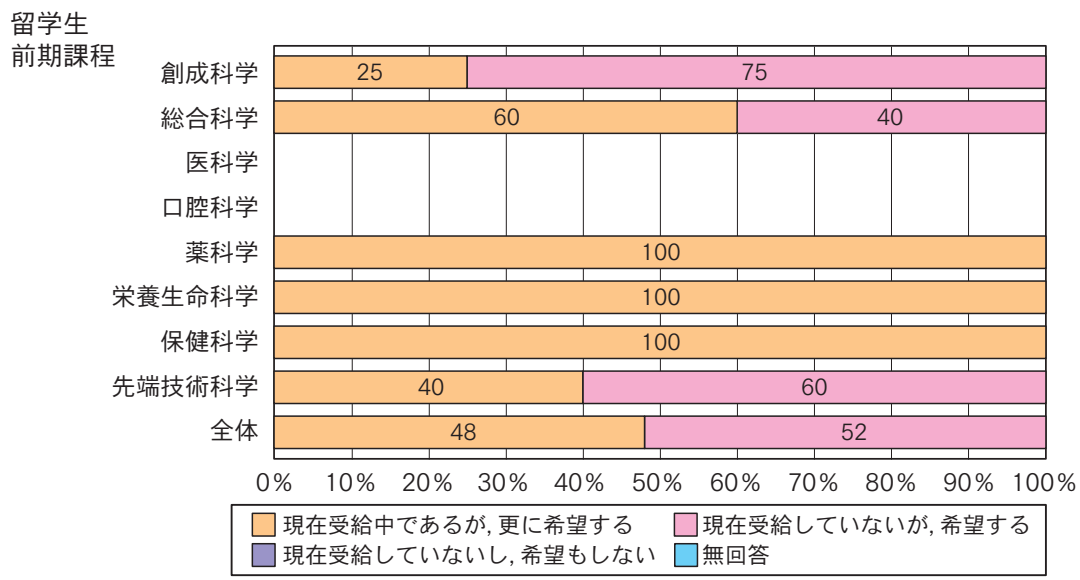


図３－４－３　奨学金

留学生後期課程については，医科学，口腔科学，先端技術科学において100%が奨学金受給を希望している。口腔科学の85%，医科学の83%，先端技術科学の53%，薬科学の40%はすでに奨学金を受給しており，今後も希望している。

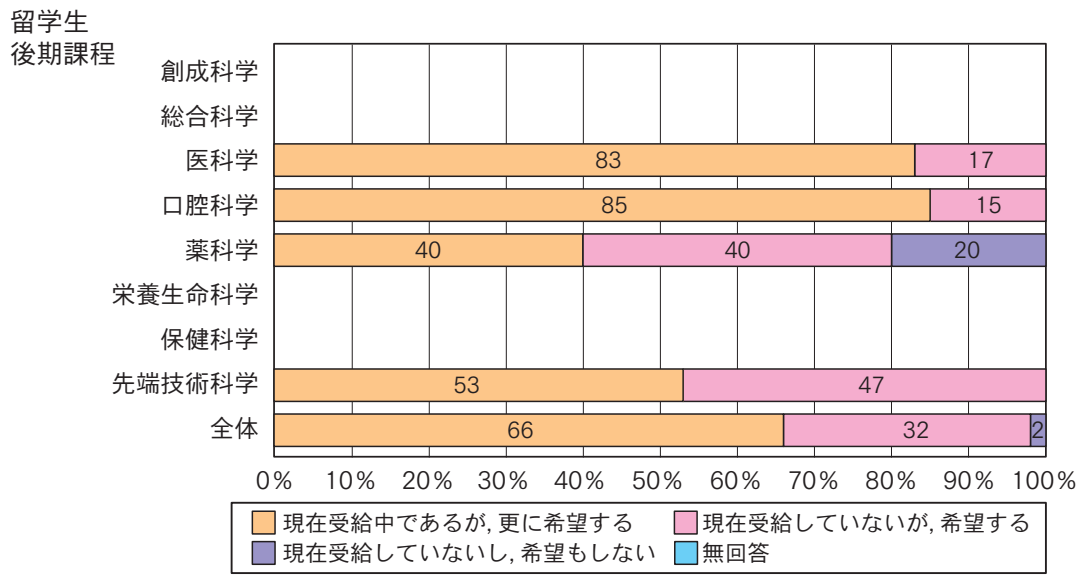


図３－４－４　奨学金

３－５　現在，アルバイトをしているか（図３－５－１～図３－５－４）

前期課程では，全体の 57％の大学院生がアルバイトをしており，この割合は第７回の調査の結果よりも４％減少した。研究科・教育部別に比較すると，アルバイト学生の割合は栄養生命科学が 69％と最も高く，創成科学 66％，先端技術科学 60％と続く。逆に，保健科学 64％，薬科学で 63％，はアルバイトをしていない結果であった。

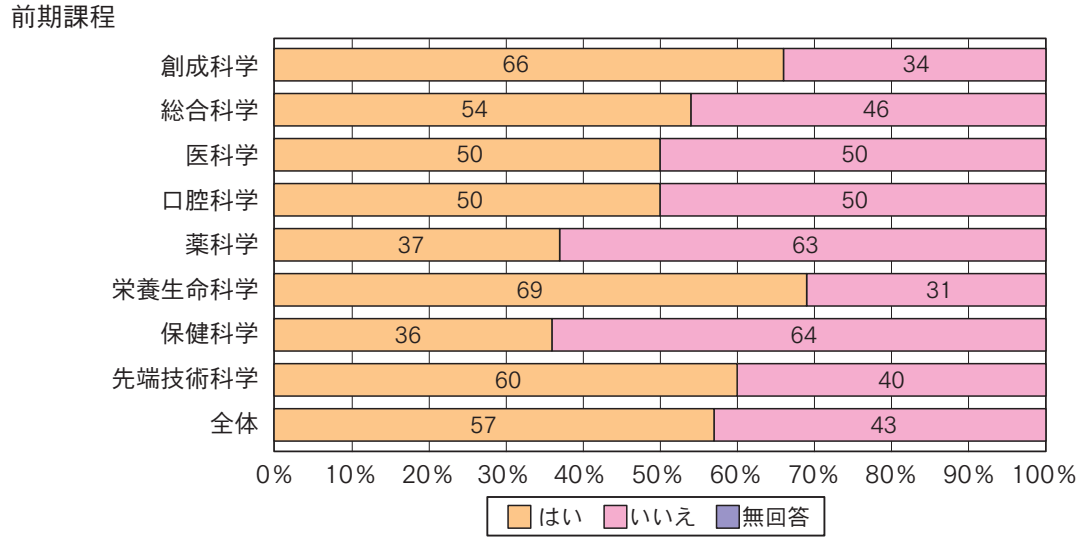


図３－５－１　アルバイト

後期課程では，全体として 35％の大学院生がアルバイトを行っており，前期課程（57％）と比較するとかなり少ない。教育部別では，薬科学を除く研究科・教育部ではアルバイトを行っている割合は前期課程よりも後期課程で少ない。アルバイト学生の割合については，保健科学で 11％と少ないが，そのほかの研究科・教育部では 33 ～ 41％で類似している。

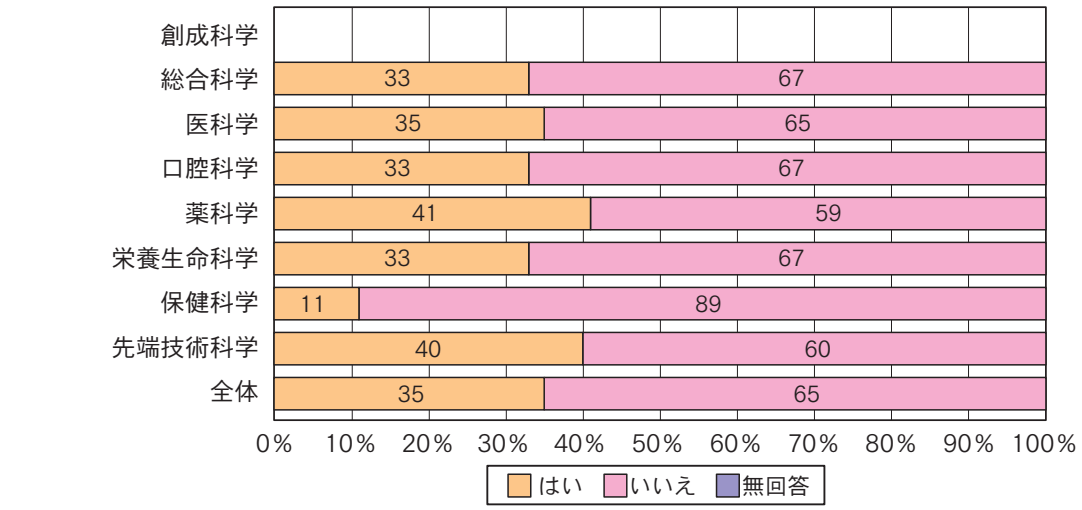


図３－５－２　アルバイト

留学生前期課程（医科学と口腔科学を除く）については，アルバイトを行っている割合は総合科学で100%，先端技術科学で60%，創成科学で50%であり，薬科学，栄養生命科学，保健科学では全員がアルバイトを行っていない。

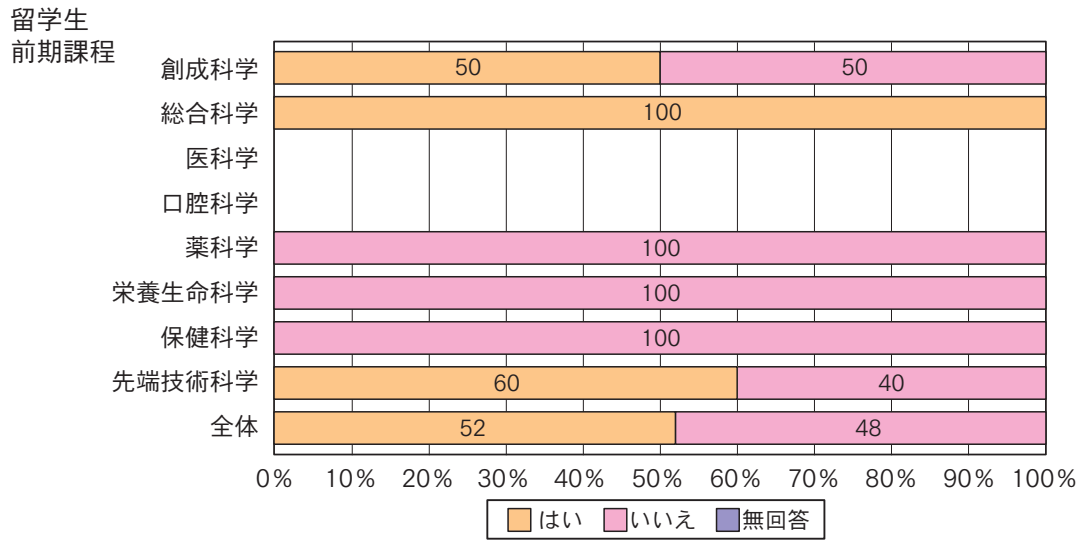


図３－５－３　アルバイト

留学生後期課程については，医科学の50%，薬科学40%，先端技術科学35%の大学院生がアルバイトを行っているが，口腔科学では８％と少ない。

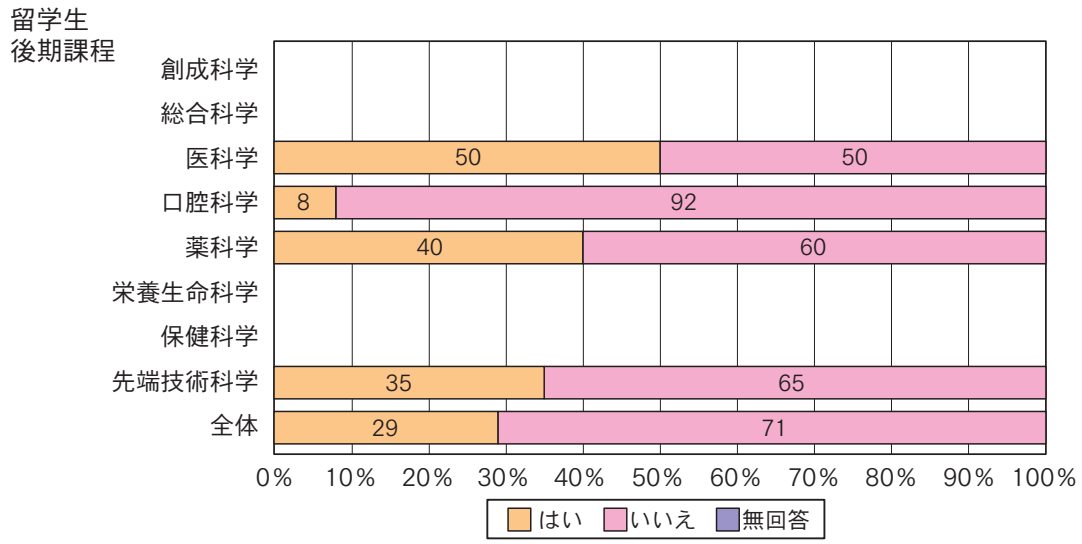


図３－５－４　アルバイト

３－６　アルバイト従事時間数（図３－６－１～図３－６－４）

前期課程では，全体の 57%は１週間のアルバイト従事時間 10 時間未満であり，逆に 43%は 10 時間以上で，そのうち４％の大学院生は 25 時間以上のアルバイトに従事している。第７回の調査の結果と比較すると，全体としてアルバイト従事時間は長くなっている。研究科・教育部別に比較すると，10 時間未満の比率が高いのは栄養生命科学 85%，薬科学 79%，口腔科学 75%で，逆に 15 時間以上の比率が高いのは，保健科学 40%，総合科学 23%，先端技術科学 21%などとなっている。保健科学では 25 時間以上が 20%で，第７回の調査の結果とほぼ同じであった。また，口腔科学では 25 時間以上が前回調査では 50%であったが，今回の調査では全員が 15 時間未満であった。

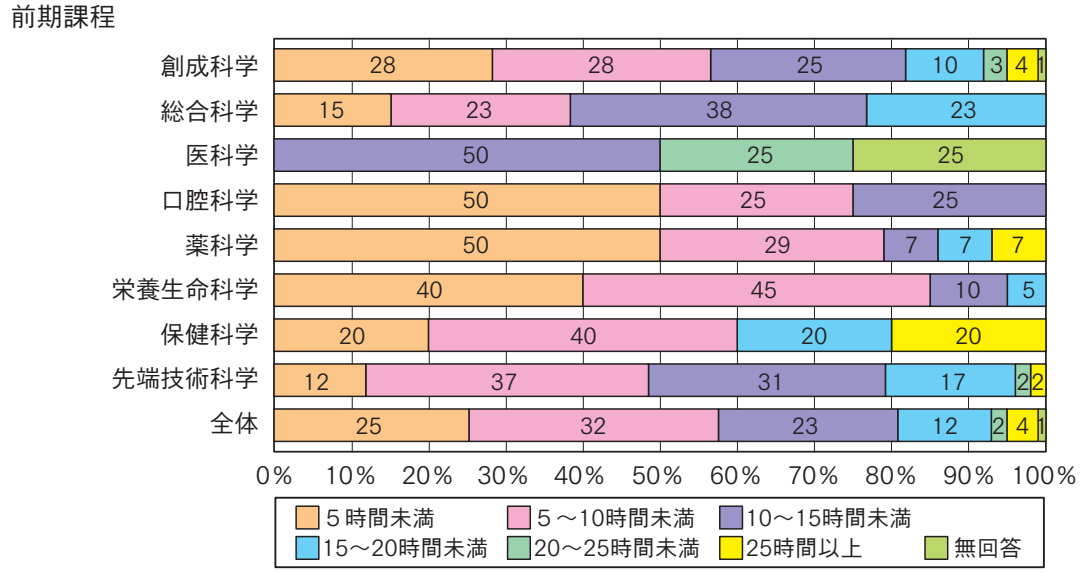


図３－６－１　アルバイトの従事時間

後期課程では，全体としてアルバイト時間 10 時間未満の大学院生の割合は 60%で，前期課程 57%とほぼ同じであり，25 時間以上従事している者の割合は２％であった。第７回の調査結果と比較すると，10 時間未満の比率が 46%から 60%と増加した。教育部別では，栄養生命科学で５時間未満が 67%と

突出して高く，総合科学と保健科学では全員が５～10時間未満であった。一方，先端技術科学と薬科学の43%が15時間以上であった。

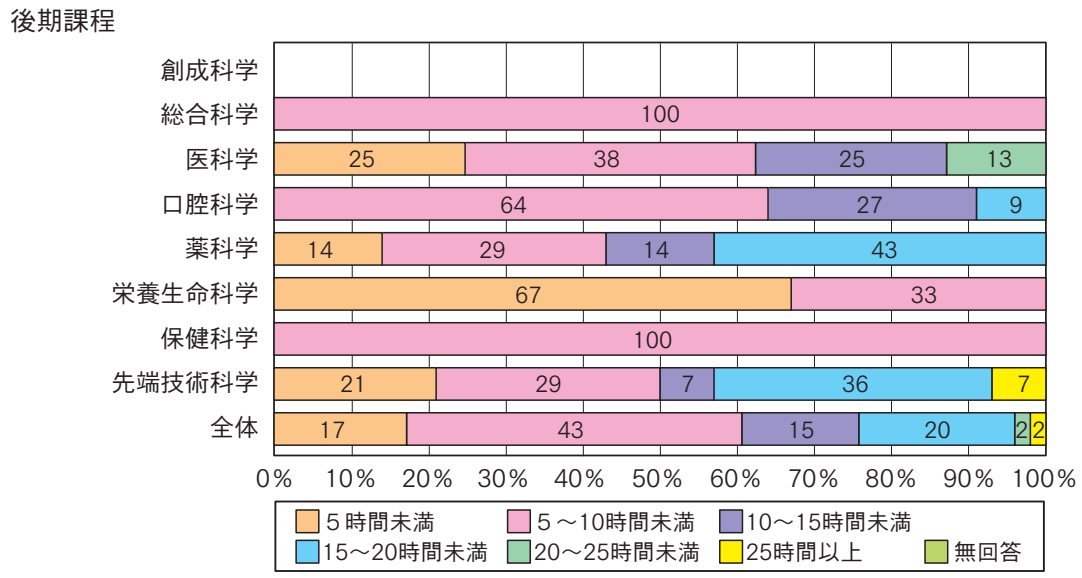


図３－６－２　アルバイトの従事時間

留学生前期課程については，先端技術科学で100%，総合科学で80%，創成科学で51%が10時間以上アルバイトを行っている。これらの研究科・教育部では５時間以上の比率でみると100%であった。

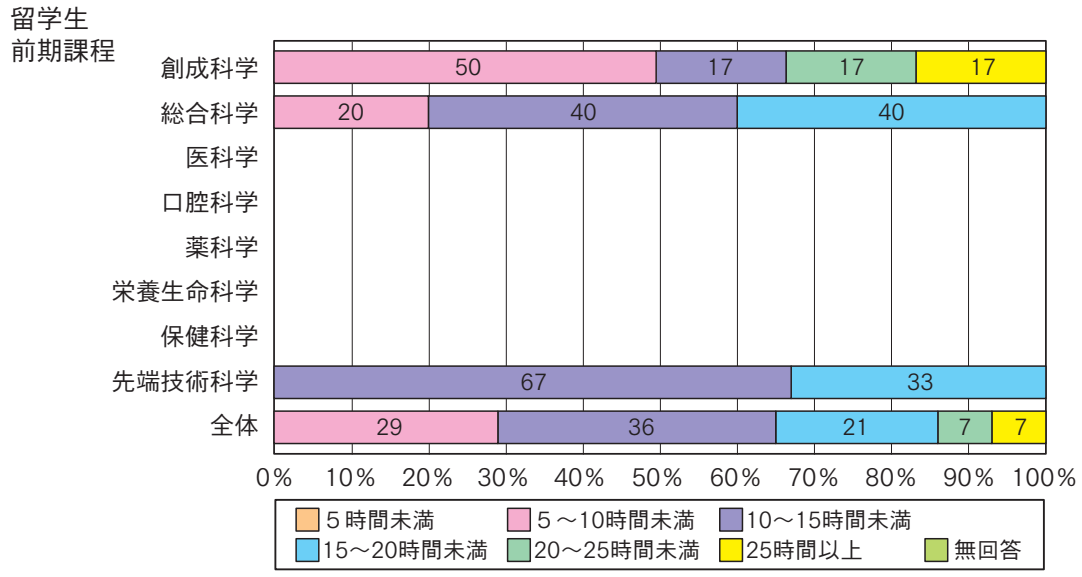


図３－６－３　アルバイトの従事時間

留学生後期課程については，口腔科学100%，医科学67%が10～15時間，薬科学の50%が15～20時間未満でアルバイトを行っている。一方，医科学で33%，先端技術科学で17%は５時間未満であった。

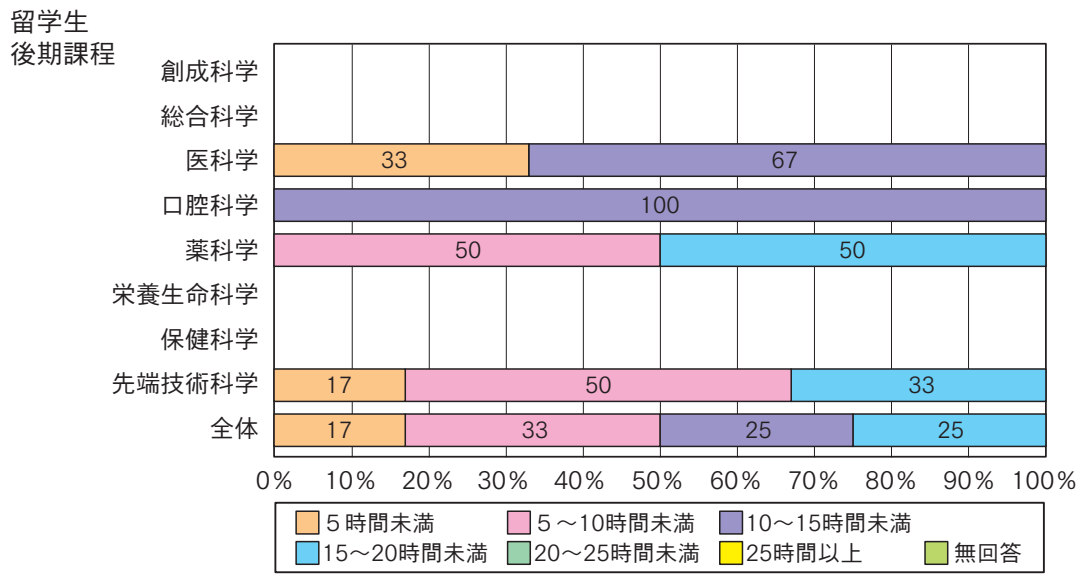


図３－６－４　アルバイトの従事時間

３－７　アルバイトの目的（図３－７－１～図３－７－４）

前期課程では，全体の 39%はアルバイトの目的が「生活費や学費のため」であり，これは第７回の調査結果と同じ比率である。「学会参加のため」の４％を含めると，43%が大学院生としての生活費捻出のためにアルバイトを行っている。一方，「レジャー･旅行」，「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトは 39%であり，第７回の調査結果（43%）と比較して少し減少した。研究科・教育部別に比較すると，「生活費や学費のため」の割合が最も高いのは創成科学の 58%であり，口腔科学が 43%と続く。他は 30～40%前後でほぼ同等である。「レジャー･旅行」，「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトの割合は薬科学（50%）が最も高く，医科学（20%），総合科学（26%）の順で低い。「高額商品（パソコン，バイク，自動車等）購入のため」のアルバイトはすべての研究科･教育部で０～６％と低い。一方，「社

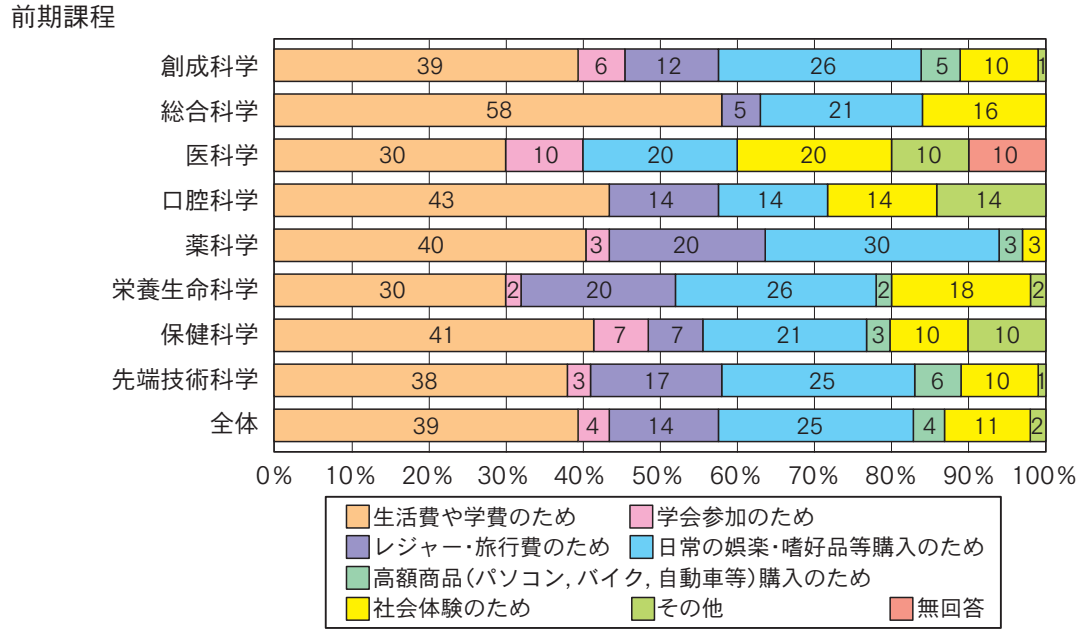


図３－７－１　アルバイトの目的（複数回答可）

会体験のため」のアルバイトと回答した割合は医科学（20%），栄養生命科学（18%）の順で高く，その他の研究科・教育部については３～16%であった。

後期課程では，全体の64%のアルバイトの目的は「生活費や学費のため」であり，前期課程（39%）と比較して割合が高い。一方，「レジャー･旅行」，「日常の娯楽など」の交遊費捻出を目的とする割合は16%で，前期課程（39%）と比較してきわめて低い。この傾向は第７回の調査結果と同様である。「社会体験のため」と回答した者は全体の９％で，前期課程の11%と比較するとわずかに低い。教育部別に比較すると，「生活費や学費のため」と「学会参加のため」など大学院生としての生活費捻出を目的としている割合が最も高いのは口腔科学の79%で，先端技術科学の78%，医科学の67%がそれに続く。一方，「レジャー・旅行」と「日常の娯楽など」については，保健科学の50%が最も高く，総合科学では０％であった。

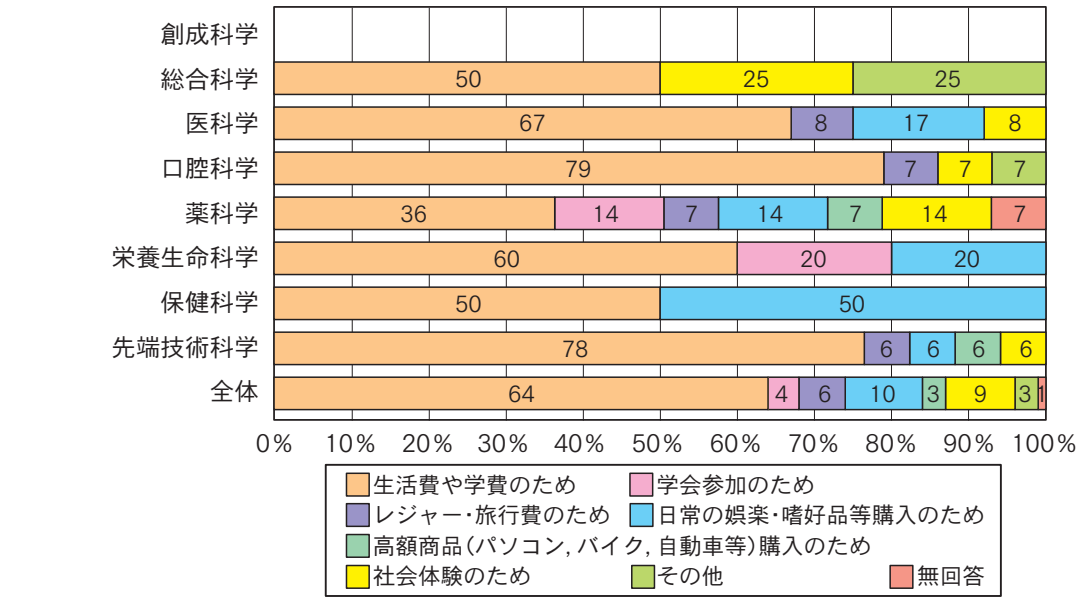


図３－７－２　アルバイトの目的（複数回答可）

留学生前期課程については，アルバイトの目的は，総合科学では100%が「生活費や学費のため」であり，創成科学の75%，先端技術科学の50%と続く。一方，先端技術科学の25%が「レジャー・旅行費のため」，先端技術科学の25%，創成科学の13%が「社会体験のため」となっている。

留学生後期課程については，医科学，口腔科学，先端技術科学の100%，薬科学の50%が「生活費や学費のため」を目的としてアルバイトを行っている。また，薬科学の50%が「日常の娯楽など」をアルバイトの目的としている。

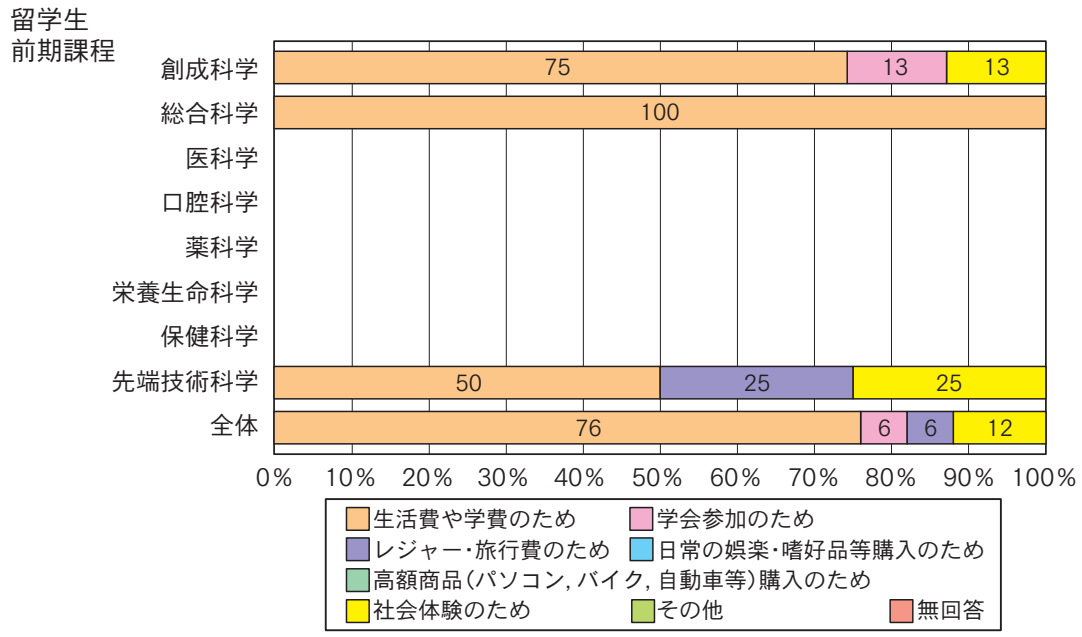


図３－７－３　アルバイトの目的（複数回答可）

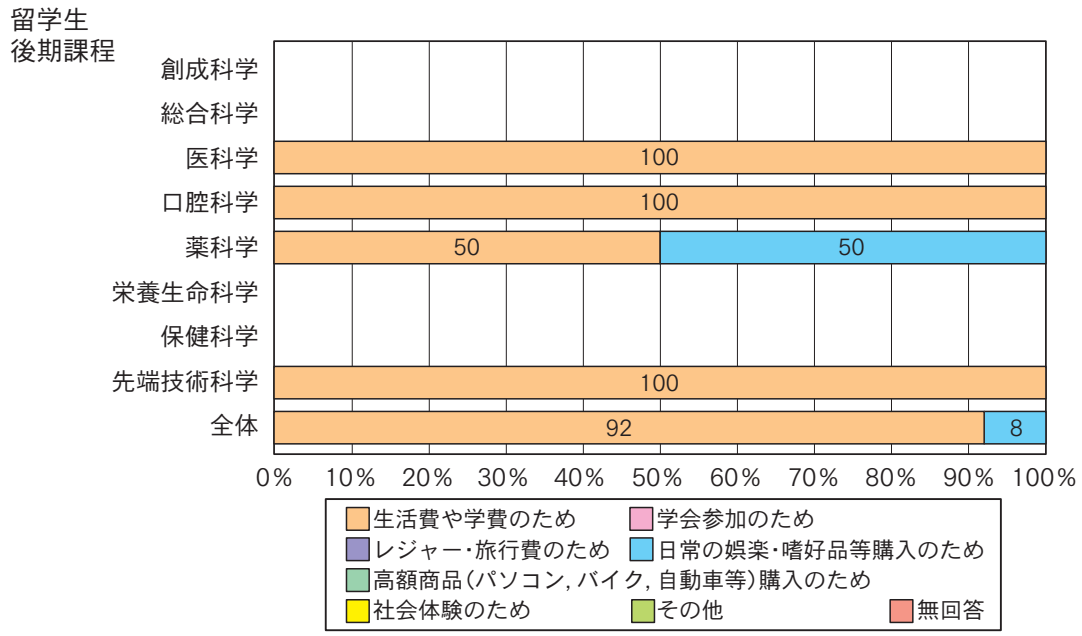


図３－７－４　アルバイトの目的（複数回答可）

３－８　アルバイト収入金額（図３－８－１～図３－８－４）

前期課程では，全体の 37%が３万円未満，40%が３～５万円未満のアルバイト収入であり，５万円以上のアルバイト収入があるのは 22%であった（無回答を除く）。第７回の調査結果と比較すると収入金額は減少している。研究科・教育部別の比較では，アルバイト収入が３万円未満の割合は薬科学 79%で最も高く，栄養生命科学 55%と続く。アルバイト収入が３～５万円未満の割合は，口腔科学 75%，総合科学 54%，先端技術科学 52%などとなっている。一方，保健科学の 27%は 10 万円以上の収入を得ており，その比率は高い。

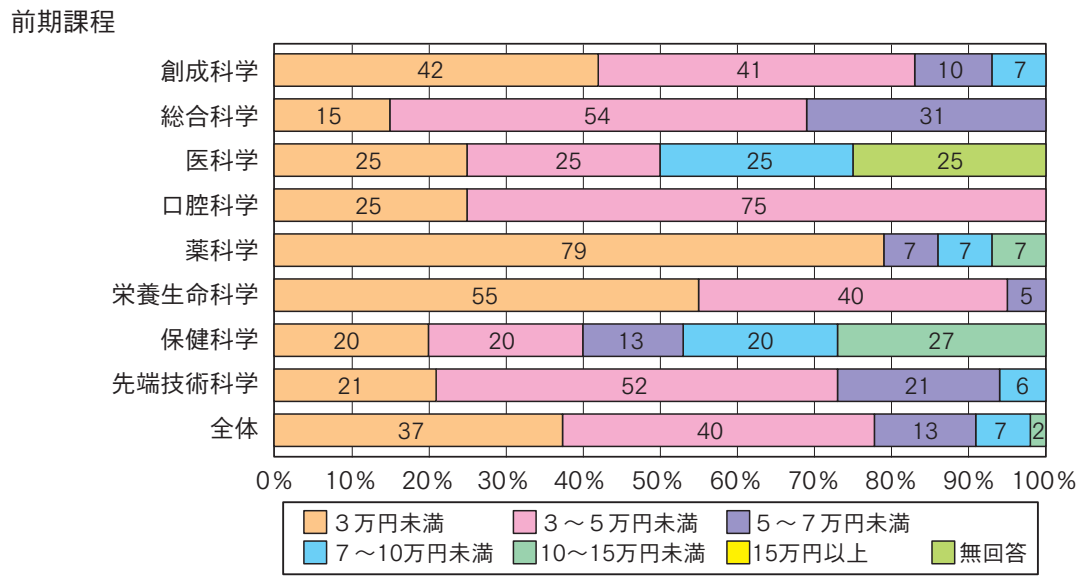


図３－８－１　アルバイト収入

後期課程では，全体の 76%はアルバイト収入が 10 万円未満であり，第７回の調査結果（54%）よりも大きく増加した。一方，10 万円以上の収入を得ている割合は 13%で，第７回の調査結果（40%）よりも大きく減少した。教育部別に比較すると，医科学の 25%は 15 万円以上であるが，これも前回（87%）から大きく減少している。口腔科学についても，15 万円以上が前回（24%）から今回０％と大きく減少した。栄養生命科学では３万円未満の割合が 100%で，総合科学と医科学では 50%であった。

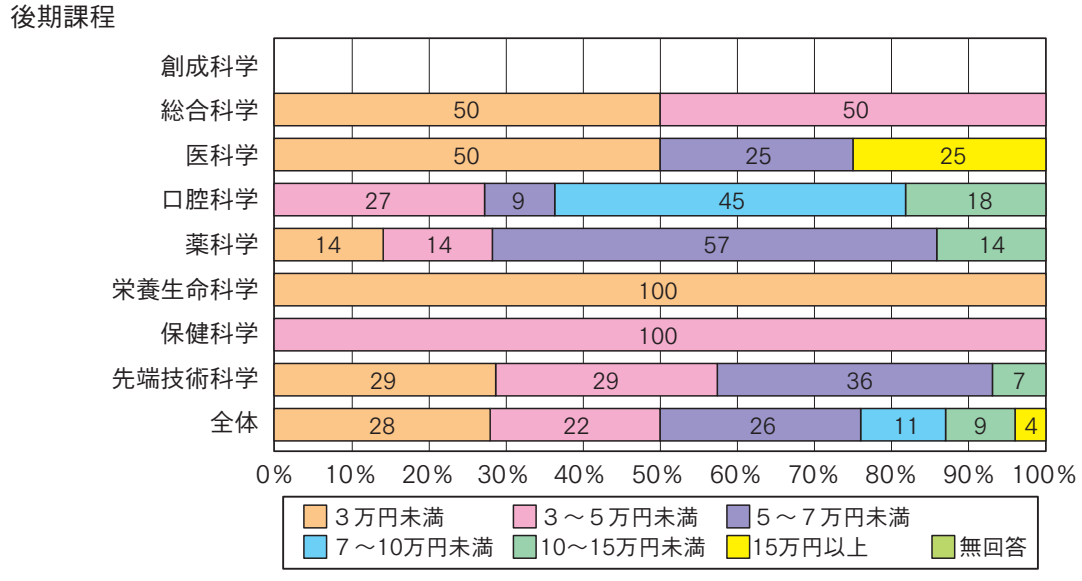


図３－８－２　アルバイト収入

留学生前期課程については，1か月のアルバイト収入が３万円未満である割合が創成科学で33%，３～５万円未満が先端技術科学で 67%，創成科学で 50%，総合科学で 40%であった。また，５～７万円未満は，総合科学で 60%，先端技術科学で 33%，創成科学で 17%であった。

留学生後期課程については，１か月のアルバイト収入が３万円未満である割合が医科学と先端技術科学で 33%，３～５万円未満が口腔科学で 100%，先端技術科学で 17%であった。また，５～７万円未満は薬科学で 100%，医科学で 67%，先端技術科学で 50%であった。

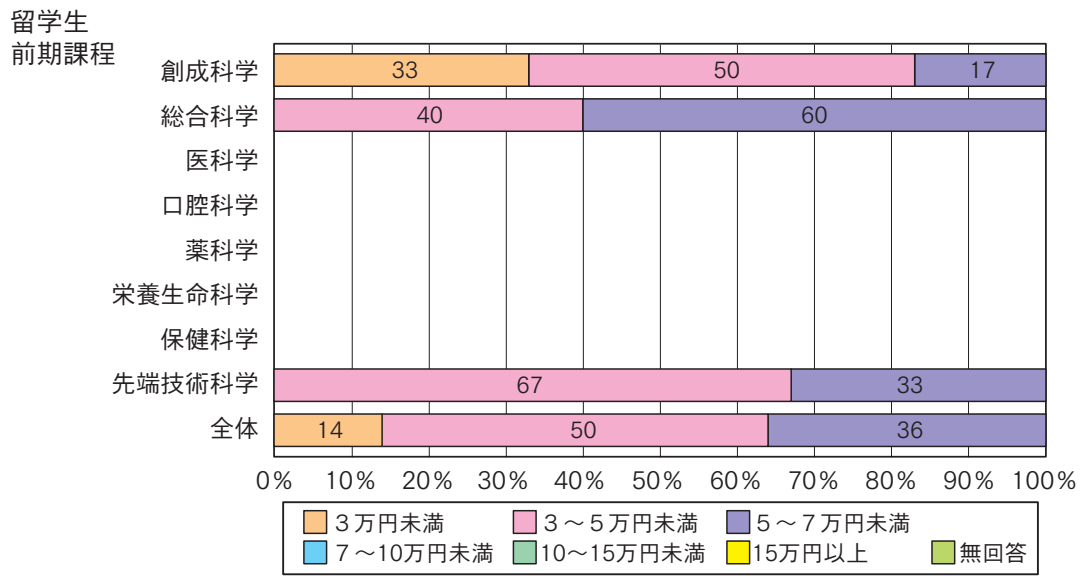


図３－８－３　アルバイト収入

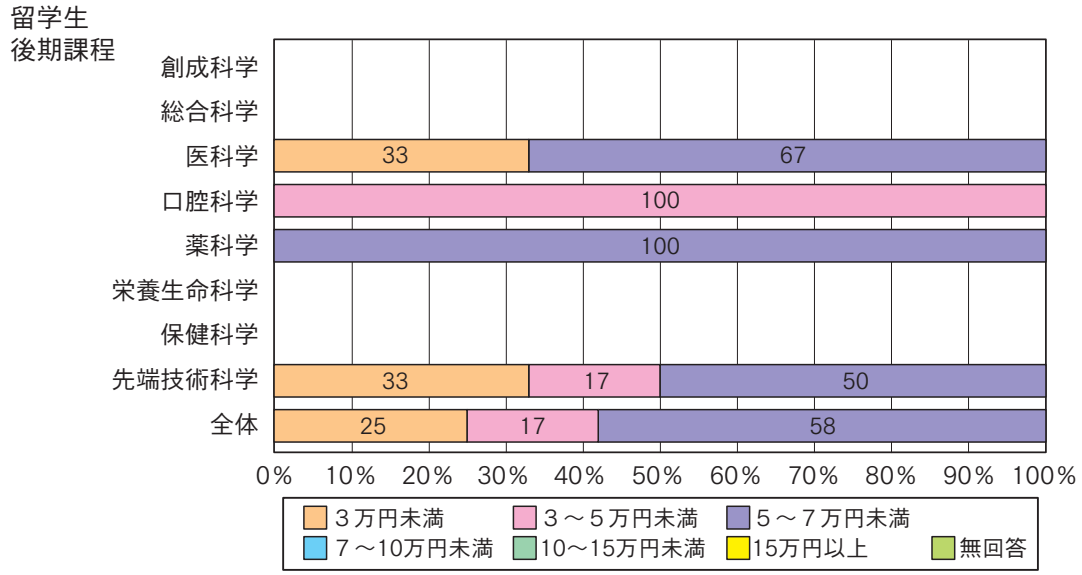


図３－８－４　アルバイト収入

３－９　アルバイトにおけるトラブル（図３－９－１～図３－９－４）

前期課程では，全体の80%でアルバイトにおけるトラブルはみられず，第７回の調査結果73%よりも増加した。最も多いトラブルは「客とのトラブル」（７％）で，次いで「雇用者との意見の不一致」（６％）である。研究科・教育部別では，トラブルを経験したことがない比率は薬科学と保健科学で93%，総合科学で92%であり，全体的にも高い比率であった。先端技術科学の19%，薬科学の７％，創成科学の４％で「客とのトラブル」を，口腔科学の25%は「雇用者との意見の不一致」を，栄養生命科学の10%は「解雇」を経験している。

後期課程では，全体の89%はアルバイトにおけるトラブルの経験はない。トラブルの内容は「客とのトラブル」（４％），「給料の不払い」（２％），「給料が契約より低かった」（２％）「雇用者との意見の不一致」（２％）となっている。教育部別では，今回の調査で，総合科学，医科学，口腔科学，栄養生命科

学，保健科学の 100%でトラブルの経験はなく，薬科学の 14%で「給料が契約より低かった」，「雇用者との意見の不一致」を経験している。

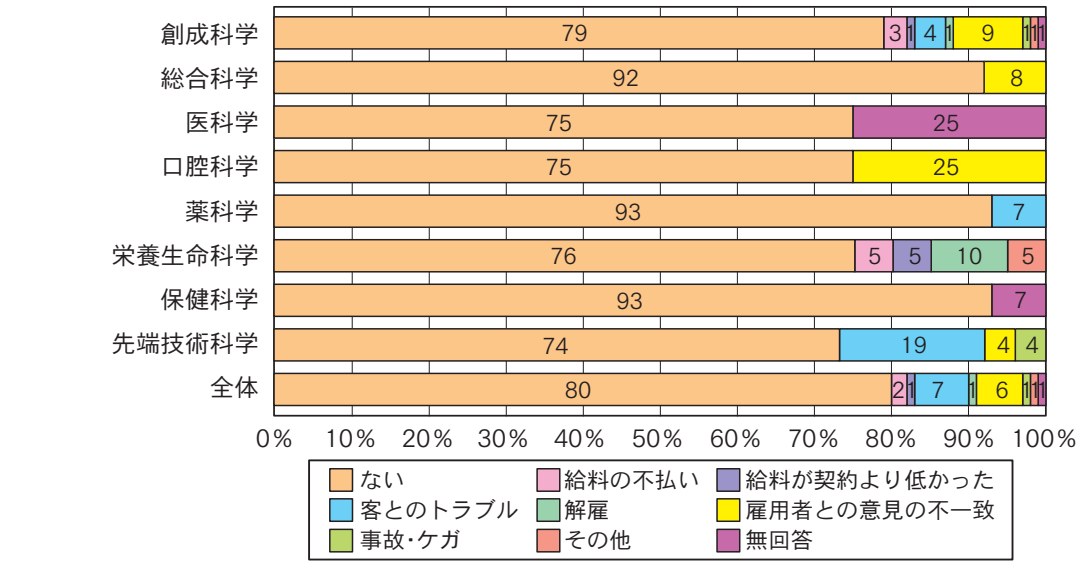


図３－９－１　アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）

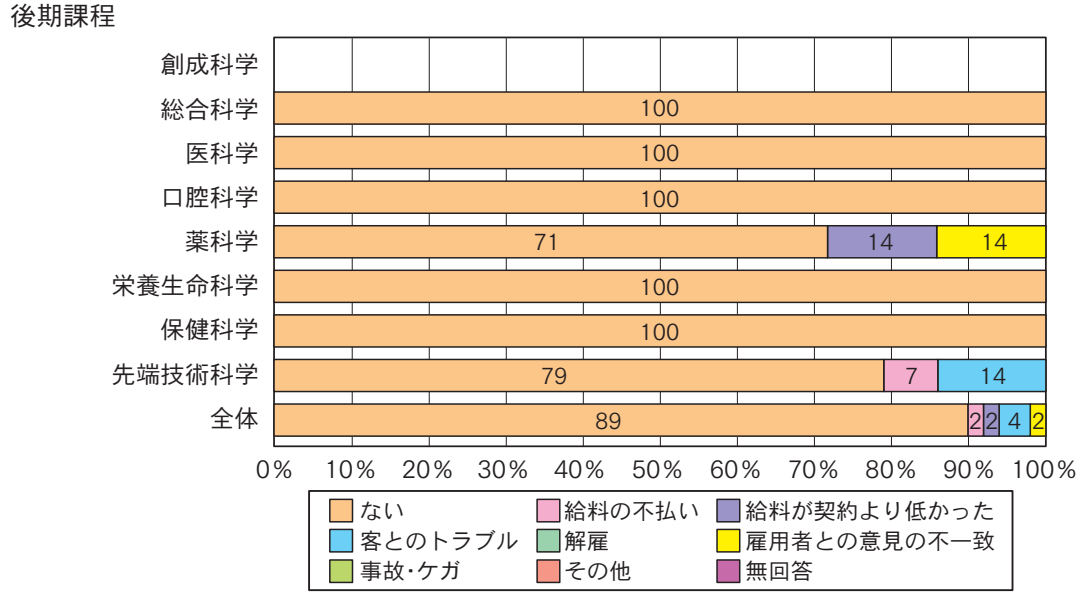


図３－９－２　アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）

留学生前期課程については，創成科学，総合科学，先端技術科学のすべてアルバイトにおけるトラブルの経験はなかった。

留学生後期課程については，アルバイトにおけるトラブルの経験がない割合は，医科学，口腔科学で 100%，先端技術科学で 83%，薬科学で 50%であった。薬科学の 50%が「給料が契約より低かった」，先端技術科学の 17%が「給料の不払い」を経験している。

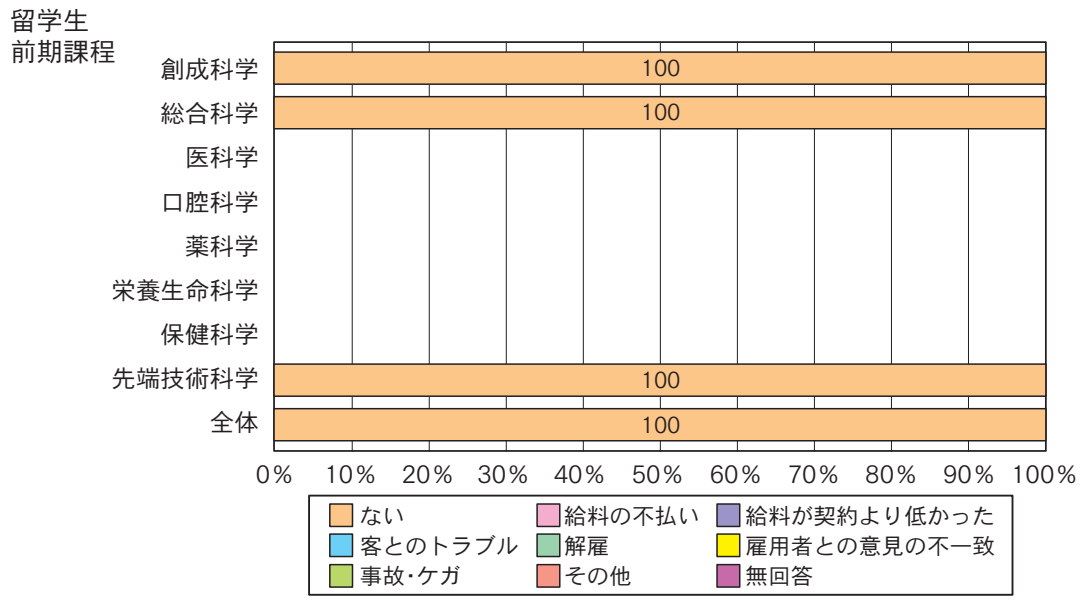


図３－９－３　アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）

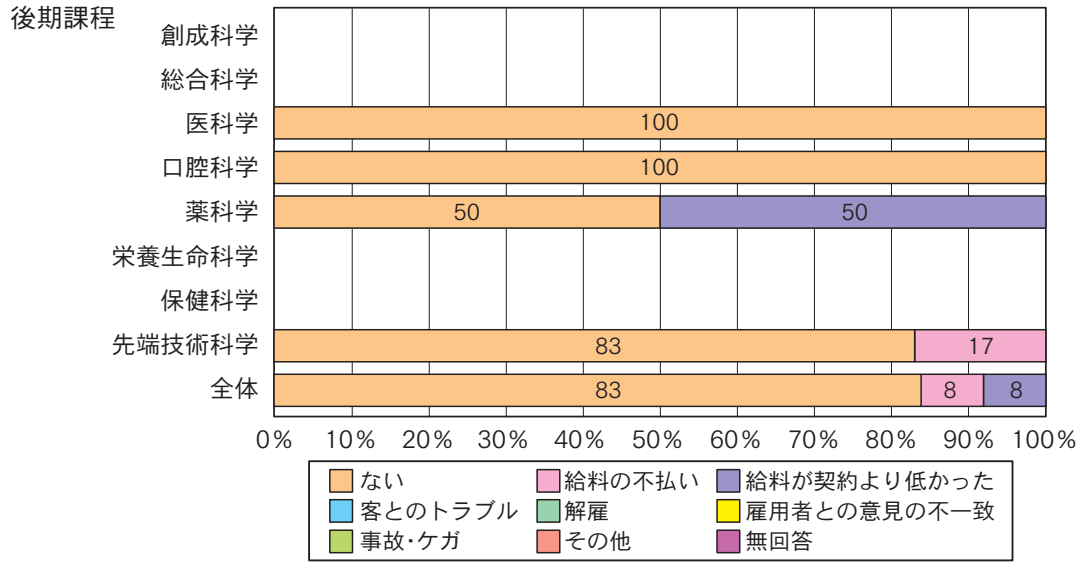


図３－９－４　アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）

第４章　健康状態について

４－１　睡眠時間（図４－１－１，図４－１－２）

睡眠時間は，「６～８時間未満」の学生が前期課程，後期課程とも過半数以上を占めこの傾向に変化はない。最も健康的な睡眠時間は一般に７～８時間といわれているため，良好に睡眠を取れている学生が過半数を占めているが，睡眠時間が「４～６時間未満」および「４時間未満」とした学生が前期・後期課程ともに，約４割みられる傾向も近年の調査と同様であり，睡眠不足に留意が必要である。平日の蓄積した睡眠負債を休日の朝寝で解消している場合も，睡眠リズムを乱し，夜間の入眠困難や日中の眠気につながる悪循環をもたらす場合もある。睡眠不足は心身の疲労を招き，活動性の低下や心身の変調，注意力低下による事故などにもつながることが実証されているため，健康・安全管理のために，睡眠時

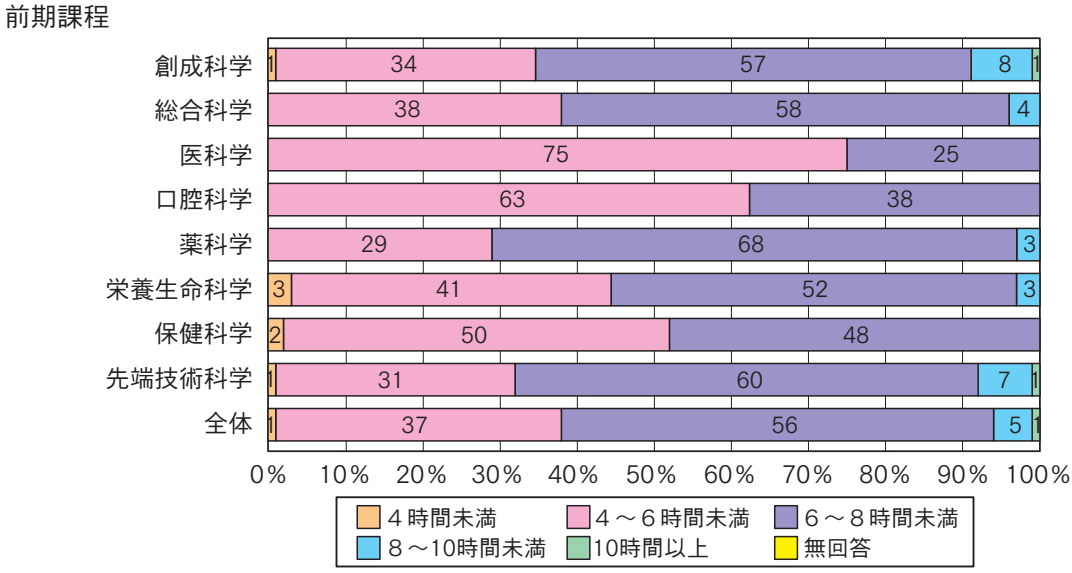


図４－１－１　睡眠時間

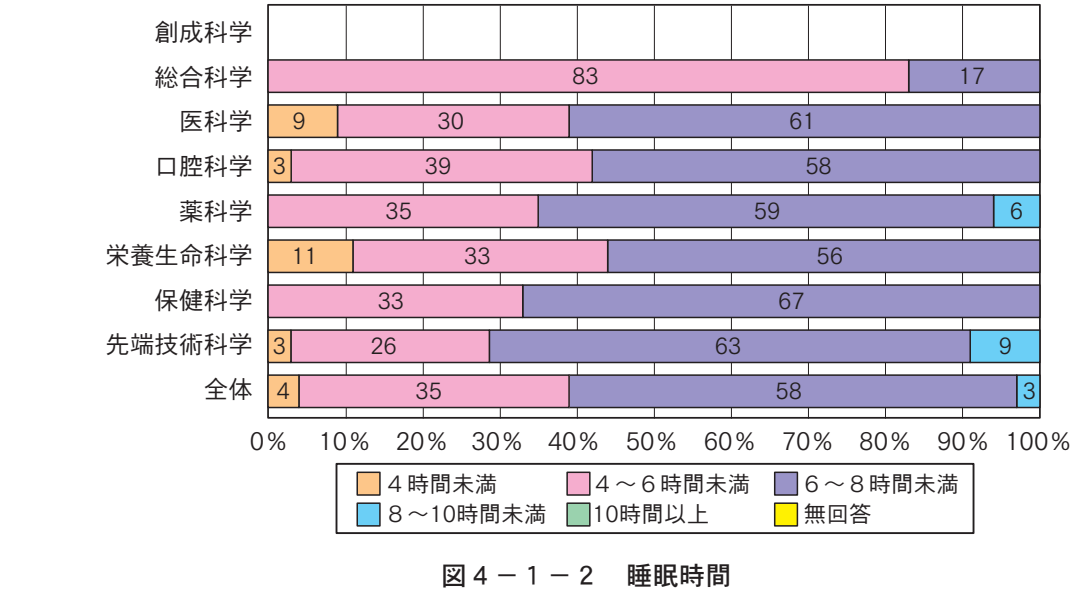


図４－１－２　睡眠時間

間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。また，不眠による睡眠不足が続いている場合は，睡眠衛生の見直しとともに，医療面での相談も検討したい。

4－2　気になる症状（図4－2－1，図4－2－2）

気になる症状が「ある」と答えた学生は，前期・後期課程合わせて44%であり，近年の調査と同様の傾向である。留学生においては，53%が気になる症状が「ある」と答えており，全体よりやや多いものの，これまでの調査結果に比べるとその割合は少ない傾向にあり，気になる症状が「常にある」とした留学生はほとんどいなかった。一方，気になる症状が「常にある」と答えた学生は回答者全体では10%程度見られ，健康管理面での対策が必要であると考えられる。

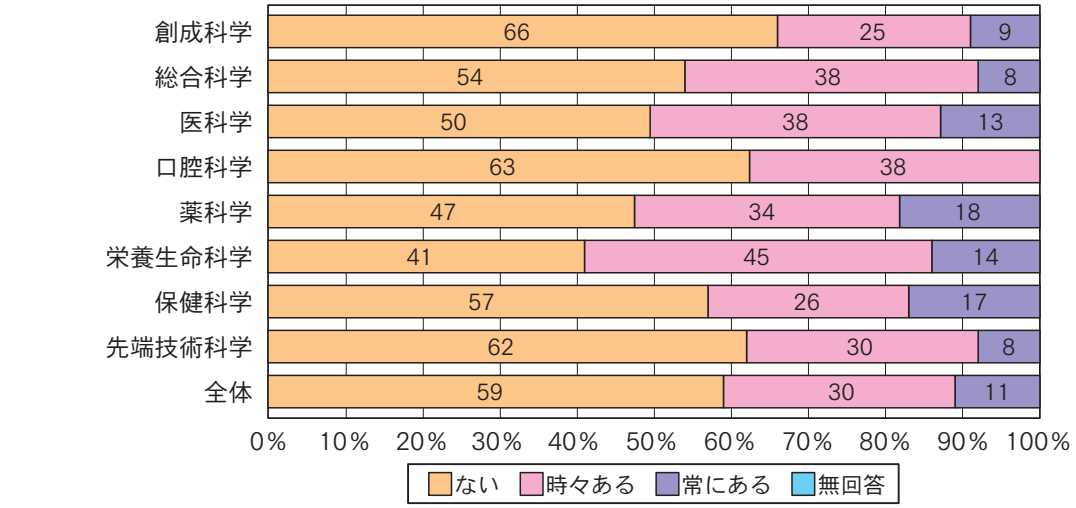


図4－2－1　気になる症状

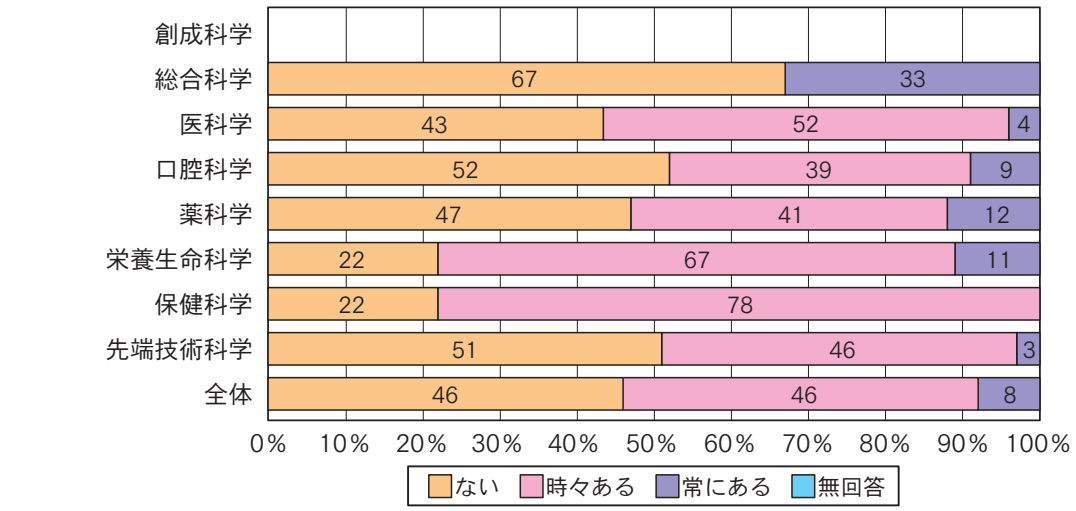
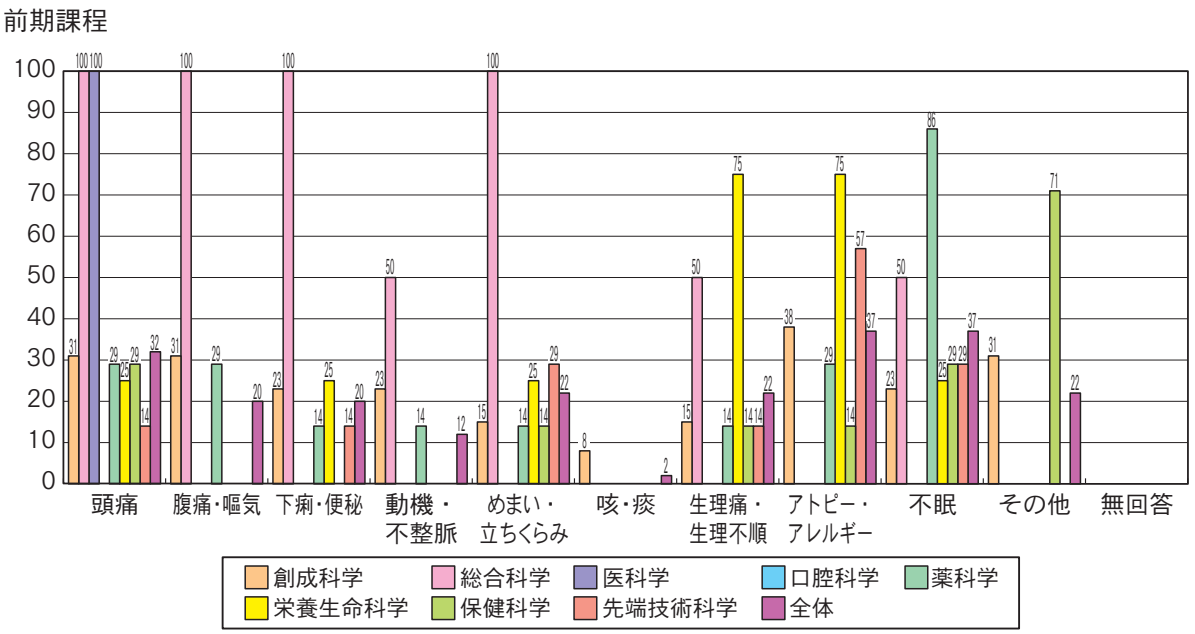


図4－2－1　気になる症状

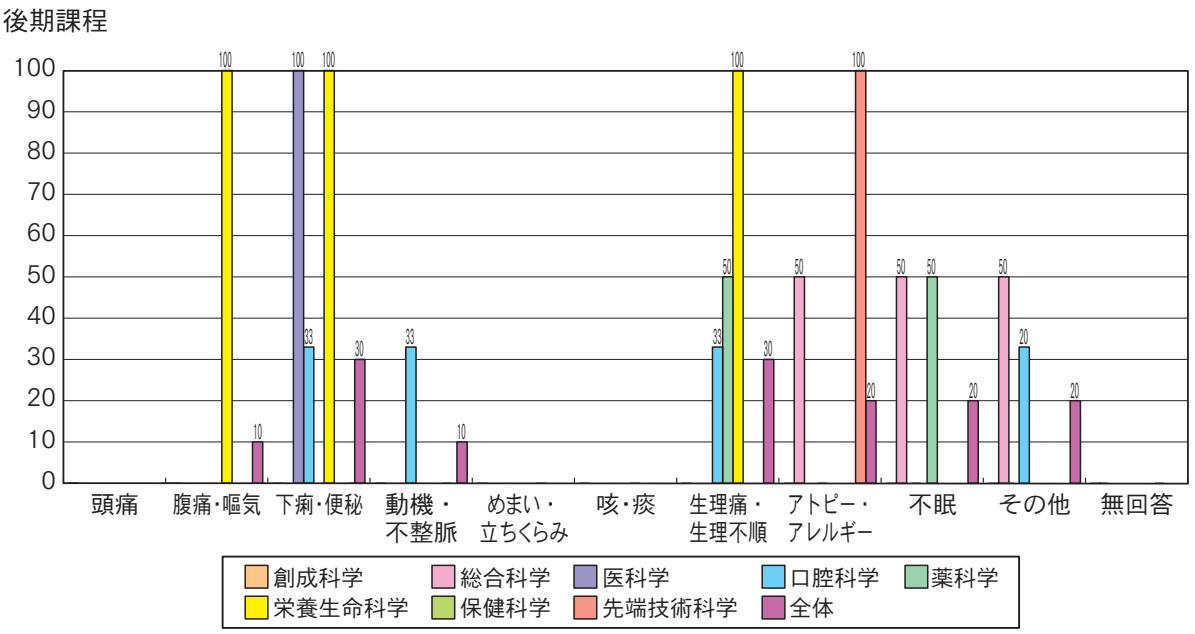
4－3　症状の内容（図4－3－1，図4－3－2）

常にある不調としては，アトピー・アレルギー，不眠，頭痛，生理痛・生理不順が多かった。アトピー・アレルギー，頭痛，生理痛・生理不順を気になる不調とする学生はこれまでの調査でも多かったが，今回調査では「不眠」が多くなっているのが特徴的である。2020 年度は COVID-19 流行下での修学・研究でのオンラインへのシフトや，フィジカルディスタンスを強いられるなどの環境変化の影響もあるのであろうか。必要に応じて，保健管理部門を活用した健康相談や生活習慣の見直し，医療機関で適切に医療的ケアを受けることなどが求められる。



複数回答可の設問についてはグラフ中に回答者における回答数の割合を表示した

図4－3－1　症状の内容（複数回答可）

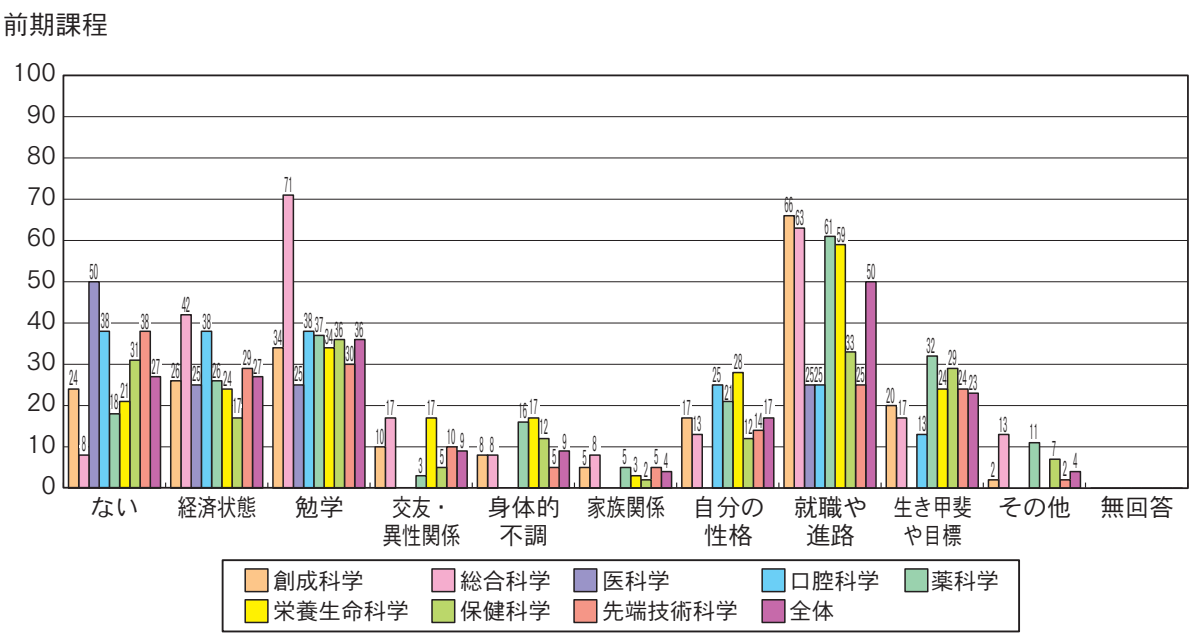


複数回答可の設問についてはグラフ中に回答者における回答数の割合を表示した

図4－3－2　症状の内容（複数回答可）

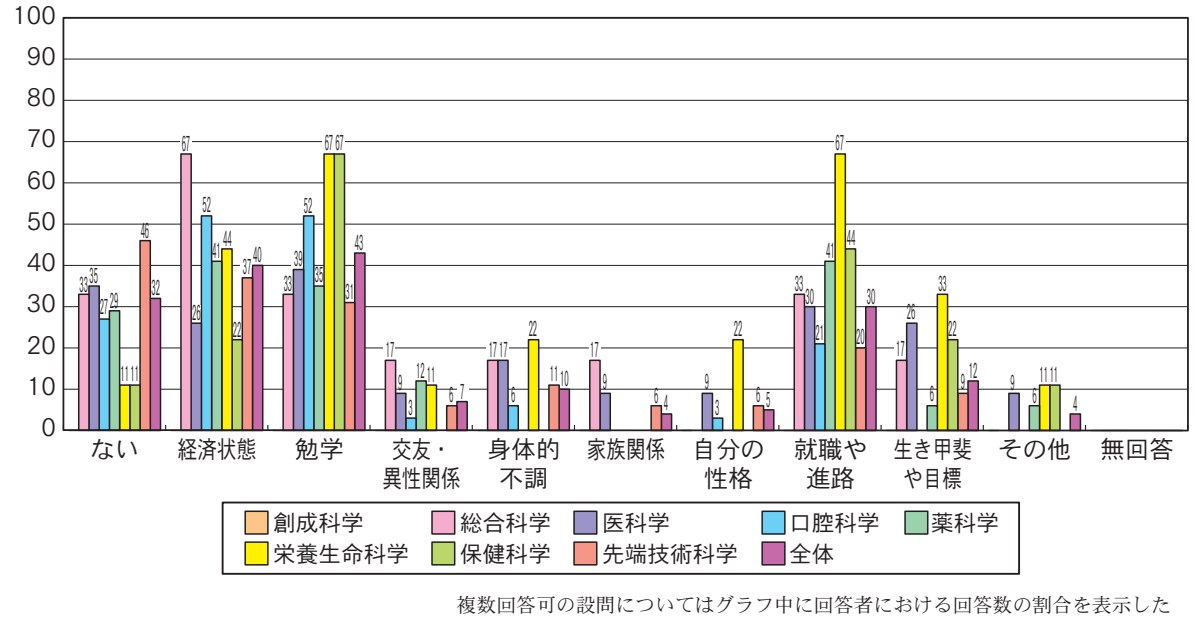
４－４　主な悩みと不安（図４－４－１，図４－４－２）

主な悩みや不安は，「就職や進路」，「勉学」，「経済状態」が多い傾向はこれまでの調査と同様であり，加えて今回調査では，前期課程の回答者の約２割が「生き甲斐や目標」を挙げていた。留学生では，悩みや不安は「ない」とした者が約２割あったが，「経済状態」の悩みと不安を約７割近くの学生が挙げており，回答者全体の割合に比べてかなり高く，大学としての支援の強化も求められる。



複数回答可の設問についてはグラフ中に回答者における回答数の割合を表示した

図４－４－１　主な悩みと不安（複数回答可）

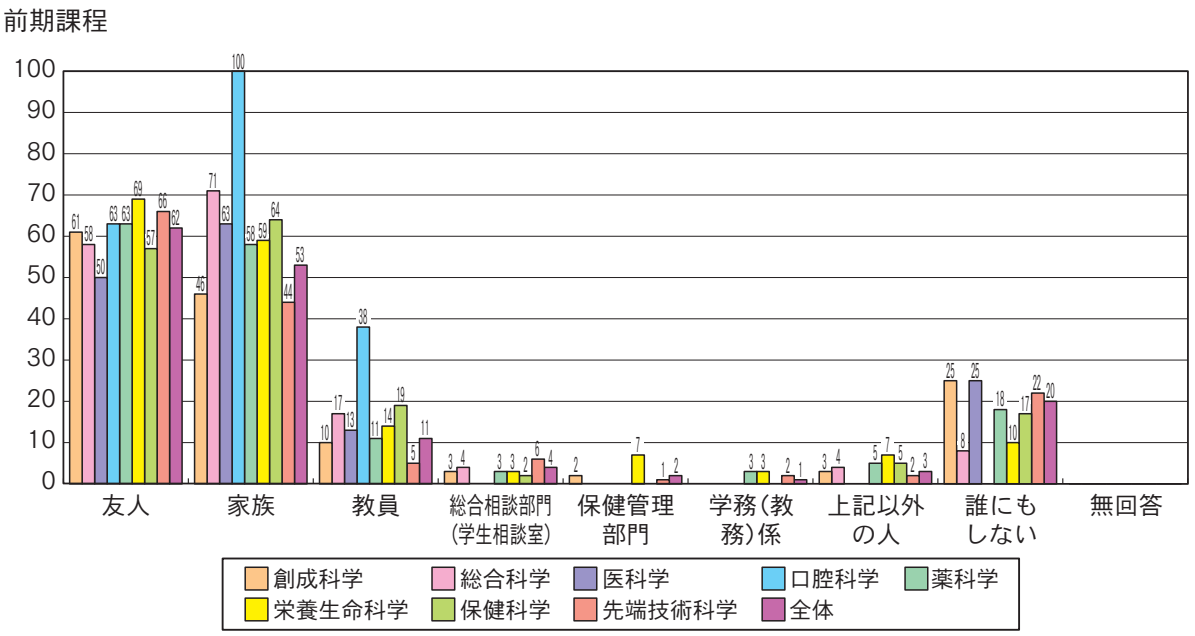


複数回答可の設問についてはグラフ中に回答者における回答数の割合を表示した

図４－４－２　主な悩みと不安（複数回答可）

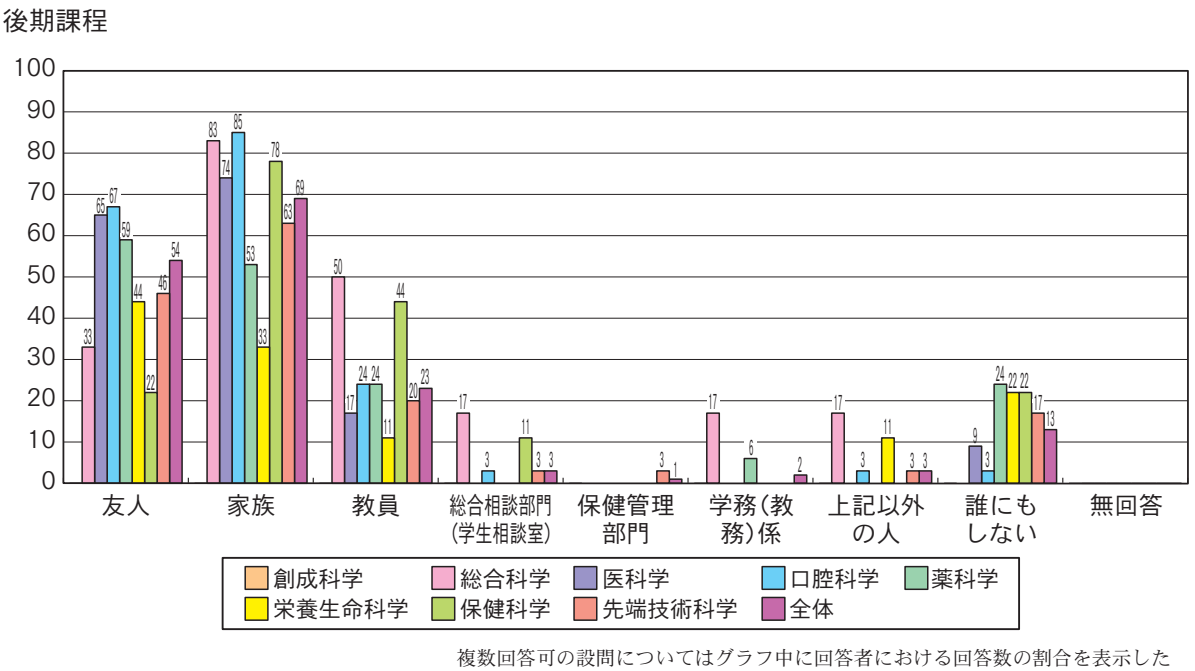
４－５　相談相手（図４－５－１，図４－５－２）

悩み事は，友人や家族に相談する学生が前期・後期課程ともに多く，次いで教員となっており，この傾向は留学生でも同様であった。多くの学生が悩みを最も身近な人に相談することで，悩みや問題への対処を行っていることが推測される。学内の専門相談機関である学生相談室や保健管理部門の利用は合わせて５％程度となっており，今回調査では，前回・前々回の調査に比べて活用が増えている。一方悩みを誰にも相談しないと回答した学生は全体，留学生ともに約１～２割みられた。悩みを誰にも相談しないことについては，自分で問題を解決可能，または自力で解決を図る傾向，相談するという行動自体



複数回答可の設問についてはグラフ中に回答者における回答数の割合を表示した

図４－５－１　相談相手（複数回答可）



複数回答可の設問についてはグラフ中に回答者における回答数の割合を表示した

図４－５－２　相談相手（複数回答可）

に違和感をもっている，信頼して相談できる人間関係を欠いている，など様々な理由が考えられるが，悩みを一人で長期間抱えこむことで，ストレス耐性が低くならないように心がけたい。

４－６　現在の精神状態（図４－６－１，図４－６－２）

約70%の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び，精神的な健康を保っていると考えられ，この傾向は前回・前々回調査と同様である。また，留学生では約８割以上が「充実している」または「気分は普通」を選んでいる。一方，全体では約３割の学生が何らかの精神的不調感を持っており，解消しにくい場合は，相談や医療の活用も検討したい。

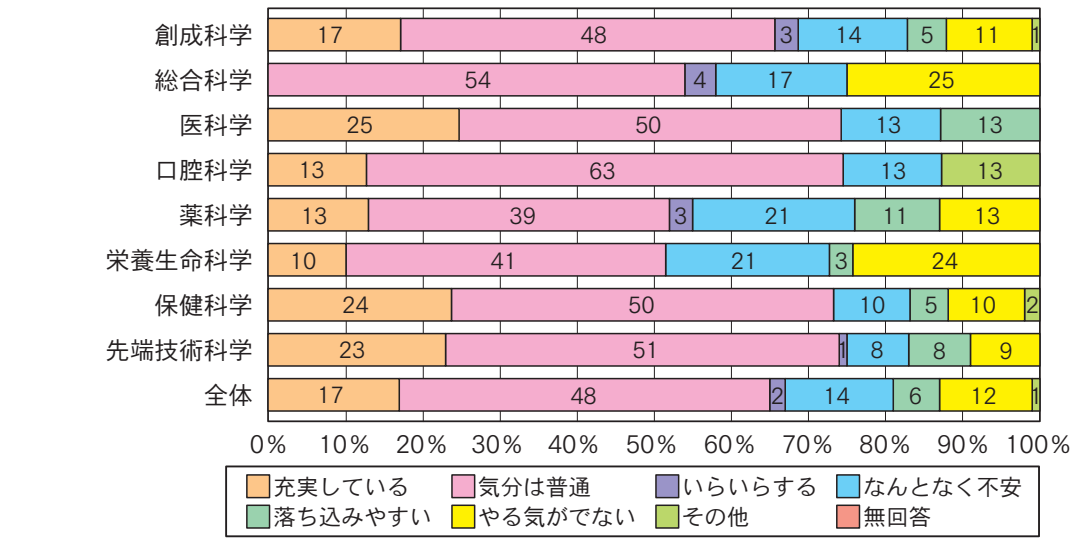


図４－６－１　現在の精神状態

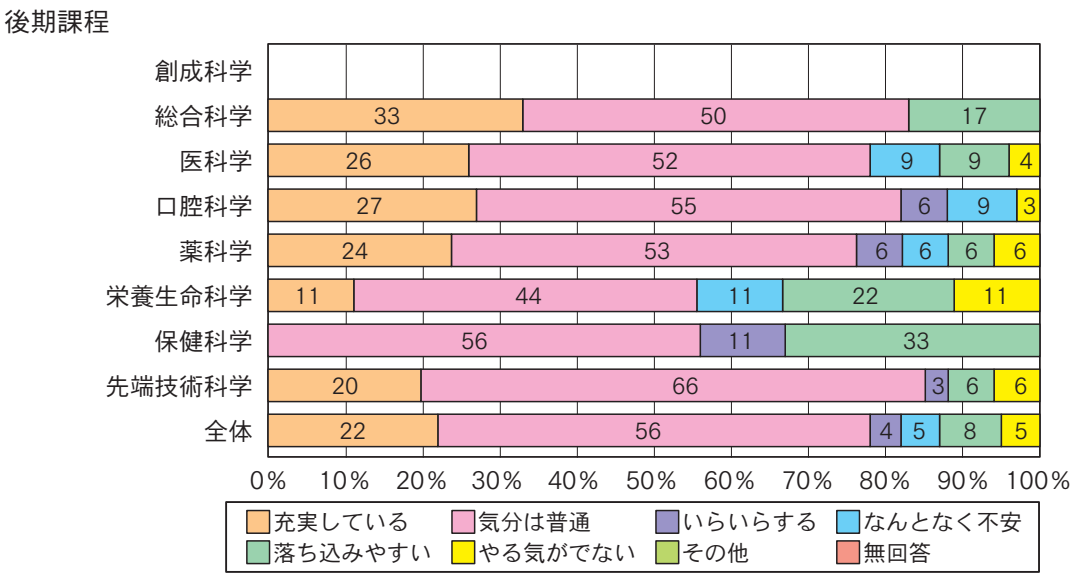


図４－６－２　現在の精神状態

4－7　喫煙（図4－7）

「喫煙しない」「過去に喫煙していたが，現在はしていない」を合わせた非喫煙者が男子86%，女子98%で，喫煙率は男子14%，女子２%と漸減傾向にある。留学生の男子の喫煙率は11%と大幅に低下していた。長期間の喫煙習慣はさまざまな有害作用を健康に及ぼすため，さらに禁煙の啓蒙を続けていく必要がある。

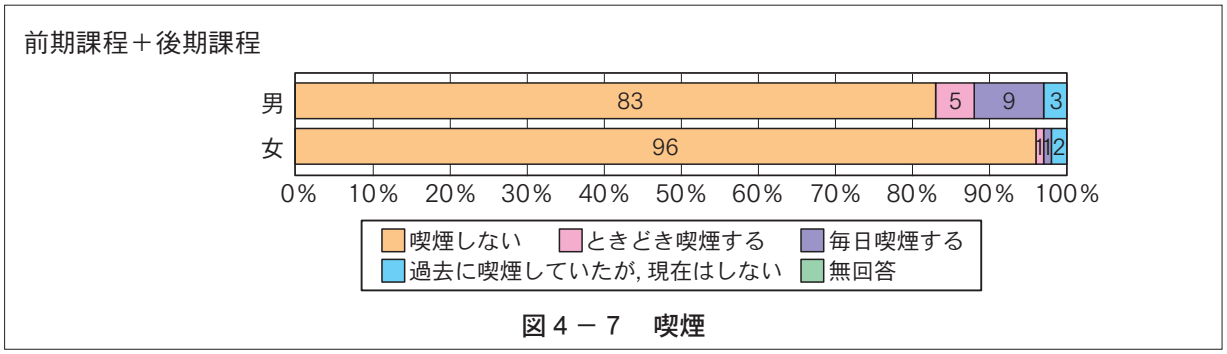


図4－7　喫煙

4－8　飲酒（図4－8）

「飲酒はしない」および「たまに飲酒する」と答えた学生は男子で78%，女子で87%であり，飲酒習慣がない学生が漸増しており，また留学生ではほとんどが飲酒習慣はないとの回答であった。飲酒習慣のある学生のうち，週３～４日以上飲んでいる学生は男子で６%，女子で２%と前回調査より減少している。飲酒習慣のある学生においても，１回の飲酒量の平均が純アルコール20 g（日本酒で１合）未満を心がけ，アルコール関連健康障害などの酒害の予防に留意することが必要である。

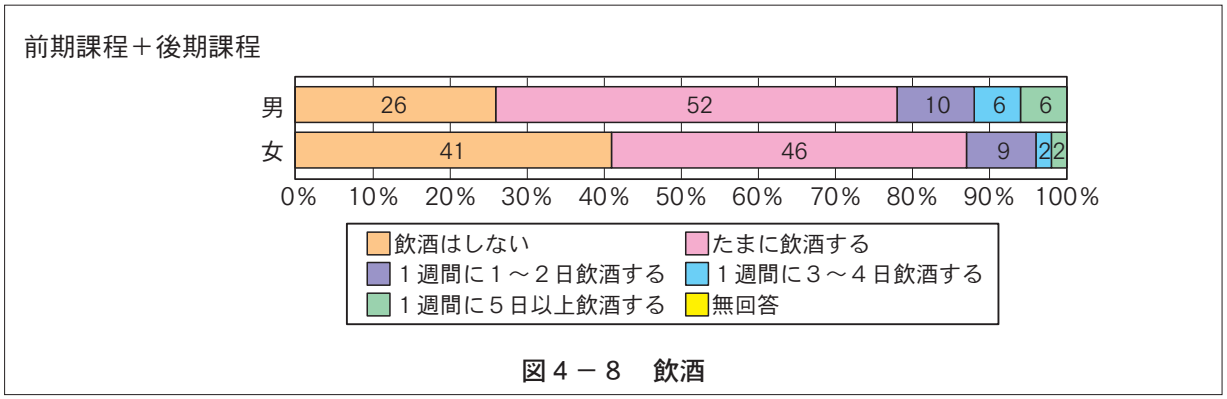
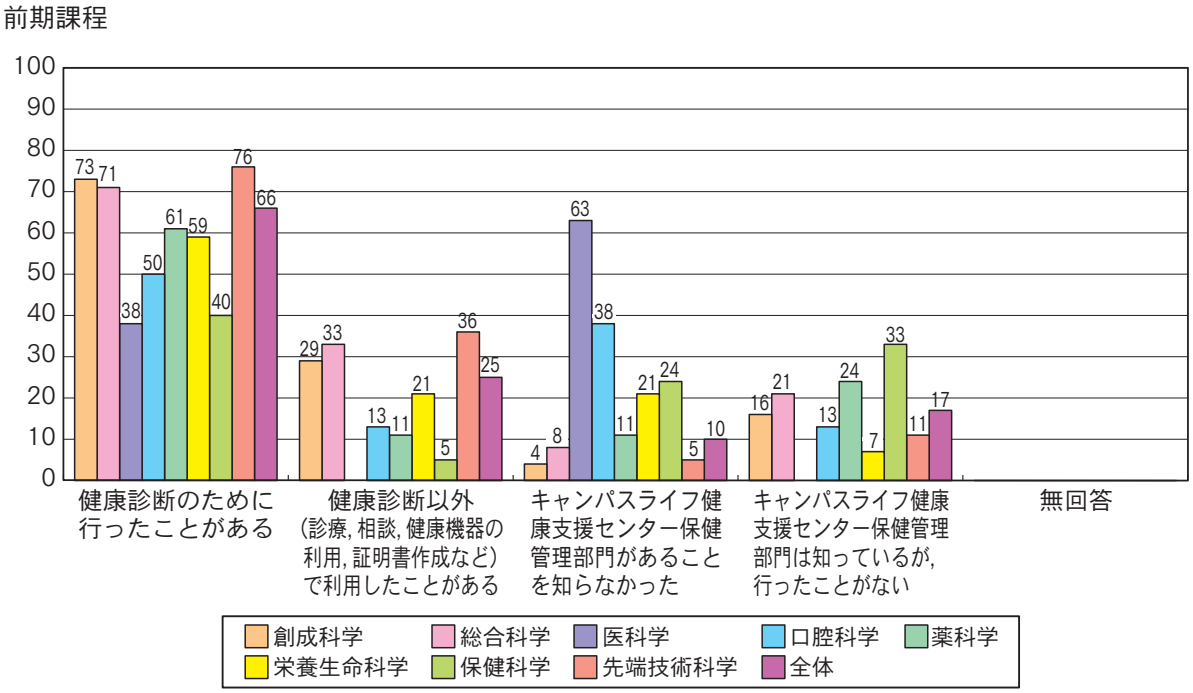


図4－8　飲酒

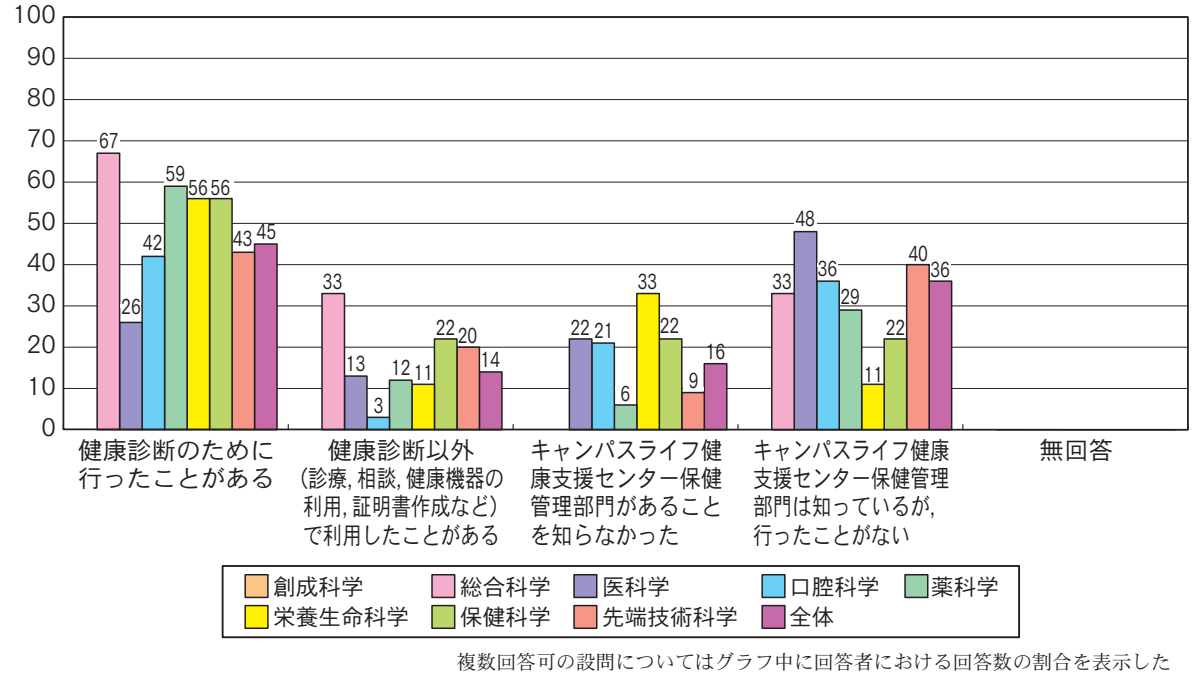
4－9　キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の認識（図4－9－1，図4－9－2）

保健管理部門に「健康診断のために行ったことがある」学生は，前期課程で66%，後期課程で45%と，前回調査と同様であった。後期課程では社会人も多いため，保健管理部門が学生として本学の健診実施機関としての利用率が低くなることはやむを得ないが，前期課程での利用率がなかなか上昇しないことは，健診の受診率の状況を反映していると思われ，引き続きの課題であろう。また，大学院より本学に入学した学生にとっては，保健管理部門は健康診断以外にも，診療や心身の健康相談などの他のサービスが提供されていることを本調査にて認識した学生も少なくないのかもしれない。



複数回答可の設問についてはグラフ中に回答者における回答数の割合を表示した

図４－９－１　保健管理部門の認識（複数回答可）



複数回答可の設問についてはグラフ中に回答者における回答数の割合を表示した

図４－９－２　保健管理部門の認識（複数回答可）

第５章　学生生活上の問題点について

５－１　迷惑行為（図５－１－１～図５－１－６）

前期課程全体では11%，後期課程全体では13%の学生が何らかの迷惑行為を受けていることが明らかとなり，第７回調査とほぼ同じ結果であった。セクハラやアカハラについては啓発活動や学内での防止活動も行われているが，根絶することはなかなか困難であるといわざるを得ない。

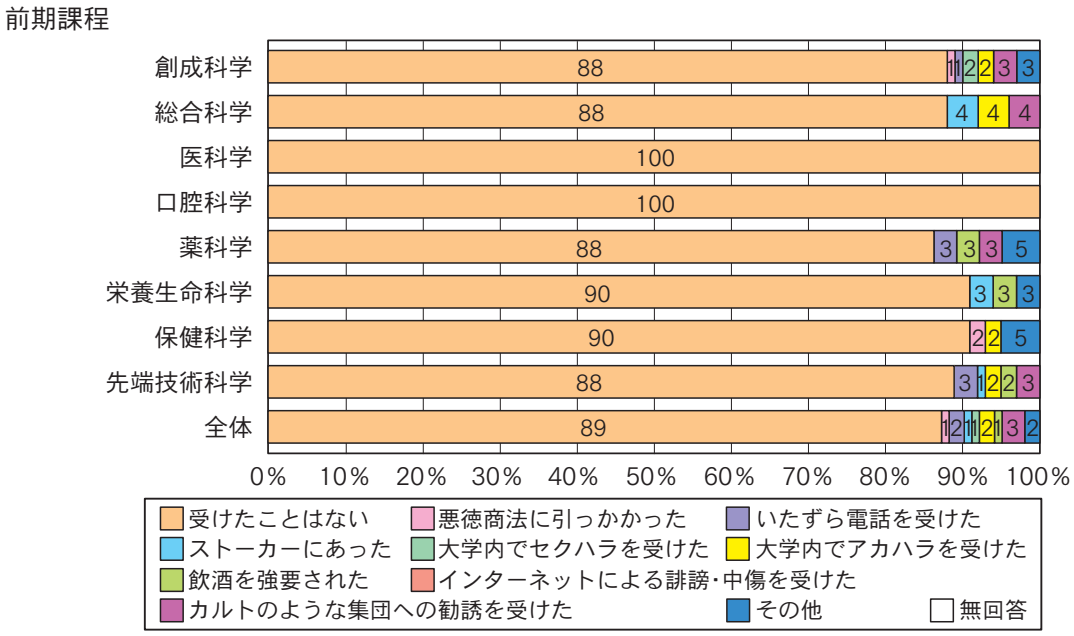


図５－１－１　迷惑行為の経験とその内容（複数回答可）

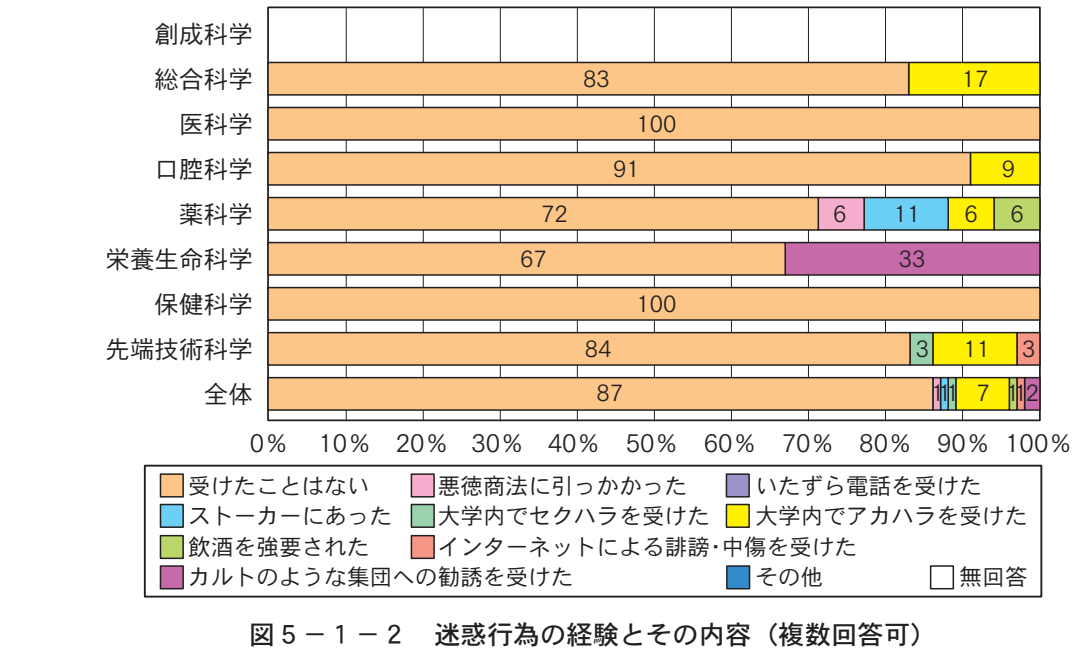


図５－１－２　迷惑行為の経験とその内容（複数回答可）

セクハラを受けた時の相談相手として，前期課程で最も多く選ばれたのは友人であった。一般的に人は相談相手として最も信頼できる他者を選ぶ傾向がある。そうしたことから学生が相談相手として友

人を最も多く選ぶのは頷ける。セクハラを受けた者が相談相手からさらに傷つけられるといった二次被害を受けることを防ぐために，学生向けのセクハラ予防啓発活動を充実させることが求められる。また，前期課程の学生は友人の次に教員を，後期課程の学生は教員を相談相手として選んでいた。こうしたことから，教員向けのセクハラ予防啓発活動も充実させることが求められる。

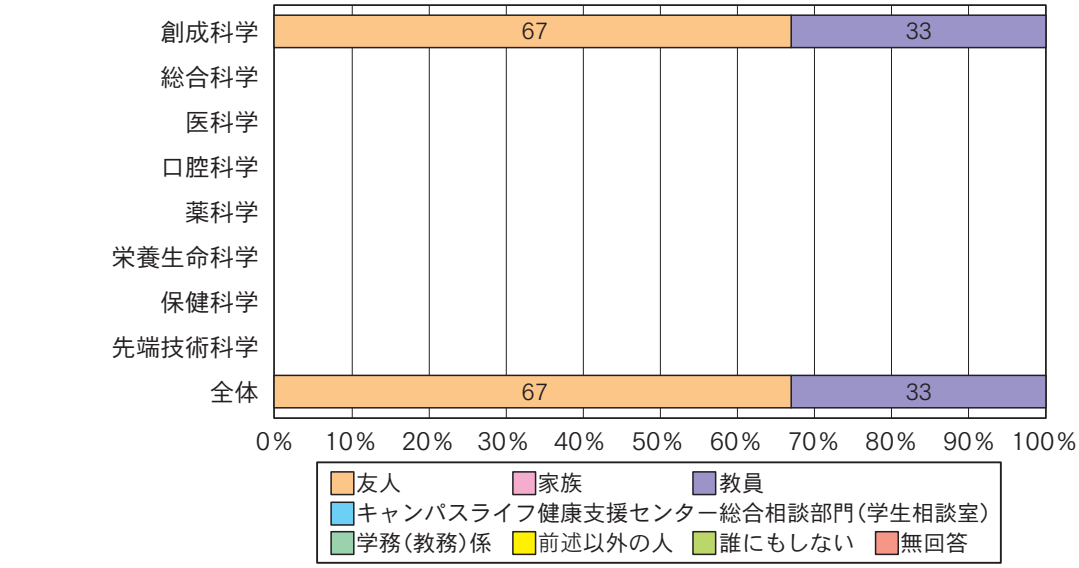


図５－１－３　セクハラを受けた時の相談者（複数回答可）

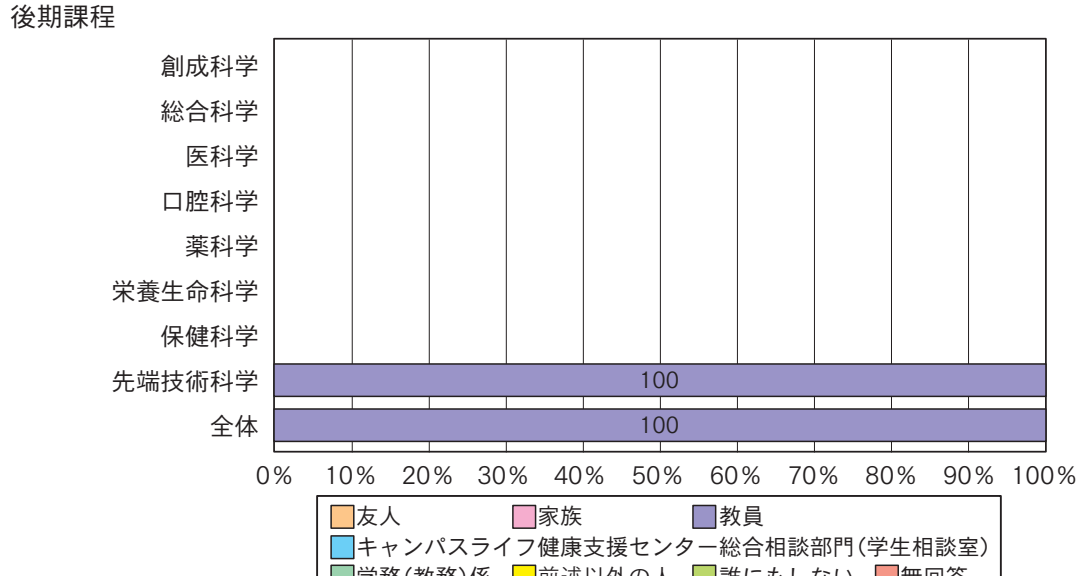


図５－１－４　セクハラを受けた時の相談者（複数回答可）

前期課程の学生ではアカハラの相談相手は友人と家族が同率で最も多く，その次に総合相談部門という順になっておりセクハラと異なり家族の割合が多い。後期課程の学生では友人，家族，教員が同率となっており，前期課程の学生とは異なり，教員を相談相手として選択する割合が多くなっている。前期課程の学生に比べると後期課程の学生は教員との信頼関係が深いと推察される。また，前期課程，後期課程いずれにしても総合相談部門への相談が少なくない。状況が深刻化していることも推測され注意が必要である。

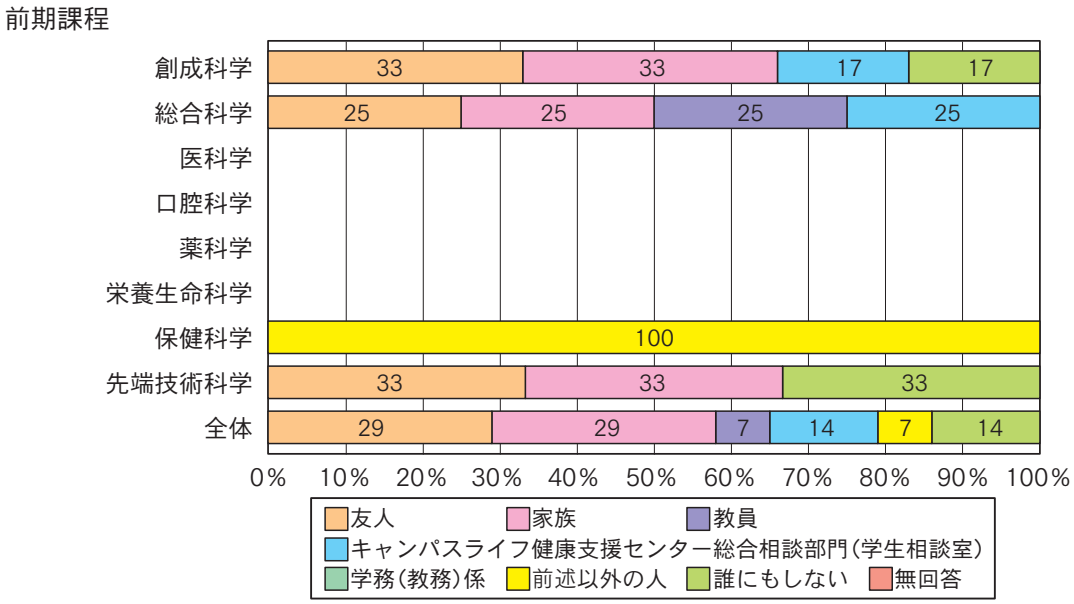


図５－１－５　アカハラを受けた時の相談者（複数回答可）

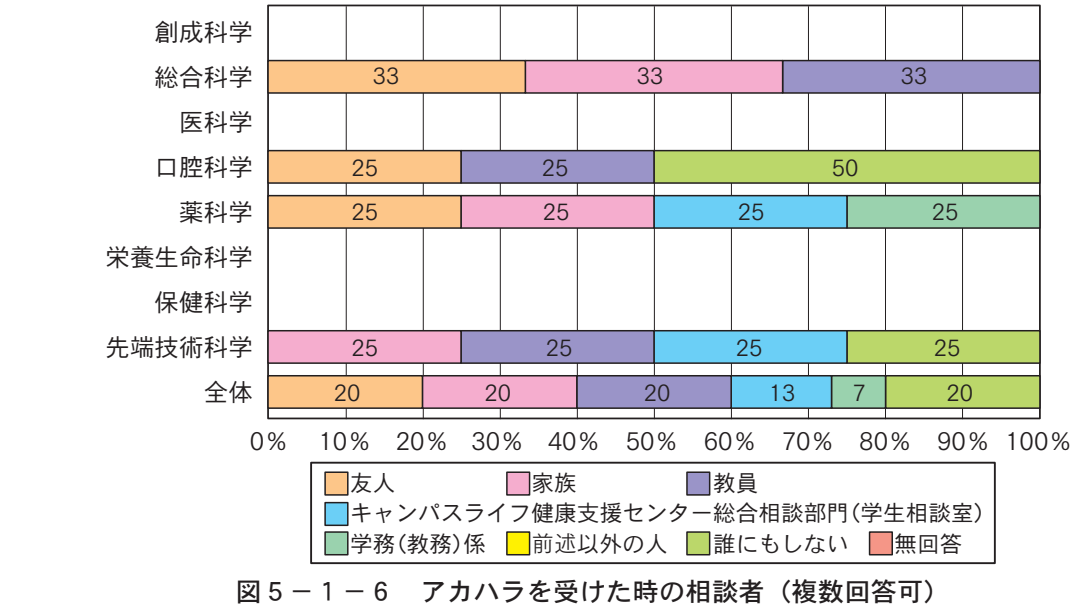


図５－１－６　アカハラを受けた時の相談者（複数回答可）

5－2　総合相談部門（学生相談室）の利用（図5－2－1，図5－2－2）

総合相談部門を利用したことのある学生は前期課程で14%，後期課程で８％と後期課程では第７回調査時よりも減少している。総合相談部門は何か困ったり悩みが生じたりしたときに初めて利用する機関であるのでこの利用割合はかなり高いと考えられる。一方，総合相談部門の存在を知らない学生が前期課程，後期課程でともに27%と少なくないことから，総合相談部門の周知活動を積極的に継続して行うことが求められる。

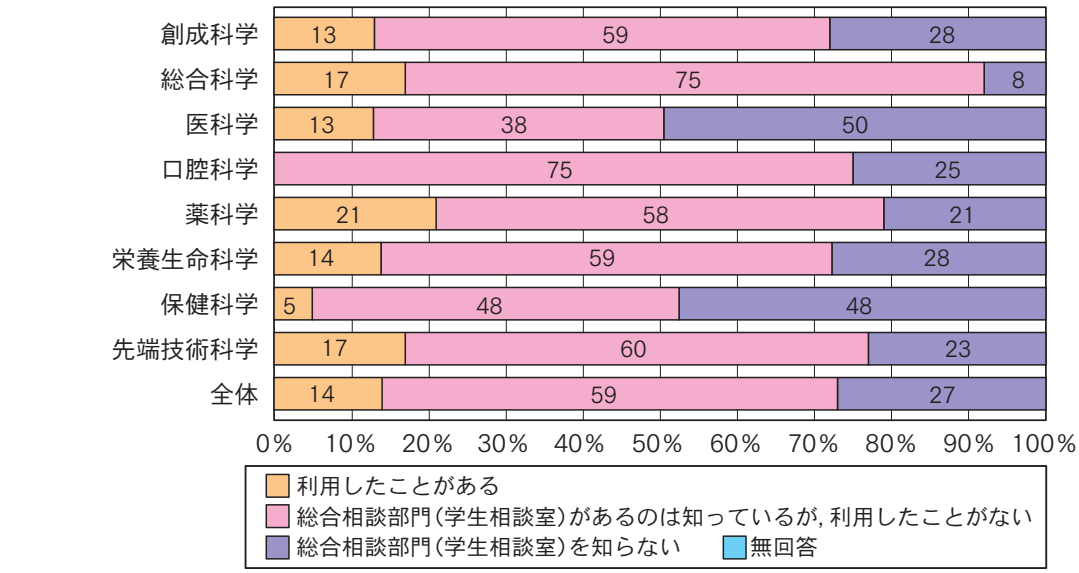


図５－２－１　総合相談部門（学生相談室）の利用の有無と認知度

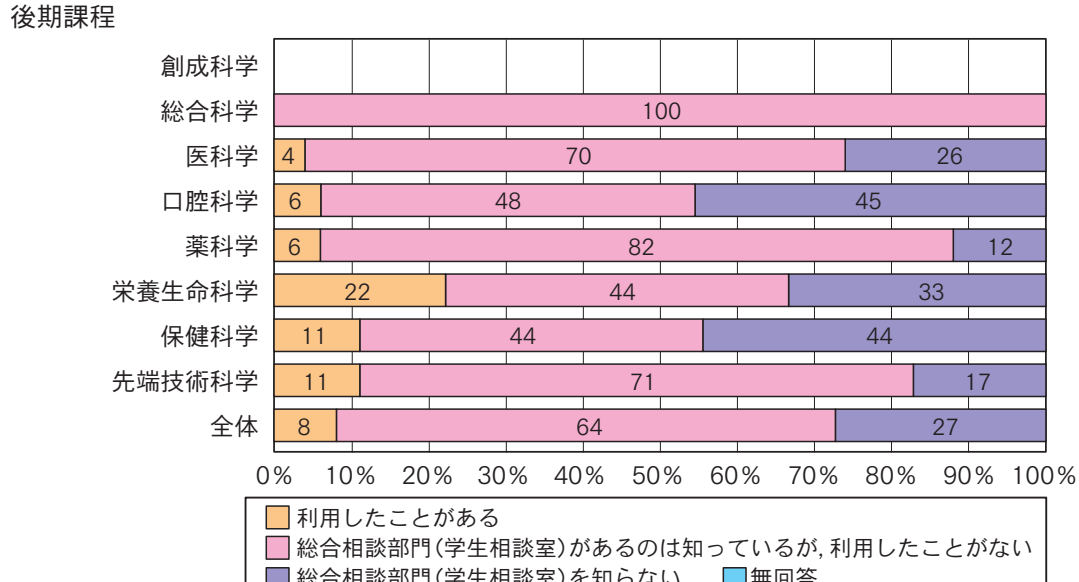


図５－２－２　総合相談部門（学生相談室）の利用の有無と認知度

利用後の満足度に関しては約９割の学生が満足であるまたはどちらかといえば満足であると回答しており，カウンセリングによる効果は十分にあると考えられる。ただ，満足であると回答した学生は前期課程の栄養生命科学で25％と低かった。後期課程の栄養生命科学において，どちらかといえば不満足であると回答した学生が半分を占めていたことも合わせて，それらの原因を分析し，ニーズを満たす支援のあり方を検討することが求められる。

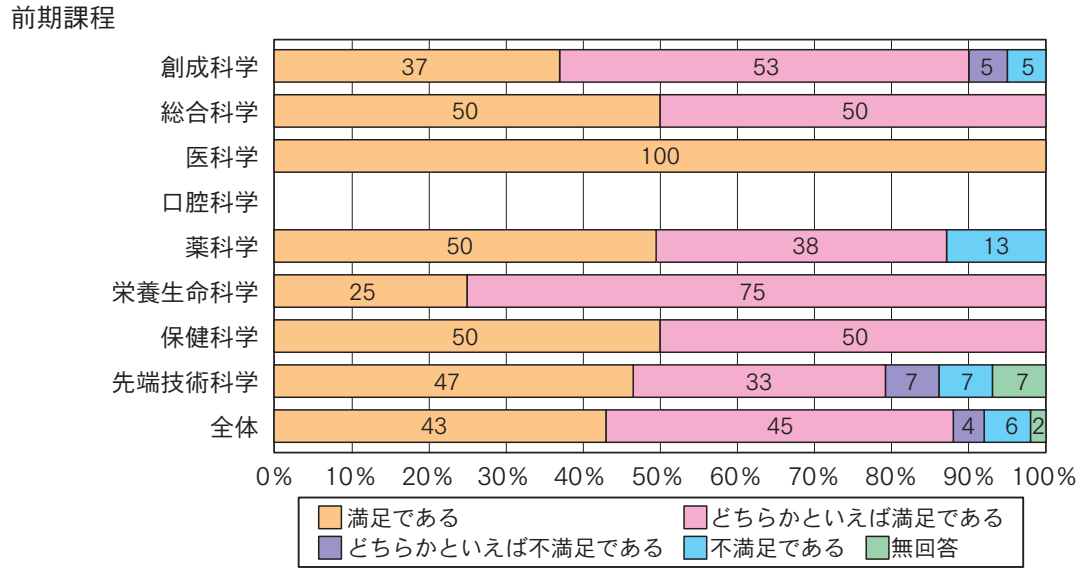


図５－２－３　総合相談部門（学生相談室）利用後の満足度

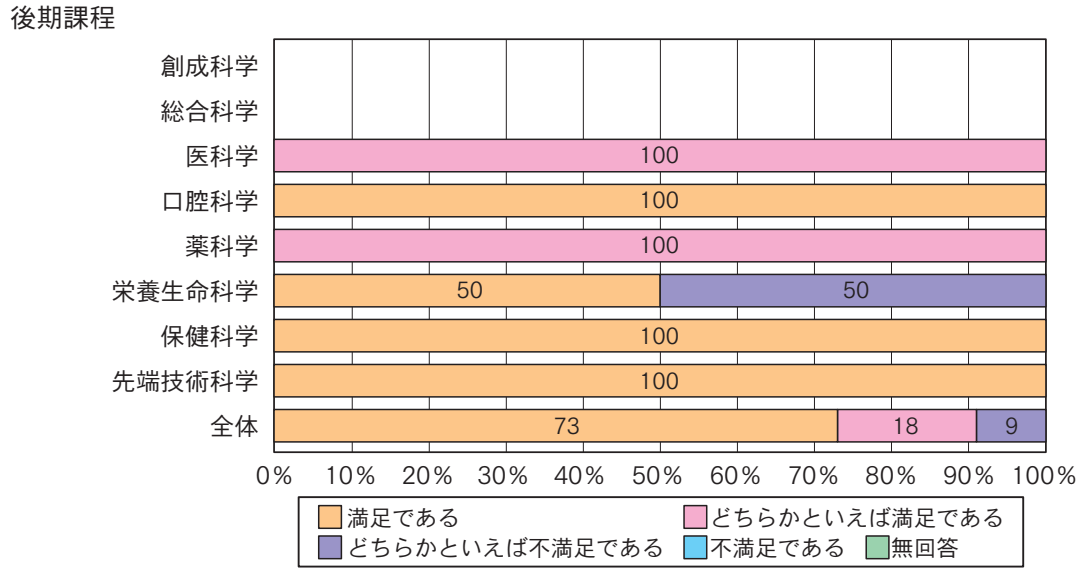


図５－２－４　総合相談部門（学生相談室）利用後の満足度

５－３　犯罪被害・交通事故・違法薬物使用（図５－３－１～図５－３－６）

事件事故に関しては「盗難（盗み）に遭ったことがある」が最も高く前期課程で10%，後期課程で５％の学生が被害を受けており，第７回調査とほぼ同じ結果となった。戸締りを十分にせず外出することも多いことも推察される。また傷害や痴漢など身体に危害が及ぶような被害も認められており，学生へのさらなる注意喚起が必要である。

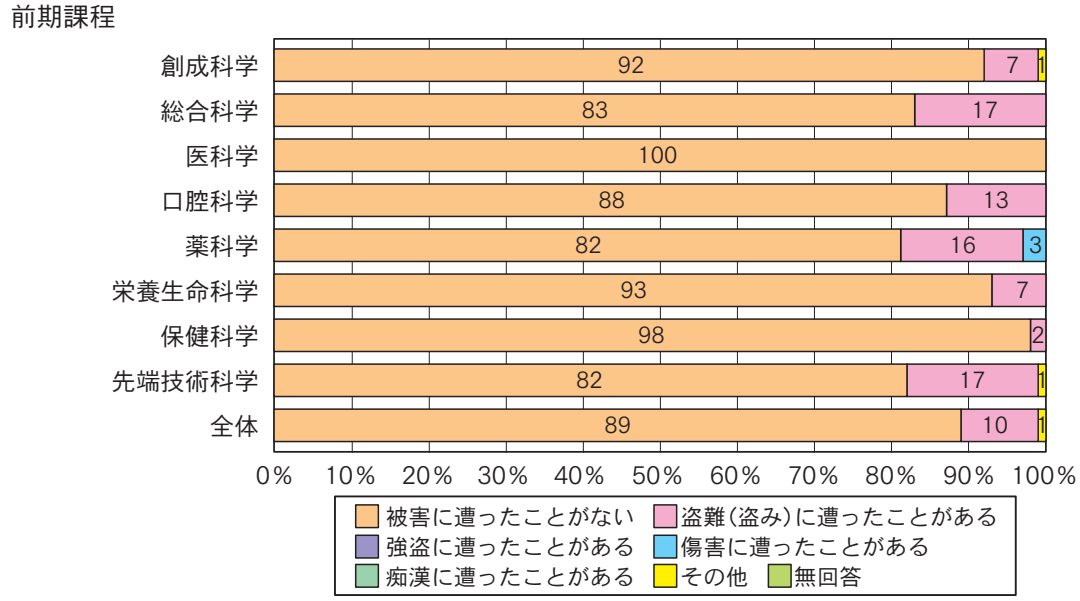


図５－３－１　犯罪被害経験の有無とその種類（複数回答可）

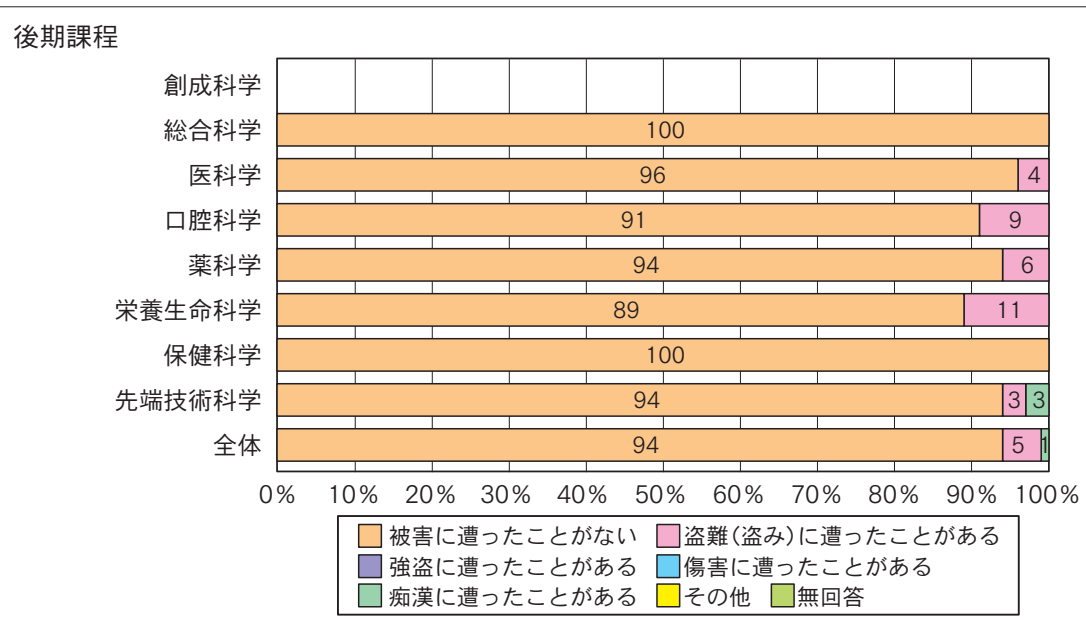


図５－３－２　犯罪被害経験の有無とその種類（複数回答可）

交通事故に関しては前期課程で26%。後期課程で28%の学生が経験しており，第7回調査時と似たような結果となった。交通事故の加害者となったケースも少なくない。最近では，スマートフォンを見ながら自転車に乗るなど，周囲への注意がおろそかになっている学生も目立ち，重大事故につながる恐れがある。学生の心身の安全や命を守るために，今一度，自転車やバイク等の運転マナーの再確認を学生に促すことが求められる。

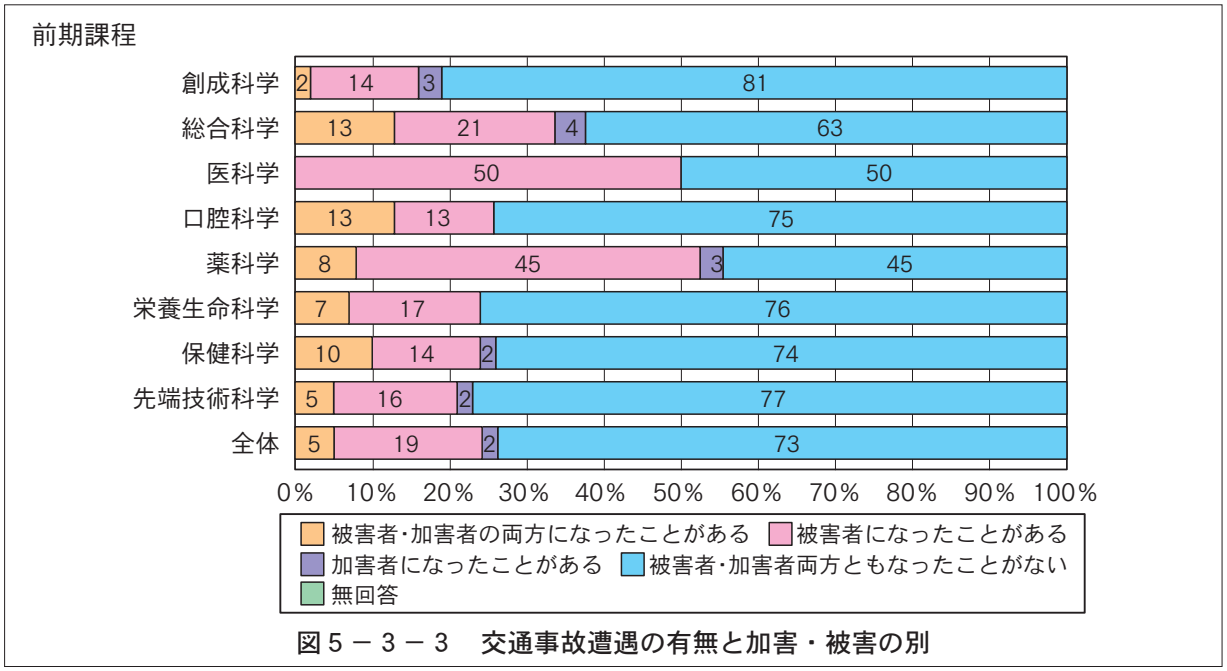


図5－3－3　交通事故遭遇の有無と加害・被害の別

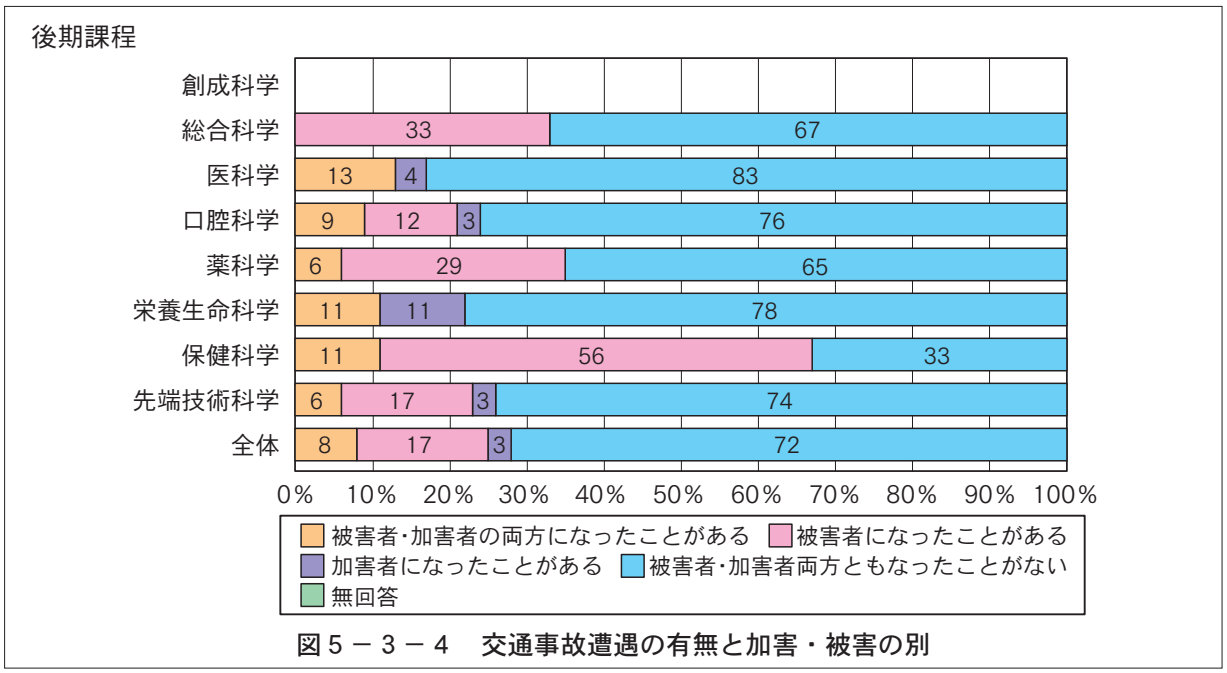


図5－3－4　交通事故遭遇の有無と加害・被害の別

違法薬物の使用についてありと回答した学生が後期課程においてごく少数ながら存在し，違法薬物を入手しようとすれば入手できる状況が存在することを示唆している。最近は直接購入するという入手方法だけでなく闇サイトなどからネット経由で購入することもあるのではないだろうか。入手経路を完全に断つことができない以上，薬物の危険性を繰り返し周知させていく活動が必要である。

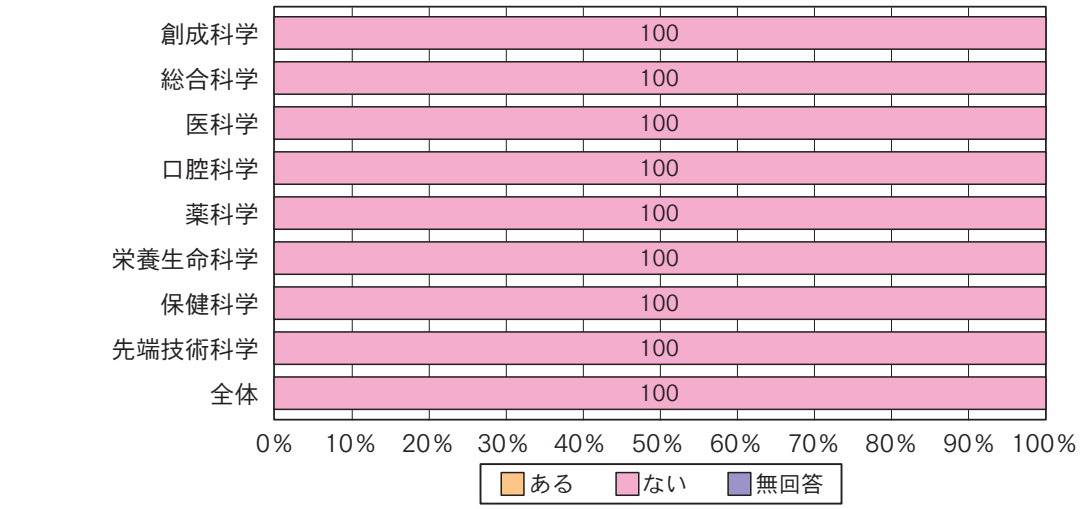


図５－３－５　違法薬物使用の有無

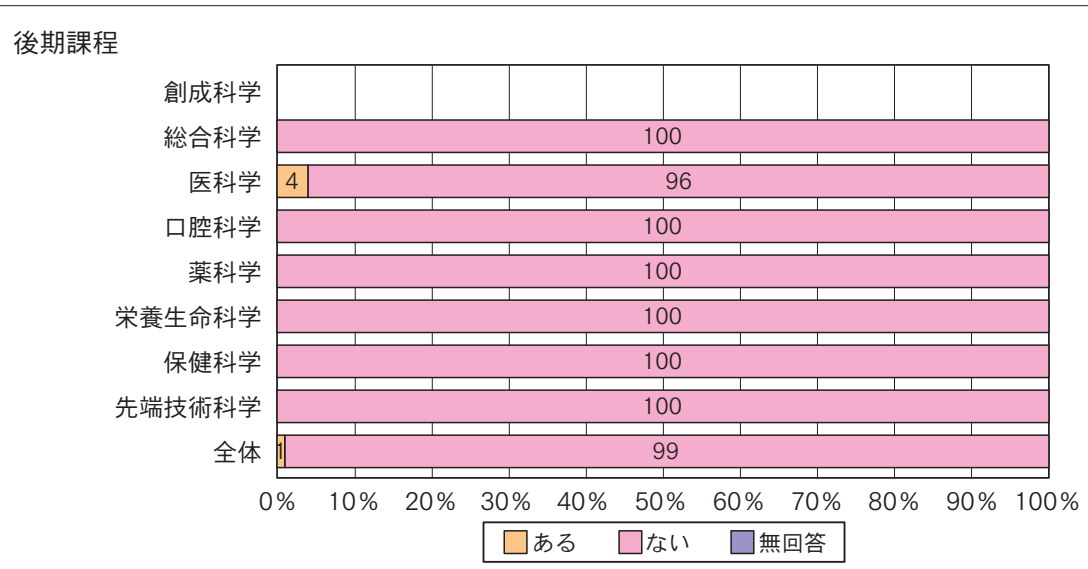


図５－３－６　違法薬物使用の有無

5－4　大学事務室の対応（図5－4－1，図5－4－2）

前期課程で約9割，後期課程でほぼ全員の学生が大学事務室の対応について満足しているまたはどちらかと言えば満足していると回答しており，第7回調査時よりも満足していると回答した者の割合が多くなっている。大学事務室が個々の学生に日々丁寧に対応している成果であると推察される。ただし，学部間で満足度の差があるように見受けられるので満足度が低かった学部においては引き続き学生への対応改善に努めることが求められる。

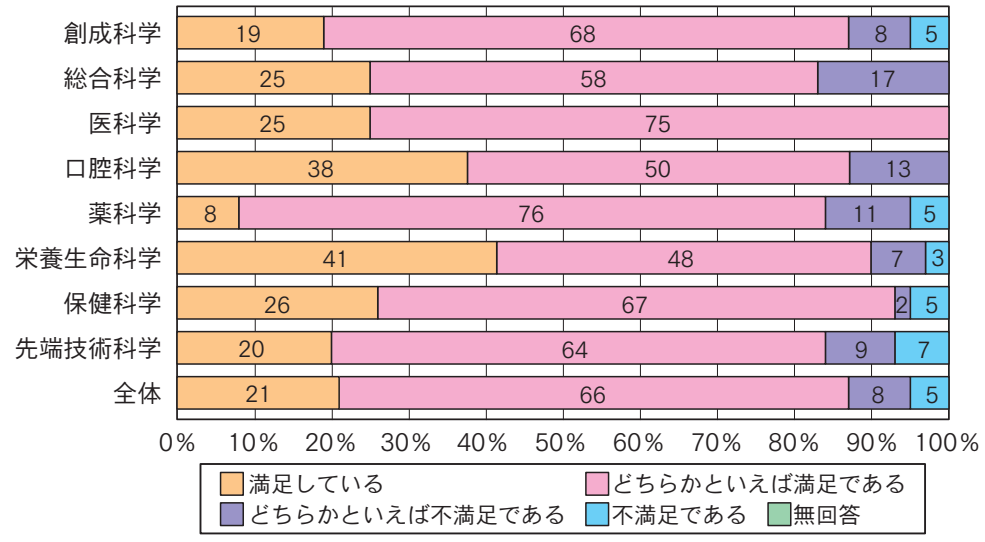


図5－4－1　大学事務室の対応への満足度

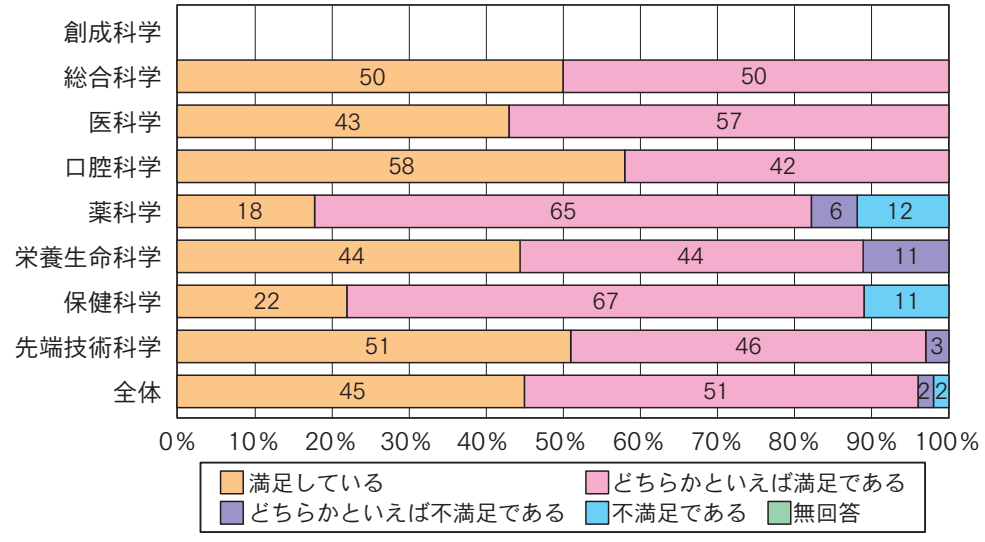


図5－4－2　大学事務室の対応への満足度

第６章　修学状況について

６－１　教育理念・方針と教育に対する満足度（図６－１－１～図６－１－６）

前期課程において，所属する研究科･教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は68％（良く知っている：12％，だいたい知っている：56％）であり，いずれも前回の第７回調査（44％（良く知っている：６％，だいたい知っている：38％））から大きく増加していた（図６－１－１）。また，いずれの研究科･教育部においても50％以上と，半数以上の学生が概ね教育理念や方針を知っていると判断できる。一方，後期課程では，全体として64％の学生が認知しており，第７回調査から４ポイント増加した（図６－１－２）。教育部別に見ると，総合科学の100％から薬科学の41％とばらつきが大きく，特に薬科学は第７回調査から22ポイント減少しており，改めて周知の必要があると思われる。留学生について

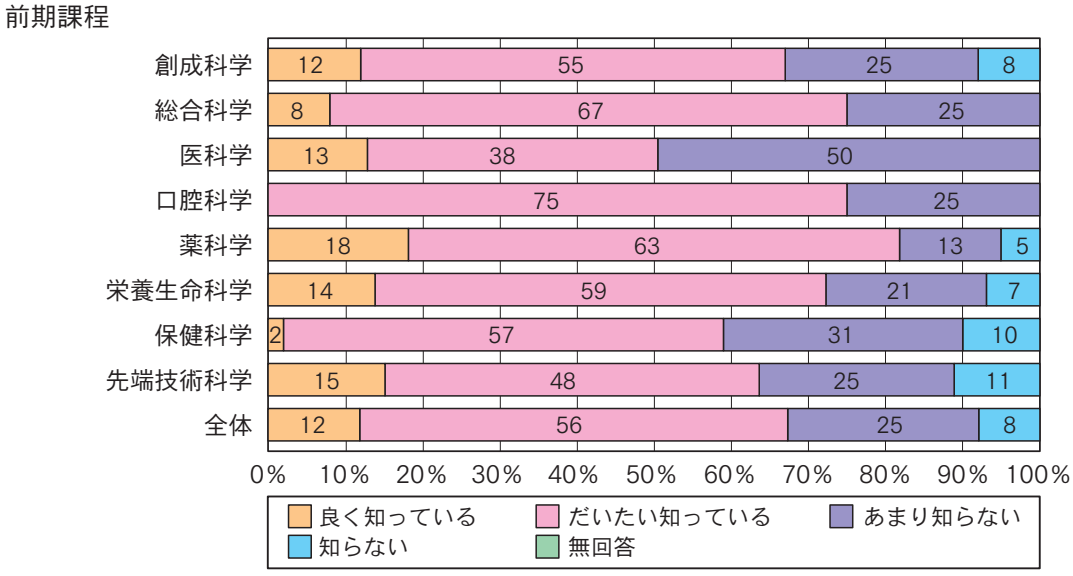


図６－１－１　教育理念や教育方針の理解度

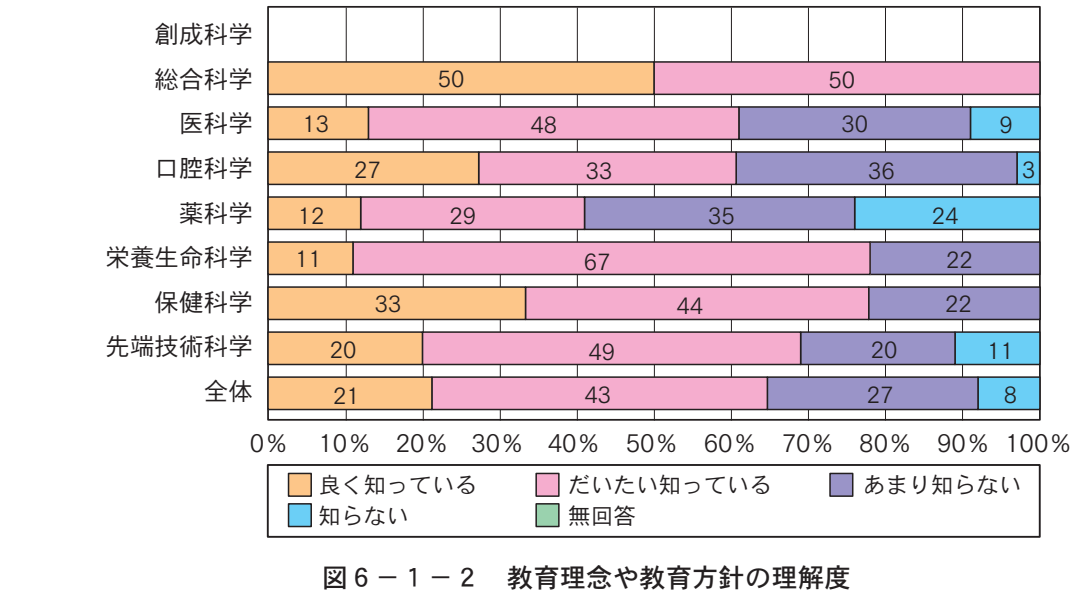


図６－１－２　教育理念や教育方針の理解度

は，「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が，前期課程で81%，後期課程で64%であり，概ね満足できる数値であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して，教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ，前期課程では91%，後期課程では89%が「思う」と答えており（図６－１－３，図６－１－４），前回の第７回調査からそれぞれ６ポイント増加していた。留学生については，「思う」と回答した割合が，前期課程で95%，後期課程で85%と，第７回調査と同じか増加していた。いずれの結果も，満足できる数値であると思われる。

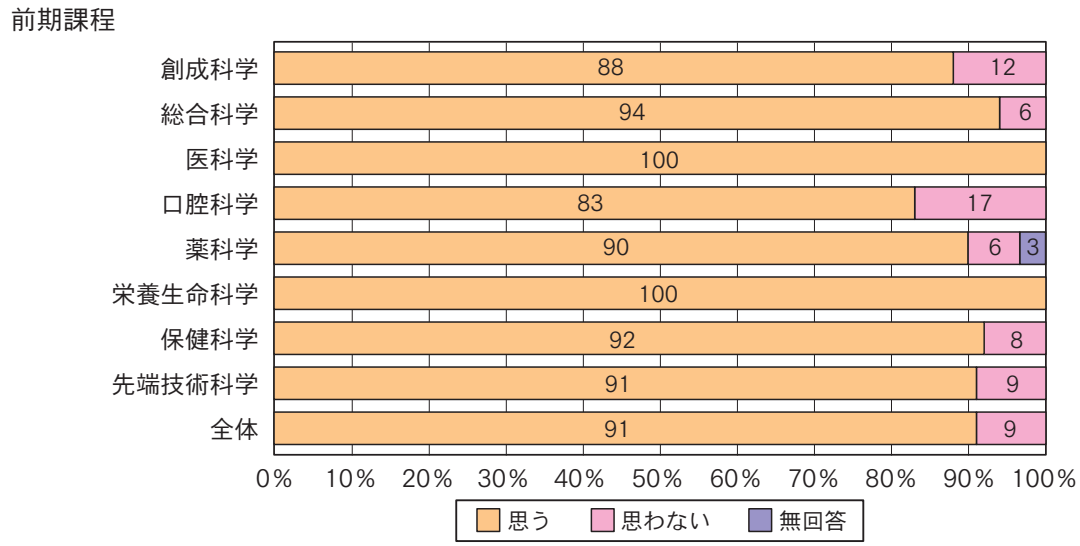


図６－１－３　教育理念や教育方針に沿った教育の実践度

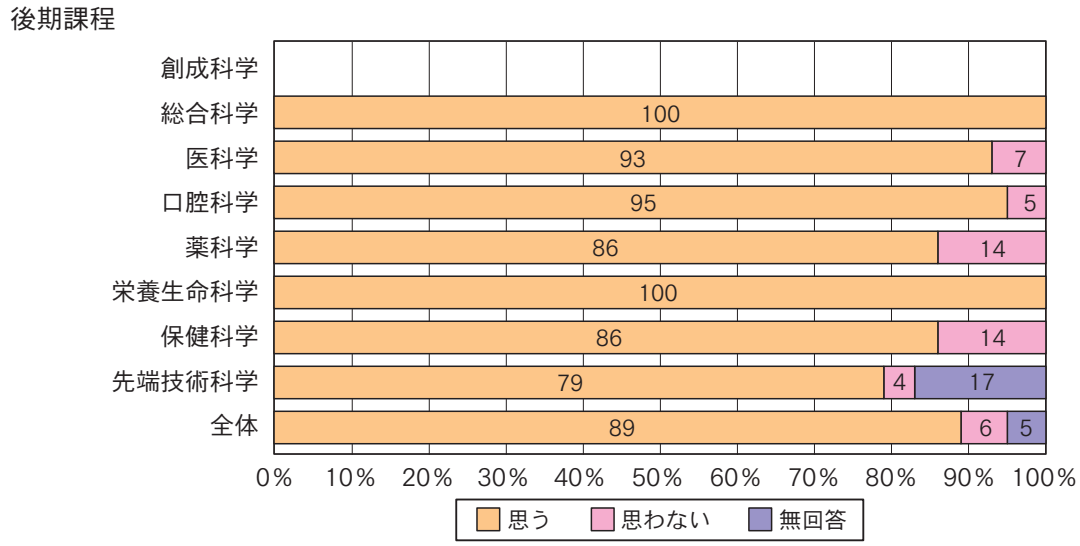


図６－１－４　教育理念や教育方針に沿った教育の実践度

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は29%であり，「どちらかといえば満足している」と答えた学生（66%）と合わせると95%となり（図６－１－５），前回の第７回調査同様，十分満足できる数値であると思われる。後期課程では全体で93%がほぼ満足しており，こちらも十分満足できる数値であった（図６－１－６）。留学生についても，「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合は，前期課程で96%，後期課程で100%であり，こちらも満足できる数値であった。

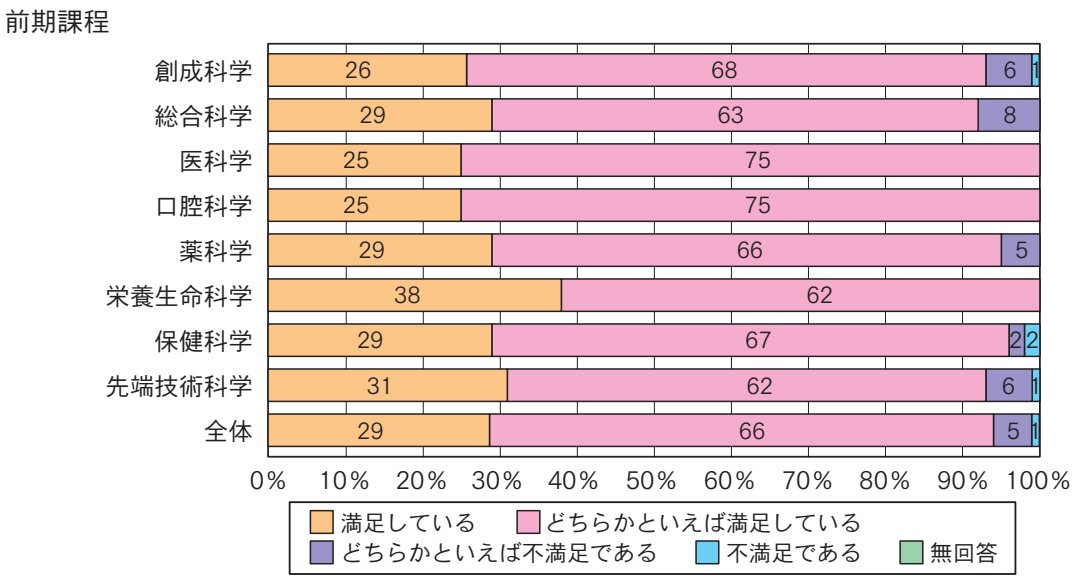


図６－１－５　教育課程の満足度

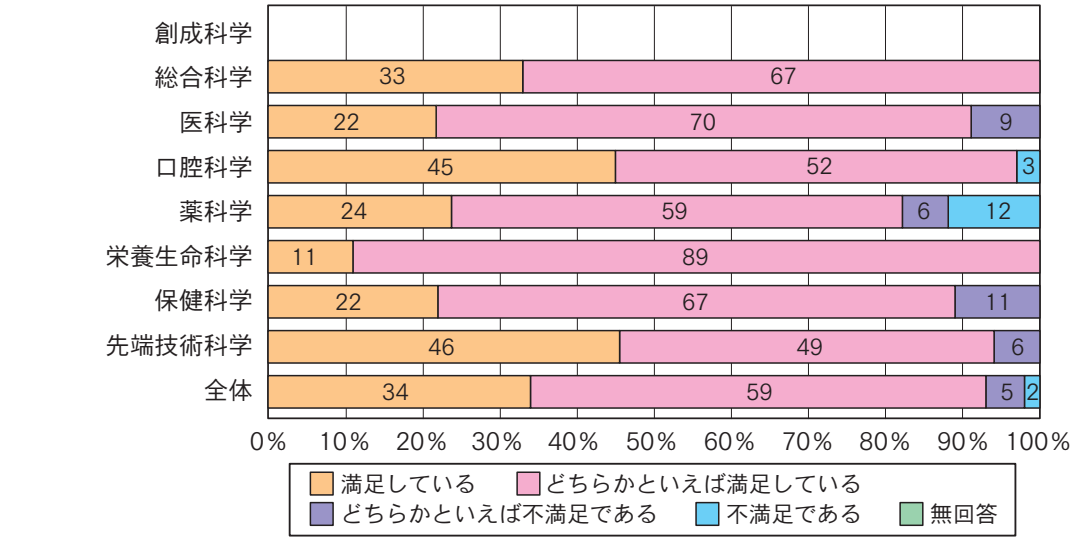


図６－１－６　教育課程の満足度

6－2　本学を選んだ理由と目的（図6－2－1～図6－2－4）

大学院進学に関する調査では，徳島大学卒業生と他大学卒業生に分類して調査を行った。まず徳島大学卒業生について，「現在所属する大学院が第一志望だった」と回答した前期課程の学生は全体で90%であった（図6－2－1）。後期課程も82%が「第一志望だった」と回答していた（図6－2－2）。

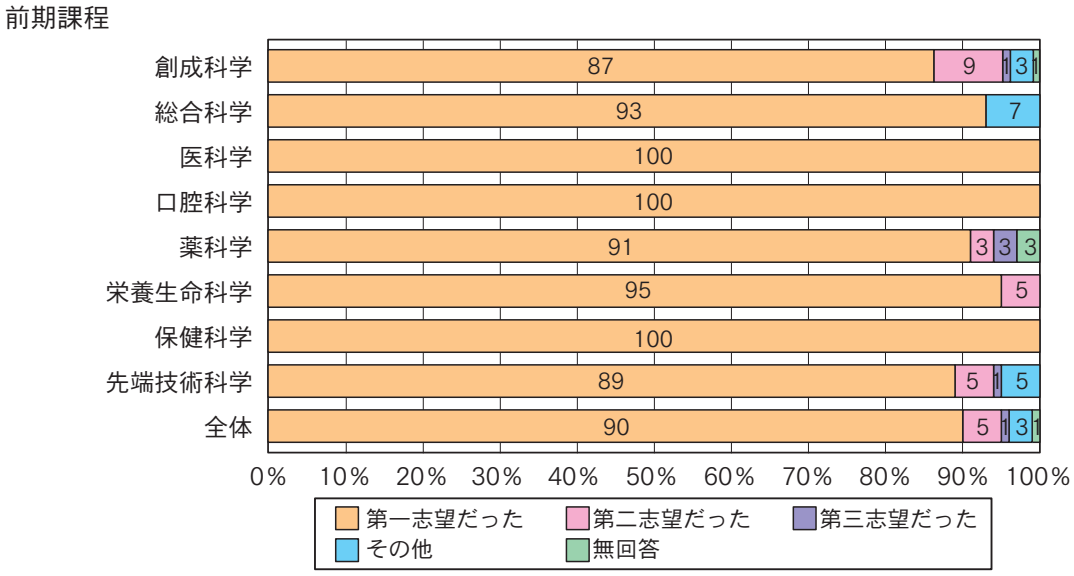


図6－2－1　徳島大学卒業者の志望順位

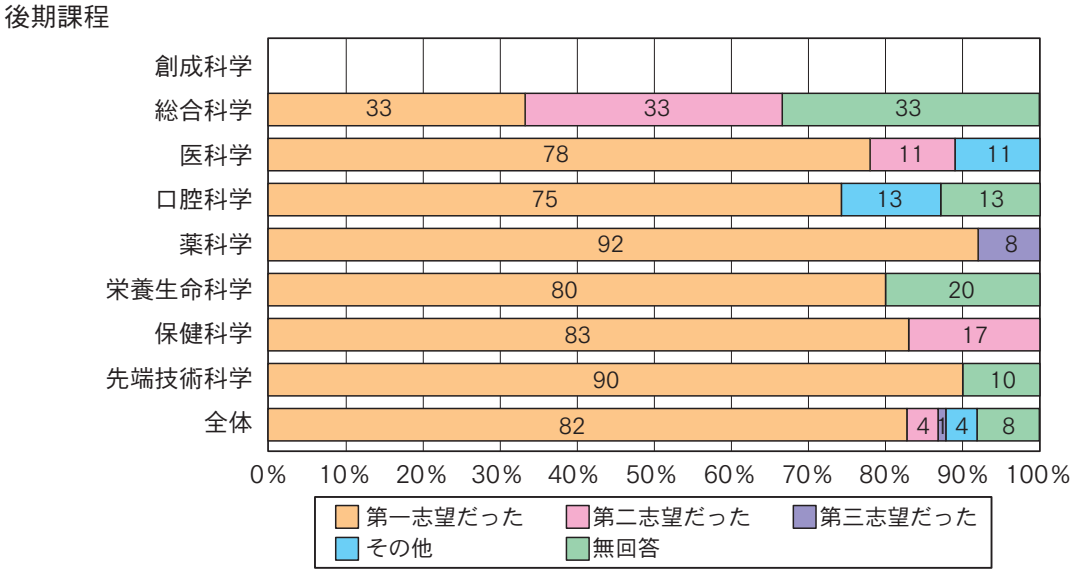


図6－2－2　徳島大学卒業者の志望順位

他大学を卒業した学生については，前期課程に進学した学生の81%が「第一志望だった」と回答しており，前回第7回の調査（68%）から増加していた（図6－2－3）。他大学を卒業して後期課程に在籍する学生については，「第一志望だった」が73%であった（図6－2－4）。

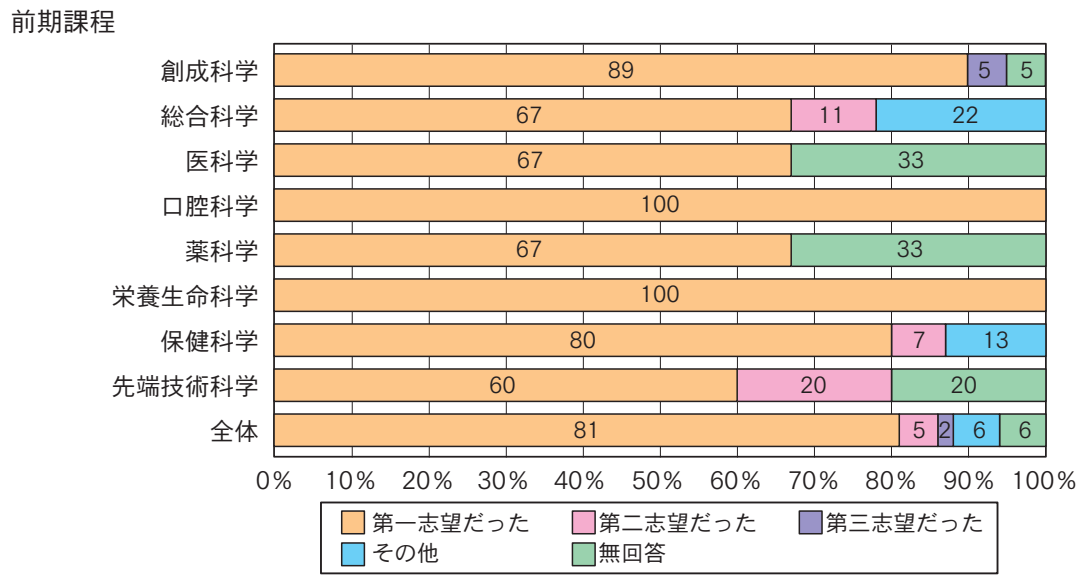


図６－２－３　他大学卒業者の志望順位

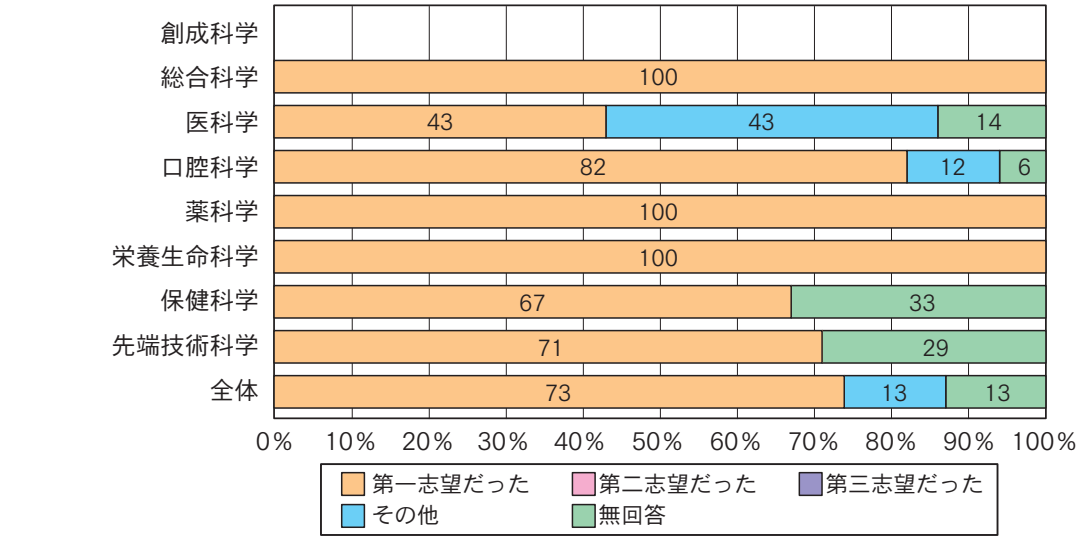


図６－２－４　他大学卒業者の志望順位

徳島大学出身者，他大学出身者にかかわらず，両課程ともに第一志望で進学している学生が多いという結果は，喜ばしいことである。

前期課程の学生の主な入学理由は，「出身大学だから」が28%，「希望する研究分野があるから」が21%，「継続して就学するため」が14%，「就職等将来を考慮して」が13%となっており，第７回調査とほぼ同様の結果であった（図６－２－５）。研究科・教育部別に見ると，概ね「出身大学だから」と「希望する研究分野があるから」が理由の上位２位までを占めるが，その割合は薬科学，創成科学，先端技術科学では「出身大学だから」が多く，総合科学，医科学，栄養生命科学，保健科学では「希望する研究分野があるから」が多い。また，薬科学では，「研究環境が整っている」が理由の第３位（14%）となっていることは注目される。後期課程の学生は，「希望する研究分野があるから」が最も多く（図６－２－６），留学生についても両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が最も多かった。これらは，本学の研究分野が進学希望の学生に選ばれ，大学院の教育・研究の方向性が間違っていない証拠であると思われる。

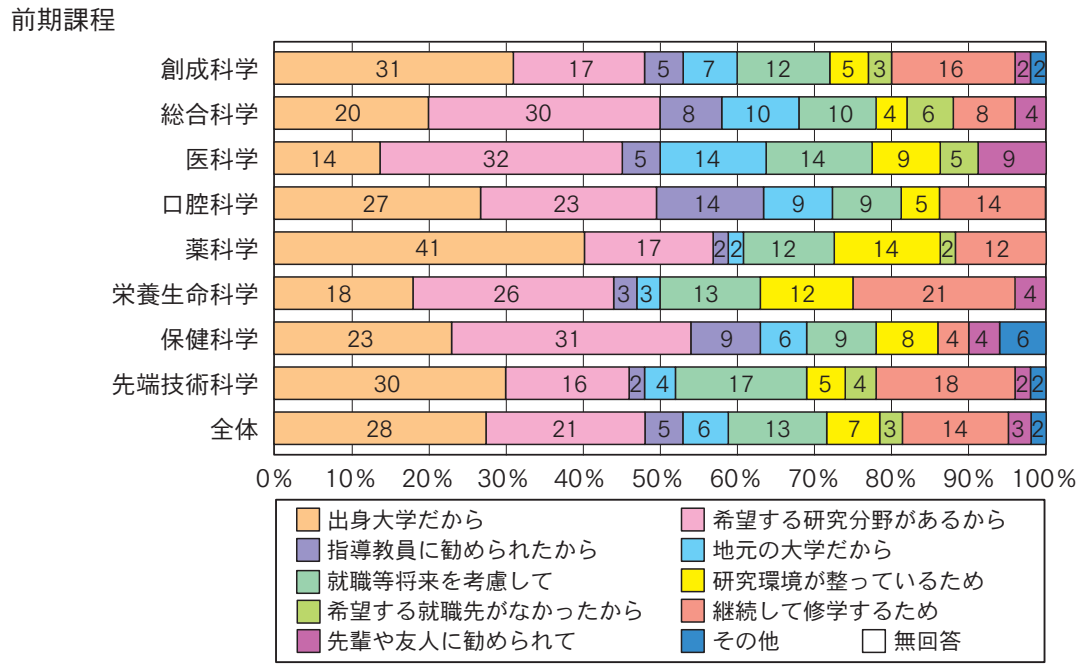


図６－２－５　主な大学院進学理由（複数回答可）

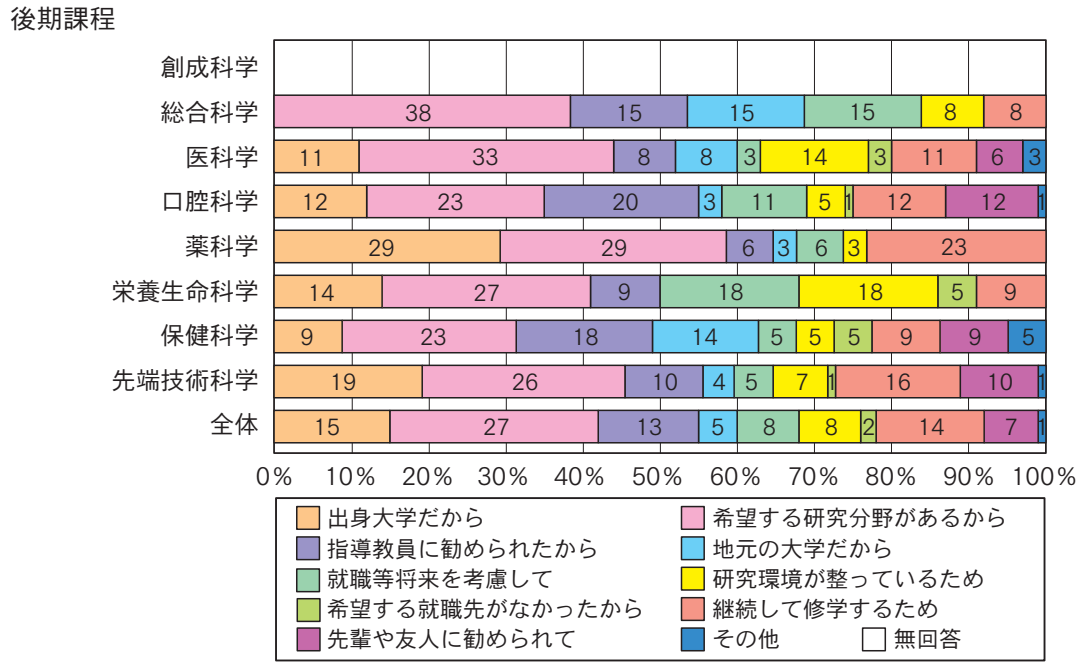


図６－２－６　主な大学院進学理由（複数回答可）

大学院での勉学で目指すものとして，前期課程全体では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」を目指す学生が最も多く（44%），次いで，「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が29%，「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者」が22%と，前回第７回調査とほぼ同じであった（図６－２－７）。研究科・教育部別に見ると，保健科学（76%），口腔科学（63%），医科学（50%）では「高度専門職業人」を目指す学生が特に多いのに対し，薬科学（45%）では「研究者」を目指す学生が，総合科学（46%）では「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」を目指す学生がそれぞれ最も多い等，学生の意識の違いが現れる結果となった。後期課程の学生全体では「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者」（33%）と「高度な専門的知識・能力

を持つ，高度専門職業人」（30％）を目指す学生が多く，次いで「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員」が21％となっている（図６－２－８）。「大学教員」を目指す学生の割合が，第６回調査から続けて増加している傾向がみられた。留学生については，第７回調査結果同様，前期課程では「高度専門職業人」が41％と最も多く，後期課程では「研究者」が37％と最も多く，留学生の意識の違い（留学の目的）を表す結果となった。

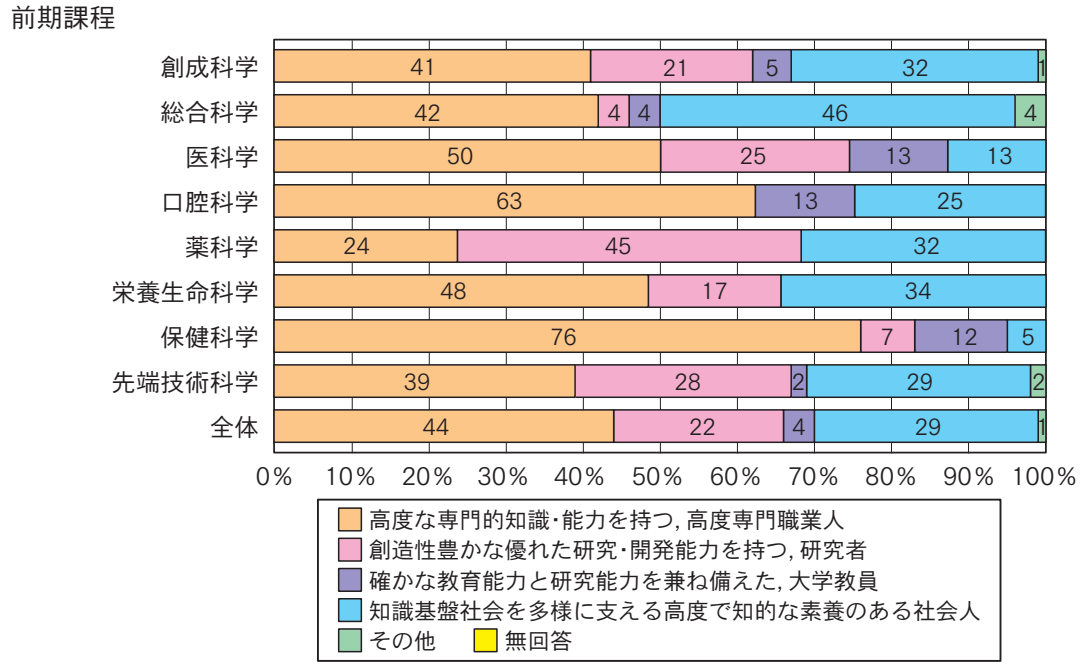


図６－２－７　大学院での勉学で目指すもの

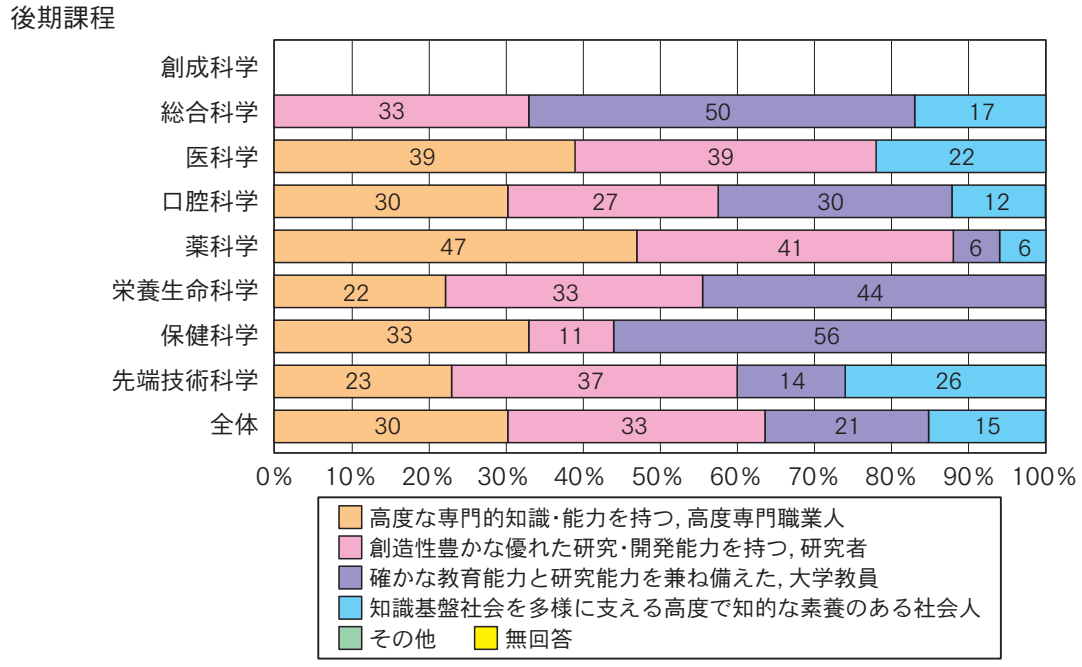


図６－２－８　大学院での勉学で目指すもの

図６－２－９および図６－２－10に示した授業の内容や進め方に関する満足度については，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は，前期課程で92％（満足している：32％，どちらかといえば満足している：60％），後期課程で92％（満足している：42％，どち

らかといえば満足している：50%）であり，前回第７回調査とほぼ同じ結果であったが，両課程とも「満足している」との回答割合が増加しており，授業に高い満足感を感じているようである。研究科・教育部別に見ると，前期課程はどの研究科・教育部も全体の結果とほぼ同じであるが，後期課程では，「どちらかといえば不満足」と「不満足」と回答した学生が，薬科学（30%）で多く見られ，対策が必要と思われる。留学生については，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は，前期課程で100%，後期課程で95%と，こちらも授業に高い満足感を感じているようである。

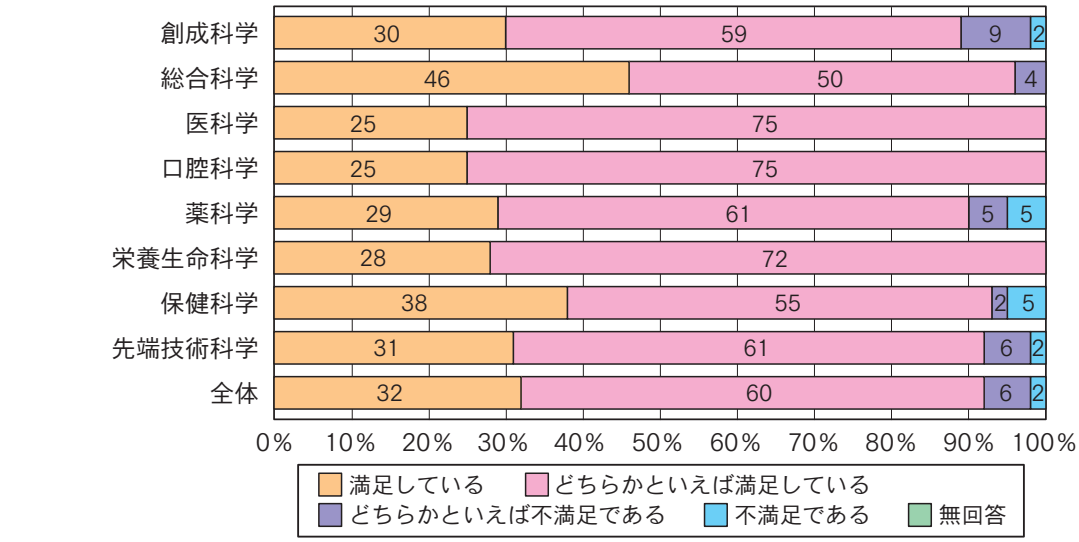


図６－２－９　授業の内容・進め方の満足度

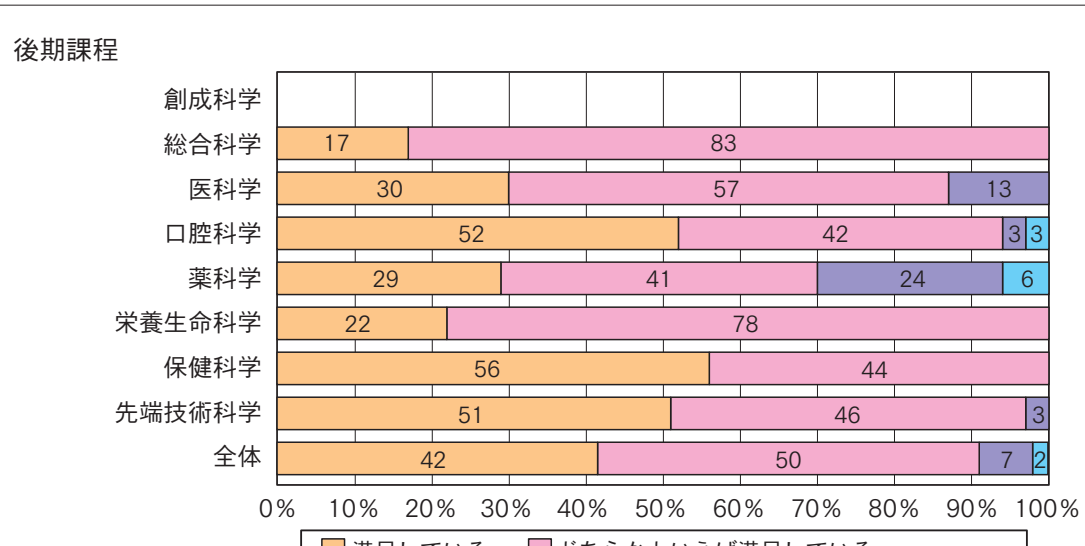


図６－２－10　授業の内容・進め方の満足度

6－3　研究活動と研究指導（図6－3－1～図6－3－12）

授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は，前期課程の学生全体では「20～40時間未満」との回答（24%）が最も多く，次いで「10～20時間未満」が19%，「40～60時間未満」が17%であった（図6－3－1）。週20時間以上の研究活動を行っている学生（47%）は，平成30年度の前回調査より9ポイント減少の結果となったが，その減少分はほぼ「10～20時間未満」と回答した学生の増加に転じている。総合科学，医科学，口腔科学，保健科学は週20時間以上の研究活動を行っていると回答した学生は3割を下回った。

後期課程の学生については，研究活動に費やす1週間の平均時間が20時間以上は全体の57%，60時間以上は18%で，前回調査より各々3ポイントの増加，2%の減少であった（図6－3－2）。総合科学と保健科学では，研究活動に「40時間以上」を費やすと回答した学生はいなかった。留学生については，週20時間以上研究活動を行っている割合が，前期課程で34%，後期課程で82%であり，前期課程につ

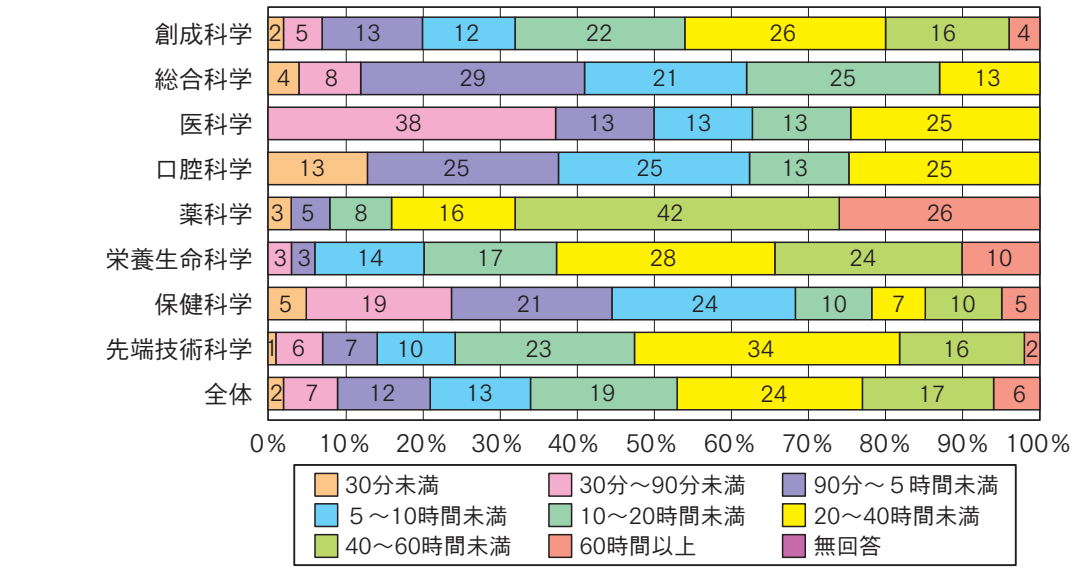


図6－3－1　1週間の研究活動時間

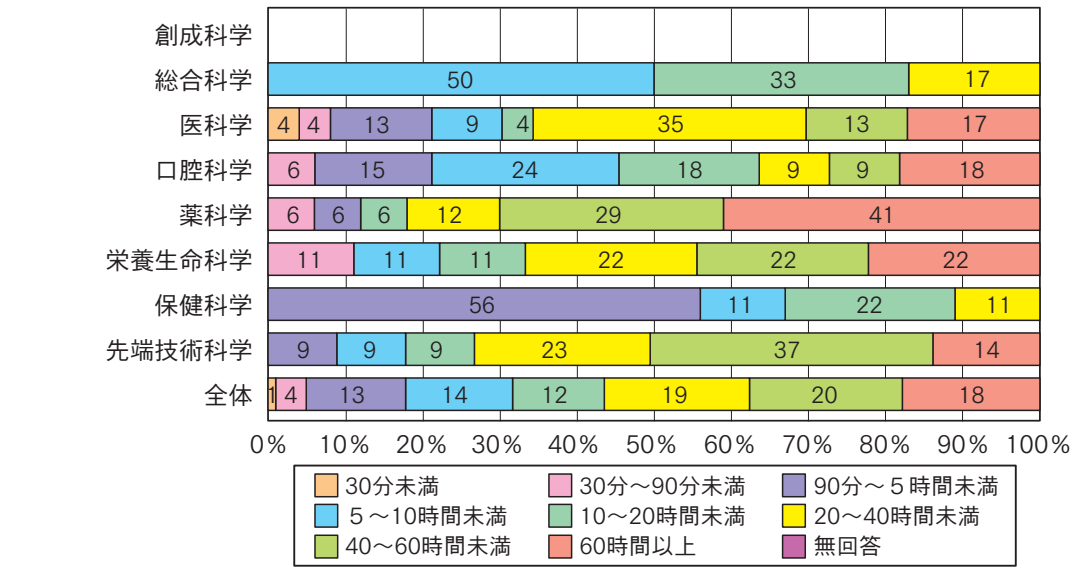


図6－3－2　1週間の研究活動時間

いては前回調査の 67%から大幅に減少した。

前回調査と比較して懸念される数字もあるが，本調査は新型コロナ禍において行われたものであり，研究環境や研究の進め方の制限が少なからず反映された結果と考える。

学生の研究を直接指導している教員は，前期課程全体で教授 50%，准教授 25%，講師 9 %（図 6 － 3 － 3），後期課程全体で教授 64%，准教授 13%，講師 11%（図 6 － 3 － 4）であった。留学生については前・後期課程とも，教授または准教授による直接指導が 9 割を超えた。

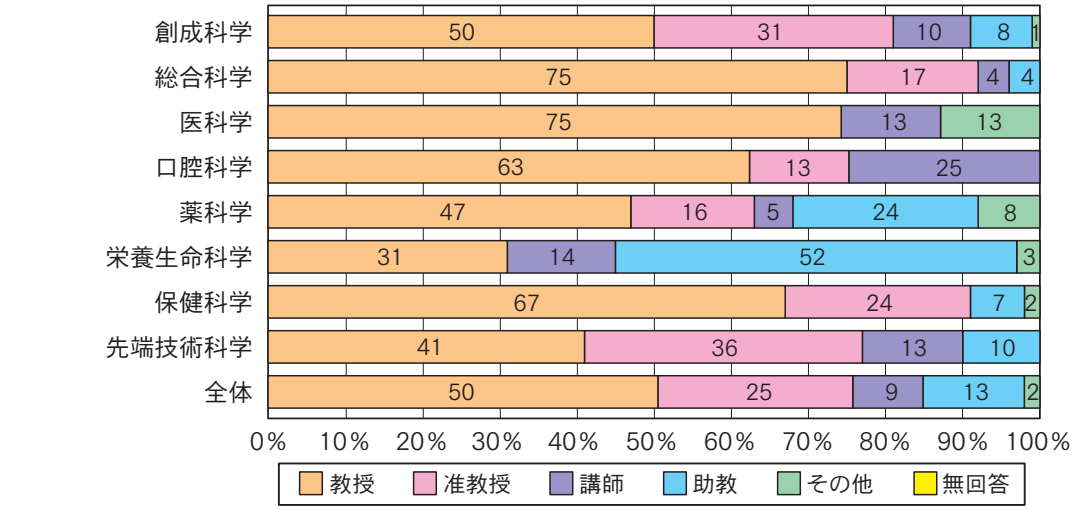


図 6 － 3 － 3　研究の指導教員

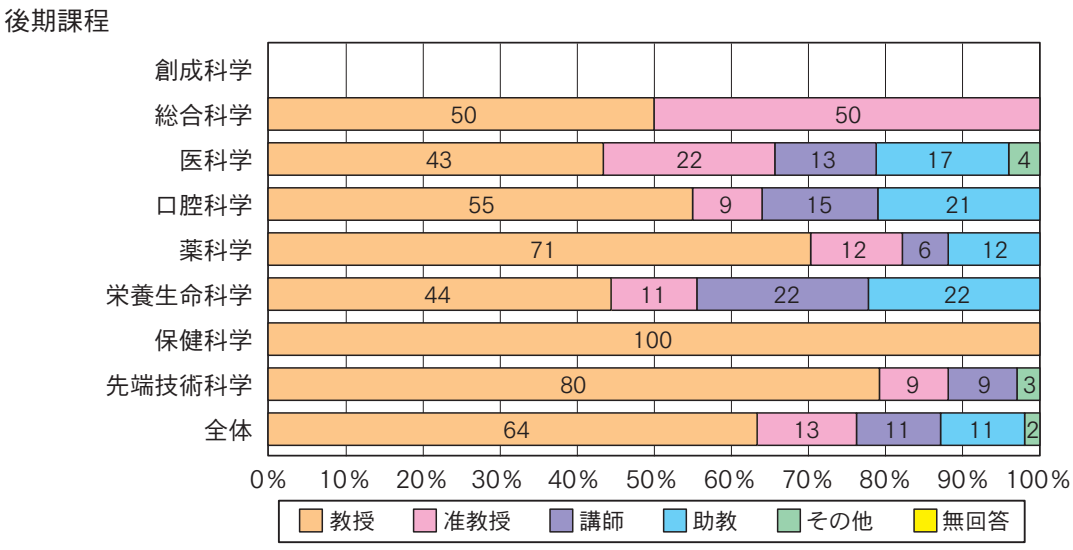


図 6 － 3 － 4　研究の指導教員

学生が指導教員から研究指導を受けている１週間の平均時間は，前期課程全体では「30 ～ 90 分未満」が最も多く（45%），次いで「90 分～５時間未満」（30%）であった（図６－３－５）。この傾向は各研究科･教育部でも認められた。後期課程の学生の回答にも同じ傾向が見られ（図６－３－６），留学生の回答も「30 ～ 90 分未満」と「90 分～５時間未満」に集中した。これは前回調査と同様の結果で，新型コロナ禍においても工夫した指導が行われているようである。

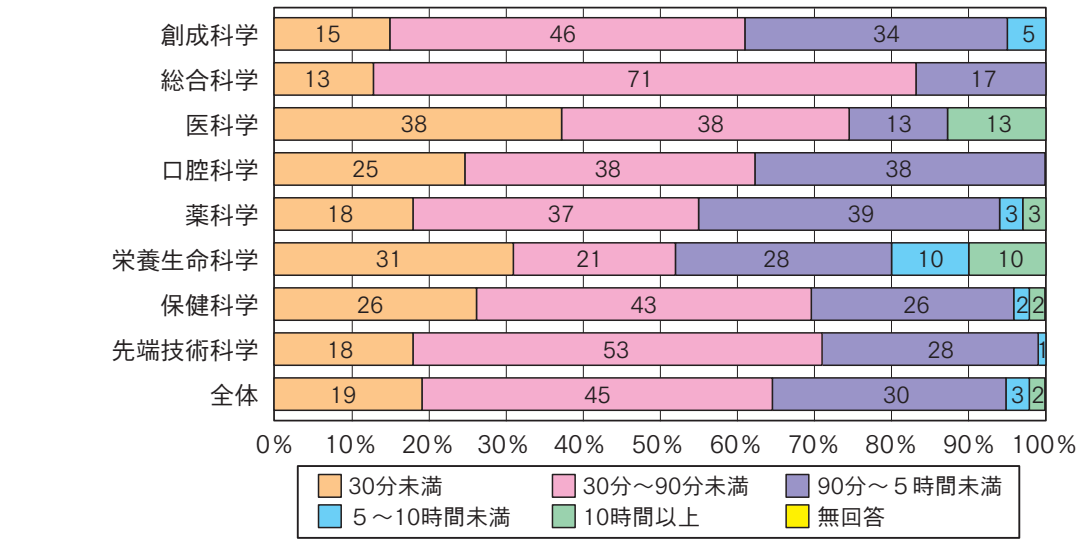


図６－３－５　１週間に研究指導を受ける時間

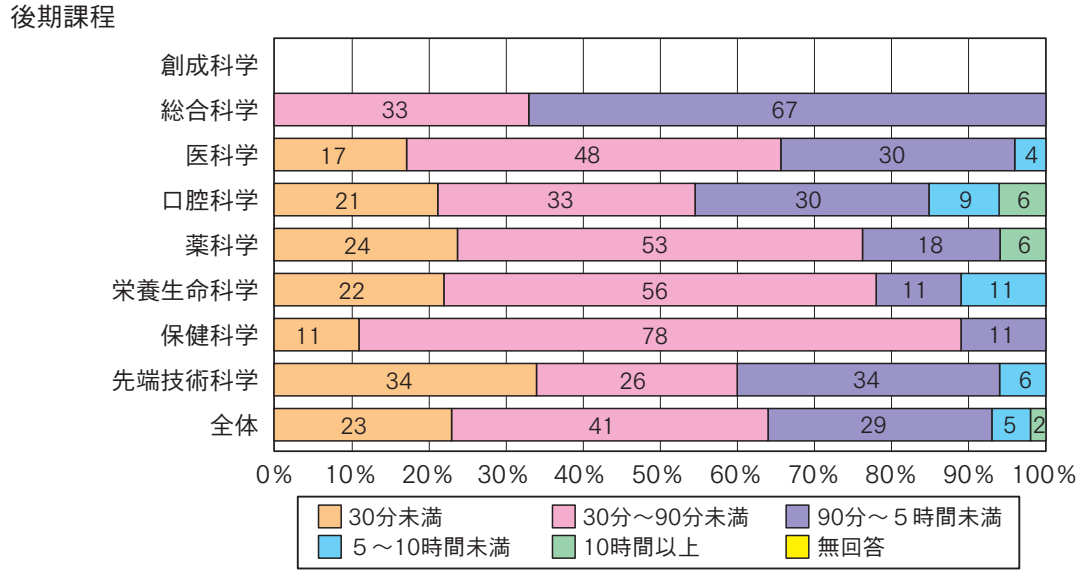


図６－３－６　１週間に研究指導を受ける時間

研究指導の内容や進め方に対する満足度について，前期課程全体では「満足している」との回答が47%で最も多く，「どちらかといえば満足している」との回答を合わせると92%であった（図６－３－７）。この傾向は各研究科・教育部でも認められた。後期課程の学生の満足度も同じ傾向を示し（図６－３－８），留学生は全て「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した。学生の研究指導に対する満足度は概ね高く，新型コロナ禍においても密度の高い効率的な指導が行われていると思われる。

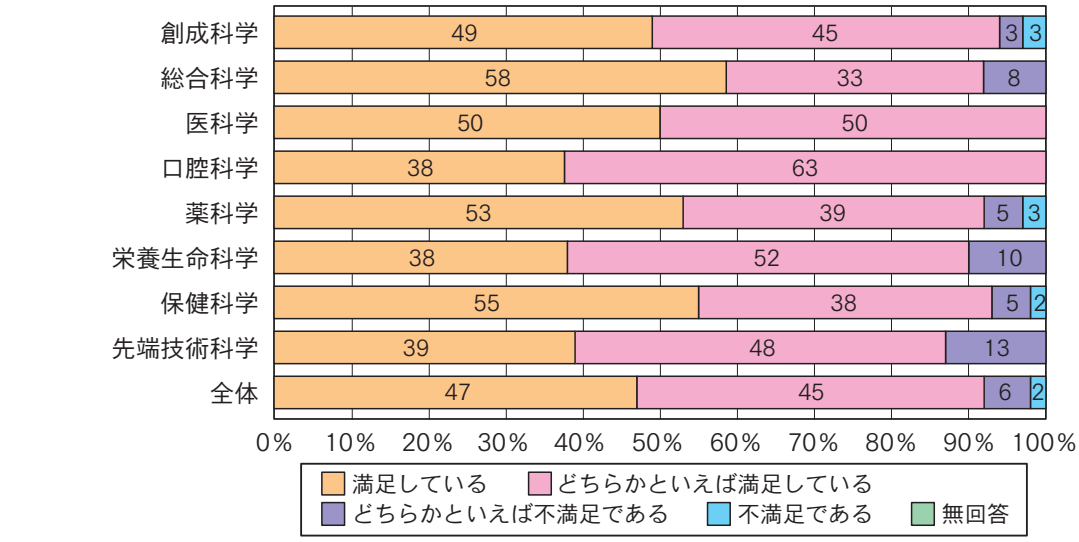


図６－３－７　研究指導についての満足度

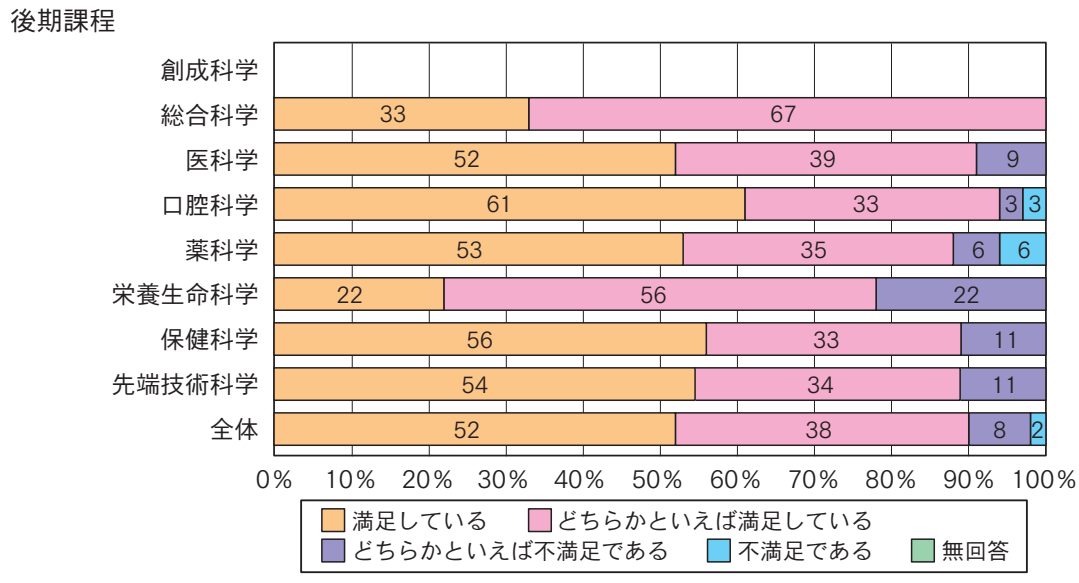


図６－３－８　研究指導についての満足度

修士論文の研究テーマに関する満足度は，「満足している」が最も多く（52%），「どちらかといえば満足している」（42%）と合わせると，９割を超える学生が概ね満足している結果となった（図６－３－９）。この傾向は各研究科･教育部に共通して認められた。博士論文の研究テーマに関する満足度（図６－３－10）も同様に９割を超える学生が概ね満足しており，留学生の回答も同様であった。

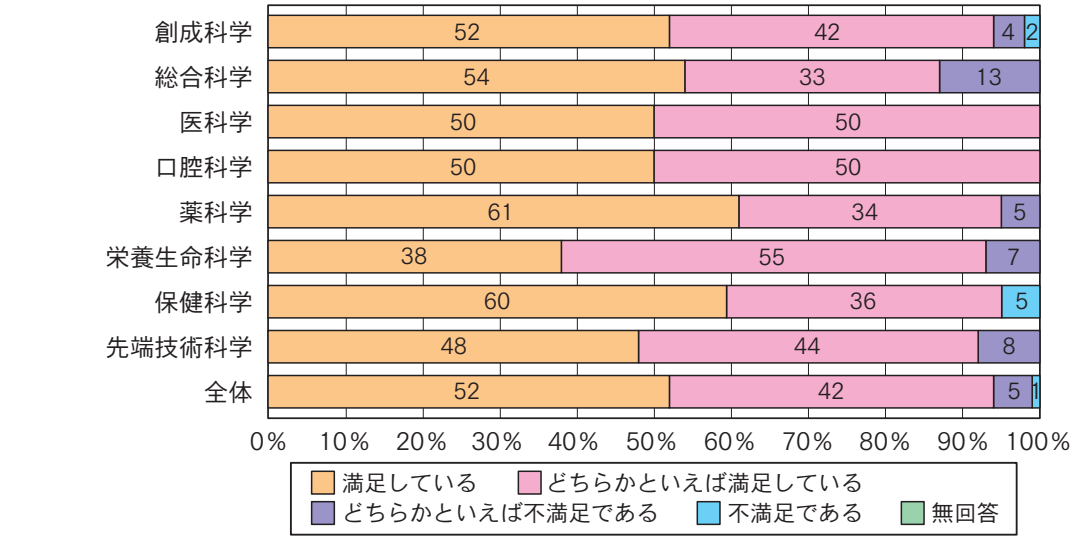


図６－３－９　修士論文の研究テーマについての満足度

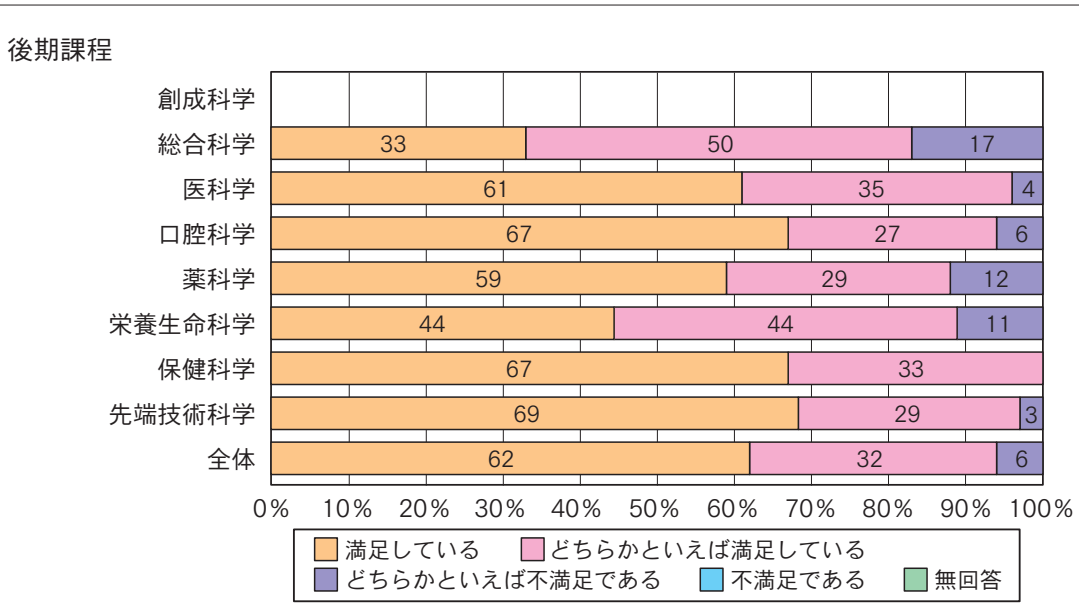


図６－３－10　博士論文の研究テーマについての満足度

指導教員とのコミュニケーションに関しては，前期課程全体では「ある程度とれている」との回答が最も多く（47%），次いで「充分とれている」（43%），「あまりとれていない」（９％），「まったくとれていない」（１％）であった（図６－３－11）。後期課程全体でもやはり９割の学生が「充分とれている」，「ある程度とれている」のいずれかに回答し（図６－３－12），留学生についても結果は良好で，コミュニケーションが「まったくとれていない」との回答はなく，前期課程では「あまりとれていない」との回答もあった。しかし，コミュニケーションが「あまりとれていない」あるいは「まったくとれていない」との回答がゼロとなるよう，何らかの対策を講じる必要はあると思われる。

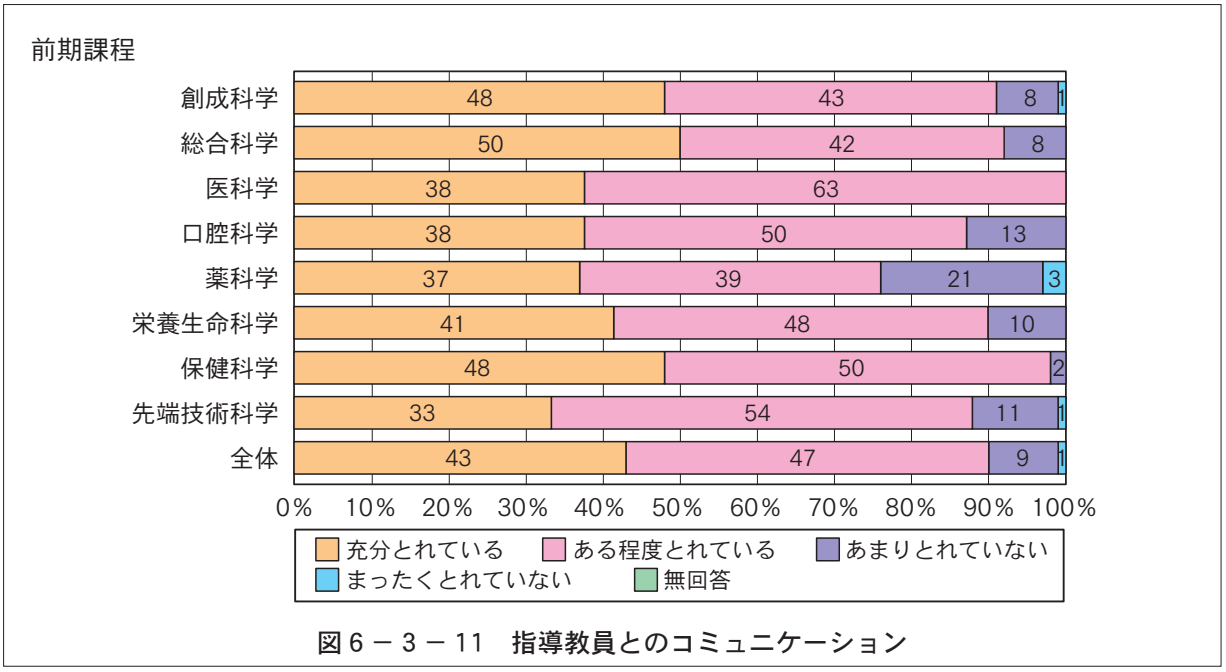


図６－３－11　指導教員とのコミュニケーション

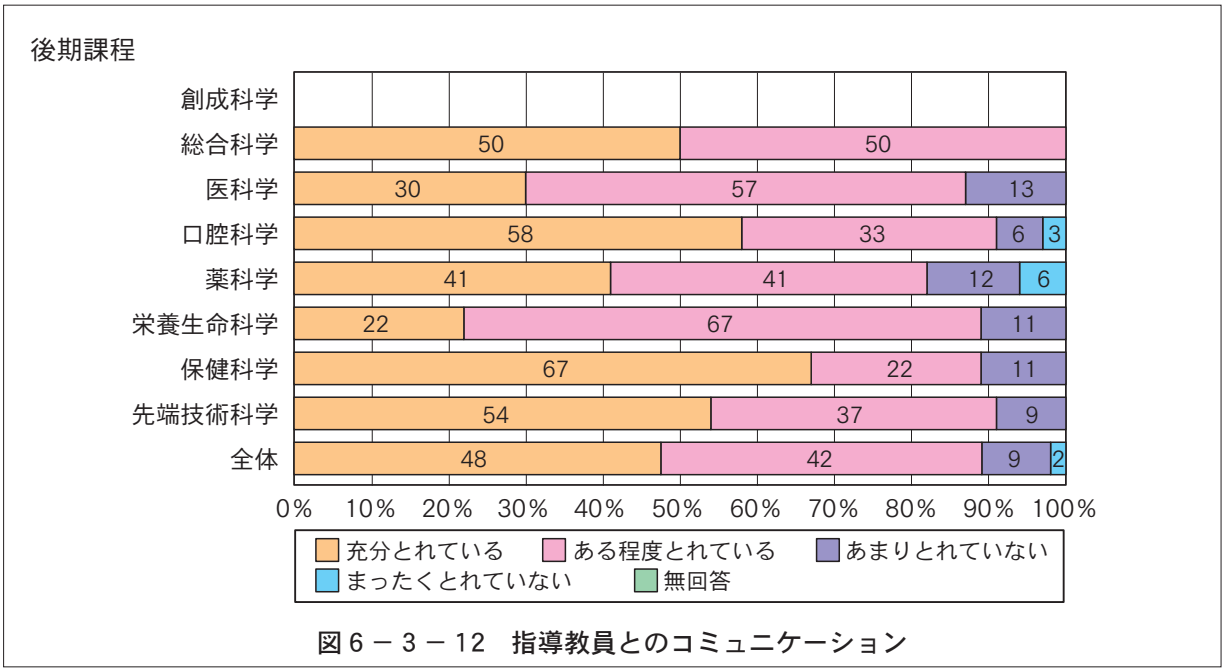


図６－３－12　指導教員とのコミュニケーション

大学院教育について，相応しいレベルの教育が「充分に行われている」（45%）または「ある程度行われている」（49%）と回答した前期課程の学生は９割を超え，各研究科・教育部においてもこれらの回答が大半を占めた（図６－３－13)。後期課程の学生も，９割強が概ね相応しいレベルの教育が行われていると回答しているが，薬科学では「あまり行われていない」，「全く行われていない」とする回答が24%あった（図６－３－14)。留学生も９割を超える学生（前期課程では全ての学生）が概ね相応しいレベルの教育が行われていると回答している。ただし，薬科学では20%が「あまり行われていない」と回答し，後期課程の学生と同様，より高いレベルの教育を求める学生の割合が他の教育部に比べ多いことが窺われた。

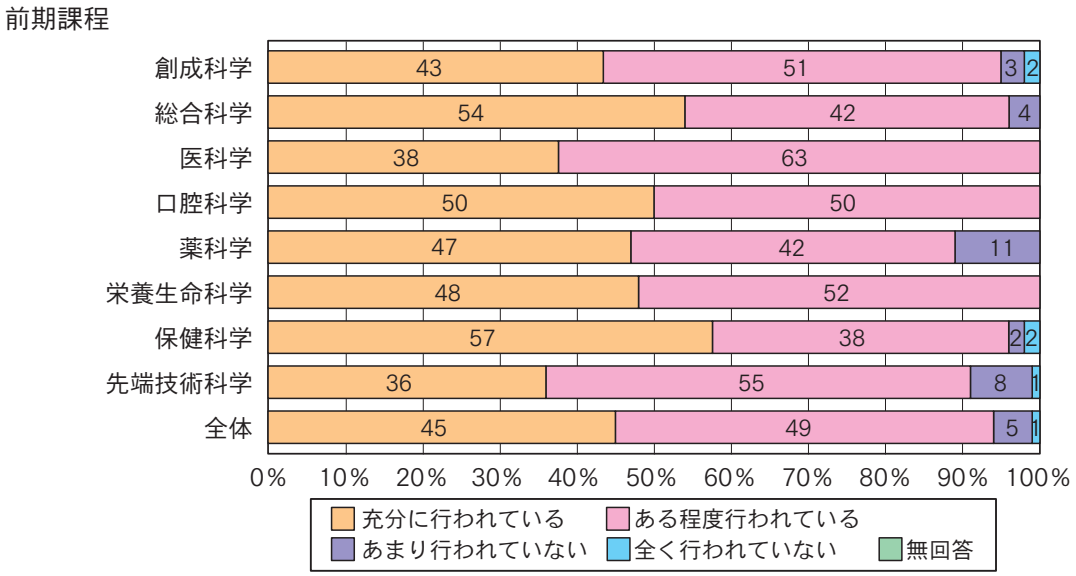


図６－３－13　大学院の教育レベル

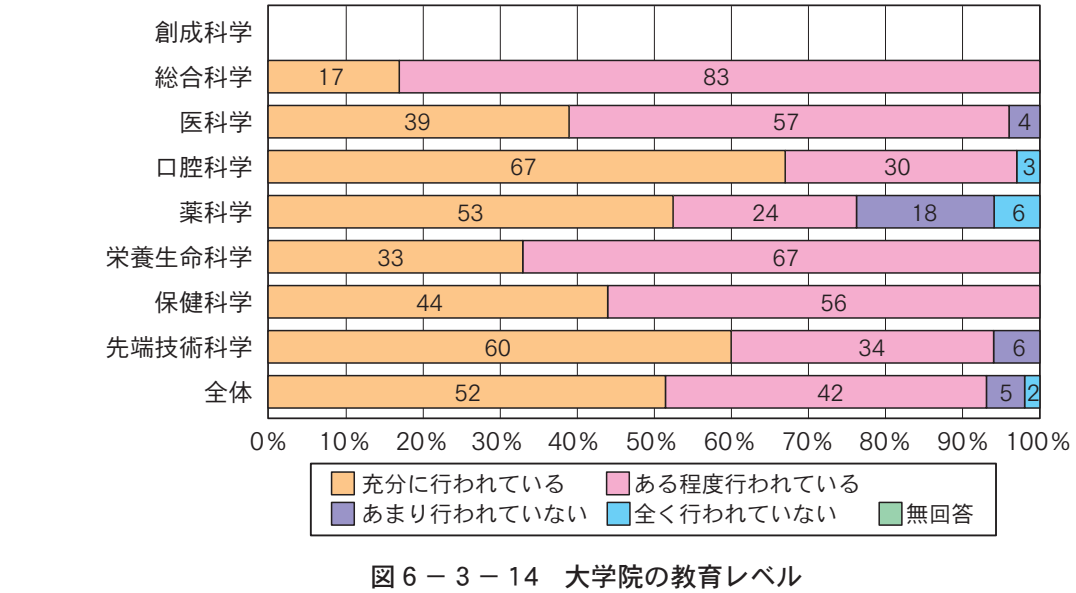


図６－３－14　大学院の教育レベル

６－４　研究環境と所属大学院に対する満足度（図６－４－１～図６－４－６）

研究環境の満足度について，「満足している」（40%）または「どちらかといえば満足している」（44%）と回答した前期課程の学生は８割以上で，研究環境には概ね満足しているとの結果であった（図６－４－１）。後期課程の学生も全体ではほぼ同様の割合で満足していると回答しているが，薬科学では半数近くの学生が「どちらかといえば不満足」，「不満足」と回答し，前回調査の結果（６%）より大幅に増加した（図６－４－２）。留学生は９割を超える学生（前期課程では全ての学生）が概ね満足していた。この結果は前回調査とほぼ同様の結果であり，「不満足」の学生が少なからずいることは看過できることではないが，新型コロナ禍においても一定の研究環境が維持されていることが窺われた。

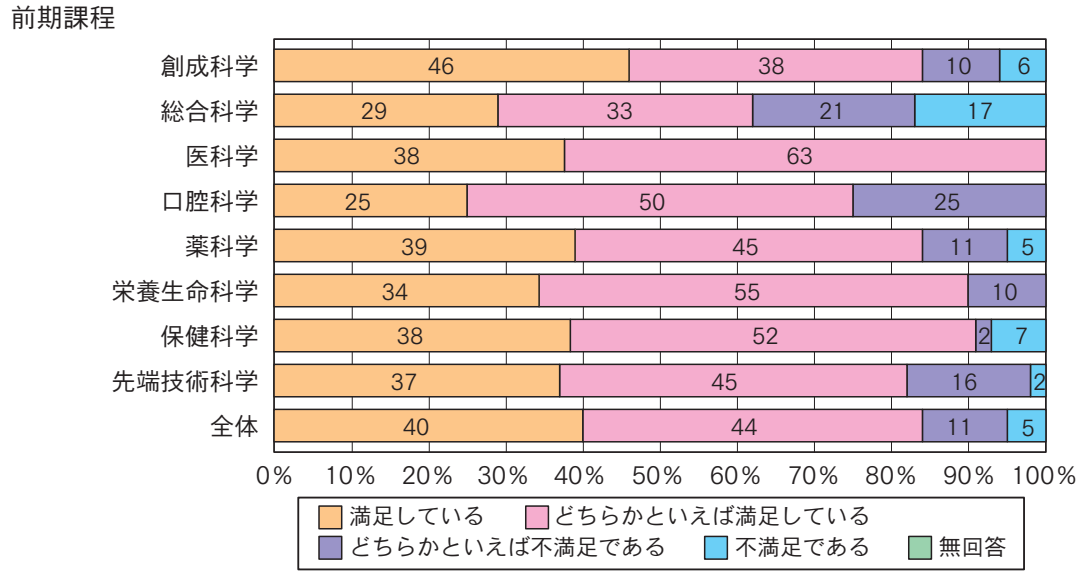


図６－４－１　研究環境についての満足度

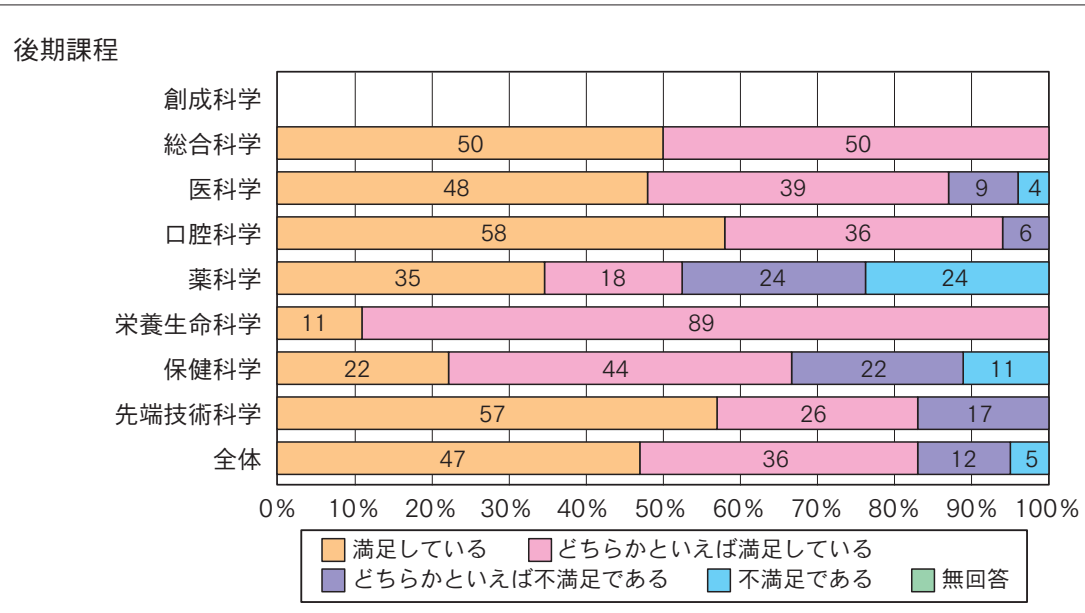


図６－４－２　研究環境についての満足度

研究環境に満足できない理由を尋ねた設問について，前期課程全体では「施設・設備」が53%で半数以上を占め，次いで「研究費用」21%，「研究時間」20%であった（図６－４－３）。特に栄養生命科学では，「研究時間」を不満の理由とする回答が50%であった。後期課程においても全体としては同様の傾向が読み取れ（図６－４－４），留学生についても回答数は少ないが，やはり「施設・設備」，「研究費用」を不満としている。新型コロナ禍の調査であったが，栄養生命科学を除いて「研究時間」を不満とする回答は前回調査より大きく増加はしなかった。「施設・設備」および「研究費用」に対する不満解消については，昨今の大学財政難への対策が待たれる。

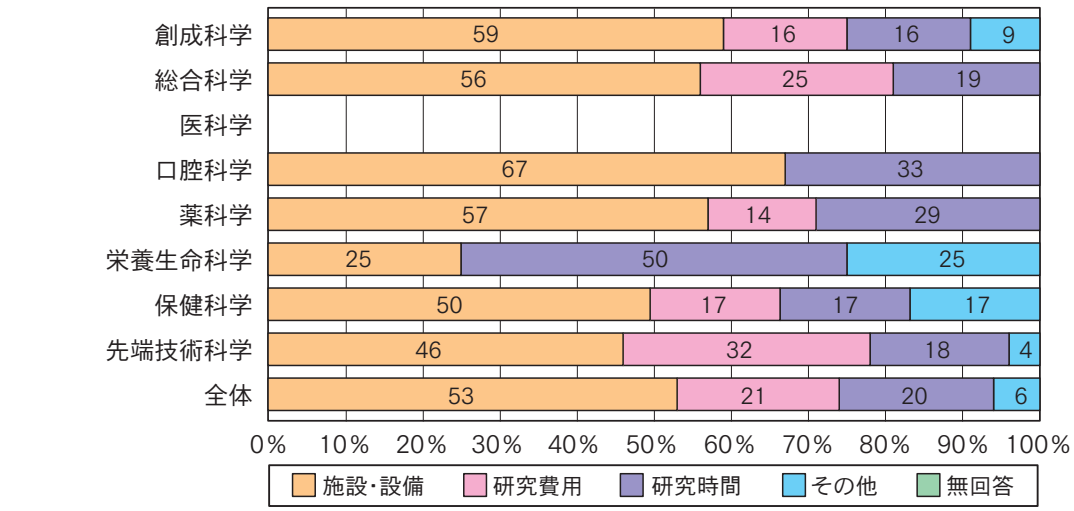


図６－４－３　研究環境に不満足な理由（複数回答可）

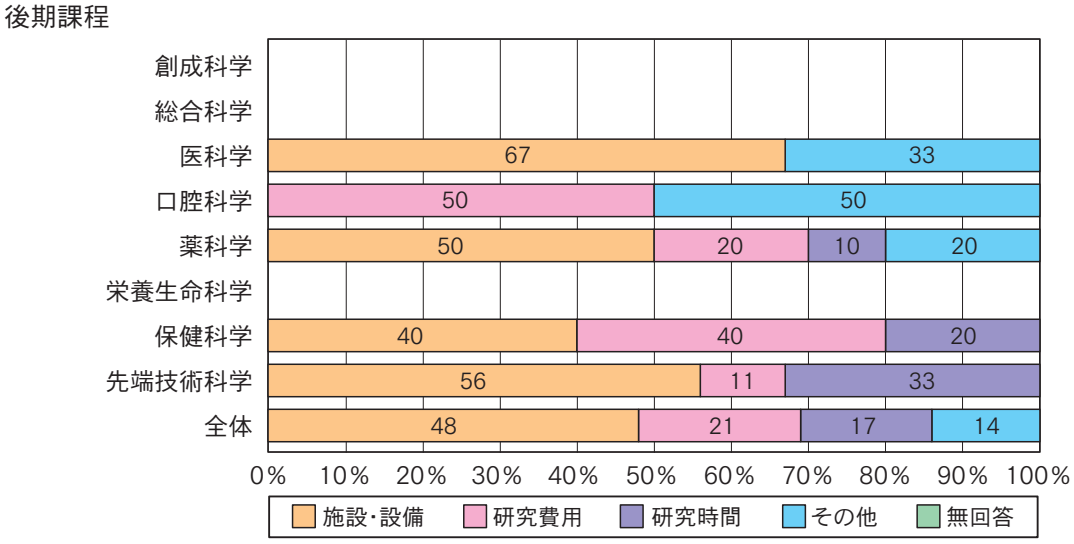


図６－４－４　研究環境に不満足な理由（複数回答可）

所属大学院の満足度について，「満足している」（38%）あるいは「どちらかといえば満足している」（60%）と回答した前期課程の学生の割合は98%で前回調査より５ポイント増加し，所属大学院には概ね満足しているとの結果であった（図６－４－５）。後期課程の学生の回答からも，95%（前回調査より３ポイント増加）の学生が概ね満足していることが窺えた（図６－４－６）。留学生も100%近い学生が「満足」，「どちらかといえば満足」のいずれかに回答した。

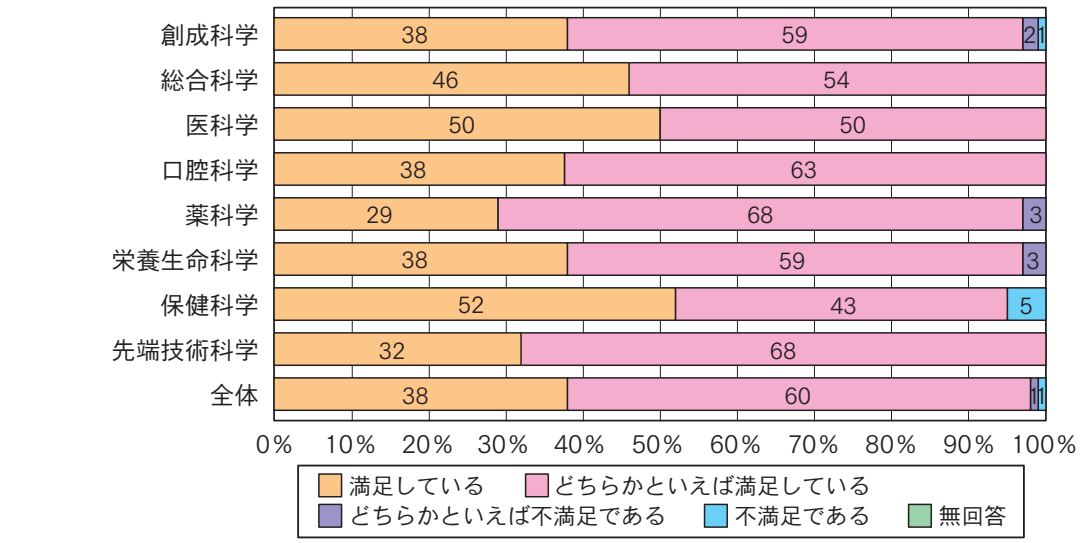


図６－４－５　所属大学院についての満足度

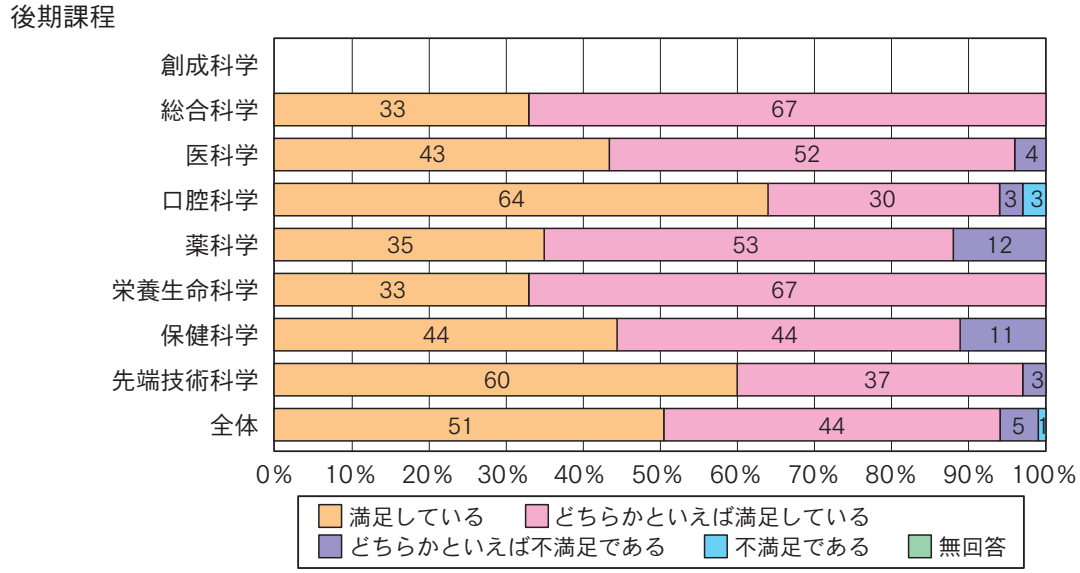


図６－４－６　所属大学院についての満足度

6－5　図書館の利用状況（図6－5－1～6－5－6）

図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で14%，後期課程も14%であり，前回の第7回調査に比べると，前期課程は5%減少し，後期課程は変化がなかった。後期課程は前回の調査において，前々回調査より3%減少しており，両課程ともに今後の長期的な変化の分析が必要であろう。利用頻度に関しては，週に複数回利用する学生の多い研究科・教育部は，前期課程では総合科学，医科学，口腔科学であり，後期課程では栄養生命科学であった。逆に，年に複数回利用しないという使用頻度の少ない学生が多かった研究科・教育部は，前期課程では医科学と口腔科学で，後期課程では総合科学であった。前期課程の医科学と口腔科学で，利用頻度の二極化傾向が認められた。（図6－5－1，図6－5－2）。

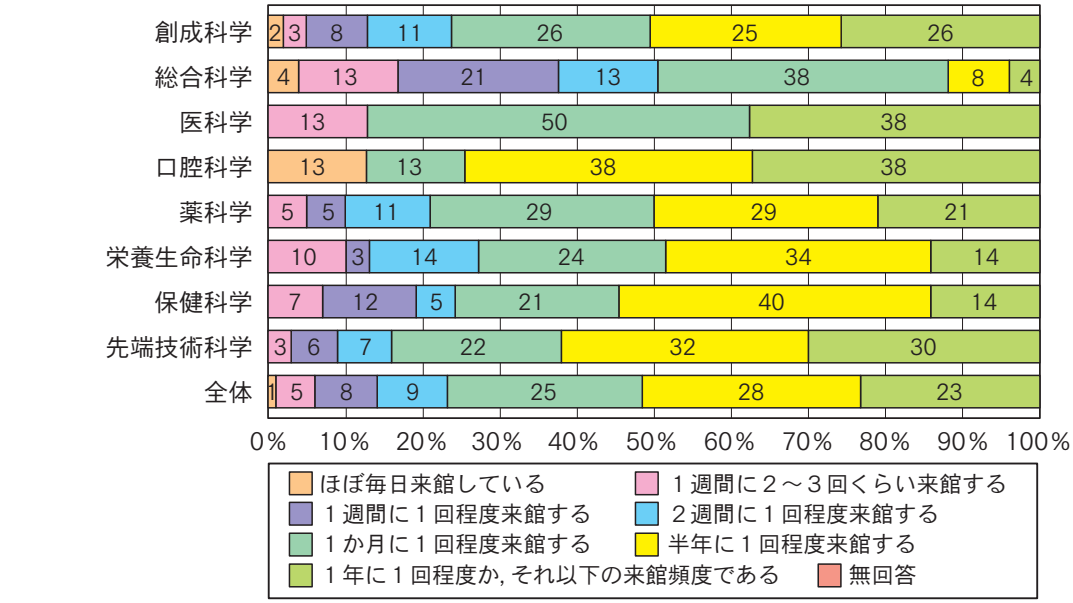


図6－5－1　図書館の利用頻度

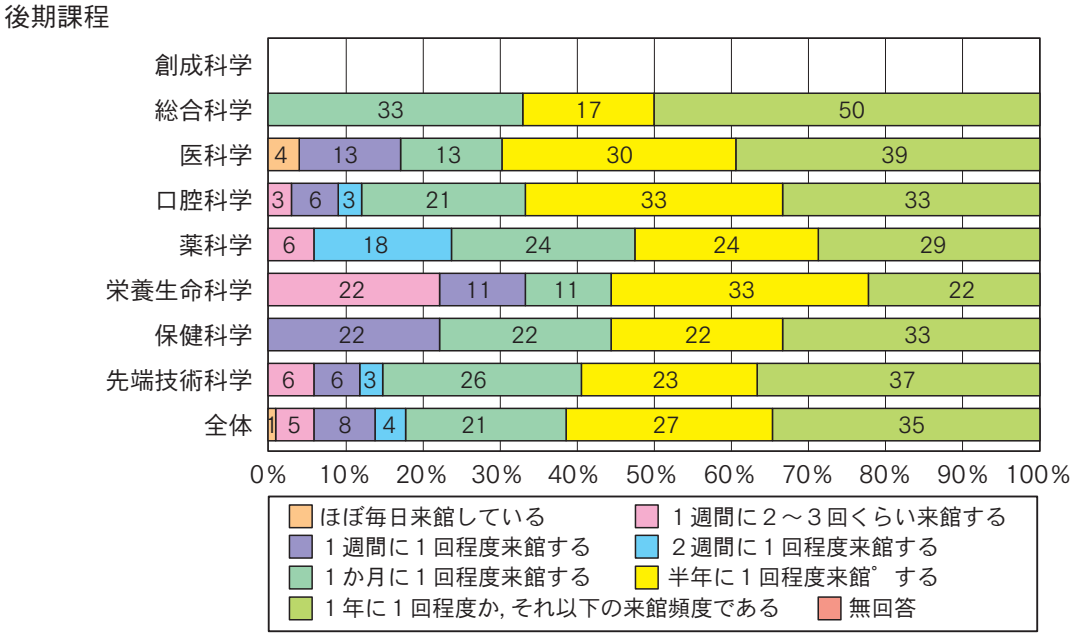


図6－5－2　図書館の利用頻度

次に，図書館を利用する主な目的は，全体平均において前期課程の64%，後期課程の55%の学生が「図書等の貸し出し」あるいは「図書等の閲覧やコピー」という結果であった。前期課程と比較して，後期課程において「図書等の貸し出し」の割合が低くなっており，一方で「電子ジャーナル･データベース」の割合が高くなっている。この結果から，後期課程において電子ジャーナル・データベース等の検索の重要性がうかがえる（図６－５－３，図６－５－４）。

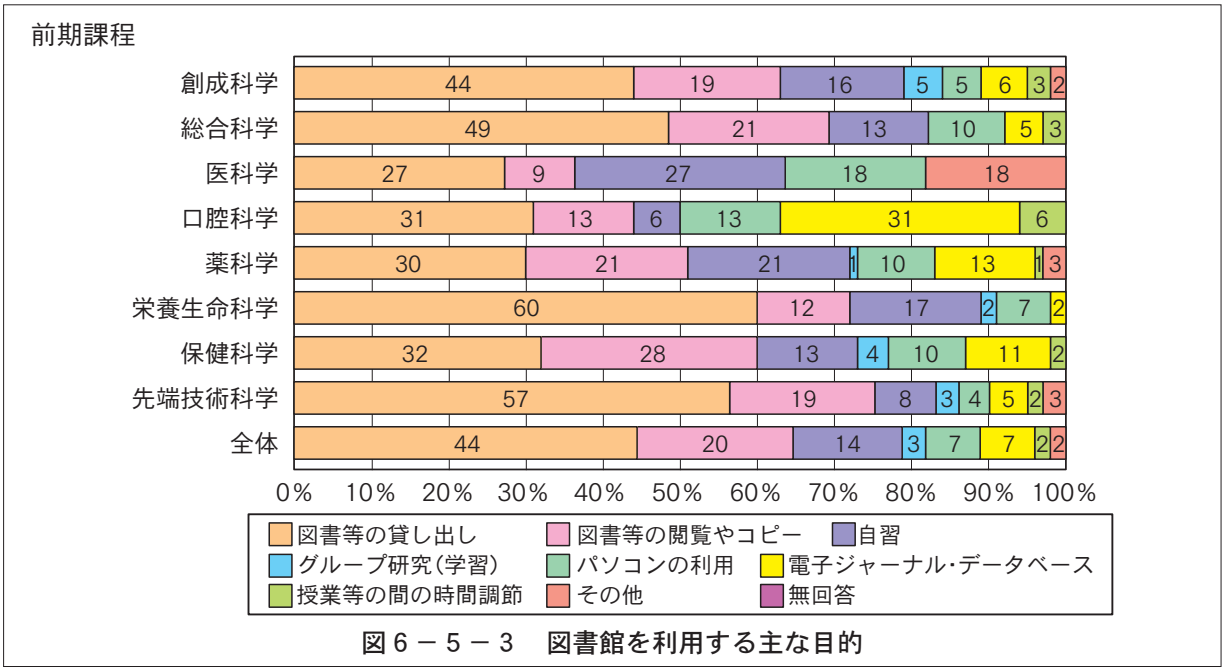


図６－５－３　図書館を利用する主な目的

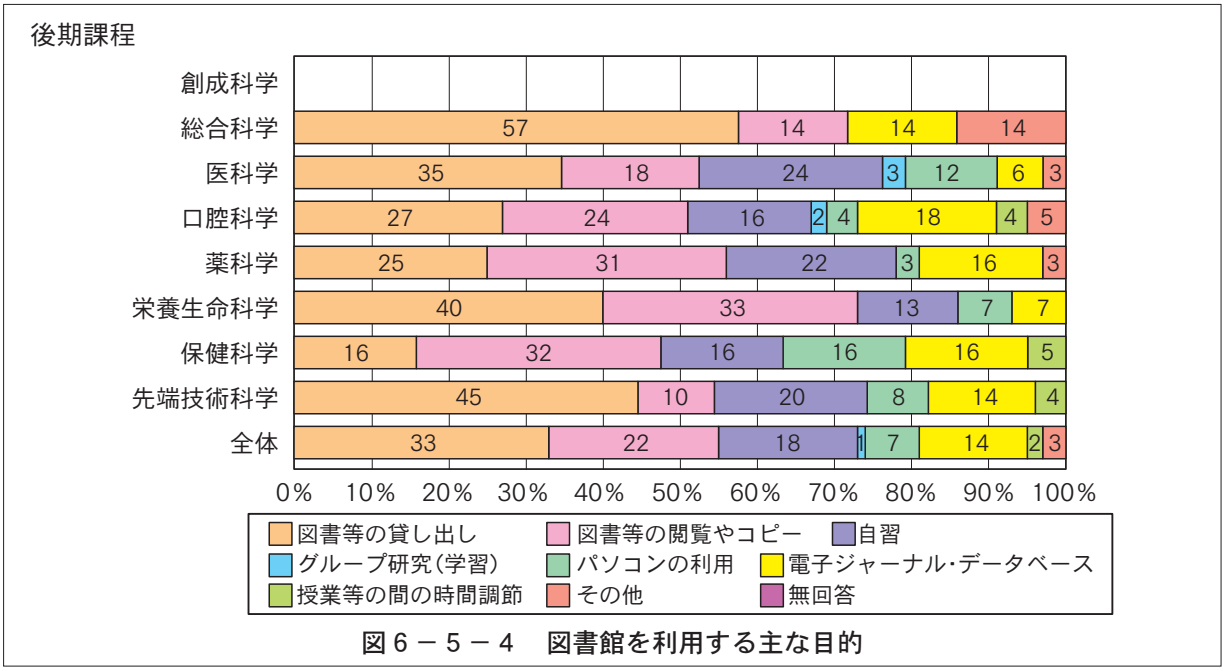


図６－５－４　図書館を利用する主な目的

また，図書館の提供するサービスに対する満足度は，全体平均において前期課程の96%，後期課程の88%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」という結果で，概ね評価が高かった（図６－５－５，図６－５－６）。前回の第７回調査で報告されている『しかし過去の調査時に比べ，蔵本地区の教育部を中心に「どちらかといえば不満足である」という評価の増加が目立ち始めている。』という内容に関して，前期課程においては改善されているが，後期課程においては悪化している。この結果が現在進行中の電子ジャーナル・データベース等の削減と関係しているのか調査する必要がある。図書館を利用する主な目的におけるアンケート結果より，後期課程において電子ジャーナル・デー

タベース等の検索の重要性が認められており，今後の改善・対応が望まれる。施設等のハード面での充実はもちろんであるが，特にソフト面において，学生の学習と研究活動にとって必要不可欠である電子ジャーナルやデータベース等の閲覧サービスは，本学全ての研究科・教育部学生の学習と研究活動をカバーできるように維持と拡充を進めることが強く望まれる。なお，留学生からのアンケート結果を見ても，全体平均では前期課程の 100%，後期課程の 93%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」という結果であり，図書館の提供するサービスに関する満足度は日本人学生と大きな違いはないものと推測された。

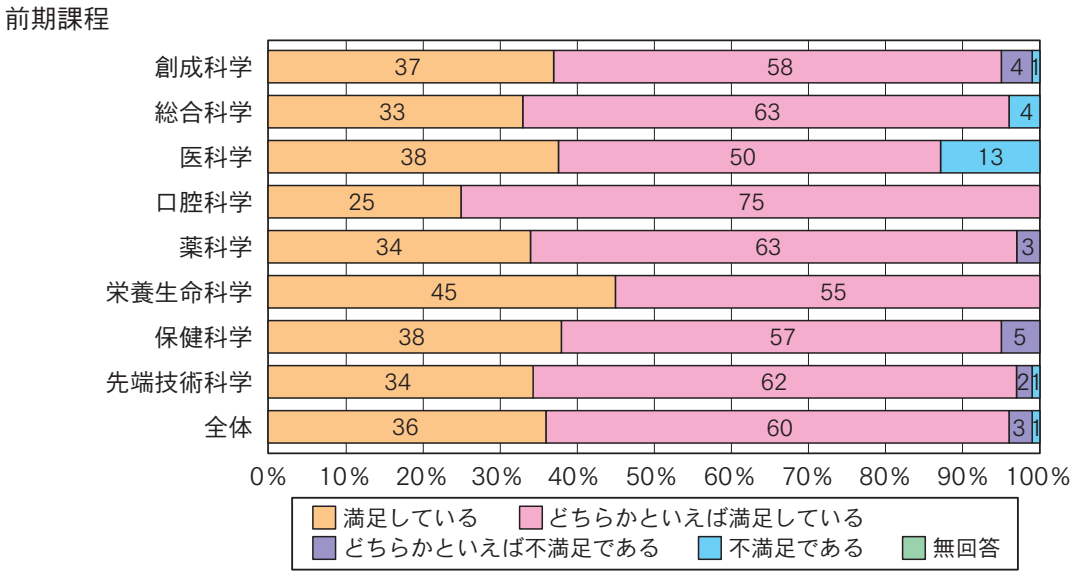


図６－５－５　図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度

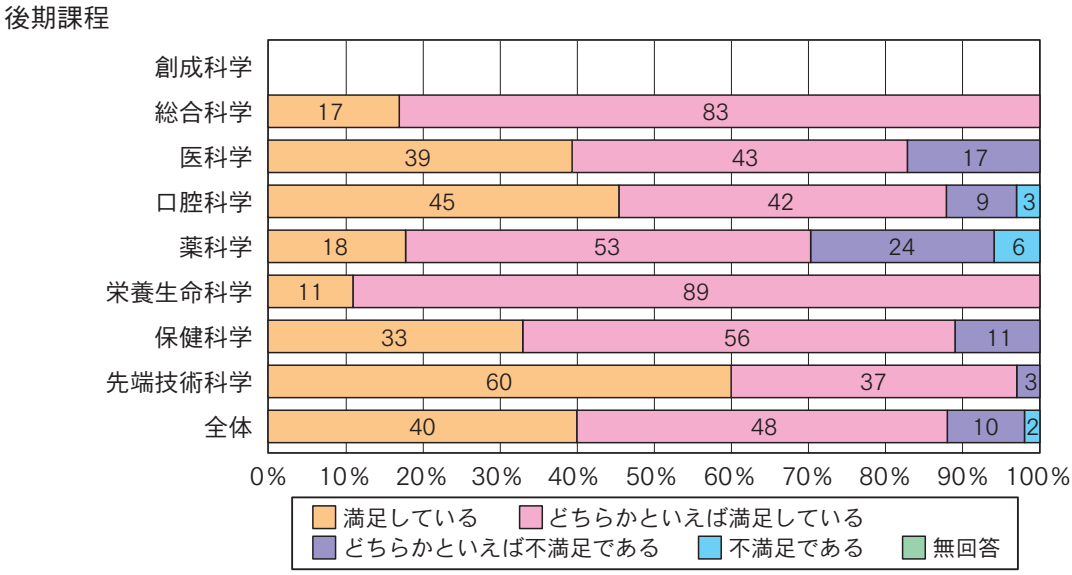


図６－５－６　図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度

6－6　学習への取り組み（図6－6－1～6－6－4）

現在所属している大学院に相応しい学習への取り組み状況について，「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した学生が，前期課程全体で78%，後期課程全体82%であった（図6－6－1，図6－6－2）。この質問について，第2～7回調査の結果における推移を見ると，前期課程全体では60%，61%，63%，62%，71%，75%であり，第5回調査時（平成26年度）から今回にかけて明らかな改善傾向が見られた。後期課程全体の推移では，77%，69%，68%，79%，75%，73%であり，第6回調査時から2回連続で減少傾向にあったが，今回は大幅な改善が見られた。教育部別で見ると，前期課程では全ての研究科・教育部で70%以上の学生が「よく学習している」か「かなり学習している」と回答しており，前回に問題点が指摘されていた口腔科学で顕著な改善が見られる。また後期課程においては，総合科学以外の教育部で70%以上の学生が「よく学習している」か「かなり学習している」と回答しており，総合科学では67%と低く，「全然していない」と回答した学生が17%と高かった。

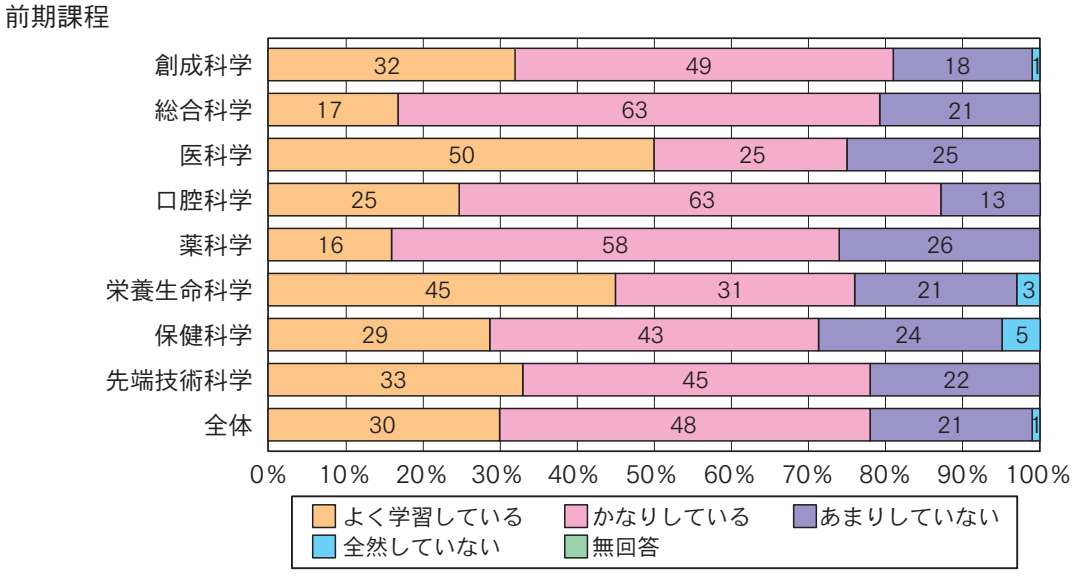


図6－6－1　所属している大学院に相応しい学習の取り組み

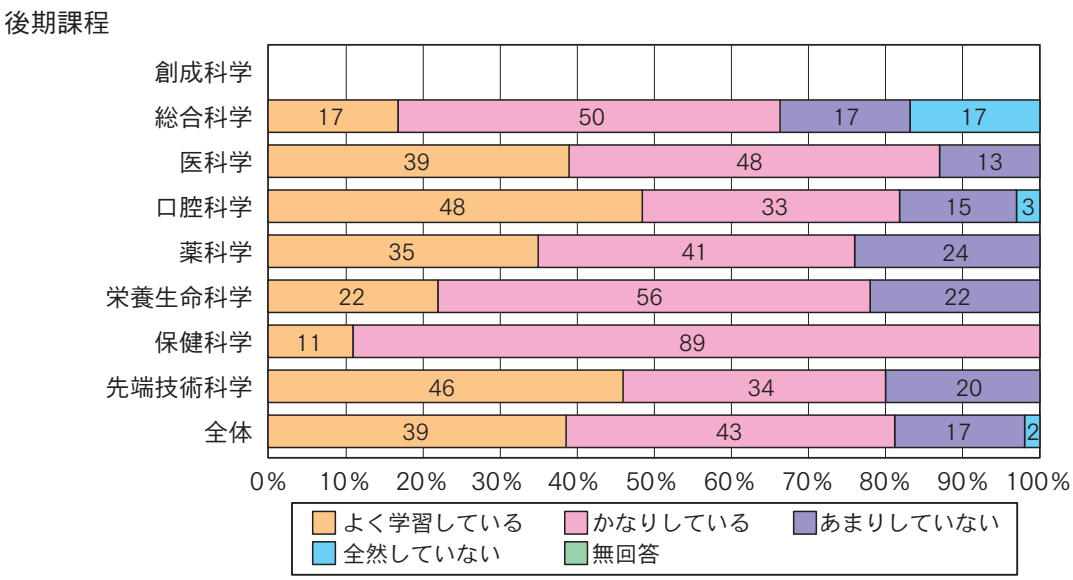


図6－6－2　所属している大学院に相応しい学習の取り組み

後期課程においては，現在の比較的良好な学生の学習モチベーションを維持し，さらに延ばす取り組みを行うと同時に，学習意欲の低い学生の割合が高い教育部では原因究明と対策を講じることが望まれる。

一方，留学生は前期課程で100%，後期課程で98%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており，学生全体の数値を顕著に上回っていた（図６－６－３，図６－６－４）。従って両課程ともに，日本人学生の学習意欲を高める取組みが急務といえる。

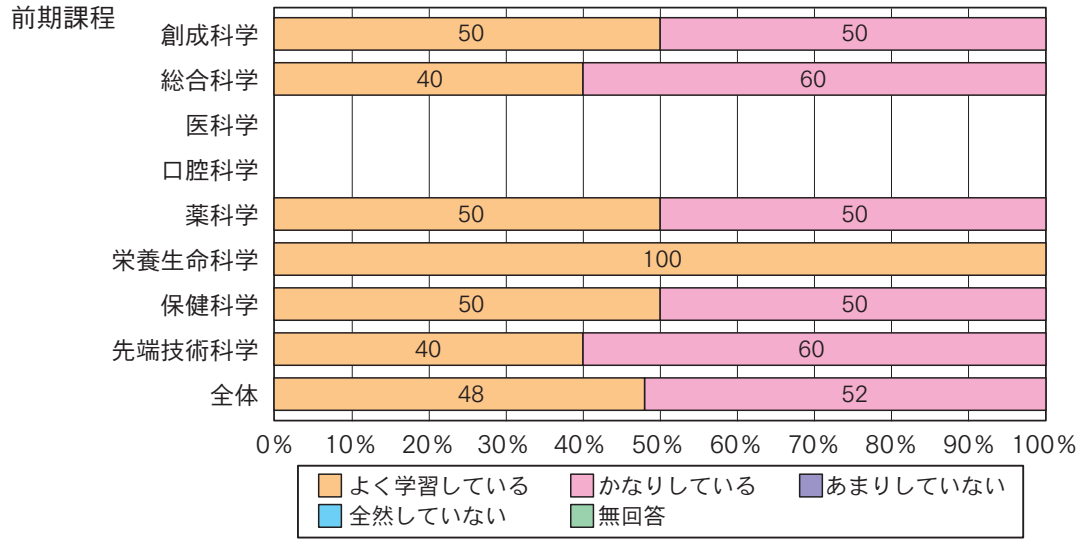


図６－６－３　所属している大学院に相応しい学習の取り組み

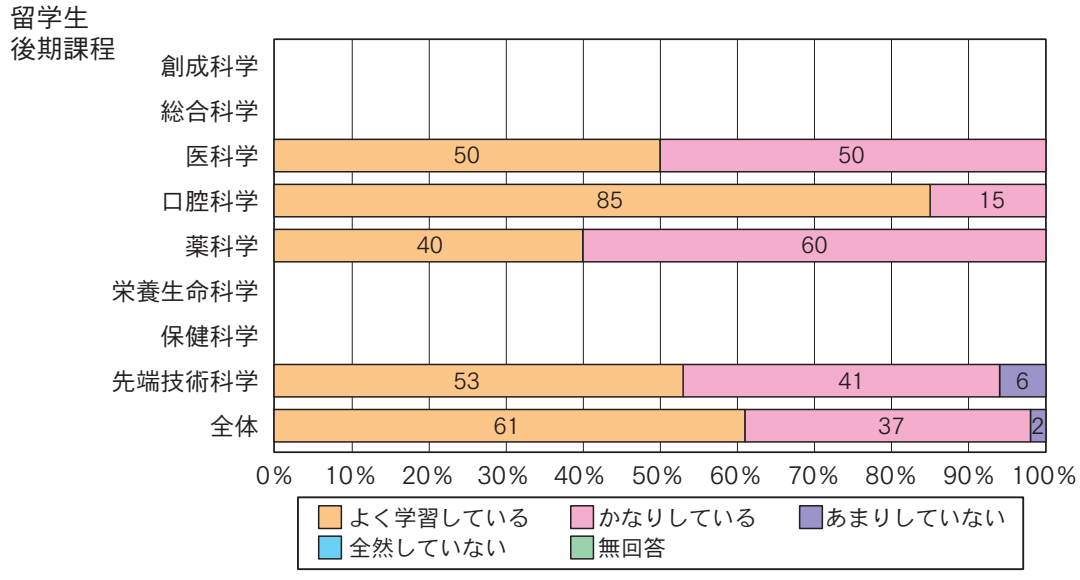


図６－６－４　所属している大学院に相応しい学習の取り組み

6－7　海外渡航の経験と英会話（図6－7－1～6－7－10）

入学後の海外渡航経験については，前期課程の全体で見ると81%の学生は海外渡航経験が「ない」，あるいはあっても1回のみの学生が10%で（図6－7－1），これは平成24年度以降に実施の第4～7回調査の数値（それぞれ70%と19%，74%と17%，70%と18%及び67%と19%）と比較して，渡航経験の無い学生が増加した。また，前回の調査と比較して，4回以上の経験を持つ学生の割合が減少した。後期課程の学生において，「ない」と答えた学生と渡航歴1回のみの学生は57%と20%で前回の調査時とほぼ変わりなかった（図6－7－2）。

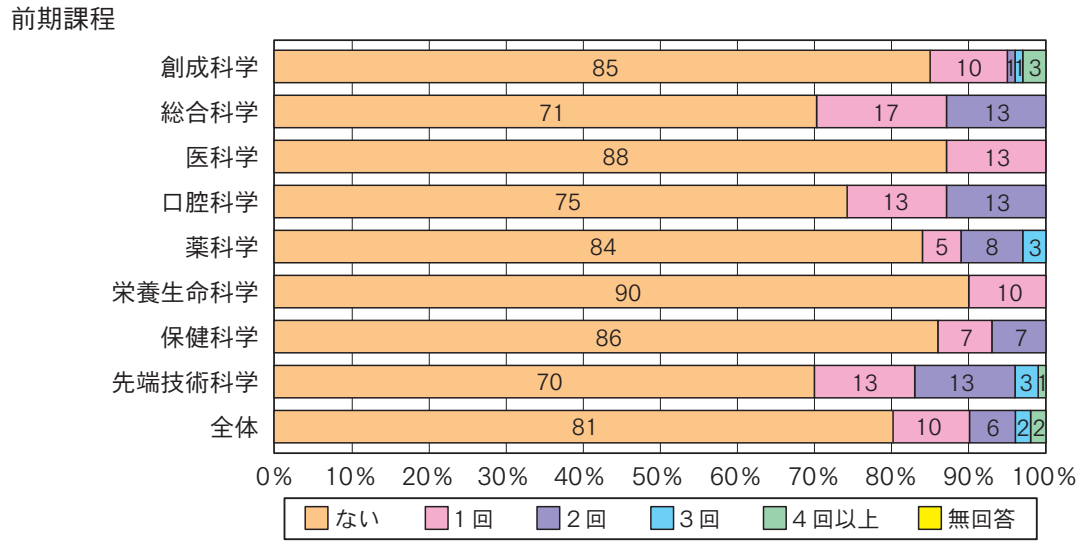


図6－7－1　入学後の海外渡航経験

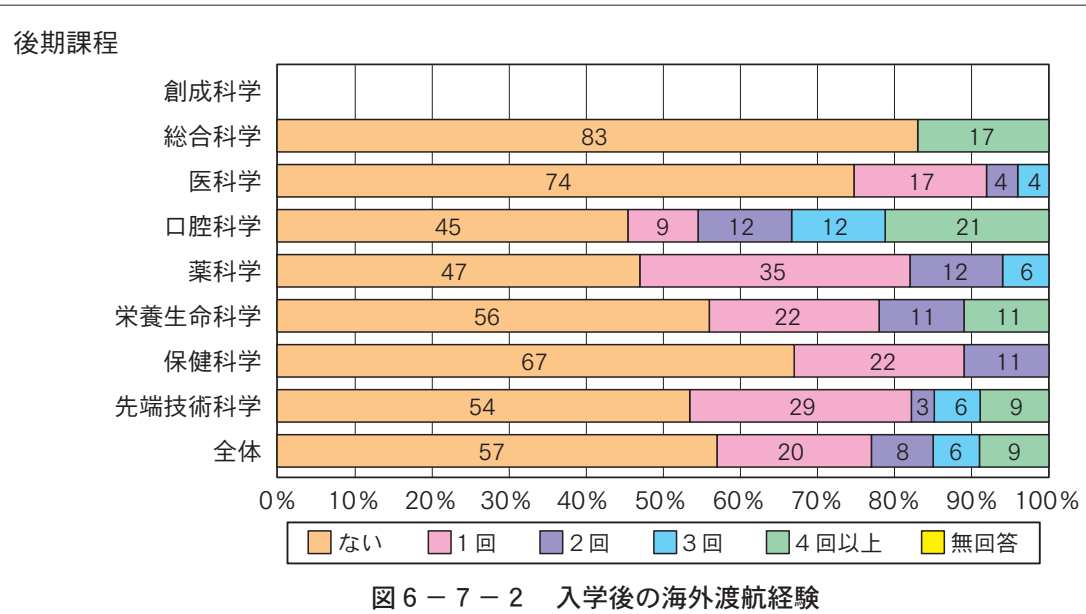


図6－7－2　入学後の海外渡航経験

海外渡航の目的について全体平均で見た場合，第6回と第7回の調査結果では，前期課程学生は観光目的が38%，41%と最も多く，次いで学会参加が24%，29%だった。今回の調査では，学会参加は16%と激減し，観光目的は40%と依然として高く，これまでとほぼ同様な結果であった（図6－7－3）。また，後期課程において，留学や学会参加等の学術活動を目的とした渡航は全部で51%であり（図6－7－4），前回調査よりも8%減少した。学術活動を目的とした渡航の減少は，コロナ禍の影響により学会が中止になる等の理由かもしれない。学生にとって，留学はもちろん，国際学会における発表等で海外

の学会に参加する経験を大学院の早期に持つことは研究意欲を高める上でも，積極的に国際的な活動を行える人材へと育つ上でも重要なことである。今後さらに両課程の大学院生に対して，このような学術目的の海外渡航をバックアップし促進するような制度整備や取り組みを強化していくことが必要と考えられる。

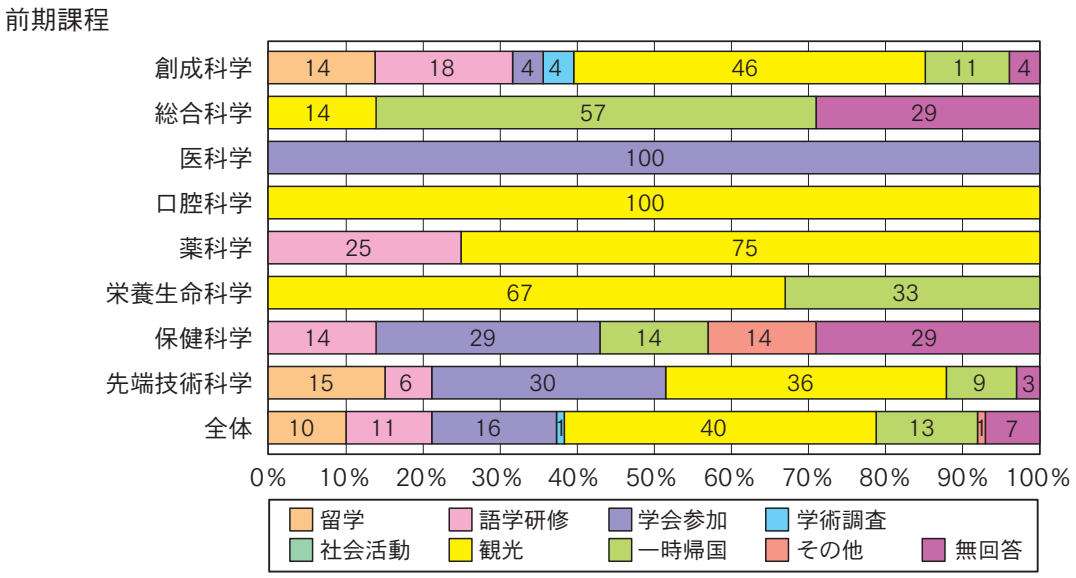


図６－７－３　海外渡航の目的（複数回答可）

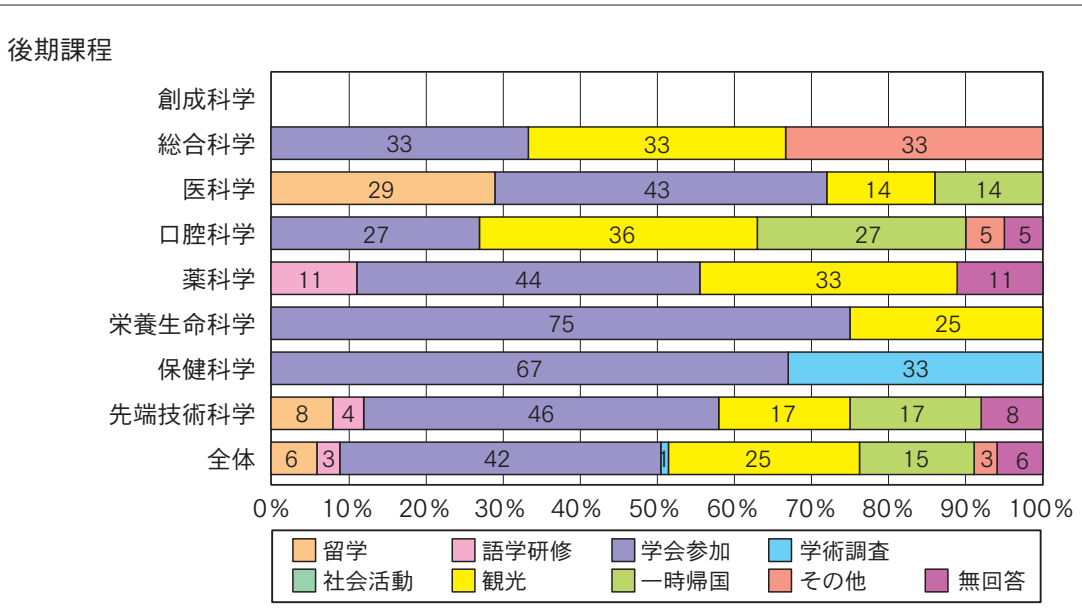


図６－７－４　海外渡航の目的（複数回答可）

国内外で開催された国際会議での発表経験については，日本人学生の全体平均で見た場合，前期課程では56%，後期課程では96%の学生が無回答であった（図６－７－５，図６－７－６）。前回は回答が得られているので，何故今回このような結果になったのか分析する必要がある。得られた回答で大多数が，発表経験が無いということから，前回調査と同様に，前期課程及び後期課程において全体として高い率を示しているのではないかと推測できる。特に後期課程の学生の多くが国際会議での発表経験が無いということは，国際レベルで活躍する人材の育成を目指す本学研究科・教育部としては早急な改善が必要であろう。今後，少なくとも後期課程の学生に対しては国際学会での発表を義務化するなどの制度的な改善を講じる一方，それを支援する方策も講じることが必要と考えられる。

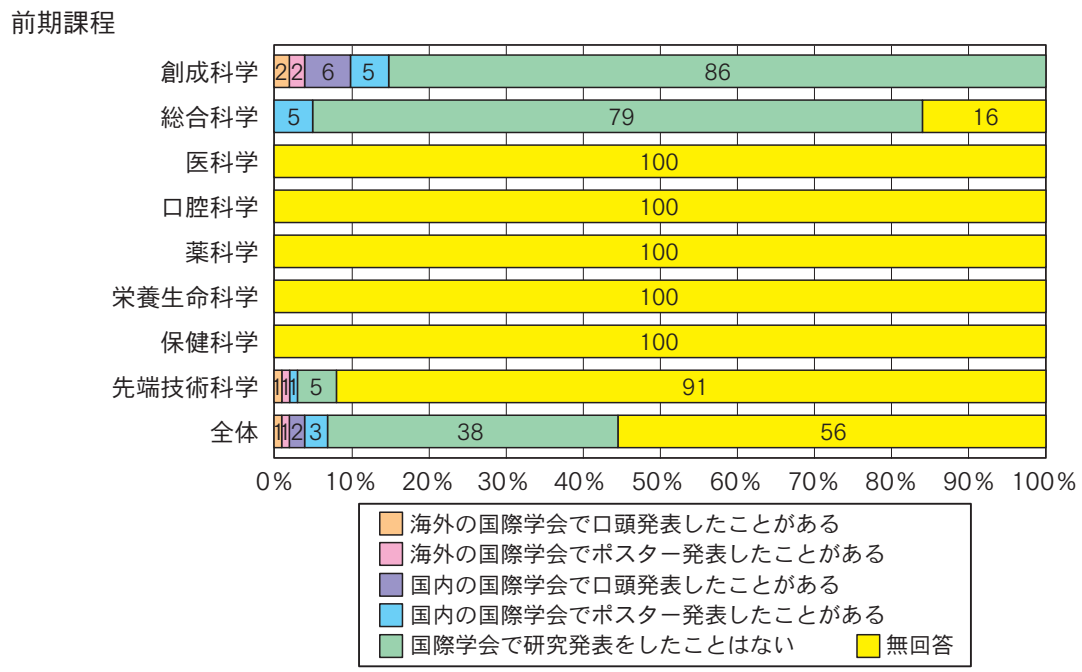


図６－７－５　国際学会への参加（日本人のみ）

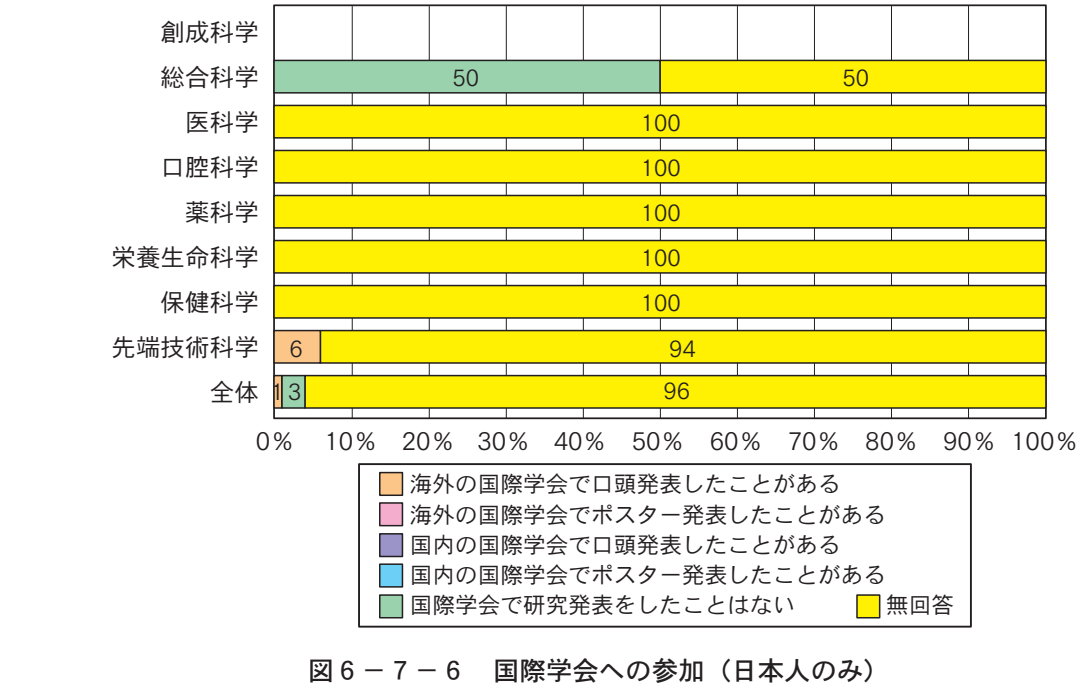


図６－７－６　国際学会への参加（日本人のみ）

今回，英会話能力に関する質問に対し，前期課程の日本人学生では63％の学生が，また後期課程でも49％の日本人学生が「できない」か「あまりできない」と回答した（図６－７－７，図６－７－８）。この結果は第５～７回調査と比べて改善は認められず，前期課程では悪化しているのでないかと考えられる。本学の日本人学生は英会話を苦手としていることが明確である。

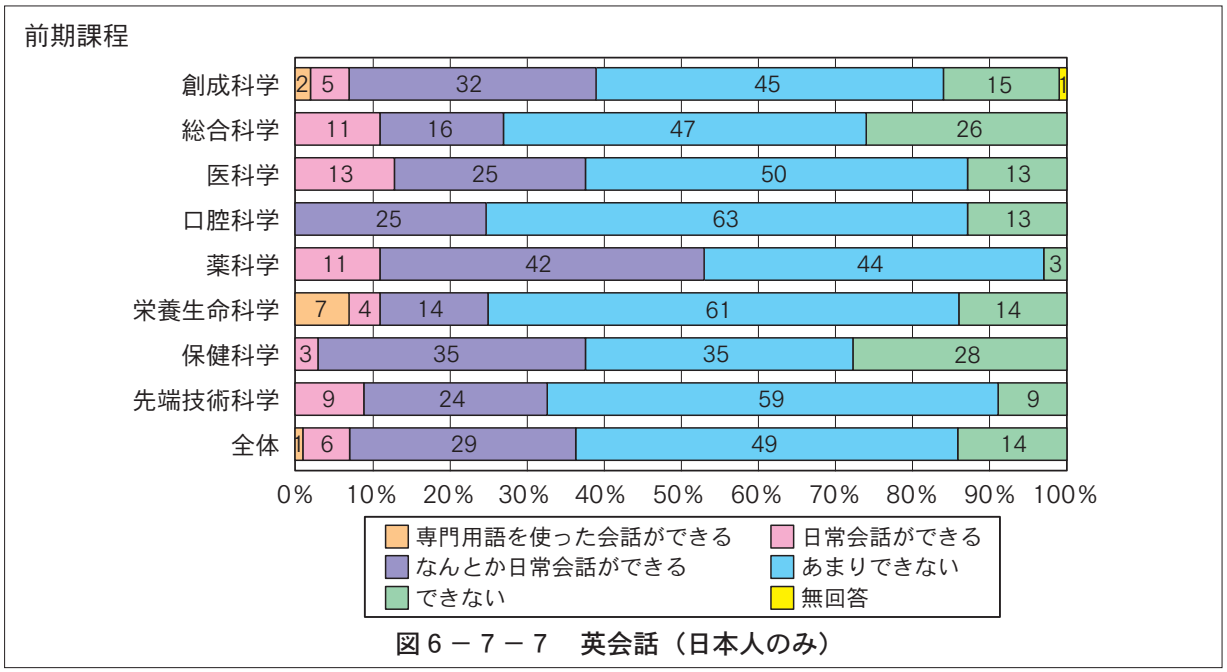


図６－７－７　英会話（日本人のみ）

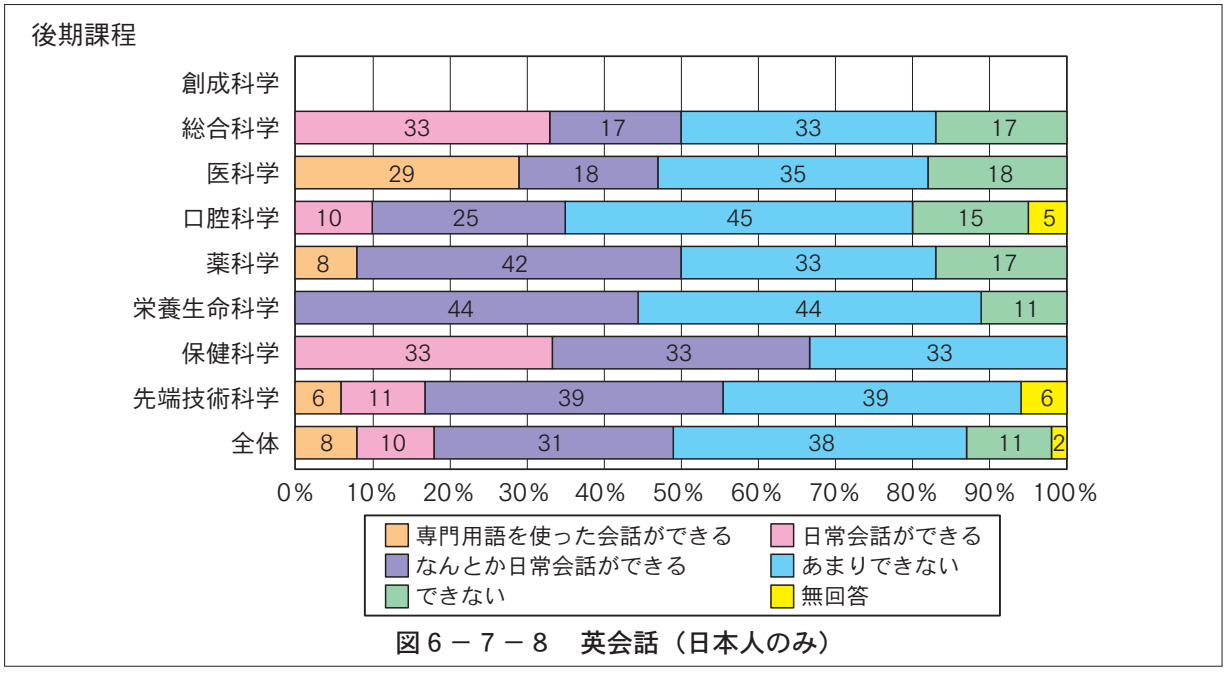


図６－７－８　英会話（日本人のみ）

その一方で，英会話に関する自己学習状況については，「何もしていない」という学生が前期課程及び後期課程で，それぞれ41％及び38％に上り，多くの学生が語学力の修得に積極的な努力をしていないことが分かる（図６－７－９，図６－７－10）。この傾向は第５回調査時から見られるが，後期課程学生において今回改善されている。語学の学習を行っている場合，これまでと同様に，前期課程ではＴＯＥＩＣやＴＯＥＦＬの受験が中心であり，実際は外国人との対面学習ではないケースがほとんどである。他方，後期課程ではＴＯＥＩＣやＴＯＥＦＬの受験に加え，外国人との英語でのコミュニケーション，外国のラジオ・テレビの視聴，ラジオ・テレビの英会話番組，英会話学校への通学などの多様な方法で学習していることがわかる。前期課程と後期課程の間で自己学習の取り組み方が明確に異なっている。学生に語学力修得のための努力を促すためには，少なくとも後期課程は国際学会への参加を義務化するなどの対策を含め，英語による教育カリキュラムの整備，大学院生が個人的に語学学習しやすくするための経済的援助，学内の留学生との交流など多面的な対策を検討する必要がある。

前期課程

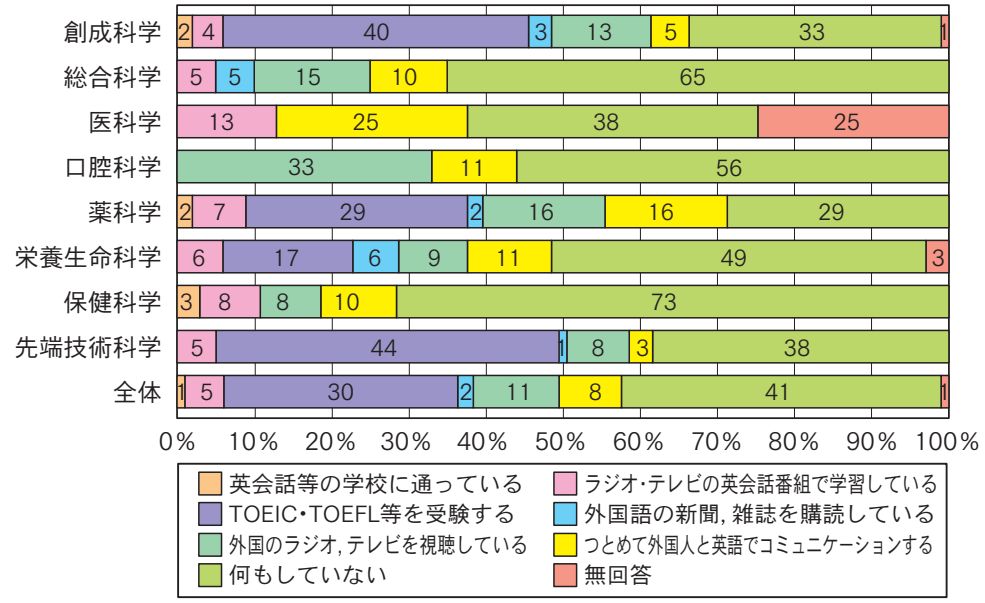


図６－７－９　語学に関する自己学習（日本人のみ）（複数回答可）

後期課程

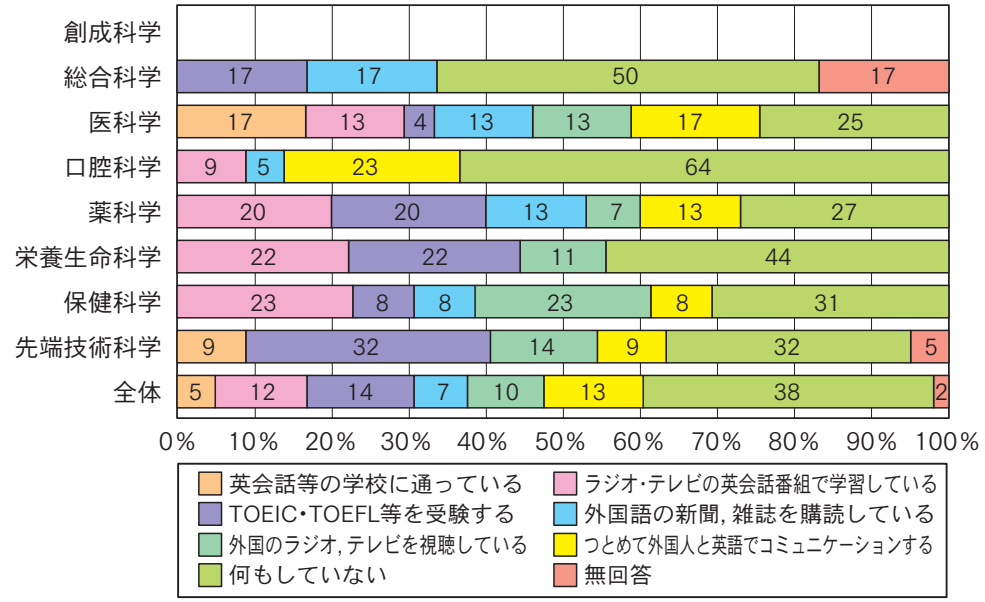


図６－７－10　語学に関する自己学習（日本人のみ）（複数回答可）

６－８　日本語会話（図６－８－１～６－８－６）

留学生の日本語会話の能力について，前期課程では92%，後期課程では64%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上と回答した（図６－８－１，図６－８－２）。前回の調査値と比較すると，前期課程は12%高く，後期課程は４%高かった。また，日本語会話に支障を抱えている留学生は前期課程で４%と非常に低く，後期課程では29%と高い。過去の調査では，前期課程では１／４～１／３程，後期課程でも１／３を上回る留学生が，日本語会話に支障を抱えていた。今回の調査で後期課程の留学生の日本語会話レベルは従来通りで，前期課程の留学生は「なんとか日常会話ができる」以上が大幅に増えたと見える。しかし，前期課程の回答者は27名と前回の60名よりはるかに少ないため，明確な判断は困難である。今後，本学の国際化がますます進展して全ての研究科・教育部でさらに多くの留学生を迎えることが考えられるが，後期課程の留学生の日本語会話レベルは同様な可能性が高い。留学生自身に日本語習得への努力を促すことは重要だが，さらにその努力に頼ることなく，事務手続き等においては

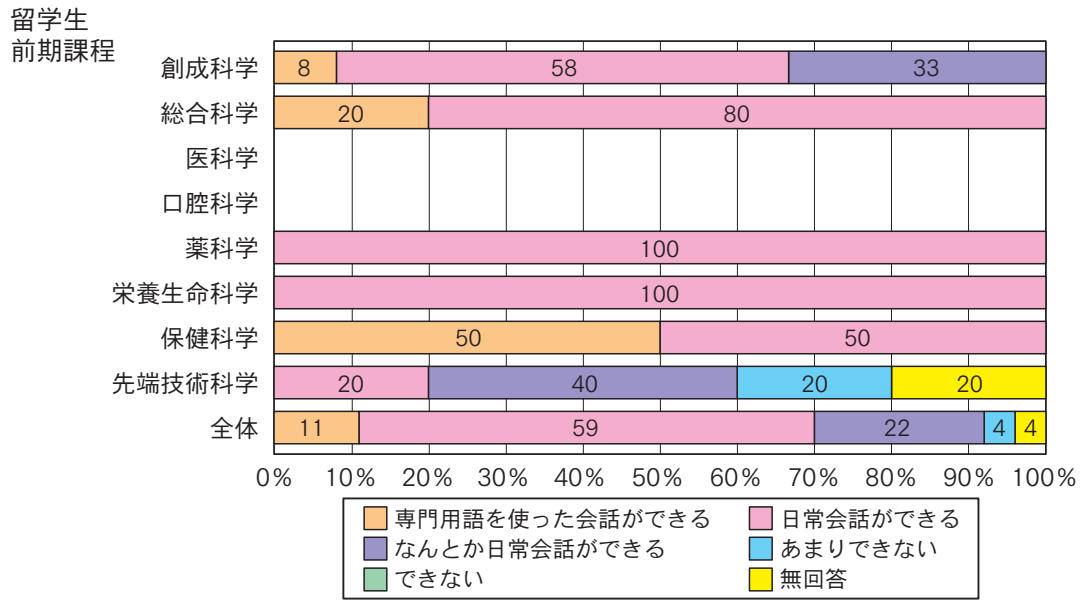


図６－８－１　日本語会話（留学生のみ）

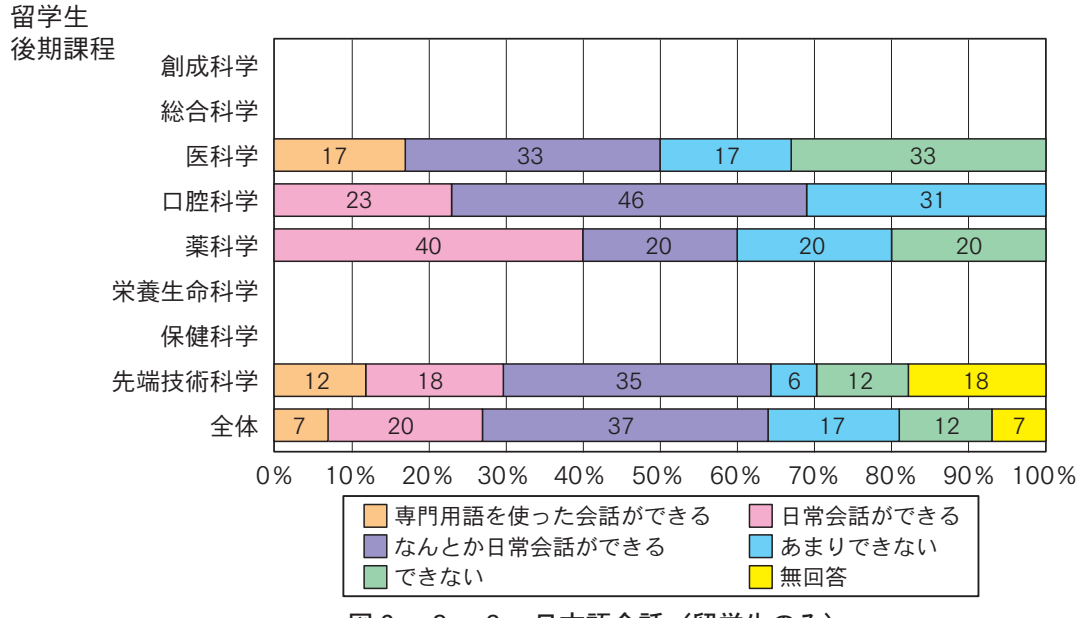


図６－８－２　日本語会話（留学生のみ）

英語による学生のサポートを可能とする体制の整備が必要となるであろう。

今回の調査でも，前期課程では78%，後期課程では81%の留学生が日本語コースを「受講している」，「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており，日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが示された（図６－８－３，図６－８－４）。この日本語コースに対して，前期課程と後期課程ともに100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており，受講生の評価は高い（図６－８－５，図６－８－６）。留学生の日本語能力向上のために，本学で開講されている「日本語コース」は重要な役割を果たしているものと考えられ，今後も現在のレベルより一層の充実化が望まれる。

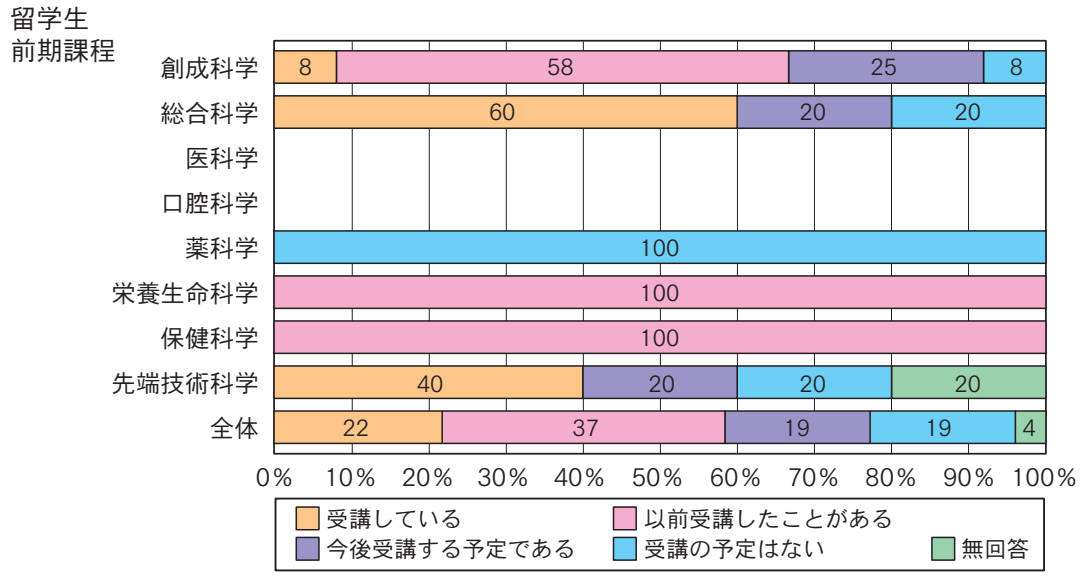


図６－８－３　日本語コースの受講（留学生のみ）

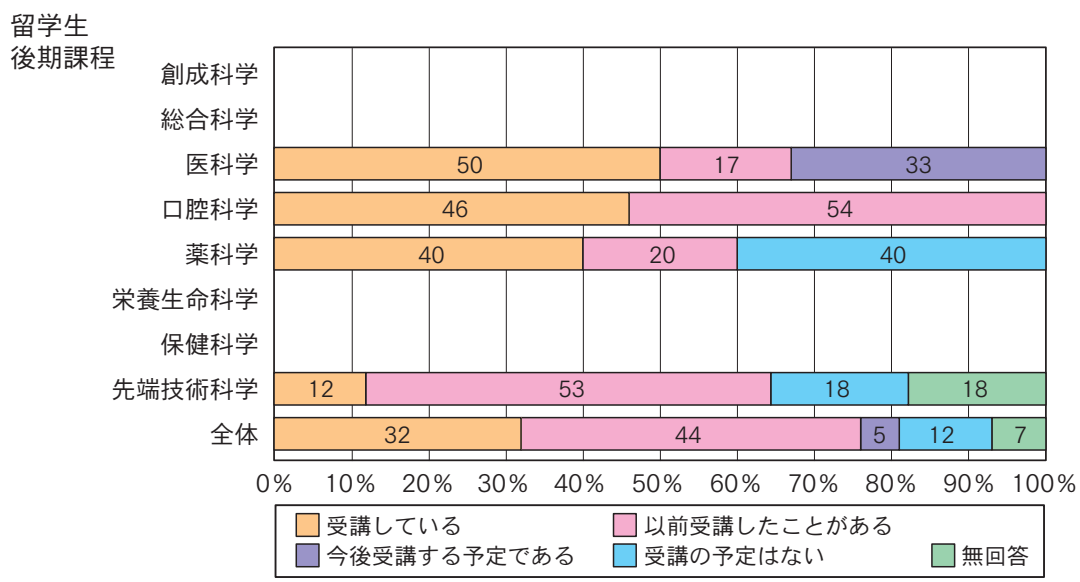


図６－８－４　日本語コースの受講（留学生のみ）

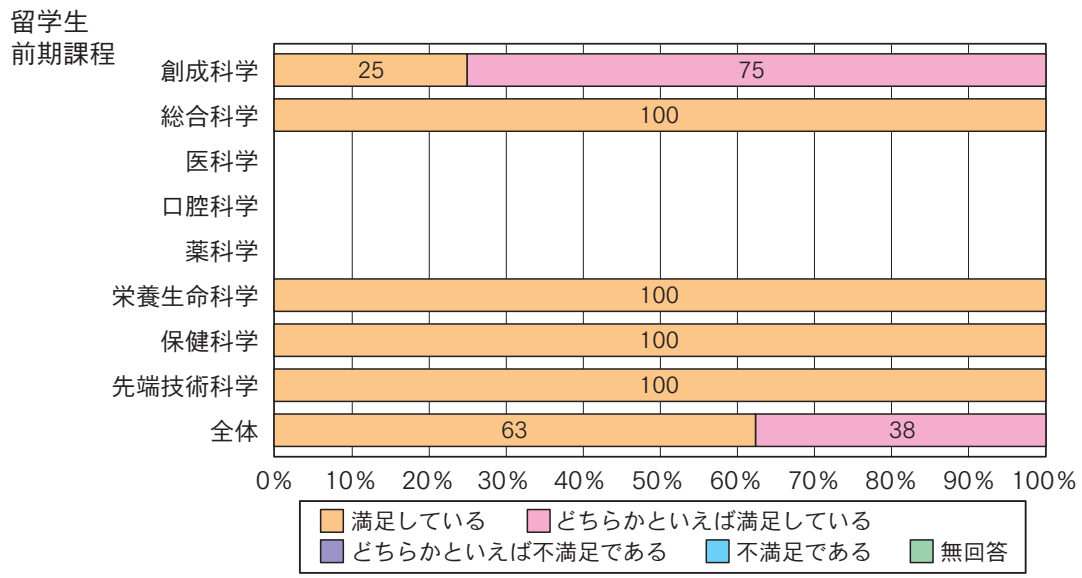


図６－８－５　日本語コースの満足度（留学生のみ）

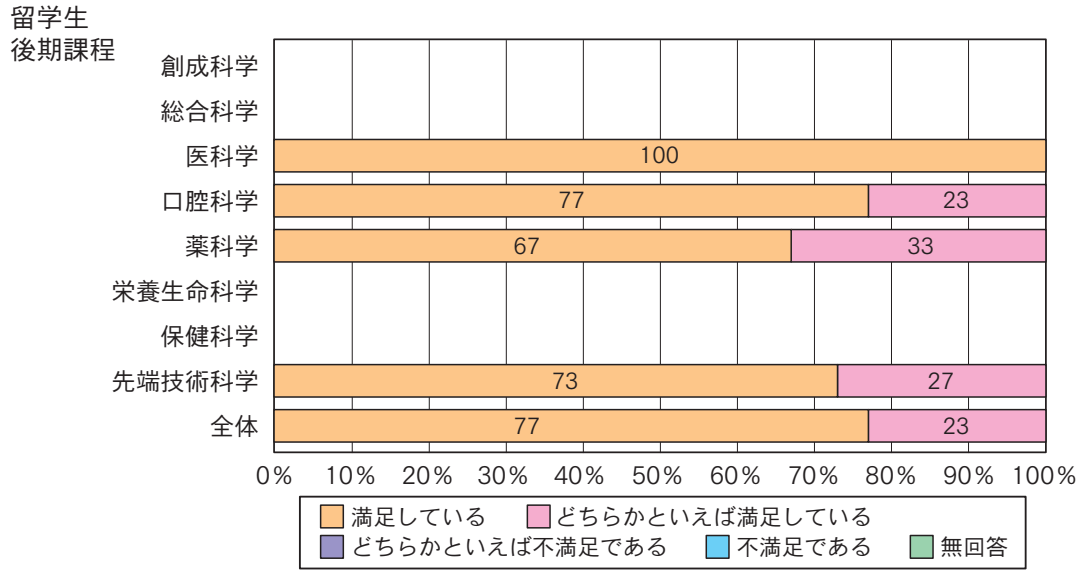


図６－８－６　日本語コースの満足度（留学生のみ）

6－9　本学の教育への期待（図6－9－1～6－9－6）

「あなたの将来のために，本学の教育に何を望みますか」との設問に，6種類の選択肢を設定して回答を得た結果，前期課程と後期課程の両方で，ほぼ均等に意見が分かれた。これと同様な結果が，平成18年度に本調査を始めてから継続的に得られており，学生ごとにニーズの多様性があると考えられ，各学生にきめ細かい対応を行う必要があるものと考えられる（図6－9－1，図6－9－2）。

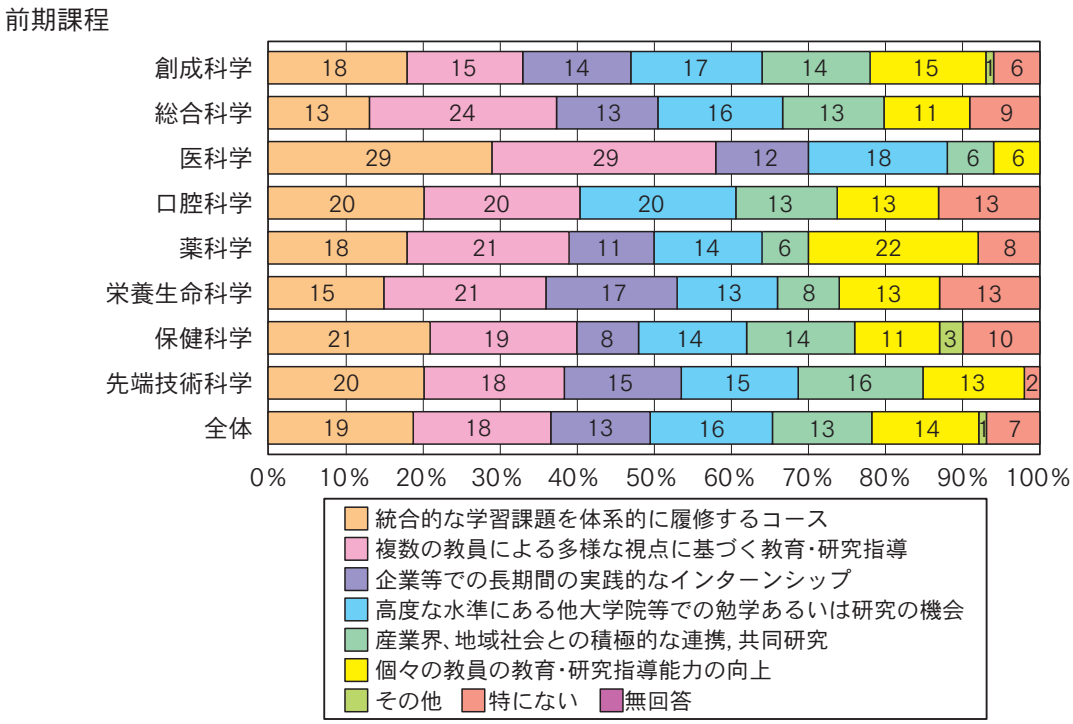


図6－9－1　本学の教育への期待（複数回答可）

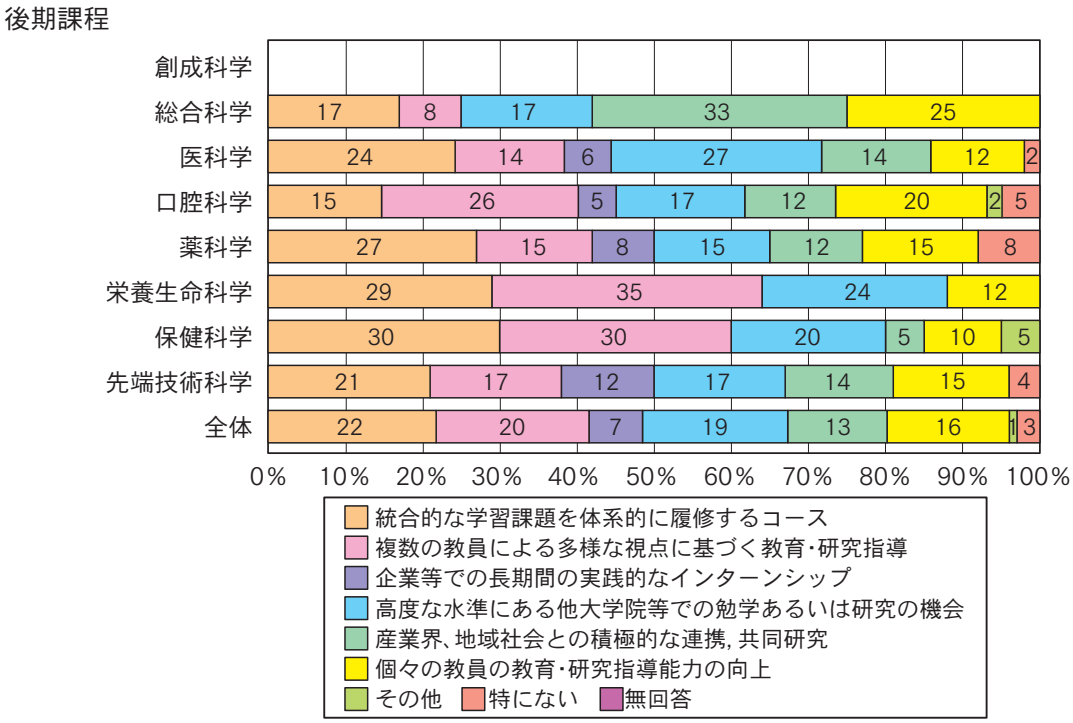


図6－9－2　本学の教育への期待（複数回答可）

次に本学の国際化への対応については，前期課程全体の 73%，後期課程全体の 85%の学生が，「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した（図６－９－３，図６－９－４）。また留学生に注目した場合では，前期課程の 100%，後期課程の 91%が，「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と答えている（図６－９－５，図６－９－６）。今回の結果を第７回調査の結果と比較すると，前期課程は４%ほどの低下が見られたが，後期課程では 10%上昇した。特に，留学生において，両課程ともに評価が上昇していた。従って本学が行っている国際化への対応は大学院生に概ね認識されているものと考えられる。

一方で，６－７でも示した様に，学生側における国際化に必須な英会話能力の習得に向けた学習努力および国際学会への参加や学術調査への取り組み等については低調な結果が得られている。コロナ禍の状況下において学術活動を目的とした渡航が少ないのは仕方がないとしても，語学学習において十分な努力や対応がなされていないのは問題である。今後，大学院生による「本学の国際化への対応」への評価が学生自身の学習意欲の向上と国際的な学術経験に裏打ちされた結果となるよう，さらに各研究科・

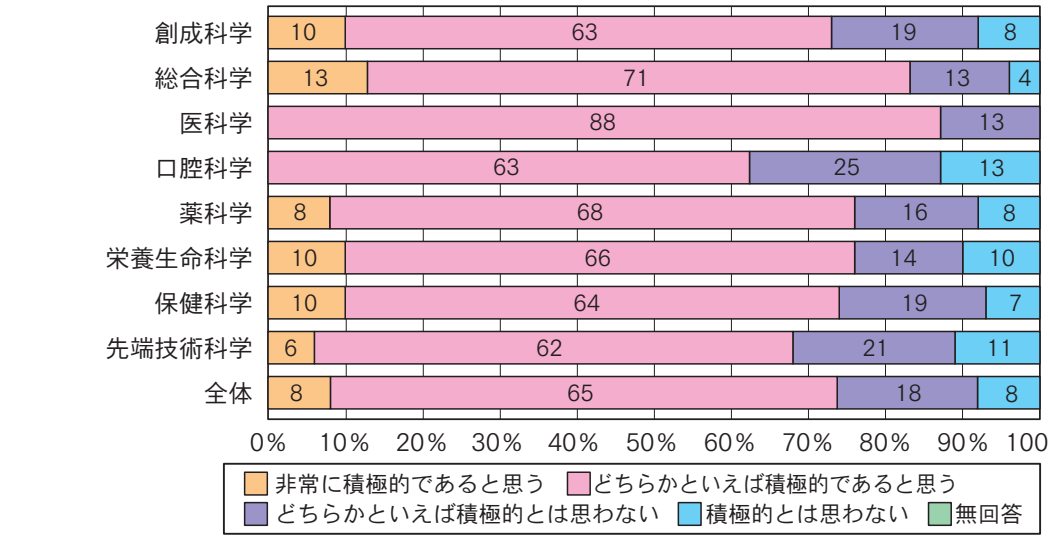


図６－９－３　本学の国際化への対応

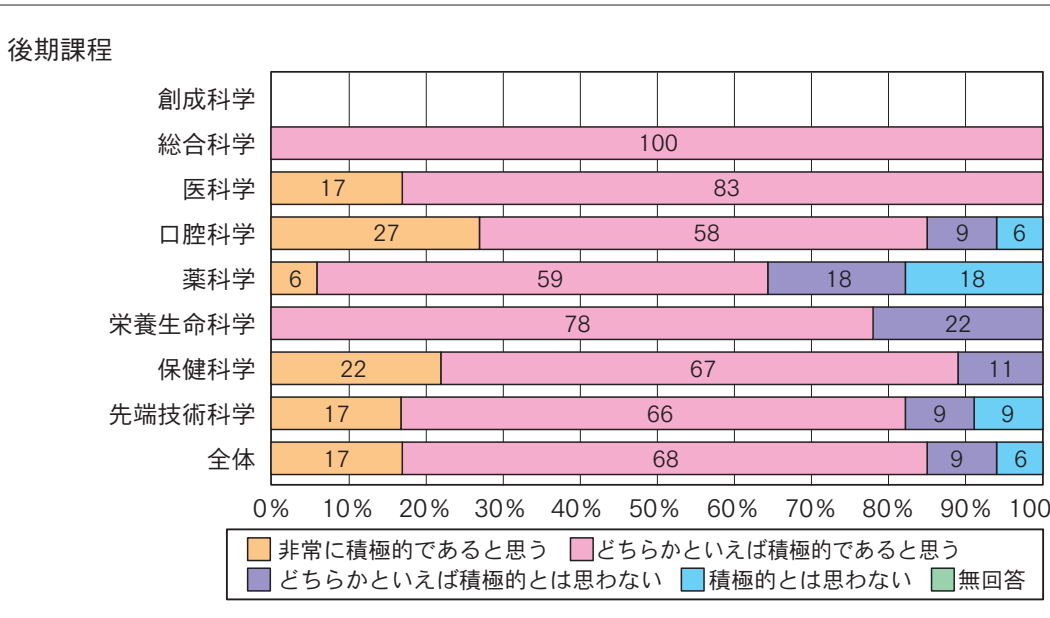


図６－９－４　本学の国際化への対応

教育部の教育カリキュラムの改善・強化を図って，国際的に通用する質の高い大学院教育の提供を目指さなければならない。

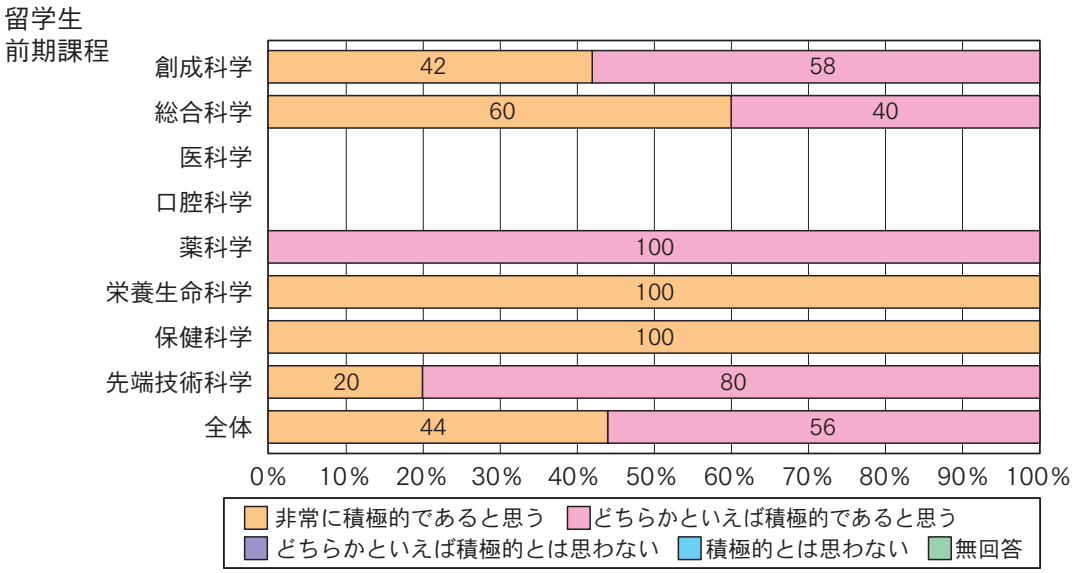


図６－９－５　本学の国際化への対応（留学生のみ）

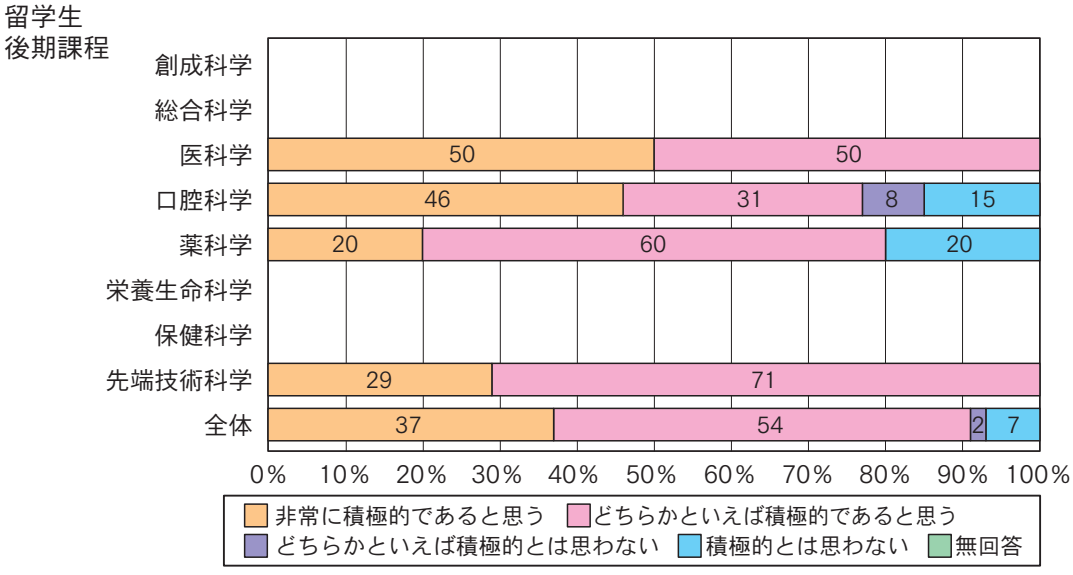


図６－９－６　本学の国際化への対応（留学生のみ）

第７章　進路選択・就職について

７－１　後期課程への進学意思（図７－１－１，図７－１－２）

前期課程学生の後期課程への進学意思について，全体では「進学したい」（11%），「経済的支援があれば進学したい」（７％）で進学を考えている割合の合計は18%となり，前回調査に比べて５％増えているが，「就職したい」（70%）に比して高いとは言えない。教育部別では，「進学したい」の割合が，医科学が最も高く50%，次いで口腔科学（38%），薬科学（26%），保健科学（24%）の順で医歯薬系の割合が高い。一方，常三島地区の教育部･研究科はいずれも10%未満と低い。「経済的支援があれば進学したい」の割合は３～17%であり，経済的な問題が解決されれば進学希望者を1.2～２倍程度まで増やす効果が期待できる。特に総合科学は，進学を肯定的に考えている者の全てが「経済的支援があれば」

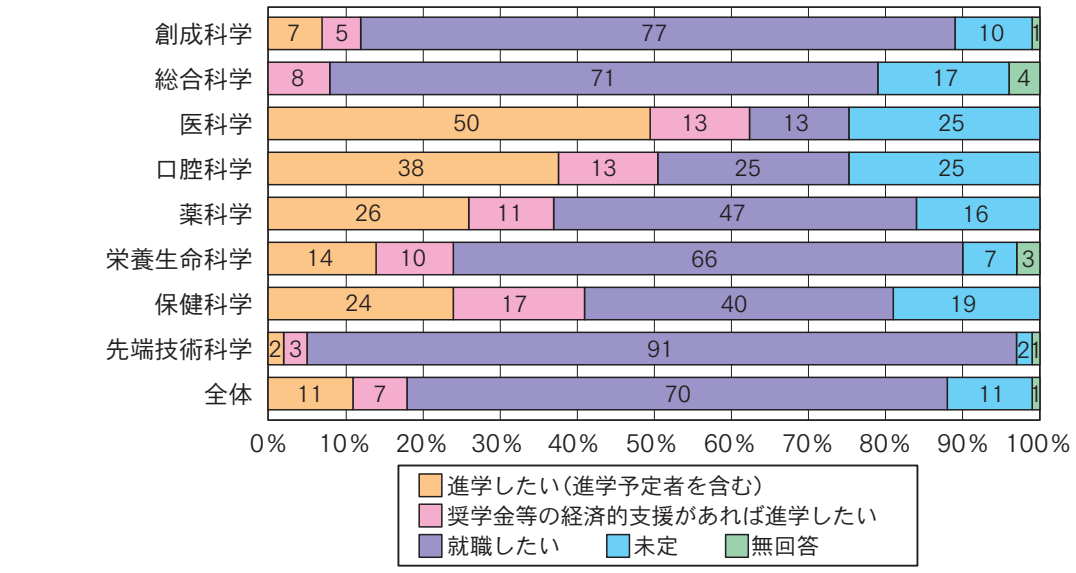


図７－１－１　後期課程への進学意思

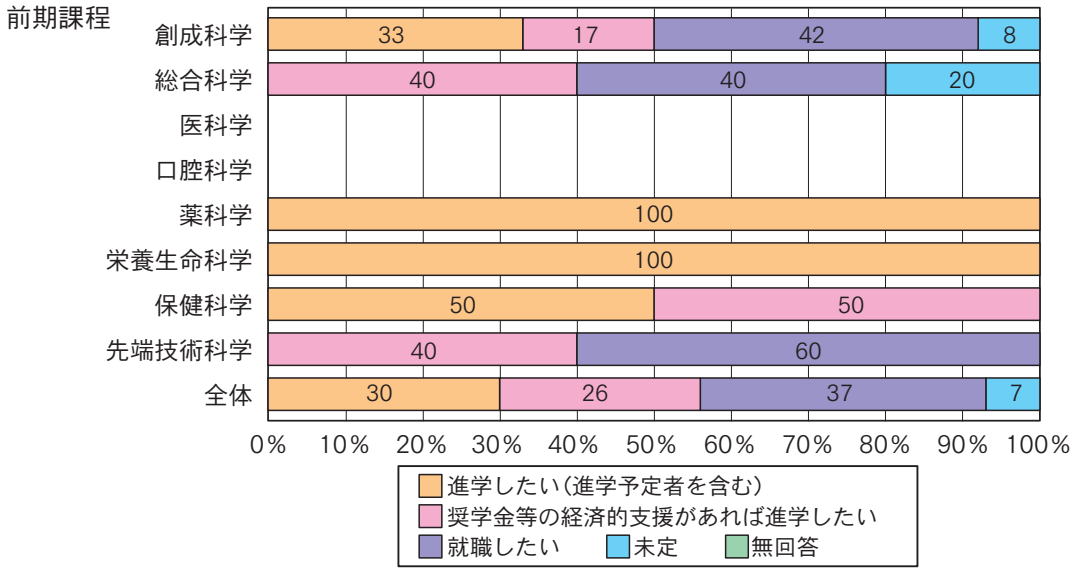


図７－１－１　留学生の後期課程への進学意思

の条件付きとしている。

留学生については，全体では「進学したい」（30%）が日本人学生の約３倍，「経済的支援があれば進学したい」（26%）が日本人学生の約４倍となっており，日本人学生に比較して後期課程への進学意欲は高い。

７－２　進学希望先（図７－２－１，図７－２－２）

進学意思（「進学したい」「経済的支援があれば進学したい」）を示した学生（71 名）の進学希望先大学院調査である。全体で 75%が本学の，また８％が他大学の後期課程に進学することを希望している。医科学，口腔科学では全員が本学の後期課程への進学を希望している。一方，総合科学，栄養生命科学，先端技術科学では未定としたものが多く，進学先選択のための相談・指導体制の必要性が示唆される。

留学生の場合，47%が本学の，また 13%が他大学への進学を希望しており，日本人学生と比較して他大学を希望する傾向が高いが，未定としているものも多い。

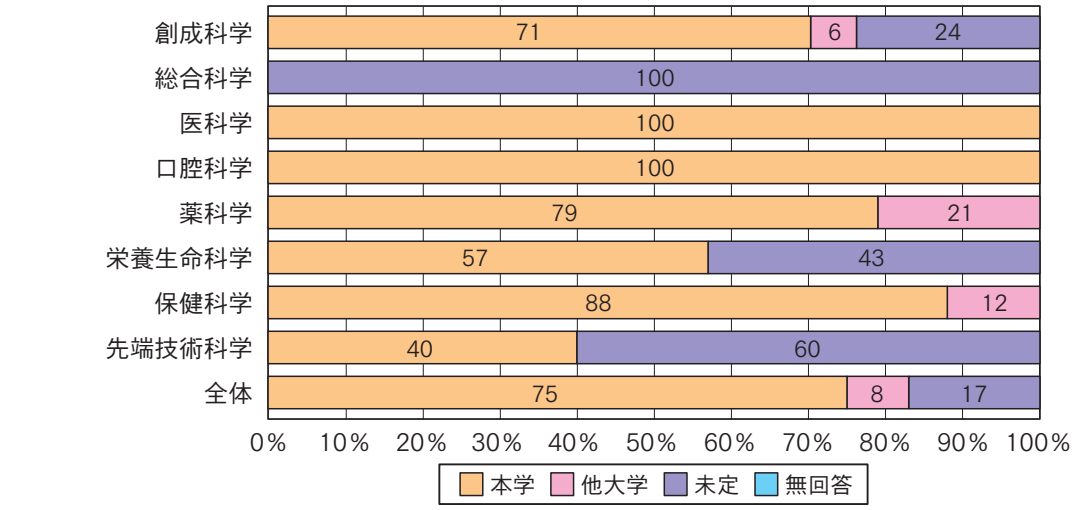


図７－２－１　進学希望先

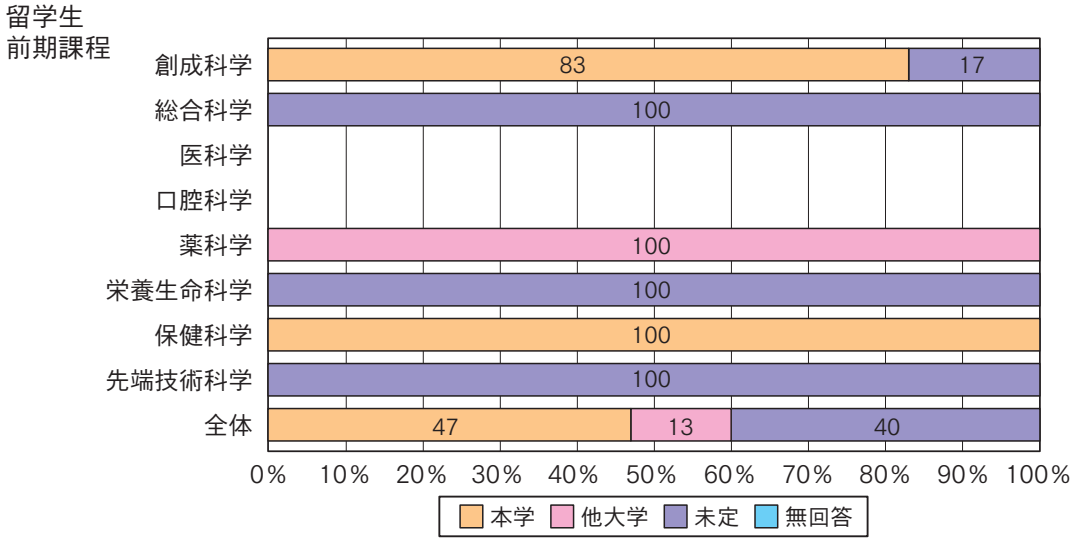


図７－２－２　留学生の進学希望先

7－3　就職希望職種（図7－3－1～図7－3－4）

図7－3－1は，項目7－1で「就職したい」「未定」と答えた前期課程の学生（310名）の就職希望職種である。前期課程の場合，前出の図7－1－1より分かるように，「就職したい」あるいは「未定」と答えた学生の比率は，高い順に①先端技術科学（93%），②総合科学（88%），③創成科学（87%），④栄養生命科学（73%），⑤薬科学（63%），⑥保健科学（59%），⑦口腔科学（50%），⑧医科学（38%）である。

各教育部における主な希望職種は，①先端技術科学：「技術職」（73%），「企業等の研究職」（6%），②総合科学：「専門職（医師等）」（29%），「事務職」（18%），③創成科学：「技術職」（49%），「企業等の研究職」（23%），④栄養生命科学：「企業等の研究職」（31%），「専門職（医師等）」（22%），「技術職」（17%），⑤薬科学:「専門職（医師等）」（21%），「企業等の研究職」（18%），「公務員」（18%），⑥保健科学：「専門職（医師等）」（41%），「技術職」（22%），⑦口腔科学：「公務員」（29%），「既に就職している」（29%），⑧医科学：「既に就職している」（67%），「公務員」（33%），となっている。

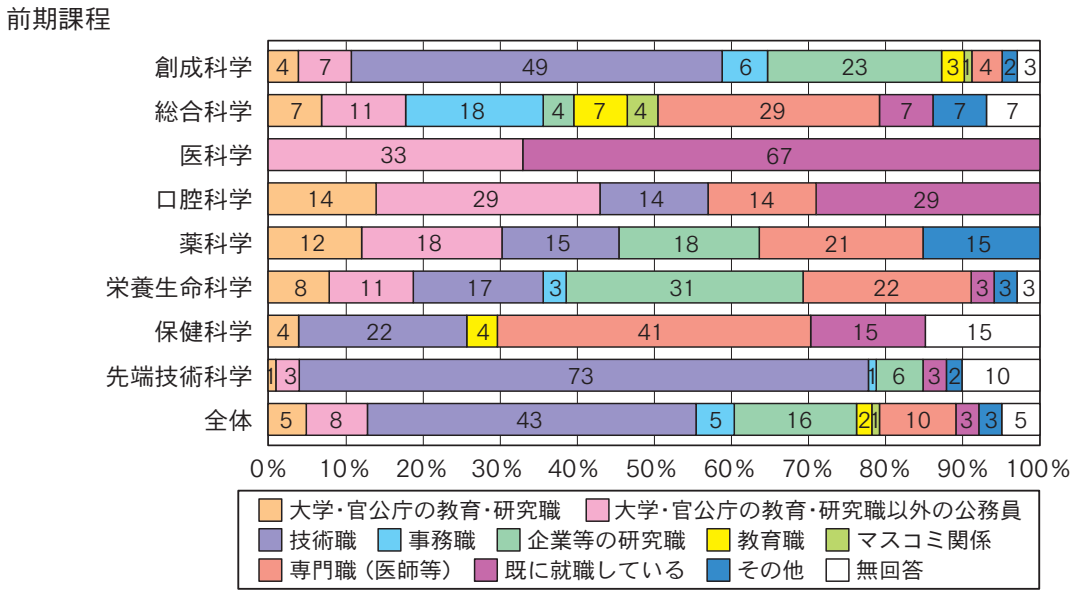


図7－3－1　就職希望職種（複数回答可）

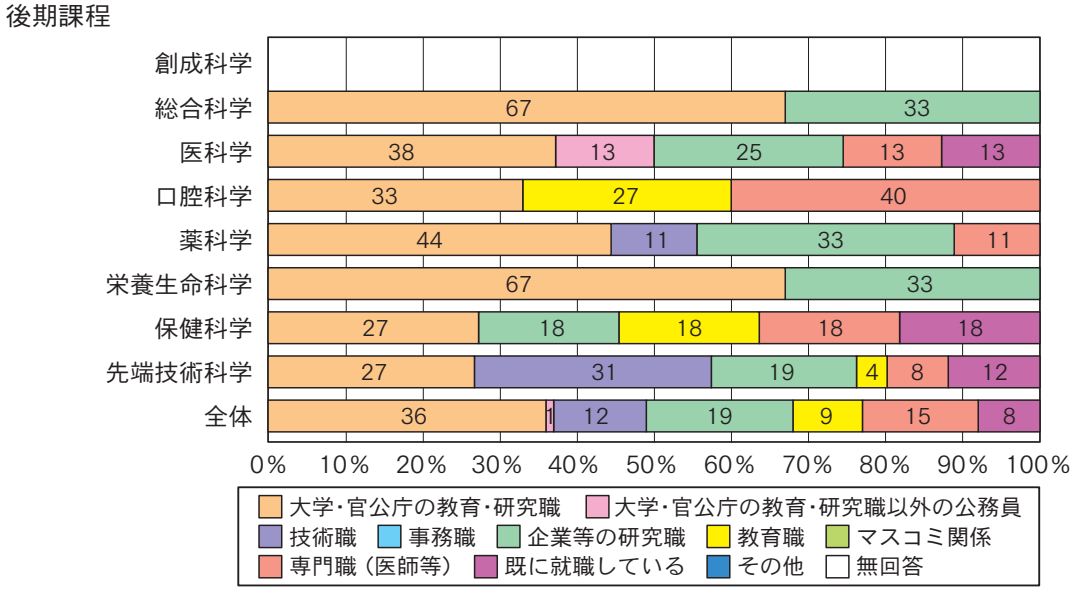


図7－3－2　就職希望職種（複数回答可）

図７－３－２は後期課程の学生（132 名）に就職希望職種を尋ねたものである。全体では，「大学・官公庁の教育・研究職」（36%）を希望している学生が３分の１強おり，「企業等の研究職」（19%），「専門職（医師等）」（15%），「技術職」（12%）に分散している。口腔科学や保健科学で「教育職」が，先端技術科学で「技術職」がやや目立つ。

留学生に関しては，前期課程の回答者は 27 名（創成科学 12 名，総合科学５名，薬科学２名，栄養生命科学１名，保健科学２名，先端技術科学５名）であり，後期課程の回答者は 41 名（医科学６名，口腔科学 13 名，薬科学５名，先端技術科学 17 名）である。前期課程では「無回答」（22%）が最も多く，「技術職」，「事務職」，「企業等の研究職」がいずれも 17%となっている。後期課程では「大学・官公庁の教育・研究職」（42%），「専門職（医師等）」（21%）となっている。

今回の調査では，日本人学生，留学生いずれについても前期課程で無回答が一定程度存在している。

後述のように，本学ではキャリア支援室を中心として就職支援に力を注いでいるところではあるが，このように明確な就職志望を形成できない学生に対するケアが今後必要になるかもしれない。

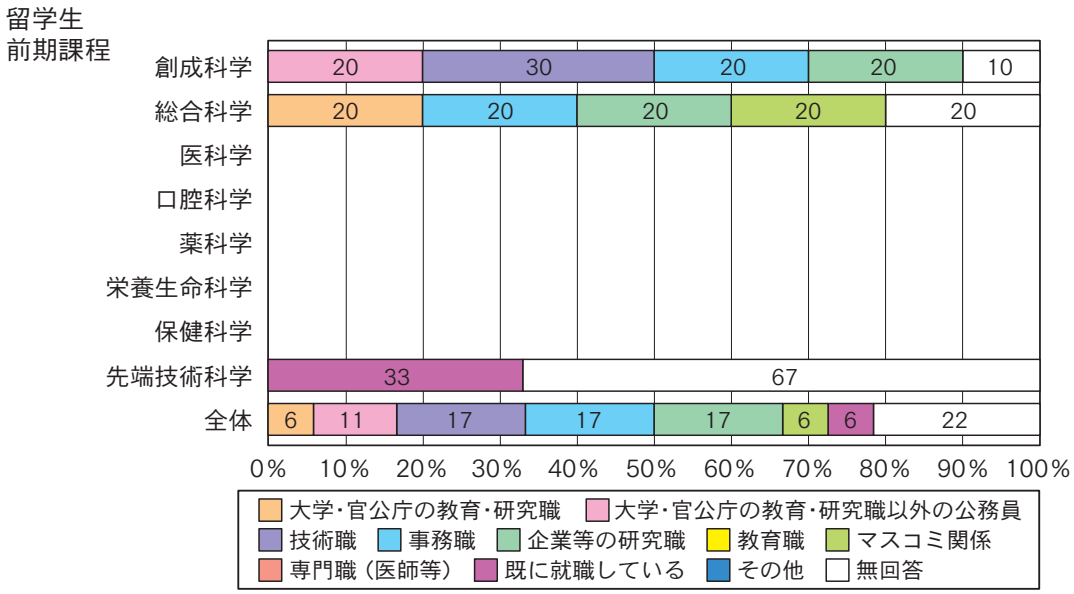


図７－３－３　留学生の就職希望職種（複数回答可）

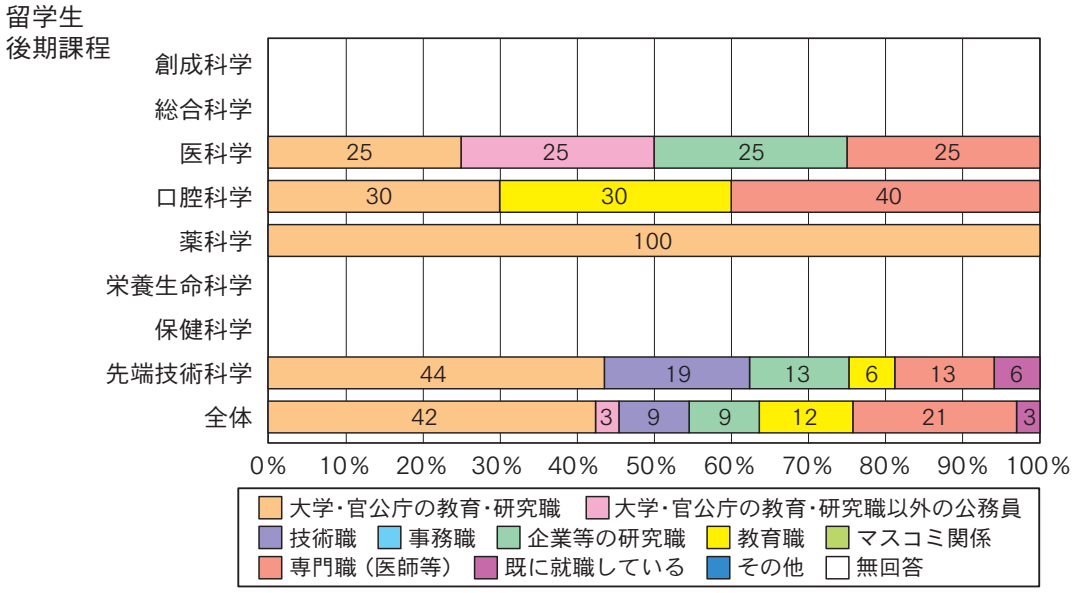


図７－３－４　留学生の就職希望職種（複数回答可）

7－4　進路選択の要件（図7－4－1～図7－4－4）

図7－4－1は前期課程の学生に進路選択で重視する要件を尋ねたもので3個以内の複数回答結果である。全体では「就職先の将来性・安定性」（25%）が最高比率を示し，「収入」（23%），「能力を発揮できること」（17%），「勤務地の地理的条件」（12%）が続いている。全ての研究科・教育部においてほぼ同様の傾向が見られるが，医科学では「就職先の将来性・安定性」（35%），「能力を発揮できること」（30%）が他の研究科・教育部と比較して高いことが特徴的である。

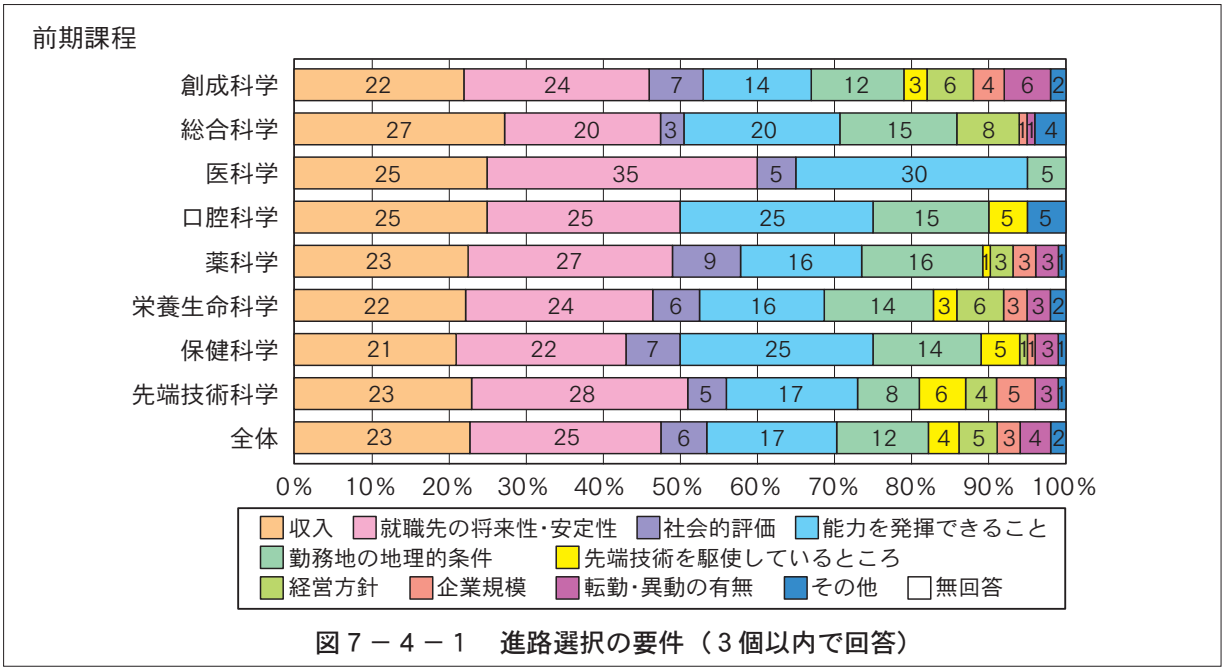


図7－4－1　進路選択の要件（3個以内で回答）

図7－4－2は後期課程の学生に進路選択で重視する要件を尋ねたものである（3個以内で回答）。全体では，「能力を発揮できること」（24%），「収入」（23%），「就職先の将来性・安定性」（19%）が重視されており，前・後期課程ともこれら3つが共通して重視されている傾向がある。

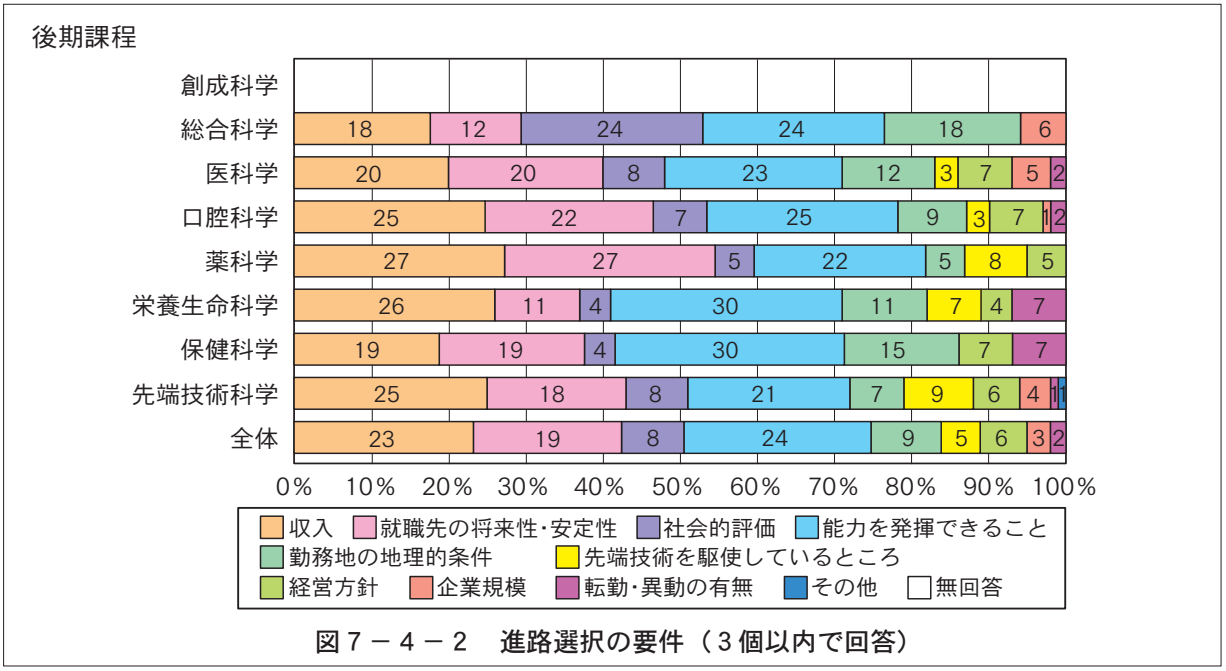


図7－4－2　進路選択の要件（3個以内で回答）

留学生においても（図7－4－3および図7－4－4），前・後期課程とも「収入」，「就職先の将来性・安定性」，「能力を発揮できること」が主要件となっており，日本人学生と類似した傾向がある。

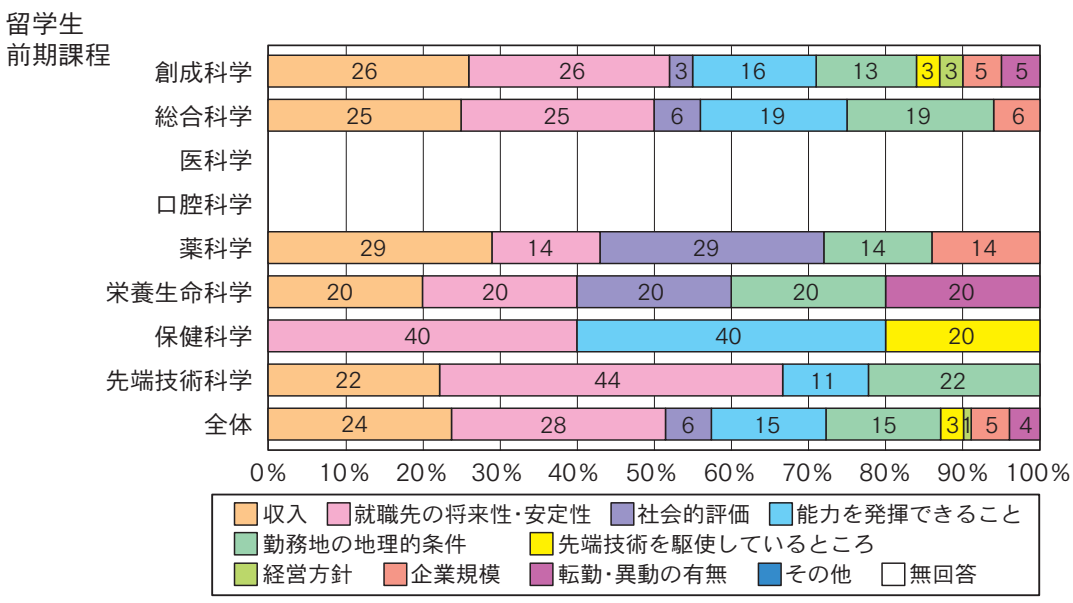


図７－４－３　留学生の進路選択の要件（３個以内で回答）

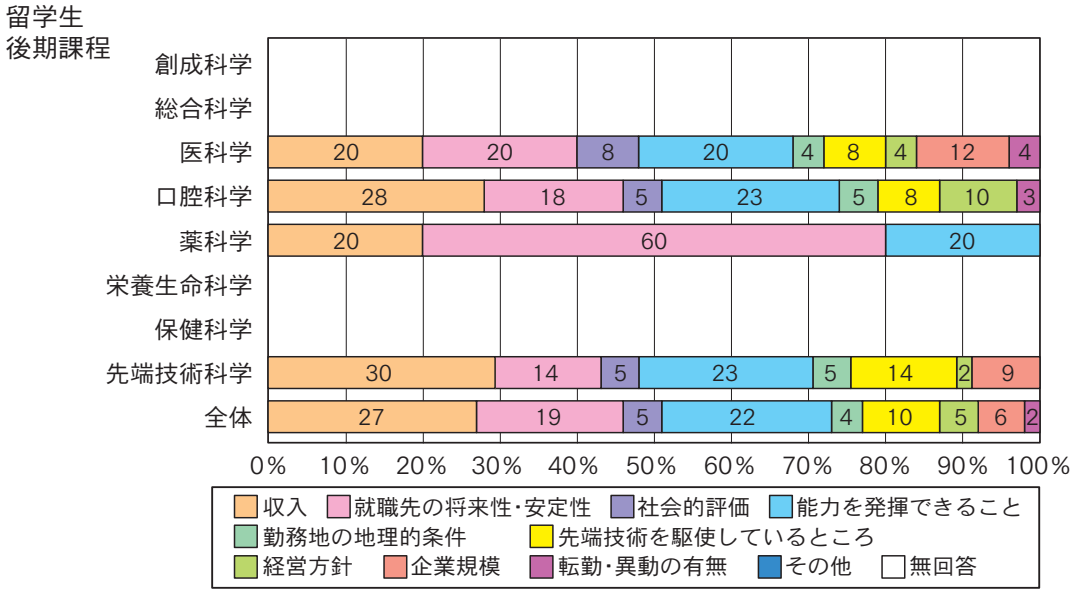


図７－４－４　留学生の進路選択の要件（３個以内で回答）

７－５　進路選択の情報入手手段（図７－５－１～図７－５－４）

進路情報の入手手段においては，前・後期課程ともに「Ｗｅｂ・インターネット」がそれぞれ27%，28%と最高比率を示しているが，前期課程においては前回調査（34%）から下げており，他の手段に分散している。前期課程ではこれに「先輩・知人」（24%），「指導教員」（13%）が続くが，後期課程においては順位が逆転して「指導教員」（23%），「先輩・知人」（18%）となっている。また，前・後期課程ともに「就職情報誌・新聞・マスコミ」（ともに10%）がそれに続いている。大学院生の場合，専門性の高さから「指導教員」の役割が大きいと想像されるが，調査結果においても後期課程は前期課程に比べ「指導教員」の占める割合が高い。ただし，この調査は複数回答可であるため，実態としてはここに記した多数を占める４つの手段から総合的に情報入手していると思われる。

留学生においても，全体としては日本人学生とほぼ同様の傾向が見られたが，後期課程については「大

学内資料」が14%で「Ｗｅｂ・インターネット」(25%),「指導教員」(20%)に次いで多く，キャリア支援室や国際課における情報提供がある程度有効に機能しているものと思われる。

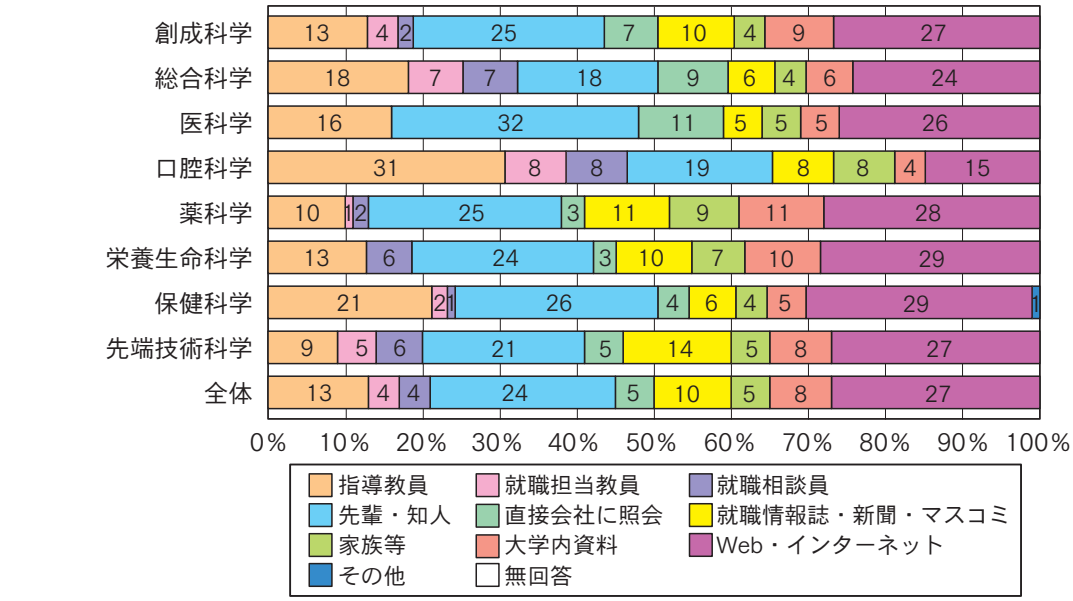


図７－５－１　進路選択の情報入手手段（複数回答可）

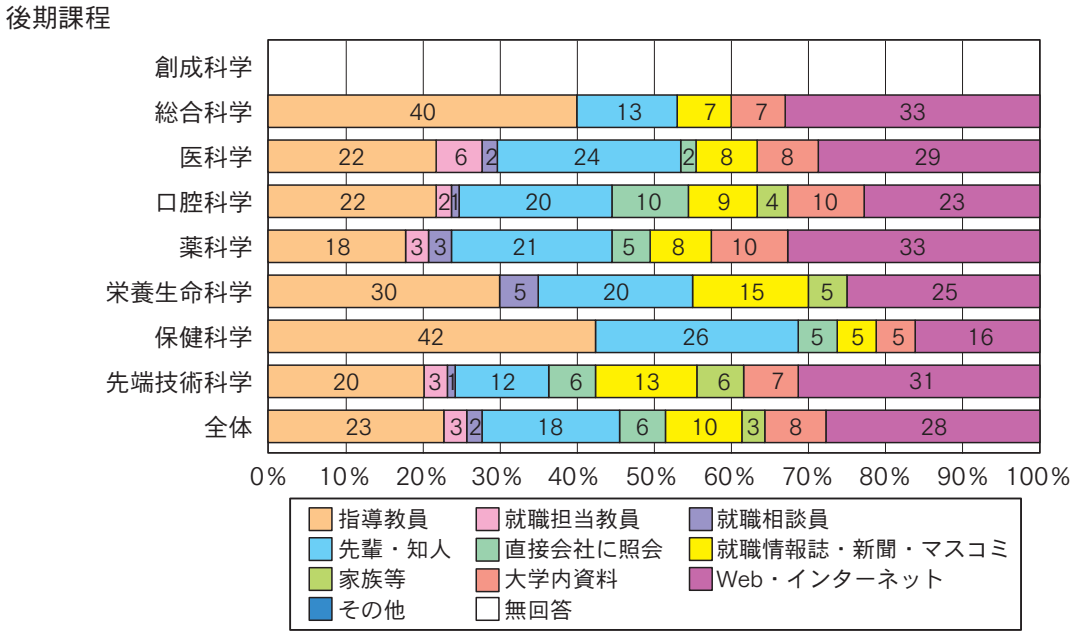


図７－５－２　進路選択の情報入手手段（複数回答可）

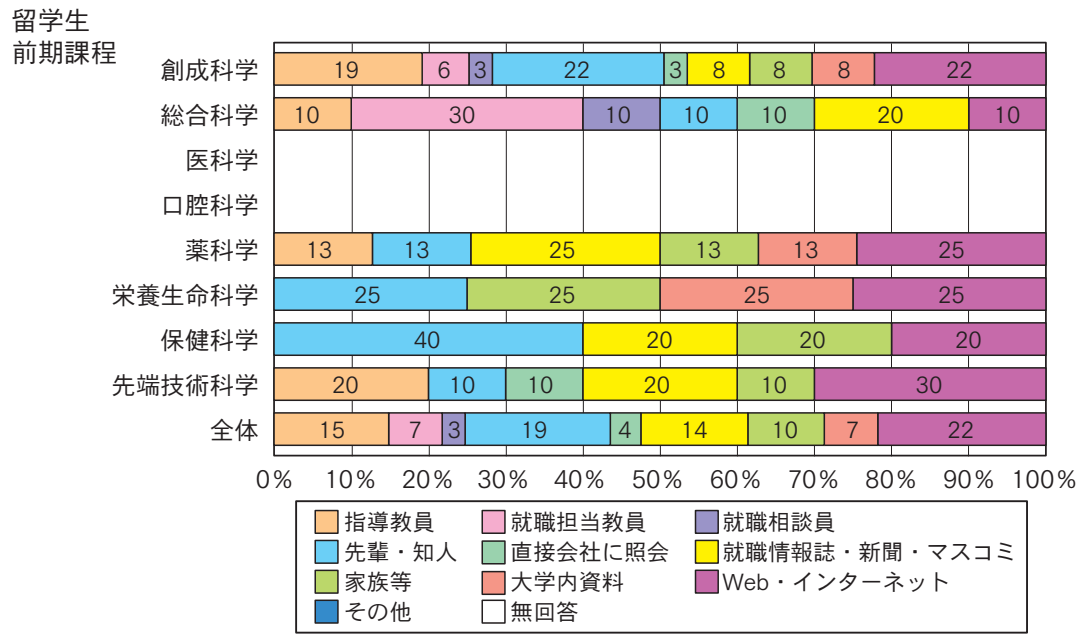


図７－５－３　留学生の進路選択の情報入手手段（複数回答可）

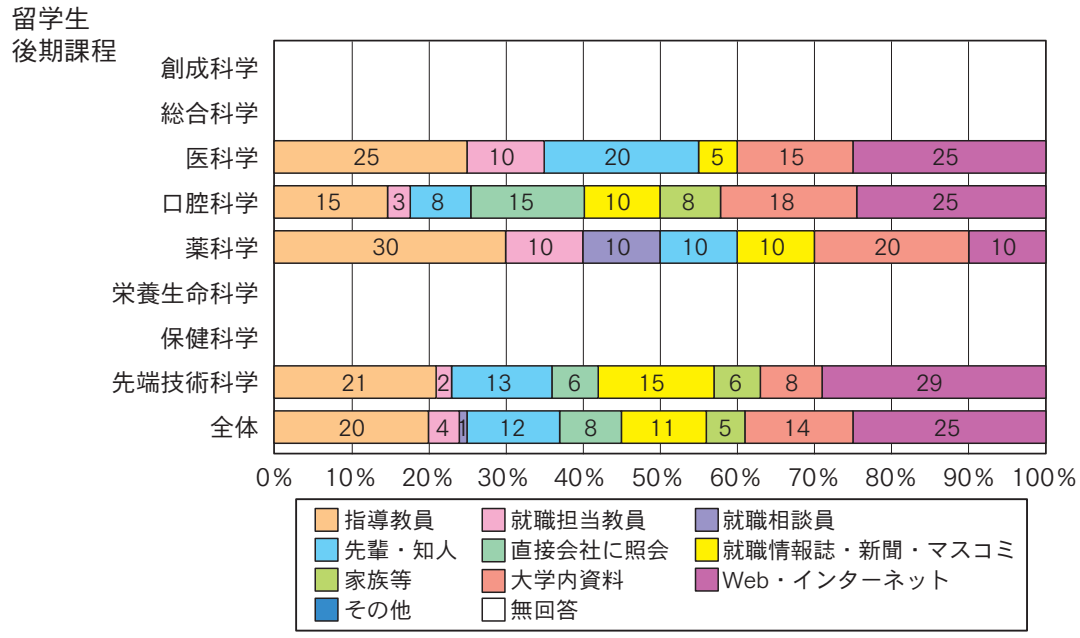


図７－５－４　留学生の進路選択の情報入手手段（複数回答可）

７－６　キャリア支援室の利用状況（図７－６－１～図７－６－４）

キャリア支援室の利用状況について，全体では前期課程で59%が，後期課程で83%が「利用したことがない」と回答しており，値だけ見れば利用率は必ずしも高いとは言えない（図７－６－1,7－６－２）。研究科･教育部別に「利用したことがない」の割合を見ると，前期課程では医科学，保健科学が９割近く，創成科学，総合科学，口腔科学，薬科学で６～７割程度，栄養生命科学，先端技術科学が４～５割程度となっている。後期課程では，薬科学（53%），栄養生命科学（67%）を除いていずれも８割以上となっている。本学大学院生は，専門性の高い資格を求められる専門職（医師等）や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く，そうした求人・就職情報は実態として各研究室や教育部経由で入

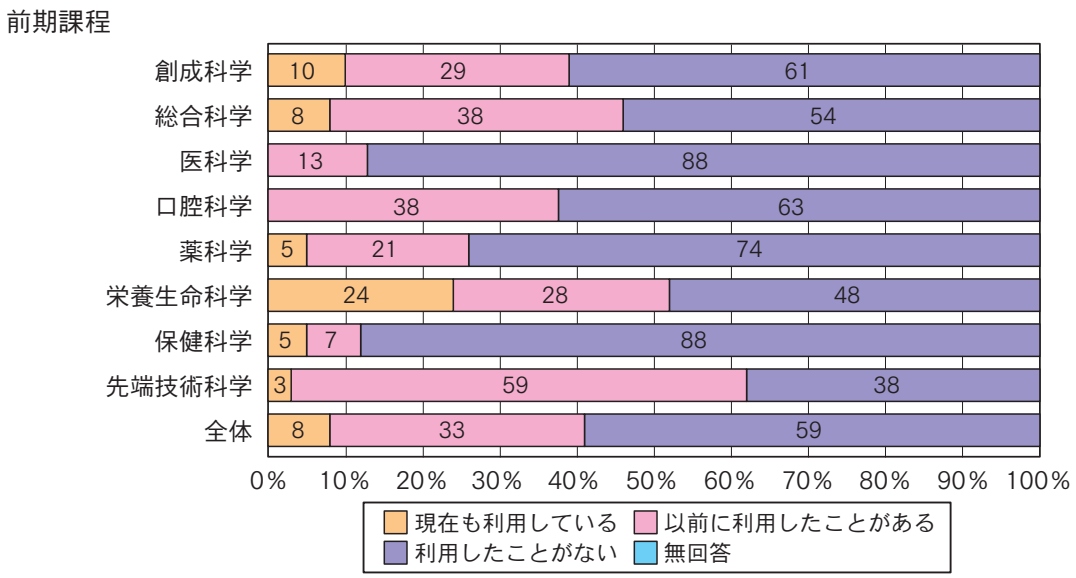


図７－６－１　キャリア支援室の利用状況

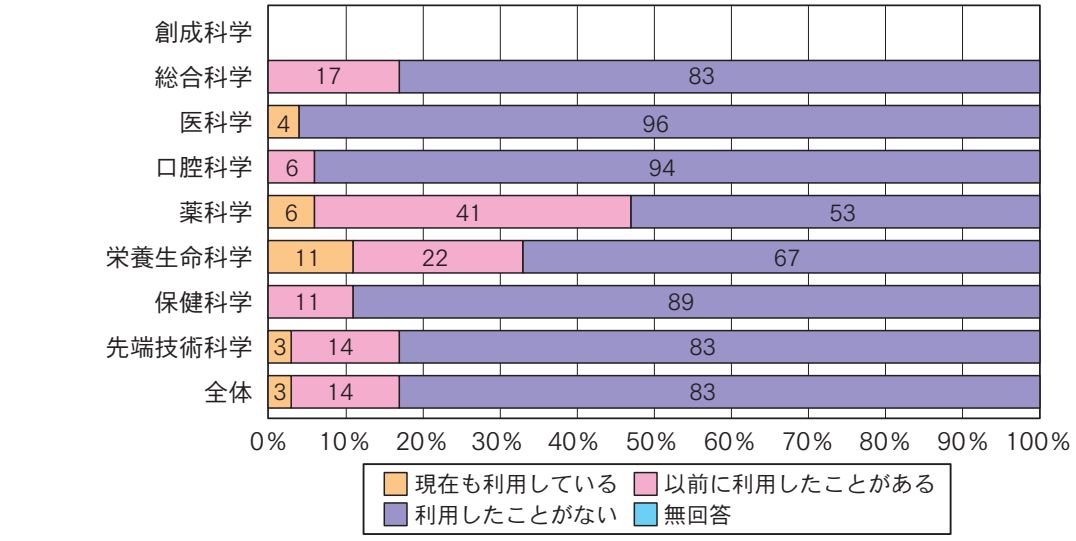


図７－６－２　キャリア支援室の利用状況

手される場合も多い。そのような背景の中，前回の調査結果とほぼ同様の利用率であったことから，キャリア支援室の提供するガイダンスや企業説明会など開催およびその周知努力により，継続して利用率が維持されているものと思われる。

留学生については，特に前期課程では日本人学生に比べて利用率が低いが，語学や文化など特異な支援項目もあり，国際課にも支援を求めながら就職活動が行われているものと思われる。

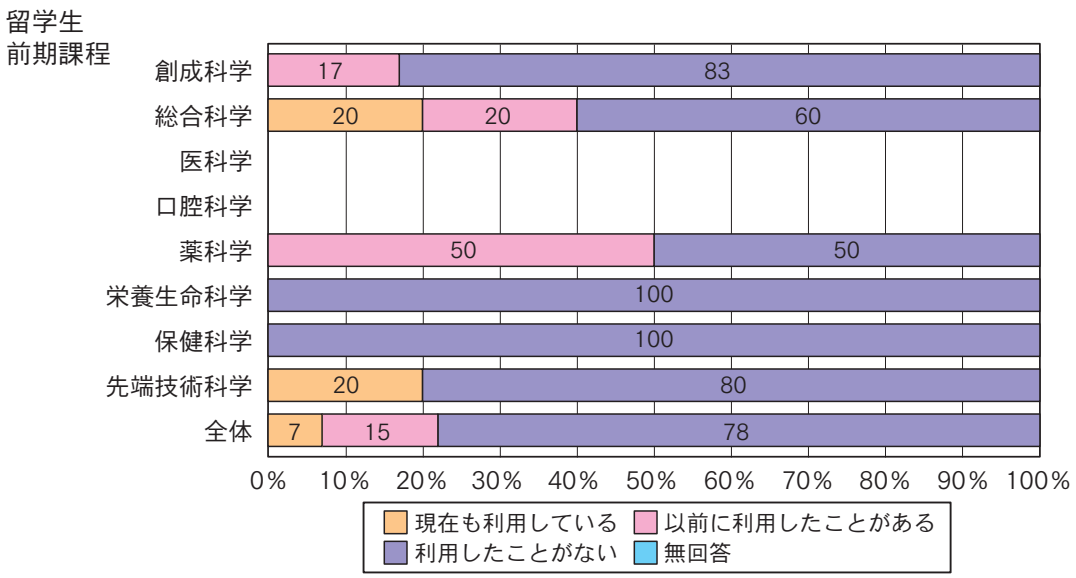


図７－６－３　留学生のキャリア支援室の利用状況

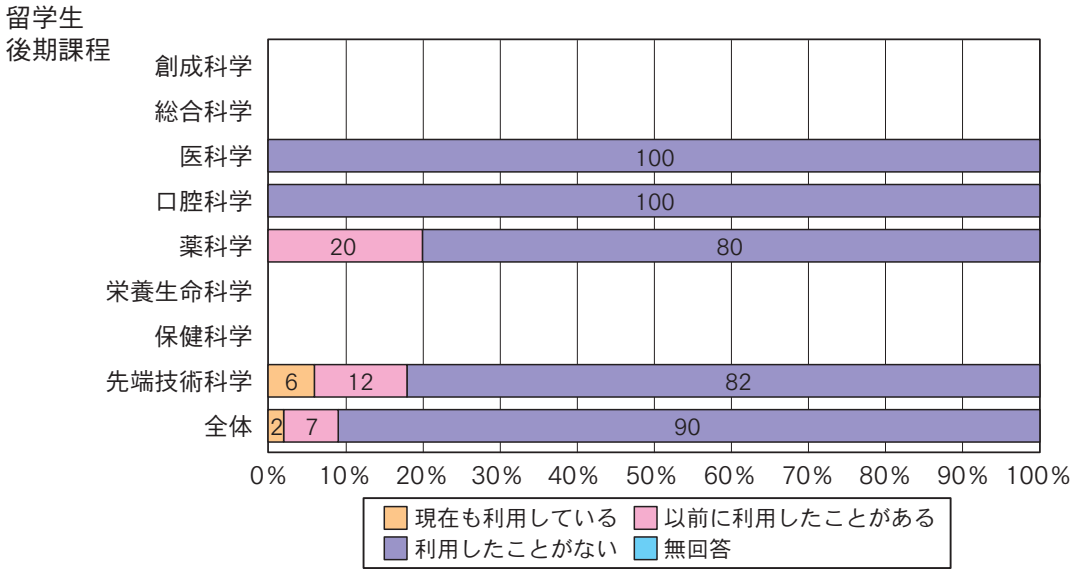


図７－６－４　留学生のキャリア支援室の利用状況

７－７　就職に関する大学への要望（図７－７－１～図７－７－４）

本質問・要望（複数回答）については延べ947件を数え，選択肢としたすべての項目について要望が寄せられている。ただし，キャリア支援室側から見ると，今回選択肢とした項目はいずれもキャリア支援室において既に取り組んでいるサービスでもある。前項目７－６で示されたように，キャリア支援室の利用状況は前回調査時の状態を維持してはいるものの，改善の余地は認められる。より一層広く学生に利用を呼びかけ内容周知が徹底すれば，学生にとって貢献度の高い情報提供となると考えられる。

以下に各要望に対する現状と対応等についてそれらの概略を示す。

①要望１（就職関係書籍）：学生目線に立った書籍を備えるように，学生からの意見も聴きながら多種多様な就職関係書籍を増やしている。また，図書館にも就職関係書籍があるが，連携しながら双方で必要な図書が閲覧できる体制を新たに構築している。

②要望２（面接対策・履歴書の書き方）：面接対策・履歴書の書き方指導等は支援室の主業務の一つであり，専門のキャリアカウンセラー等による就職相談や就職ガイダンス等で繰り返し提供している。蔵本地区でも平日毎日開室するとともに，令和２年度から常勤のキャリアコーディネーターを１名増員し，予約外の相談にも対応するなど相談体制を強化している。また，就職相談の内容を分析した上で，キャリア支援室のセミナーやガイダンスに重点項目として反映している。

③要望３（試験対策）：キャリア支援室と徳島大学生協の共催により，本学では公務員講座を開講している。また，集団面接や筆記試験に対してはキャリア支援室で独自のガイダンスを企画しており支援に努めている。

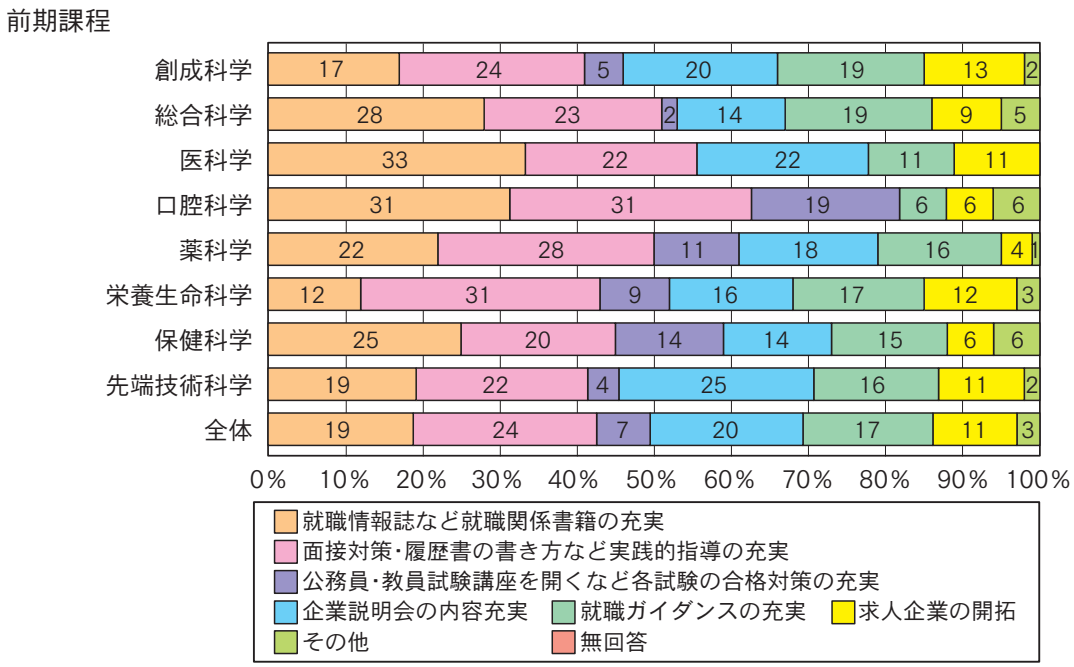


図７－７－１　就職に関する大学への要望（複数回答可）

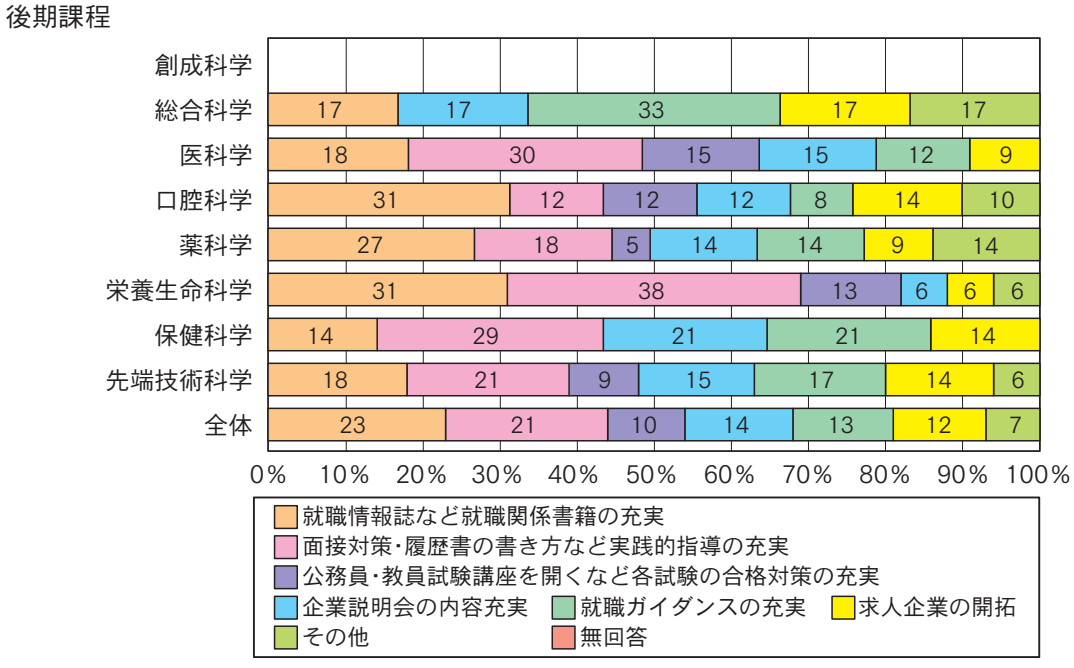


図７－７－２　就職に関する大学への要望（複数回答可）

④要望４＆５（企業説明会＆就職ガイダンス）：年間を通じてガイダンス・セミナーを開催し，スタイルもよりきめ細やかな支援を目標に少人数型やワークショップ型をより多く提供している。また，ＯＢ・ＯＧ紹介，内定者による就職活動報告会及び学内での個別企業説明会や合同企業説明会の開催，県外で開催される合同企業説明会へ参加するバスツアーなども企画している。なお，毎年保護者に対する説明会も開催し，好評をいただいている。

⑤要望６（企業開拓）：各教育部ならびにキャリア支援室での継続的な努力により徐々に受入れ企業等が増加しつつある。また，平成28年度から令和元年度にかけて雇用主インタビューを実施し，企業側の求める学生像をより詳しく把握することで学生に対するキャリア支援業務に反映している。さらに，

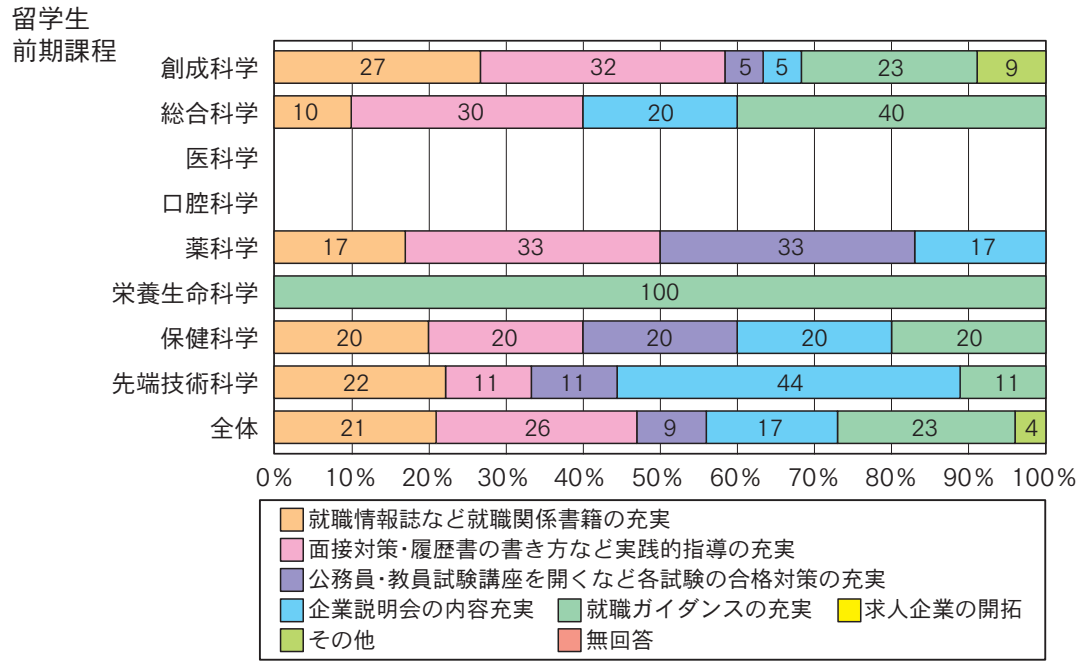


図７－７－３　留学生の就職に関する大学への要望（複数回答可）

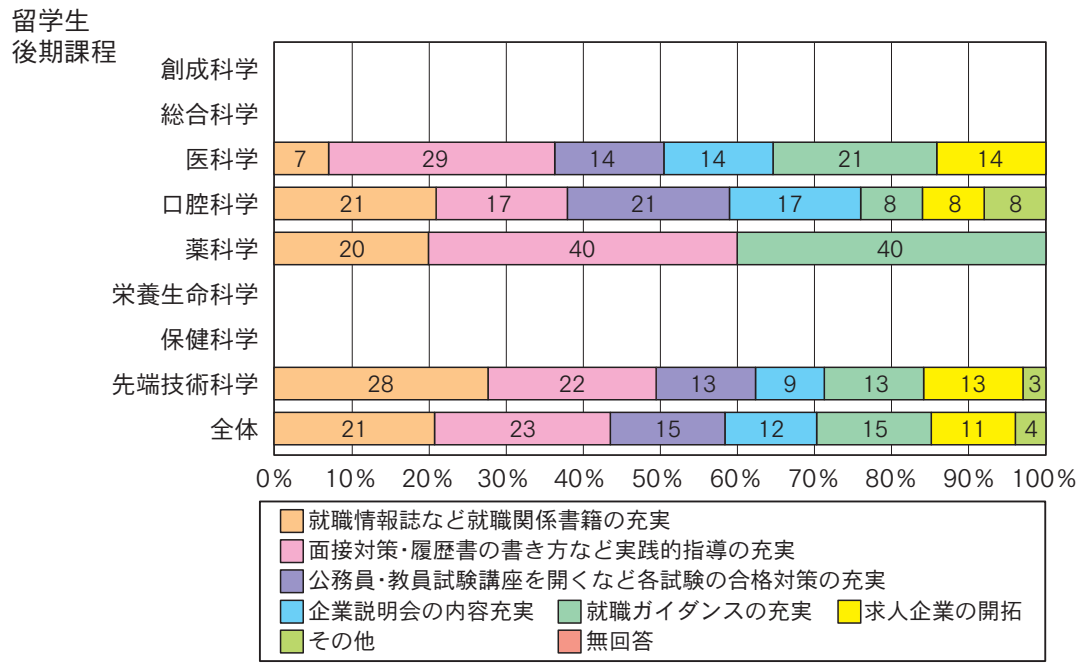


図７－７－４　留学生の就職に関する大学への要望（複数回答可）

キャリア支援室企業情報システムを構築し，来室企業や提携インターンシップの情報をＷｅｂで閲覧可能にすることで，学生の職業観の醸成及び県内企業認知度向上に役立てている。

留学生については，回答数が少ないために部局によっては要望内容に偏りがみられるものの，総じて前・後期課程ともに，日本人学生の場合と同様な傾向が見られる。今後，国際課との連携をより一層強くしていく必要がある。

これまでの分析結果をもとに，①後期課程への進学意思と進学希望先，②就職希望職種と進路選択要件，③就職情報の入手手段，④キャリア支援室の利用状況，⑤就職に関する大学への要望，の５項目に整理し，それらのまとめを以下に示す。

①　後期課程への進学意思と進学希望先

前期課程学生の後期課程への進学意思は，前回調査に引き続き全般的に高いとは言えない。しかしながら，経済的な問題が解決されれば進学希望者をかなりの程度増やす効果があるものと考えられる。

留学生については，日本人学生に比較して後期課程への進学意識は高い。

進学希望先としては，本学を希望するものが日本人学生は進学希望者の４分の３に対し，留学生は半数程度である。なお，留学生は未定とするものも多い。

②　就職希望職種と進路選択要件

就職希望職種について，前期課程の場合，「就職したい」に「未定」を合わせた比率は，常三島地区の２教育部・１研究科ではいずれも９割前後と高いのに対し，蔵本地区の５教育部では４～７割と常三島地区に比べて低い上にばらついている。蔵本地区では「既に就職している」が一定数存在することの影響と考えられる。多くの教育部で「企業等の研究職」や「専門職（医師等）」を希望するものが多いが，それらに加えて創成科学，先端技術科学では「技術職」を，総合科学では「事務職」を，薬科学では「公務員」をそれぞれ希望する割合が目立つ。医科学，口腔科学では「既に就職している」と「公務員」が多数となっている。

後期課程の場合，「大学・官公庁の教育・研究職」の希望者が最も多く，次いで「企業等の研究職」，「専門職（医師等）」と，高度な専門性を生かせる職種を希望する状況がうかがえる。

留学生に関しては，前期課程では「技術職」，「事務職」，「企業等の研究職」にばらけており，後期課程では「大学・官公庁の教育・研究職」が最も多い。前期課程においては「無回答」としたものも目立つ。

進路選択要件については，前期課程・後期課程の別，あるいは日本人学生・留学生の別なく，いずれも「就職先の将来性・安定性」，「収入」，「能力を発揮できること」の３要件が重視されている。

③　就職情報の入手手段

進路情報の入手手段について，日本人学生（前・後期課程共通）および留学生前期課程においては「Ｗｅｂ・インターネット」，「先輩・知人」，「指導教員」，「就職情報誌・新聞・マスコミ」が主要手段となっている。留学生後期課程においては，「大学内資料」が「Ｗｅｂ･インターネット」，「指導教員」に次いで多く，学内での情報提供がある程度有効に機能しているものと思われる。

④　キャリア支援室の利用状況

キャリア支援室の利用状況について，前期課程で６割程度，後期課程で８割強が「利用したことがない」と回答しており，値だけ見れば利用率は必ずしも高いとは言えない。しかしながら，前回の調査結果とほぼ同様の利用率であったことから，継続して利用率は維持されていると思われる。

留学生については，特に前期課程で日本人学生の利用率に比べて利用率が低く，国際課とのより一層の連携を図る必要があると思われる。

⑤　就職に関する大学への要望

学生からの要望の多くはいずれもキャリア支援室において既に取り組んでいるサービスであるが，

利用状況も踏まえると，より一層広く学生に利用を呼びかけ内容周知を徹底することで，学生にとって貢献度の高い情報提供となると考えられる。

近年，学生からの要望に基づきキャリア支援室として改善ないしは力を入れている項目としては，キャリアカウンセラー・キャリアコーディネーターによる相談体制の強化，少人数型やワークショップ型によるきめ細やかな就職ガイダンス・セミナー，新たな試みとしてのＯＢ・ＯＧ紹介・内定者による就職活動報告会・保護者に対する説明会，キャリア支援室企業情報システムを構築などがあげられる。今後も学生・企業双方の要望を収集・分析しつつ，新たな企画の立ち上げや既存の企画の満足度を高める工夫に務めることで，両者のマッチング・サポートに貢献して行きたい。

第８章　教育部の現状と課題

８－１　創成科学研究科

創成科学研究科は，2020 年４月に総合科学教育部と先端技術科学教育部を再編･統合して設立された研究科であり，在学者数は，前期課程１年生の 384 人のみである。今回の調査における学生の回答割合は 37.8％である。現在，後期課程は設置されていないので前期課程のみを言及する。

第１章「本調査の対象者について」より，出身地は，徳島県 34％，近畿 33％，徳島県以外の四国 14％，中国 13％と徳島県と近隣府県の占める割合が高い。また，本学出身者の割合は，85％と高い割合となっている。また，社会人と留学生の割合は，それぞれ４％，8％とかなりの少数である。前回調査の先端技術科学教育部の前期課程と同様な結果であった。

第２章「家族・住居・通学について」より，年間所得 500 万円未満の家庭が 46％を占めており，住居は家族と別居したアパート・マンションが 68％，自宅が 26％となっている。アパート・マンション住居者の住居費についてみると，69％が５万円以下である。生計を共にする配偶者・子供の有無は，97％が両者とも無であった。通学方法は，自転車が 68％と最も多く，次いで自動車，徒歩，バス・JR の順である。通学所要時間は 15 分未満が 70％で，１時間以上の者は７％であった。

第３章「収入・支出について」より，平均収入月額は，３万円未満が 59％と最も多く，収入額の増加とともに割合が減少する傾向がある。３万円未満の割合は，前回調査の総合科学教育部と先端技術科学教育部の前期課程の割合より増加している。これは，コロナ禍の影響ではないかと考えられる。また，親等からの援助についてみると，「全くない」と３万円未満の援助が 23％と 22％である。支出の方は，７万円未満が 82％を占めている。奨学金については「受給していないし，希望しない」という回答が 59％にものぼり，「受給中であるが，更に希望する」の割合が 26％，「現在受給していないが，希望する」の割合は 15％と比較的少なくない。アルバイトは，66％の学生が従事している。前回調査の総合科学教育部と先端技術科学教育部の前期課程の結果より増加している。将来返済義務のある奨学金よりもアルバイトに頼ろうとする傾向があり，今後の動向を注視する必要がある。１週間のアルバイト従事時間数は 10 時間未満の学生は 56％である。アルバイトの目的も生活費や学費のためが 39％と最も多い。また，アルバイトにおいて，20％の学生はトラブルに遭遇している。

第４章「健康状態について」より，睡眠時間について「６～８時間未満」が 57％，「４～６時間未満」が 34％と比較的良好である。また，気になる症状が「時々ある」と「常にある」の割合が 34％と前回調査の総合科学教育部と先端技術科学教育部の前期課程の結果より 10％以上減少している。主な悩みや不安については，就職や進路が最も多くなってはいるものの多岐にわたっており，個々の悩みに応じた多様な対応が必要とされる。相談相手としては，友人や家族に相談する割合が高くなっている。しかし，誰にも相談しない者も 25％存在しており，深刻な状態になる前に学生相談室や教員等に早期に容易に相談できることを周知する必要がある。現在の精神状態については，普通または充実していると回答した割合が 65％あり，残りの学生は，なんとなく不安，やる気が出ない，いらいらする，落ち込みやすい等精神状態に問題を抱えている。キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門があることを知らない学生が未だ４％おり，ガイダンスなどで留意して周知する必要がある。

第５章「学生生活上の問題点について」より，88％の学生が迷惑行為を受けたことはないと回答しており，前回調査の総合科学教育部と先端技術科学教育部の前期課程とほぼ同じ結果となっていた。しかし，大学内でセクハラやアカハラを受けたとの回答も皆無ではなかったことには注意を要する。総合相談部門(学生相談)を利用したことがあるのは13％，一方28％がその存在を知らないと回答しており，周

知をはかる必要がある。

犯罪被害については，8%の学生が何らかの被害を受けている。事件の中では盗難が最も多く，現金・貴重品の常時携行，自転車の施錠等，盗難予防の周知徹底に努める必要がある。交通事故については，被害者・加害者のいずれかに関わっている学生が19%と前回調査の総合科学教育部と先端技術科学教育部の前期課程の結果と比較して減少しているが，交通安全に関する教育と周知徹底をする必要がある。また，違法薬物使用については，あると回答した者はいなかった。大学事務室の対応は，87%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答しており，概ね満足していることがわかる。

第6章「修学状況について」より，研究科・教育部の教育理念や教育方針は，「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が67%あり，前回調査の総合科学教育部と先端技術科学教育部の前期課程の結果よりも大きく増加していた。また，教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ，88%が「思う」と回答している。教育課程の満足度，授業の内容や進め方に関する満足度は，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した割合がそれぞれ94%，89%と良好である。

本学への進学理由は，「出身大学」31%が最も多く，「希望する研究分野」17%，「継続して修学」16%，「就職等将来を考慮」12%と続いている。また，本学出身者は，本学の大学院を第1志望とする割合が87%，他大学卒業者では，89%が第1志望であった。大学院での勉学で目指すものとして，「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」が41%と最も多く，「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」32%，「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者」21%と続いている。

研究活動の1週間平均時間として，20時間以上と回答した割合は46%である。1日8時間，5日間とすると40時間程度は研究時間に確保できるが，40時間未満と回答した割合は80%もあった。本結果はコロナ禍の状況下，研究環境や研究の進め方の制限が少なからず反映された結果と考えるが，前回調査の先端技術科学教育部の前期課程の結果から微増しているに過ぎない。研究活動が生活の中心であるはずの大学院生が十分に研究をしていないというのはなぜか，健康面・心の状態も含めて調査し，対策を講じる必要がある。また，直接的に研究指導を受けている教員は，教授50%，准教授31%となっている。研究指導を受ける時間は，週30分未満の割合が15%，30～90分未満が46%，90分～5時間未満は34%である。研究指導，研究テーマ及び指導教員とのコミュニケーション，教育レベル，研究環境，大学院に対する満足度は，高い満足度となっている。学生の研究時間や指導時間が短いことなど，今後要因を解析し，改善に取組む必要がある。研究環境の満足度は，84%と比較的高いが，満足していない学生からは施設・設備，研究費，研究時間が理由としてあげられており，これらの学生の研究環境の充実も今後の課題である。

図書館利用については，1週間に1回以上利用する学生は13%で，残りはそれ以下の利用頻度であった。図書館の利用頻度の割合は，全体平均とほぼ同じであった。図書館の提供するサービスに対する満足度は，95%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」という結果で概ね評価が高かった。

海外渡航については，85%の学生が「ない」と回答しており，あっても1回のみの学生が10%である。前回調査の総合科学教育部と先端技術科学教育部の前期課程の結果より渡航経験の無い学生が増加している。渡航目的は，留学・語学研修・学会参加・学術調査・社会活動をあわせて40%であるのに対して，観光が46%を占める。渡航経験者の減少と学術活動を目的とした渡航が少ないのは，コロナ禍の影響と考えられる。コロナ禍が終息しても同様な傾向が続くようであれば，学会参加への資金援助を充実し，より多くの学生が参加できるように支援する体制の充実が必要となる。英会話については，何とか日常会話ができるレベル以上と回答した割合は39%である。英会話に関する自己学習状況について

は，ＴＯＥＩＣやＴＯＥＦＬ等の受験の割合が40％と多いが，一方で「何もしていない」という学生が33％いる。英会話の実践的な学習の機会を増やす必要があると考えられる。

第７章「進路･就職について」より，77％の学生が就職希望であり，条件付きを含めて12％が進学を考えている。進学意思を示した学生の進学希望先は，71％が本学となっている。また，就職希望職種としては，「技術職」49％と「企業等の研究職」23％で大半を占めている。進路選択で重要視しているのは，就職先の将来性・安定性，収入をあげている。進路の情報入手先は，Web・インターネットが27％，先輩・知人が25％，指導教員が13％と多く，就職担当教員が４％，就職相談員が２％と低くなっている。キャリア支援室は，61％が利用したことがないと回答している。一方で就職支援に対する要望は多い。学生にキャリア支援室の活動内容を周知し，より一層の利用を呼びかける必要がある。また，キャリア支援のあり方も考えていく必要がある。

８－２　　総合科学教育部

総合科学教育部で回答が得られたのは，前期課程在学者39名中24名（回収率62％），後期課程在学者11名中６名（回収率55％）であった。回収率は前回に近い水準であり，引き続き回収率を上げるための工夫が必要と考えられる。また，後期課程においては６名の回答のみだったため，前期課程のデータのみを取り扱い，後期課程については必要な場合にのみ言及することとしたい。

まずは「出身・学歴等」についてである。徳島県の出身者は50％であった。第７回調査からは14ポイント上昇した。徳島大学出身者は54％で，前回調査（41％）からは少し持ち直した。留学生についてみると，回答した前期課程の５名中４名が外国の大学・大学院の卒業・修了であった。社会人・留学生の比率は42％で，社会人が多い医科学，口腔科学，保健科学と並んで，高率を示しており，特に留学生の割合が多い。

「家族･住居･通学」について。年収は，500万円未満の家庭が50％を占めている。居住区分は，26％が自宅，68％がアパート・マンションであり，全体の比率とそれほど変わらない。アパート・マンション居住者の住居費についてみると，54％が５万円以下である。生計を共にする配偶者・子供の有無は，79％ が両者とも無であった。また87％に子供がなかった。通学方法は71％が徒歩又は自転車であった。徒歩と自転車が大半を占めるのは，口腔科学を除く他の教育部と同様である。通学所要時間は15分未満が58％で，１時間以上の者はいなかった。

「収入・支出」について。親等からの援助を除く収入金額は，38％が３万円未満，25％が３～５万円未満であり，依然として親等からの援助が求められる金額だと思われる。一方，親等からの援助を全く受けていない学生が42％おり，第７回調査より若干増加している。また，支出の方は，７万円未満が75％を占めており，前回調査より９ポイント増加している。奨学金に目を転じると，21％が現在受給中であった。受給していないし希望しないという回答が58％にのぼる一方で，現在受給していないが希望するという回答は21％であった。これは口腔科学に次ぐ高率である。アルバイトは54％が行っている。将来返済義務のある奨学金よりもアルバイトに頼ろうとする傾向が，親等からの援助を除く収入金額の増加につながっている可能性が考えられる。この点は注視する必要があろう。アルバイトをしている学生のうち，その目的として生活費や学費のためと回答した者は58％であった。これに対し，レジャー・旅行費のためと日常の娯楽･嗜好品等購入のためを合わせると26％となった。雇用者との意見の不一致といったアルバイトでのトラブルを経験した学生も８％存在する。

「健康状態」について。睡眠時間は，４～６時間未満が38％，６～８時間未満が58％であり，比較的良好といえるだろう。身体症状については，時々あると常にあるが46％いた。第７回調査からは若干低下している。常にあるとの回答でみられた症状としては，頭痛，腹痛・嘔気，下痢・便秘，めまい・立

ちくらみが多かった。現在の悩みや不安についてはないが８％と大幅に減少しており，特に注意が必要である。中でも勉学，就職や進路についての不安が多い。悩みごとの相談相手は，58%が友人，71%が家族であった(複数回答)。教員は17%と増加しているものの，引き続き増加への取り組みが必要である。さらに総合相談部門は４％で低いといわざるを得ない。精神状態については，充実していると普通が54%であるが，なんとなく不安も17%いた。生活・学業の基本である身体的・精神的安定を充実させるための対応策が求められる。

「学生生活上の問題」について。88%が迷惑行為を受けたことはないと回答したが，ストーカーにあった，大学内でアカハラを受けた，インターネットによる誹謗・中傷を受けたとの回答も皆無ではなかったことには注意を要する。アカハラを受けたとの回答者が相談したのは友人，家族，教員，総合相談部門に分散した。総合相談部門を利用したことがあるのは17%である。一方その存在を知らないと回答しているのは８％と減少している。総合相談部門を利用したことがある学生全員が，満足あるいはどちらかといえば満足と回答している。盗難等の被害について，83%が被害にあったことがないとしたものの，盗難被害が17%ありと回答している（複数回答)。交通事故は，38%が加害・被害のどちらかの経験があると答えており，引き続き対策を講じていく必要がある。違法薬物の使用は，あると回答した者はいなかった。事務室の対応については83%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答しており，第７回調査からはやや増加している。

「修学状況」について，本学の教育理念の知識の有無については，あまり知らない，あるいは知らないと回答したものが33%と，前回調査からは大幅に減少している。一方，教育理念を知っていると回答した者のうち，94%が教育理念や教育方針で教育を受けていると回答しており，これも増加している。今後とも，教育理念については多くの学生により深く理解させていくべきである。教育課程については92%が満足またはどちらかといえば満足していると答えている。進学した理由としては，希望する研究分野があるからが30%，次いで出身大学だからが20%であった。授業の内容や進め方への満足度については，96%が満足あるいはどちらかといえば満足していると回答した。研究活動時間にはばらつきがみられる。研究指導時間は90分未満が84%であり，第７回調査よりはおおきく減少した。その要因や背景について，更なる調査・考察が必要だろう。指導内容と進め方については91%が満足あるいはどちらかといえば満足していると回答した。指導テーマについてもほぼ同じ回答結果となっている。大学院に相応しいレベルの教育が行われているかについては，96%が行われていると回答している。指導教員とのコミュニケーションについても92%がとれているとした。これに対し，38%の学生が研究環境については必ずしも満足していないと回答している。理由としては施設・設備が56%で，第７回調査時からやや悪化している。他にも研究費用が25%，研究時間が19%である。そして，全員が所属している教育部全体に対して満足，どちらかといえば満足していると答えている。図書館利用については，各教育部でばらつきがみられる。図書館を利用する必要性なども違うはずなので，必要のある学生にとって充実した図書館であるかどうかを別途調査することが望まれる。この点は電子ジャーナルやデータベースの利用に関してもいえるのではないか。とはいえ図書館の全体的なサービスの満足度については96%と全体的に高かった。教育部にふさわしい学習については，あまりしていないとの回答が21%で，第７回調査より若干減少してはいるが，更に細かい調査が必要になるだろう。入学後の海外渡航経験については，71%がないと回答している。また，経験者の57%は留学生の一時帰国で，他の教育部よりも高い。海外渡航の経験に関しては各教育部に共通した課題となるだろう。ちなみに海外の国際学会での口頭発表経験者はいなかった。英会話のレベルについては，専門用語を使った会話ができるものはなく，11%が日常会話ができるで，なんとか日常会話ができるとの回答が16%であった。一方で，語学力を高めるために何もしていないとの回答が65%にのぼった。留学生の日本語での会話については，日常会話ができないあるいはあまりできないと回答した学生はいなかった。徳島大学の日本語コースには60%の受

講経験があり，全員が満足と回答している。将来のために徳島大学の教育に何を望むかとの問いでは，体系的で多様な指導が多いほか，ばらつきがみられた。

「進路選択・就職について」について，71%が就職希望であった。８%いた進学希望者のうち，全員が進学希望先未定である。就職希望者の希望職種は多岐にわたるが，専門職（29%）・公務員（11%）・事務職（18%）が多い（複数回答)。進路選択で重視するものについては，収入，就職先の将来性・安定性，能力を発揮できることの順に多かった。進路情報については Web・インターネットが 24%，次いで指導教員（18%）と知人・先輩（18%）が続く。 一方，就職担当教員・就職相談員と回答したのも合わせて 14%と増加している。また，キャリア支援室を利用したことがないとの回答は 54%と大きく減少した。Web・インターネットや知人・先輩からの情報がどれほど役立っているのかといった現状把握に加え，学内のキャリア支援の在り方などに多くの課題があると考えられる。

８－３　医科学教育部

医科学教育部の前期課程には 11 名の大学院生が在籍し，８名からアンケートが回収された（回収率 72.7%)。前期課程の留学生は１名であり，回答はなかった（回収率０%)。後期課程には 175 名の大学院生が在籍し，アンケートが回収できたのは 23 名（回収率 13.1%）である。後期課程の留学生は 19 名で６名からアンケートが回収された(回収率 31.6%)。アンケートの回収率は前期課程で 72.7%であるが，前期課程の留学生１名からは回収できず，後期課程では 13.1%，後期課程の留学生で 31.6%と低かったことから，アンケートに積極的に参加してもらうためには，アナウンス等を行ってアンケートの目的を理解してもらうとともにアンケート内容を簡素化するなどの回収率を上げる対策が必要である。

１．本調査の対象者について

前期課程大学院生の 50%は徳島県出身で最も多く，次いで四国(徳島県以外)，中国，近畿，中部(新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）が各々 13%である。後期課程では徳島県出身者が 30%で最も多く，次いで近畿が 17%，日本以外が 13%である。大学院生の中で本学出身者の割合は前期課程が 63%，後期課程が 22%であり，前期課程では本学出身者の割合が半数を上回った。社会人大学院生の割合は前期課程で50%，後期課程で57%であり，後期課程で割合がやや高い。医師免許を有する大学院生が多いことがその理由と思われる。

２．家族・住居・通学について

大学院生の年収は前期課程では 250 万円未満，250 ～ 500 万円未満，500 ～ 750 万円未満，750 ～ 1,000 万円未満が各々 25%である。後期課程では 250 万円未満が 30%で最も多く，次いで 500 ～ 750 万円未満が 26%，250 ～ 500 万円未満，750 ～ 1,000 万円未満，1,500 万円以上が各々 13%である。

住居区分では前期課程の大学院生の 50%，後期課程では 22%が自宅から通学している。自宅あるいはアパート／マンションから通学している大学院生は前期課程で 100%，後期課程で 92%である。

住居費については，月５万円未満は，前期課程で 38%，後期課程で 48%である。逆に，月５万円以上は，前期課程で 39%，後期課程で 39%である。３万円未満は，前期課程ではみられないが，後期課程では 24%である。後期課程では大学院生の約１／４が住居費を節約して生活していると思われる。

通学方法については，前期課程では徒歩，自転車が各々 38%で最も多く，次いで自動車とバス・JR が各々 13%であり，後期課程では徒歩，自転車が各々 35%で最も多く，次いで自動車が 17%，バイク（原付自転車・自動二輪）が９%である。前期課程，後期課程を通じて，通学方法に徒歩を使う割合は他の多くの教育部(前期課程の総合科学と後期の先端技術科学を除く)よりも高い傾向である。通学時間については，前期課程で 63%が，後期課程で 74%が 15 分未満であり，大学院生の約半数以上

が蔵本地区周辺に居住していると思われる。

3．収入・支出について

1か月の平均収入額（親等からの援助は除く）については，前期課程では20～25万円未満が38%で最も多く，次いで3万円未満，3～5万円未満，7～10万円未満，25～30万円未満，30万円以上が各々13%であり，収入額に個人差がみられる。後期課程では3万円未満，30万円以上が各々26%であり，25～30万円未満が13%，5～7万円未満，7～10万円未満，15～20万円未満，20～25万円未満が各々9％であり，後期課程の大学院生の収入は低額と高額の二極に分かれるようである。留学生の後期課程では，3万円未満，5～7万円未満，7～10万円未満が各々33%であった。

親からの仕送りを受けず経済的に自立している大学院生の割合は，前期課程で75%，後期課程で87%である。仕送りを受けている大学院生は，前期課程で7～10万円未満が25%であり，後期課程では仕送りを受けている大学院生は3万円未満，3～5万円未満，5～7万円未満が各々4％である。留学生の後期課程では，親等からの援助がないが83%，5～7万円未満が17%であった。大学院生の8割前後は経済的に自立しているようである。

1か月の平均支出額（授業料支出は除く）については，前期課程で5～7万円未満が38%で最も多く，次いで10～15万円未満が25%であり，15～20万円未満，20～25万円未満，25～30万円未満が各々13%であった。後期課程では7～10万円未満，10～15万円未満が各々22%であり，次いで5～7万円未満が17%，15～20万円未満が13%であった。留学生の後期課程では，5～7万円未満，7～10万円未満が各々50%であった。5万円以上の支出額の割合は，前期課程では100%，後期課程では87%であった。これは大学院生の多くが医師免許を取得しており，社会人大学院生が多いことと関係すると思われる。

奨学金受給者／受給希望者の割合は前期課程では38%，後期課程では39%であり，留学生の後期課程では100%である。留学生を除けば，前期課程，後期課程ともに大学院生の約6割は奨学金を受給していないかあるいは希望しない。

アルバイトに従事している大学院生は前期課程で50%，後期課程で35%であり，留学生の後期課程では50%であった。週あたりの時間は，前期課程では10～15時間未満が50%であり，次に20～25時間未満が25%である。後期課程では5～10時間未満が38%，5時間未満と10～15時間未満が各々25%，20～25時間が13%である。留学生の後期課程では，5時間未満が33%であり，10～15時間未満が67%である。アルバイトに従事する時間は15時間未満の割合が高いことが分かった。アルバイトの目的は生活費あるいは学費のためが最も多く，前期課程では30%，後期課程では67%であり，留学生の後期課程では100%であった。次いで前期課程では日常の娯楽・嗜好品等購入のため，社会体験のためが各々20%であり，後期課程では日常の娯楽･嗜好品等購入のためが17%，レジャー・旅行費のため，社会体験のためが各々8％であった。アルバイト収入は，前期課程では3万円未満，3～5万円未満，7～10万円未満が各々25%，後期課程では3万円未満が50%で最も多く，次いで5～7万円未満，15万円以上が各々25%であった。留学生の後期課程では，5～7万円未満が67%で最も多く，次いで3万円未満が33%であった。後期課程で15万以上のアルバイトによる収入の割合が他の教育部よりも高かった。

アルバイトに関わるトラブルは前期課程，後期課程，留学生の後期課程ともにみられなかった。

4．健康状態について

睡眠時間が6時間以上は前期課程では25%，後期課程では61%であり，前期課程の大学院生の75%は睡眠時間が6時間未満であった。後期課程の9％の大学院生で睡眠時間が4時間未満であるのは問題である。健康のみならず安全管理の観点からも6時間以上の睡眠時間を確保することが望まれる。

気になる症状があると回答した大学院生は前期課程で38%，後期課程で52%であり，症状の内容は，前期課程では頭痛，後期課程では下痢・便秘が主であった。

精神的な問題（悩みや不安）に関しては，前期課程では悩みがないが50%であり，経済状況，勉学，就職や進路が各々25%であった。後期課程では悩みがないが35%であり，勉学が39%で最も多く，次いで就職や進路が30%， 生き甲斐や目標が21%であった。これらの悩みの相談相手は，前期課程では，家族が63%で最も多く，次いで友人50%であり，後期課程では，家族が74%で最も多く，次いで友人が65%であり，誰にも相談しない大学院生は前期課程で25%，後期課程で９%であった。総合相談部門（学生相談室），保健管理部門などの学内の相談窓口が十分に利用されていないので，活用されるように周知が望まれる。

現在の精神状態については，前期課程で75%，後期課程で78%の大学院生の気分は普通あるいは充実していたが，前期課程で26%，後期課程で22%の大学院生が，なんとなく不安，落ち込みやすい，やる気がでないなどの問題を抱えていた。

キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の認識については，前期課程で63%，後期課程で22%が存在を知らず,後期課程で48%が存在を知っているが行かなかった。健康の管理や相談に関して，キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門が有効に活用されるための方策が必要と思われる。

5．学生生活上の問題点について

迷惑行為の経験については，前期課程，後期課程ともに迷惑行為を受けた人はいなかった。迷惑行為に対する支援窓口としてキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）が設置されているが，利用したことがあるのは，前期課程で13%，後期課程で４%であり，その存在を知らなかったは，前期課程で50%，後期課程で26%であった。存在を知っているが行かなかったは，前期課程で38%，後期課程で70%であった。キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）を利用した場合については，前期課程では，満足であるが100%であり，後期課程では，どちらかといえば満足であるが100%であった。キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）の積極的および有効な活用が望まれる。

犯罪被害経験については，前期課程では，被害に遭ったことがないが100%であり， 後期課程では96%が被害に遭ったことがなく，盗難（盗み）に遭ったことがあるが４%であった。交通事故の被害者または加害者になったことがありますかについては，被害者になったことがあるのは，前期課程で50%，被害者･加害者の両方あるいは加害者になったことがあるのは，後期課程で17%であった。交通事故では加害者と同時に被害者にもなり得るので，交通マナーを遵守する教育を徹底する必要がある。大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている違法薬物を使用したことがありますかについては，前期課程ではみられなかったが，後期課程では４%に使用がみられた。違法薬物の使用は，一度でも使用するとその後の人生を破壊する危険性があるので，違法薬物を使用しないように学生への一層の注意と周知が必須である。

大学事務室の対応に満足していますかについては，前期課程，後期課程ともに，満足あるいはどちらかといえば満足であるが100%であった。

6．修学状況について

教育理念や教育方針の理解度について，前期課程で51%，後期課程で61%が良くあるいはだいたい知っていた。前期課程で50%があまり知らない，後期課程で39%があまりあるいは全く知らなかったことから，大学院で何を学び将来にどのように繋げていくのかを周知させる必要がある。

医科学教育部の教育理念や教育目標を知っている大学院生の多く（前期課程で100%，後期課程で93%）は教育理念や教育目標に沿った教育が行われていると考えているが，後期課程では７%が教育

理念や教育目標に沿った教育が行われていないと考えていた。教育課程の満足度については，前期課程では100%，後期課程では92%が満足あるいはどちらかといえば満足であったが，後期課程で９％がどちらかといえば不満足であった。教育理念や教育目標に沿った教育であると考えている大学院生の割合が100%近くであることから，教育理念や教育目標に沿った教育が行われていると思われる。

医科学教育部の大学院に入学した理由について，現在所属する大学院が第一志望であったのは，徳島大学卒業者において，前期課程では100%，後期課程では78%で，11%が第二志望であった。他大学卒業者において，前期課程では67%，後期課程では43%であった。入学した主な理由については，前期課程では，希望する研究部があるからが32%と最も多く，次いで，出身大学だから，地元の大学だから，就職等将来を考慮してが各々14%であり，後期課程では，希望する研究分野があるからが33%で最も多く，次いで研究環境が整っているためが14%，出身大学だから，継続して修学するためが各々11%であった。

大学院での勉学で目指すものについて，前期課程では，高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人が50%で最も多く，次いで，創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者が25%，確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員，知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人が各々13%であり，後期課程では，高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人，創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者が各々39%と最も多く，知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人が22%であった。

受講している授業の内容や進め方についての満足度については，満足あるいはどちらかといえば満足しているが前期課程で100%，後期課程で87%であり，不満足あるいはどちらかといえば不満足は，後期課程で13%であった。

授業以外の自分で行う週あたりの研究活動の時間については，前期課程では，30分～90分未満が38%で最も多く，次いで20～40時間未満が25%，90分～5時間未満，5～10時間未満，10～20時間未満が各々13%であり，後期課程では，20～40時間未満が35%で最も多く，次いで60時間以上が17%，90分～5時間未満，40～60時間未満が各々13%であった。後期課程は前期課程に比べて研究活動に使う時間が多い傾向にあった。

研究の指導教員については，前期課程では，教授が75%で最も多く，次いで講師が13%であり，後期課程では，教授が43%で最も多く，次いで准教授が22%，助教が17%，講師が13%であった。

１週間に研究指導を受ける時間については，前期課程では，30分未満，30～90分未満が各々38%で最も多く，次いで90分～5時間未満，10時間以上が各々13%であり，後期課程では，30～90分未満が48%で最も多く，次いで90分～5時間未満が30%，30分未満が17%であった。

研究指導の内容や進め方の満足度については，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程で100%，後期課程で91%であり，どちらかといえば不満足であるは，後期課程で９％であった。

研究テーマに対する満足度については，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程で100%，後期課程で96%であり，どちらかといえば不満足であるは，後期課程で４％であった。

指導教員とのコミュニケーションについては，充分あるいはある程度取れているが，前期課程で100%，後期課程で87%であり，あまり取れていないが，後期課程で13%であった。前期課程，後期課程ともに指導教員と大学院生のコミュニケーションをさらに改善する努力が望まれる。

大学院の教育レベルについては，充分あるいはある程度行われているが，前期課程では100%，後期課程で96%であり，あまり行われていないが，後期課程で４％であった。

研究環境に対する満足度については，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程で100%，後期課程で87%であり，後期課程では，12%が不満足あるいはどちらかといえば不満足で

あった。後期課程での不満足の理由としては，施設・設備が67%であった。

所属している教育部・専攻に対する満足度については，満足あるいはどちらかといえば満足であるが，前期課程で100%，後期課程で95%であり，後期課程では，4%がどちらかといえば不満足であった。

図書館をどのくらいの頻度で来館するかについては，前期課程では，1か月に1回程度来館するが50%で最も多く，次いで1年に1回程度か，それ以下の来館頻度であるが38%，1週間に2～3回くらい来館するが13%であった。後期課程では，1年に1回程度か，それ以下の来館頻度であるが39%で最も多く，次いで半年に1回程度来館するが30%，1週間に1回程度来館する，1か月に1回程度来館するが各々13%であり，前期課程，後期課程ともに，図書館の来館頻度は低いようである。

図書館を利用する主な目的については，前期課程では，図書等の貸し出し，自習が各々27%で最も多く，次いでパソコンの利用とグループ研究（学習）が18%，図書等の閲覧やコピーが9％であった。後期課程では，図書等の貸し出しが35%で最も多く，次いで自習が24%，図書等の閲覧やコピーが18%，パソコンの利用が12%，電子ジャーナル・データベースが6％であった。図書館を利用する主な目的は，前期課程，後期課程ともに，図書等の貸し出し，自習，図書等の閲覧やコピー，パソコンの利用であった。

図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度については，満足あるいはどちらかといえば満足しているが，前期課程で88%，後期課程で82%であり，不満足であるが前期課程で13%，どちらかといえば不満足であるが後期課程で17%であった。

所属している大学院に相応しい学習の取り組みについては，よく学習しているあるいはかなり学習しているが，前期課程で75%，後期課程で87%であり，あまりしていないが，前期課程で25%，後期課程で13%であった。前期課程，後期課程ともに，大部分の学生が大学院に相応しい学習をしているようである。

入学後の海外渡航経験については，前期課程では，「ない」が88%で最も多く，次いで1回が13%であった。 後期課程では，「ない」が74%で最も多く，次いで1回が17%，2回，3回が各々4％であった。

海外渡航の目的については，前期課程では，学会参加が100%であり，後期課程では，学会参加が43%で最も多く，次いで留学が29%，観光，一時帰国が各々14%であった。

国際学会への参加については，前期課程，後期課程ともに，国内の国際学会で口頭発表したことがあるが100%であった。海外の国際学会での発表がみられなかったのは，世界的な新型コロナ感染の拡大が影響していると思われる。

日本人学生の英会話能力については，前期課程では，あまりできないが50%で最も多く，次いでなんとか日常会話ができるが25%，日常会話ができる，できないが各々13%であった。後期課程では，あまりできないが35%で最も多く，次いで専門用語を使った会話ができるが29%，なんとか日常会話ができる，できないが各々18%であった。前期課程，後期課程ともに，学生の半数以上は英会話があまりできないあるいはできない状況であり，英語での会話ができるように努力することが望まれる。

語学に関する自己学習状況については，前期課程では，何もしていないが38%で最も多く，次いで，つとめて外国人と英語でコミュニケーションするが25%，ラジオ・テレビの英会話番組で学習しているが13%であった。後期課程では，何もしていないが25%で最も多く，次いで英会話等の学校に通っている，つとめて外国人と英語でコミュニケーションするが各々17%，ラジオ・テレビの英会話番組で学習している，外国語の新聞，雑誌を購読している，外国語のラジオ，テレビを視聴しているが各々13%であった。

留学生の日本語会話能力については，後期課程では，なんとか日常会話ができる，できないが各々

33%で最も多く，次いで専門用語を使った会話ができる，あまりできないが各々17%であった。

徳島大学が開講する日本語コースの受講状況については，後期課程では，受講しているが50%で最も多く，次いで今後受講する予定であるが33%，以前受講したことがあるが17%であった。日本語コースを受講した学生は，100%満足していた。

本学の教育への期待については，前期課程では，統合的な学習課題を体系的に履修するコース，複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導が29%で最も多く，次いで高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が18%，企業等での長期間の実践的なインターンシップが12%であった。後期課程では，高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が27%で最も多く，次いで統合的な学習課題を体系的に履修するコースが24%，複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導，産業界，地域社会との積極的な連携，共同研究が各々14%，個々の教員の教育・研究指導能力の向上が12%であった。

本学の国際化への対応については，どちらかといえば積極的であると思うが，前期課程で88%，後期課程で83%であり，非常に積極的であるが後期課程で17%であった。どちらかといえば積極的とは思わないが前期課程で13%であった。留学生の後期課程では，非常に積極的であると思う，どちらかといえば積極的であると思うが各々50%であった。

7．進路選択・就職について

後期課程への進学意思については，前期課程において，進学したい（進学予定者を含む）が50%で最も多く，次いで未定が25%，奨学金等の経済的支援があれば進学したい，就職したいが各々13%であった。進学希望先について，前期課程では，本学が100%であった。就職すると答えた学生の希望職種については，前期課程では，既に就職しているが67%で最も多く，次いで大学・官公庁の教育・研究職が33%であった。後期課程では，大学・官公庁の教育・研究職が38%で最も多く，次いで企業等の研究職が25%，上記以外の公務員，専門職(医師等)，既に就職しているが各々13%であった。留学生の後期課程では，大学・官公庁の教育・研究職，上記以外の公務員，企業等の研究職，専門職（医師等）が各々25%であった。

進路選択の要件については，前期課程では，就職先の将来性・安定性が35%で最も多く，次いで能力を発揮できることが30%，収入が25%であった。後期課程では，能力を発揮できることが23%で最も多く，次いで収入，就職先の将来性・安定性が各々20%，勤務先の地理的条件が12%，社会的評価が８％，経営方針が７％であった。留学生の後期課程では，収入，就職先の将来性・安定性，能力を発揮できることが各々20%で最も多く，次いで企業規模が12%，社会的評価，先端技術を駆使しているところが各々８％であった。

進路選択の情報入手手段については，前期課程では，先輩・知人が32%で最も多く，次いでWeb・インターネットが26%，指導教員が16%，直接会社に照会が11%であった。後期課程では，Web・インターネットが29%で最も多く，次いで先輩・知人が24%，指導教員が22%，就職情報誌・新聞・マスコミ，大学内資料が各々８％であった。留学生の後期課程では，指導教員，Web・インターネットが各々25%で最も多く，次いで先輩・知人が20%，大学内資料が15%，就職担当教員が10%であった。

キャリア支援室の利用状況については，利用したことがないが，前期課程で88%，後期課程で96%であり，以前に利用したことがあるが，前期課程で13%，現在も利用しているは，後期課程で４％であった。留学生の後期課程では，利用したことがないが100%であった。キャリア支援室は医科学教育部の大学院生による利用率が極めて低いようである。

就職に関する大学への要望については，前期課程では，就職情報誌などの就職関係書籍の充実が33%で最も多く，次いで面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実，企業説明会の内容充実が

各々22%，就職ガイダンスの充実，求人企業の開拓が各々11%であった。後期課程では，面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実が30%で最も多く，次いで就職情報誌などの就職関係書籍の充実が18%，公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実，企業説明会の内容充実が各々15%，就職ガイダンスの充実が12%，求人企業の開拓が９％であった。留学生の後期課程では，面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実が29%で最も多く，次いで就職ガイダンスの充実が21%，公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実，企業説明会の内容充実，求人企業の開拓が各々14%，就職情報誌などの就職関係書籍の充実が７％であった。

結語

調査結果をより正確に解析するためにはアンケートの回収率を上げることが必要と思われる。質問項目が多岐にわたっており記入が煩雑なことが回収率の低い理由であるかもしれないので，アンケートの回収率を引き上げるために質問項目を簡略化するなどの工夫を検討してもらいたい。また，大学院における研究理念や教育理念について十分に知らないことや，研究内容に不満を持っている大学院生が存在していることから，大学院の研究理念や教育理念をさらに理解させるとともに研究指導を充実させて質の高い大学院教育を実践する必要があると思われる。キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門および総合相談部門（学生相談室）やキャリア支援室などの支援施設についても積極的な活用が望まれる。

８－４　口腔科学教育部

口腔科学教育部には口腔科学専攻（博士課程）と口腔保健学専攻（博士前期課程と博士後期課程）が設置されている。本調査は口腔保健学専攻の博士前期課程（以後，前期課程）の大学院生９人中８人（１年生２人，２年生６人）（回収率88.9%）と，同じく博士後期課程および口腔科学専攻（以後，後期課程）の大学院生65人中33人（回収率50.8%）から回答を得た。留学生は後期課程の21人のみで，そのうち回答が得られたのは13人（回収率61.9%）であった。回収率については，前期課程においては第７回調査に比べて上昇し，後期課程においては低下した。第７回調査では前期課程の回収率が全教育部の中で最も低くかったが本調査では最も高くなり，後期課程については第７回調査と比べて回収率が低下したにもかかわらず，本調査では全教育部の中で２番目に高かった。

第１章の「本調査の対象者について」をみると，第７回調査では前期課程で徳島県出身者はいなかったが，本調査では50%であり全体平均31%よりも高くなった。四国（徳島県以外），中国地方，近畿地方，中部地方出身者はすべて同じ13%であった。第７回調査で40%であった関東出身者は本調査では０％であった。社会人大学院生は50%であり，第７回調査80%よりも減少したが，医科学と並んで全教育部中最も高い割合であった。口腔科学の前期課程は社会人学生が多いという特徴をもつ。一方，後期課程の学生の24%は徳島県出身であり，全体平均36%よりも低かった。最終学歴については，39%は徳島大学で，18%が外国の大学であり，いずれも全体平均を上回った。社会人大学院生は33%であり，第７回調査とほぼ同様であった。また，39%は留学生であり，ここ数年で増加傾向にある。

第２章の「家族・住居・通学について」の結果から，前期課程の家庭の年間所得は13%が250万円未満で，第７回調査40%と比べて比率は大きく減少した。また500万円未満は26%であり全体平均44%を大きく下回っている。1,500万円以上は13%と全教育部中最も高い割合であった。後期課程については250万円未満が52%で，全教育部中最も高い割合であった。一方，第７回調査で1,500万円以上の家庭が15%であったが，本調査では９％に低下した。住居については，前期課程で38%，後期課程で64%の学生はアパート・マンション住まいで家族と別居している。前期課程の38%は住居費が５万円未満であり，全体平均64%を大きく下回っている。後期課程の住居費は，ばらつきがあるものの60%の

学生は６万円未満のアパートなどに居住している。前期課程の 88％と後期課程の 51％は未婚であり，前期課程の 13％，後期課程の 33％が子供をもつ。授業や研究遂行時，前期課程の 100％，後期課程の 53％は配偶者が子供の世話をしている。通学方法は，前期課程の 38％，後期課程の 42％が自転車であり，前期課程の 25％，後期課程の 21％が自動車を利用している。通学時間は，前期課程では 30 分～１時間未満が 38％と最も多く，15 分未満が 25％で，２時間以上は 13％であった。後期課程の 55％は 15 分未満であり，30 分～１時間未満が 18％と続き，２時間以上は 12％であった。

第３章の「収入・支出について」の結果から，前期課程の 75％は親等からの援助はなく，１か月の平均収入額は 64％が 20 万円未満である一方，30 万円以上は 25％であった。１か月の平均支出額はまちまちで，３～５万円未満が 38％と最も多く，３万円未満が 25％と続く。後期課程の 58％は親等からの援助はなく，１か月の平均収入額は 10 ～ 15 万円未満が 27％と最も高く，３万円未満が 18％と続く。一方，15％は 25 万円以上であった。後期課程の１か月の平均支出額はまちまちであり，５～７万円未満が 36％と最も多く，10 ～ 15 万円未満が 24％と続く。奨学金受給は，前期課程の 25％，後期課程の 57％が希望し，実際に受給しているのは後期課程の 45％であった。前期課程の 50％，後期課程の 33％はアルバイトを行っている。前期課程のアルバイトの目的は 43％が「生活費や学費のため」，28％が「レジャーや娯楽等」，14％が「社会体験のため」であった。アルバイトの従事時間は 50％が５時間未満で，25 時間以上従事している学生は第７回調査では 50％であったが，本調査では０％であった。後期課程のアルバイトの目的は，79％が「生活費や学費のため」であり，7％が「レジャーや娯楽等」であった。64％が週平均５～10時間未満従事し，収入については，7～10万円未満が45％，3～５万円未満が27％であった。アルバイトにおけるトラブルについては，前期課程の 25％の学生は「雇用者との意見の不一致」などのトラブルを経験しており，この割合は全教育部前期課程・後期課程の中で突出している。

第４章の「健康状態について」から，睡眠時間が４時間未満の学生は後期課程で３％であった。前期課程では睡眠時間が４～６時間未満の割合が63％と最も多く，後期課程では４～６時間未満と６～８時間未満がそれぞれ 39％，58％であった。前期課程の 38％と後期課程学生の 39％には気になる身体症状が時々あり，「常にある」のは前期課程で０％，後期課程で９％であった。前期課程の現在の悩みや不安はさまざまで，経済状態（38％），就職や進路（25％），勉学（38％）などであった。後期課程では，勉学（52％），経済状況（52％），就職や進路（21％）などであった。両課程ともに，相談相手は家族または友人である割合が高く，総合相談部門（学生相談室）の利用は前期課程では０％，後期課程で３％であった。現在の精神状態は，前期課程では「気分は普通」が 63％，「なんとなく不安」が 13％であり，後期課程では「気分は普通」が 55％，「いらいらする」が６％，「なんとなく不安」が９％であった。前期課程の 38％と後期課程の 21％はキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門があることを知らなかったが，この割合は第７回調査と比べて減少した。また，このセンターを健康診断以外で利用したことがあるのは前期課程で 13％，後期課程で３％であった。

第５章の「学生生活上の問題点について」より，後期課程の９％は「大学内でのアカハラを受けた」などの経験があった。前期課程ではそのような問題はなかった。そのような問題に対して，後期課程の 25％は友人に，同じく 25％は「教員」に，50％は「学務」に相談していた。後期課程の６％はキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門を利用したことがあり，そのうちの全員は対応に満足していた。犯罪被害については前期課程の 13％，後期課程の９％で盗難被害に遭っている。交通事故に関しては，前期課程の 13％で被害者・加害者の両方に，13％で加害者になったことがあり，後期課程の９％で被害者・加害者の両方に，12％で被害者に，3％で加害者になったことがある。両課程の学生に違法薬物の使用経験はない。大学事務室の対応には口腔科学の学生はおおむね満足している。

第６章「修学状況について」より，前期課程の 75％と後期課程の 60％は所属教育部の教育理念や教育方針を理解しており，前期課程の 83％と後期課程の 95％はその理念や方針に沿って教育が実践され

ていると感じている。教育課程の満足度については，前期課程の 100%，後期課程の 97%は「満足」または「どちらかといえば満足」であった。大学院に相応しい教育の実践度については前期課程・後期課程ともにほとんどが「充分に行われている」または「ある程度行われている」と感じている。両課程とも大学院入学理由はさまざまであり，前期課程では，「出身大学だから」が最も多く（27%），「希望する研究分野があるから」が 23%と続く。後期課程では「希望する研究分野があるから」（23%）が最も多く，「指導教員に勧められたから」（20%）が続く。所属している大学院の志望順位については，「第一志望だった」と回答したのは徳島大学卒業者では前期課程 100%，後期課程 75%であり，他大学卒業者では前期課程 100%，後期課程 82%であった。

大学院での勉学で目指すものについては，前期課程では「高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人」が 63%と最も高く , 後期課程では，「高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人」と「豊かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」がそれぞれ 30%，「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が 27%であった。

授業の内容や進め方については，前期課程では「満足している」と「どちらかと言えば満足している」を合わせると 100%で，後期課程では「満足している」と「どちらかと言えば満足している」を合わせると 94%であった。その一方で，不満足と感じている学生は 6 %であった。

研究活動と研究指導については，前期課程の 25%が週に 90 分～ 5 時間未満，同じく 25%が週に 5 ～ 10 時間未満の授業外の研究活動を行い，20 ～ 40 時間未満も 25%であった。63%が教授から，25%が講師から指導を受け，指導時間は 38%が 30 ～ 90 分未満，同じく 38%が 90 ～ 5 時間未満であった。一方，後期課程の 24%が 5 ～ 10 時間未満，18%が 10 ～ 20 時間未満と 60 時間以上であった。後期課程の 55%は教授から，9%は准教授から，15%は講師から研究指導を受け，33%は指導時間が週 30 ～ 90 分未満，30%が 90 分～ 5 時間未満であった。両課程のほとんどは研究指導や研究テーマに対して満足しており，指導教員とのコミュニケーションもおおむねとれている。ただ，後期課程の 6 %の学生はコミュニケーション不足を感じている。研究環境に対してもおおむね満足が得られているが，施設・設備，研究費用や研究時間の点で前期課程の 25%と後期課程の 6 %は不満足であった。所属大学院の満足度については，「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると，前期課程で 100%，後期課程で 94%であった。

図書館の利用について，前期課程の 38%は「半年に 1 回程度」で 38%は「 1 年に 1 回程度かそれ以下」の利用頻度で，他の教育部に比べて利用頻度が少ない。電子ジャーナルやデータベース等の利用も 33%は「半年に 1 回程度」と「 1 年に 1 回程度かそれ以下」であり，「ほぼ毎日利用する」は 0 %であった。図書館のサービスについては「満足」と「どちらかといえば満足」合わせて 100%であった。一方，後期課程学生の図書館利用は「半年に 1 回程度」（33%），「 1 年に 1 回程度かそれ以下」（33%），「 1 か月に 1 回程度」（21%）となっている。図書館を利用する主な目的については，「図書等の貸し出し」が 27%で最も高く，「図書等の閲覧やコピー」が 24%であった。図書館のサービスについては「満足」と「どちらかといえば満足」合わせて 87%であった。

前期課程で 26%，後期課程で 54%の学生に入学後の海外渡航の経験がある。海外渡航の目的については，前期課程では「観光」が 100%，後期課程でも「観光」が 36%と最も比率が高かった。後期課程の 27%は「学会参加」，同じく 27%が「一時帰国」であった。英会話能力については，前期課程の 13%が「できない」，63%が「あまりできない」で，後期課程の 15%が「できない」，45%が「あまりできない」であった。一方，後期課程の 10%は「日常会話ができる」との結果であった。前期課程の 56%，後期課程の 64%は語学に関する自己学習をしていない。留学生の日本語会話能力については，後期課程の 69%は「日常会話ができる」または「なんとか日常会話ができる」と回答し，全員が日本語コースの受講経験や受講予定があり，受講者全員が日本語コースにおおむね満足していた。

学習への取り組みとして，前期課程の88%，後期課程の81%と留学生の100%が大学院に相応しい学習をしており，学習意欲は十分高い。将来のために本学教育に望むことは，前期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」，「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」と「高度な水準にある他大学院での勉学あるいは研究の機会」がそれぞれ20%，後期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が26%，「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」が20%などであった。

また，前期課程の63%と後期課程の85%は本学の国際化への対応はおおむね積極的であると回答した。国際化への積極的対応を継続するためにも大学院生は英会話能力を向上させ，国際学会での発表など経験を積むことが肝要であり，一方，教育部は学生に数多く機会を作ることが大事である。

第7章「進路選択・就職について」の結果から，前期課程の51%は後期課程への進学を希望し，そのうち全員は本学口腔科学を希望している。一方，25%は企業等の研究職や教育職への就職を希望している。後期課程の40%は「専門職」を，33%は「大学・官公庁の教育・研究職」，27%は「教育職」を希望し，留学生の40%は「専門職」を，30%は「大学・官公庁の教育・研究職」を，同じく30%は「教育職」を希望している。進路選択の要件として，前期課程では「収入」，「就職先の将来性・安定性」，「能力を発揮できること」がそれぞれ25%で，後期課程では「収入」，「能力を発揮できること」がそれぞれ25%，「就職先の将来性・安定性」が22%であった。留学生についても，「能力発揮の場」，「収入」，「就職先の将来性・安定性」をあげる割合が多かった。進路選択の情報入手手段としては，前期課程では「指導教員」が31%，「先輩や知人」が19%，「Web・インターネット」が15%であった。後期課程では「Web・インターネット」が23%，「指導教員」が22%，「先輩や知人」が20%であった。留学生については，「Web・インターネット」が25%で最も比率が高かった。キャリア支援室の利用状況については，前期課程の38%が「以前に利用したことがある」，後期課程では6%のみであった。留学生を含む両課程の多くの大学院生は支援室を利用していない。就職に関しては，両課程ともに「就職情報誌など就職関係書籍の充実」，「面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実」を大学に要望している。

以上を総括すると，以下の課題が挙げられる。

1．研究指導体制下のハラスメントが依然存在しており，ＦＤ活動などを通じて予防策を継続する。また，生じた場合の相談支援体制としての相談室利用やメンター制度の周知を図る。
2．キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の利用者が少ないので，大学院生に対する周知徹底とセンターの利便性向上を図る。
3．国際的能力を有する人材の育成および本学国際化の継続的推進のため，英語・英会話能力向上プログラムや国際学会プレゼンテーション技術向上プログラムなどの教育カリキュラムの多様化を図る。
4．キャリア支援室は就職希望の大学院生の要望を考慮して対処し，さらに利便性を高める。

口腔科学教育部の社会人大学院生は他の教育部に比べて特に多いので，生活実態の特徴をより明確化するためには一般大学院生と社会人大学院生を分けて分析することが望ましいと考え，今後の検討課題としたい。

8－5　薬科学教育部

薬科学教育部は，薬学専攻と創薬科学専攻の2専攻からなり，薬剤師養成のための専門教育を目的とする薬学部薬学科（6年制）と，創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を目的とする薬学部創製薬科学科（4年制）それぞれの特徴を継続した学部・大学院一貫教育により，新規医薬品の創製から医療現場での医薬品の適正使用に至る広範な分野の専門知識と高い研究能力を有する人材の養成を目指している。今回のアンケート調査対象者は，創薬科学専攻博士前期課程69名(うち留学生2名)，同

専攻博士後期課程 29 名（うち留学生 5 名），薬学専攻博士課程 7 名（うち留学生 2 名）であり，アンケート回収率は前期課程 55.1%（第 7 回調査 86.8%），後期課程 47.2%（第 7 回調査 97.2%）と，前回調査から大きく減少した。今回は COVID-19 流行下での調査であったことから，感染防止対策としてこれまでの紙媒体から WEB を用いた方法に変更したことで，前回までの高い回収率が得られた回収方法が使えなかったことが回収率低下の主な原因であると考えられる。次回以降も本調査が WEB で行われる場合には，新たな回収率向上に向けた工夫が課題となる。

第 2 章「家族・住居，通学」より，家庭の年間所得は，前期課程では 500 万円未満が 39%（第 7 回調査 24%），500 ～ 1,000 万円未満が 40%（第 7 回調査 54%），1,000 万円以上が 21%（第 7 回調査 15%）であり，前回調査と比較した 500 ～ 1,000 万円未満の減少と 500 万円未満の増加は，COVID-19 禍の社会経済悪化を反映したものと考えられる。後期課程では第 7 回調査同様，500 万円未満が 53%（第 7 回調査 57%），500 ～ 1,000 万円未満が 30%（第 7 回調査 31%）であったが，1,000 万円以上が 18%（第 7 回調査 9 %）と増加していた。住居費については，前期課程では「3 万円～ 4 万円未満」が 29%（第 7 回調査 50%）と最も多く，以下「4 ～ 5 万円未満」24%（第 7 回調査 24%），「3 万円以下」21%（第 7 回調査 15%）と，前回調査と同じ結果であったが，5 万円以上が 19%と第 7 回調査（11%）から増加した。後期課程では，「3 万円未満」が 29%（第 7 回調査 33%）と最も多く，次いで「3 万円～ 4 万円未満」24%（第 7 回調査 42%），5 万円以上が 24%（第 7 回調査 12%）であった。この住居費の変化は家庭の収入の変化を反映していると思われる。通学方法としては「自転車」（前期課程：79%，後期課程：53%）が，通学時間としては「15 分未満」（前期課程：87%，後期課程：59%）が，それぞれ両課程ともに最も多く，本調査開始以来変わりがない。

第 3 章「収入・支出」については，親等からの援助が「全くない」と回答した学生の割合は，前期課程 16%，後期課程 47%であり，これまでの調査のバラつきの範囲内の変動と思われる。奨学金については，前期課程で 47%，後期課程で 53%の学生が「現在受給中であるが，更に希望する」と回答している。「今後受給を希望する」を加えると，前期課程で 65%，後期課程で 77%の学生が奨学金を希望している。アルバイトをしている学生の割合は，前期課程で 37%，後期課程で 41%であり，第 7 回調査（前期課程：50%，後期課程：43%）と変わりがない。アルバイト収入の 1 か月の平均は，第 7 回調査では両課程ともに「3 ～ 5 万円未満」が最も多かった（前期課程：50%，後期課程：43%）が，今回は前期課程では「3 万円未満」が 79%と最も多く，第 7 回調査（33%）から倍増し，全体平均 37%を大きく上回っている。一方，後期課程では「5 ～ 7 万円未満」（57%）が最も多く，第 7 回調査（14%）の 4 倍，全体平均（26%）の 2 倍に増加していた。アルバイト従事時間（1 週間）は，前期課程では「5 時間未満」50%，後期課程では「15 ～ 20 時間未満」43%がそれぞれ最も多かった。第 7 回調査に比べ，前期課程ではアルバイト収入，従事時間ともに減少していたのに対し，後期課程では逆に増加していた。なお，アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した学生の割合は，前期課程 40%（第 7 回調査 41%），後期課程 36%（第 7 回調査 50%）と，両課程ともに最も多いことに変わりはないが，目的の多様化が進んでいるようである。

4 章「健康状態」について，「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と回答した学生は，前期課程 52%，後期課程 53%と，第 7 回調査とほぼ同じ結果（前期課程:56%，後期課程:66%）であった。「常にある」と回答した学生の症状は様々であるが，両課程ともに「不眠」が最も多い（前期課程:86%，後期課程:50%）。第 7 回調査では「不眠」は前期課程で 17%，後期課程では 0 %だったことから「不眠」が大きく増加したといえる。睡眠時間については，「6 ～ 8 時間未満」と回答した割合（前期課程：68%，後期課程：59%）が，前回調査と変わらないか若干増えており，「4 時間未満」との回答がなかった。精神状態については，「充実している」あるいは「気分は普通」との回答が，前期課程 52%（第 7 回調査 58%），後期課程 77%（第 7 回調査 59%）であったが，一方で，COVID-19 禍で就学・生

活環境が変化した影響なのか，多くの学生が様々な不安・悩みを抱えていることが（悩みや不安が「ない」との回答は前期課程 18%，後期課程 29%），不眠の要因として考えられる。悩みごとの相談相手としては，第 7 回調査と変わらず，「友人」と「家族」との回答が多く，精神面を含めた健康維持管理を目的とした専門相談機関である総合相談部門（学生相談室）や保健管理部門の利用は前期課程 3 %，後期課程 0 %と極めて少ない。一方で，「誰にも相談しない」が前期課程 18%，後期課程 24%と，両課程ともに第 7 回調査（前期課程：25%，後期課程：31%）からは減少しているが，依然として多いことから，総合相談部門や保健管理部門のサービス内容を学生に周知徹底し，有効利用を促す取り組みを継続していく必要がある。

第 5 章「学生生活上の問題点」について，前期課程で 12%（第 7 回調査 18%），後期課程で 28%（第 7 回調査 3 %）の学生が，何らかの迷惑行為（飲酒の強要，悪徳商法，ストーカー，アカハラなど）を受けたと回答している。特に，後期課程で前回調査から大きく増加していることに留意する必要がある。充実した学生生活のためには，学生生活上の問題点に関して一層の注意喚起を行い，教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。また，依然として総合相談部門の利用は前期課程で 21%，後期課程で 6 %と低迷していることから，総合相談部門との緊密な連携のもとに，学生生活支援に係る啓発活動と指導を今後も継続的に進めていく必要がある。

第 6 章「修学状況」については，薬科学教育部の教育理念や教育方針を「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と回答した学生の割合は，前期課程で 81%（第 7 回調査 51%）と大きく増加した一方，後期課程では 41%（第 7 回調査 63%）と逆に減少していた。教育課程に対する満足度は，「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生が，前期課程は第 7 回調査と同じ 95%であったが，後期課程は 83%と第 7 回調査（95%）から減少し，「不満足である」との回答が 12%あった（第 7 回調査 0 %）。この後期課程の結果を真摯に受け止め，教育理念や教育方針の入学前周知に一層努め，入学後には学生の満足度が 100%となるよう教育部全体での取り組みと教員個々の不断の努力が求められる。授業以外の研究活動に費やす 1 週間の平均時間は，40 時間以上が前期課程で 68%，後期課程で 70%と，大学全体の平均（前期課程：23%，後期課程：38%）を大きく上回っており，これまでの調査結果同様，他の教育部に比べて研究活動時間が長い。この点を研究環境に対する不満と感じている学生が，両課程ともに少なからずいることに教員は留意する必要がある。研究指導の内容や進め方については，前期課程 92%，後期課程 88%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており，研究テーマへの満足度については，前期課程では 95%，後期課程では 88%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答している。また，「全体として薬科学教育部に満足していますか」との設問については，前期課程で 97%，後期課程で 88%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており，これらの結果は第 7 回調査とあまり変わりなく，修学状況は比較的高い満足度が維持されている。しかし，後期課程では，いずれの回答も第 7 回調査から少し減少している一方で，「不満足である」という回答が増加しており，その他にも，大学院に相応しいレベルの教育が「あまり行われていない」（18%）と「全く行われていない」（6 %），研究環境について「どちらかというと不満足である」（24%）と「不満足である」（24%）との回答が他教育部に比べ多い点は気がかりであり，改善に向けた取り組みが必要と思われる。図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対して，「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は，前期課程 97%（第 7 回調査 86%），後期課程 71%（第 7 回調査 91%）で，全体として満足度は高いと言えるが，ここでも満足していない学生が後期課程で増加していた。入学後に海外渡航経験があると回答した学生は，前期課程で 16%（第 7 回調査 25%），後期課程で 53%（第 7 回調査 34%）であり，COVID-19 の世界的流行で海外渡航が規制された中で後期課程では増加しており，渡航目的として「学会参加」（44%）が最も多かった。なお，

国際学会での発表経験については，両課程ともに無回答であったため，過去の調査結果と比較することができなかった。語学力を高めるために「何もしていない」と回答した学生が，前期課程 29%，後期課程 27%と，第 7 回調査（両課程ともに 36%）よりは減少していたが，依然として 3 割弱の学生が外国語修得の努力をしていない。薬科学教育部では独自に薬学英語特論を必修科目として開講し，英語力強化に取り組んでいるが，今後も積極的な対策が望まれる。なお，本学の国際化への対応については，前期課程で 76%，後期課程で 65%の学生が「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答していたが，まだ十分とは言えず，国際化への取り組みをさらに加速していくことが望まれる。

第 7 章「進路選択・就職」では，前期課程学生の後期課程への進学希望者は，経済的支援を前提とした者を含めて 37%であり，第 7 回調査（22%）から増加している。就職を希望する学生（47%）の希望職種は「専門職」，「公務員」，「企業等の研究職」など多種にわたっている。後期課程学生の就職希望職種としては「大学・官公庁の教育・研究職」（44%）と「企業等の研究職」（33%）が多かった。進路選択で重視する要件として，両課程ともに「収入」，「将来性・安定性」，「能力を発揮できること」が上位を占めていた。情報入手手段としては両課程ともに「Web･インターネット」との回答（前期課程:28%，後期課程：33%）が最も多く，情報源として中心的役割を果たしている。一方で，本学のキャリア支援室を「利用したことがない」と回答した学生が，前期課程で 74%，後期課程で 53%であった。薬科学教育部では，独自の組織的な就職支援に加え，キャリア支援室とも連携した就職支援の強化を図っているところであるが，今後も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援に一層努力する必要がある。

最後に，本調査より明らかとなった薬科学教育部の現状と課題を総括する。

1．社会経済の状況を踏まえ，経済的理由が大学院への進学を妨げることがないように，大学院生を対象とした経済的支援体制の充実は継続的な重要課題である。

2． 研究・教育の現状には概ね学生は満足しているが，後期課程で満足していない学生が増加していたことに留意し，修学環境等の改善に向けた一層の取組みが求められる。

3．研究室で多くの時間を過ごす大学院生の心身の健康保持・増進のため，総合相談部門・保健管理部門との緊密な連携による学生支援体制のより一層の強化が望まれる。また，迷惑行為根絶に向け，注意喚起を徹底するとともに，教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。

4．就職支援に関しては，教育部およびキャリア支援室が行っている様々な支援活動への学生の積極的な参加や利用の啓発・促進に努めるとともに，学生の多様化するニーズにきめ細かく対応する支援体制の強化が望まれる。

以上，COVID-19 禍の影響が反映したと思われる項目もみられたが，全体としては第 7 回調査結果と大きく変わっておらず，上記課題の克服に向けて今後も学生のニーズという視点に立って鋭意努力していく必要がある。なお，COVID-19 禍の影響は今後より大きくなることが危惧されるため，学生のニーズを的確に把握するためにも，アンケート回収率の向上が必須である。

8－6　栄養生命科学教育部

栄養生命科学教育部において，前期課程在籍者は 48 人で，回答率は 60.4%であった。留学生は 1 名であった。後期課程在籍者は 28 人で回答率は 32.1%，留学生は 2 名で回答はなかった。前回よりも前期課程在籍者，後期課程在籍者の回答率が低下した。また，留学生からの回答率が低い状況であった。ただし，本年度においては COVID-19 感染状況が回答率に大きく影響したと考えられる。

「本調査の対象者」について，前期課程では，近畿地区出身者および徳島県出身者の割合がともに 28%で最も多かった。後期課程では，近畿地区出身者の割合が 56%と最も多く，次いで中国地区出身者の割

合が22%であった。出身大学別に見ると，前期課程では，徳島大学出身者が76%と多かった。後期課程では，徳島大学大学院修士・博士前期課程が44%で最も多かった。「社会人か留学生か」については，後期課程では，社会人が33%であった。

「家族・住居・通学について」の設問の「住居区分」では，前期課程では，全体で「アパート・マンション」が79%，次いで「自宅（家族と同居)」が14%となっていた。後期課程では，「アパート・マンション」が89%で一番多く，次いで「自宅（家族と同居)」が11%となっていた。前回調査より「自宅（家族と同居)」と回答した学生が22%減っていた。

「住居費」に関しては，前期課程では，「3～4万円未満」および「4～5万円未満」が31%で最も多く，次いで「5～6万円未満」が14%となっている。後期課程では，「3万円未満」，「3～4万円未満」および「4～5万円未満」が同率で22%ともっとも多かった。

「配偶者・子供の有無」については，前期課程では100%が「配偶者・子供ともなし」となっている。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が89%となっている。

「通学方法」では，前期課程では「自転車通学」が79%と一番多く，次いで「自動車」が10%となっている。後期課程では，「自転車通学」が67%と一番多く，次いで「徒歩」，「自動車」，「バス・JR」がいずれも11%となっている。「通学時間」に関しては，前期課程では，「15分未満」が83%，後期課程では，「15分未満」が56%，「15分から30分未満」が33%であった。

「収入・支出」については，前期課程では，72%が親等からの援助を除く平均収入額は「3万円未満」，24%が「3～5万円未満」である。全ての学生が「10万円未満」の収入となっている。後期課程では，44%が「3万円未満」である一方で，22%が収入額「15～20万円未満」と回答している。収入「10万円未満」では，前回調査と同様に55%であった。

「親等からの援助」に関しては，前期課程では，17%が親等からの援助が全くなく，79%が10万円未満の援助を受けている。後期課程では，44%が親等からの援助が全くなく，100%が7万円未満の支援であった。博士前期・後期課程とも，前回調査より支援額が減少している傾向にあった。

「1か月の平均支出額」については，前期課程では，「7～10万円未満」が28%と一番多く，次いで「3～5万円未満」が24%となっている。後期課程では，「10～15万円未満」が33%と一番多く，次いで「7～10万円未満」が22%となっている。

「奨学金の希望」においては，前期課程では，38%が奨学金を受給しているが更に希望している。後期課程では，奨学金を受給しているが更に希望する割合が56%と全教育部で最も高い。

「アルバイト」については，前期課程では，69%の大学院生がアルバイトを行っており，全体で最も割合が多い。後期課程では，33%がアルバイトをしていると答え，前期課程に比較して約2分の1の割合となっている。一方，1週間あたりのアルバイト従事時間は，前期課程では「5時間未満」が40%であったのに対し，後期課程では67%と，前期課程の学生は後期課程の学生に比べてアルバイトに従事している割合も多いが従事時間も長い。アルバイトの目的は，前期課程では，「生活費や学費のため」が30%，「レジャー・旅行」と「日常の娯楽・嗜好品等購入のため」を合わせると46%と全体で最も高く，半数が娯楽などのためにアルバイトをしている。一方で，後期課程では，「生活費や学費のため」が60%と「学会参加のため」が20%で，娯楽などのためにアルバイトをしていると回答した者は20%と少なく，前期課程と後期課程でのアルバイトに対する意識の違いが認められる。

「アルバイト収入金額」については，前期課程では「3万円未満」が55%，「3～5万円未満」が40%であった。一方で，後期課程では「3万円未満」が100%であった。

「健康状態について」に関する設問の「睡眠時間」においては，前期課程では「6～8時間未満」が52%，「4～6時間未満」が41%であった。後期課程では，「6～8時間未満」が56%，「4～6時間未満」が33%，「4時間未満」が11%と前期課程よりも睡眠時間が短い傾向が見られた。

「気になる症状」において，「ある」と答えた学生は，前期課程は59%，後期課程では78%であった。主な症状は，前期課程は「頭痛」，「下痢・便秘」，「めまい・立ちくらみ」，「生理痛・生理不順」，「アトピー・アレルギー」，「不眠」，後期課程は，「腹痛・嘔気」，「下痢・便秘」，「生理痛・生理不順」であった。

「主な悩みや不安」は，前期課程では「就職や進路」が59%，「勉学」が34%の順であった。後期課程は，「就職や進路」が67%，「勉学」66%，「経済状態」が44%であった。悩み事は，前期課程の約５～７割，後期課程の約３～４割の学生が「友人」もしくは「家族」に相談するとしており，悩みを最も身近な人に相談することで，ストレスを軽減したり，助言を得たり，問題解決をはかるなど，適切な対処行動をとっていることが推測される。また「悩みを誰にも相談しない」という学生が，前期課程，後期課程それぞれ10%，22%であった。

「現在の精神状態」として，前期課程では51%の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び，精神的な健康を保っていると考えられるが，48%は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では「何となく不安」，「やる気がでない」が多かった。後期課程では，55%の学生が「充実している」または「気分は普通」と回答し，症状別では，「落ち込みやすい」が多かった。前回の調査に比べ，何らかの精神的症状を持っている割合が増えており，COVID-19感染の影響があると思われる。

「学生生活上の問題点」の設問では，前期課程では，「飲酒を強要された」が３%，「ストーカーにあった」が３%，後期課程では，「カルトのような集団への勧誘を受けた」が33%であった。前期課程では，迷惑行為が大幅に減少している一方で，後期課程の迷惑行為は，すべて「カルトのような集団への勧誘を受けた」であった。今回の調査では「セクハラを受けた」との回答はなかったため，相談者に関する回答もない。

「盗難，強盗，傷害，痴漢などの事件」の被害については，いずれかにあったと回答した者は，博士前期課程で７%，後期課程で11%であり，いずれも盗難であった。「交通事故」については，被害者・加害者のいずれかになったことがある者が，前期課程で24%，後期課程で22%であった。「大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物の使用」については，使用について「あり」と回答した学生はいなかった。

「大学事務室の対応への満足度」に関して，「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた回答は，前期課程で89%，後期課程で88%であった。

「修学状況について」に関する設問の「教育理念・方針と教育に対する満足度」は，所属する教育部の教育理念や教育方針について，「良く知っている」，「だいたい知っている」と答えた人の割合は，前期課程で73%，後期課程で78%であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して，教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ，前期課程，後期課程ともに100%が「思う」と答えている。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は38%であり，「どちらかといえば満足している」と答えた学生（62%）と合わせて100%であった。後期課程も全体の100%がほぼ満足している（「満足している」11%，「どちらかといえば満足している」89%）。前回調査と比べて，「満足している」と「どちらかと言えば満足している」の合計が上昇している。

「本学を選んだ理由と目的」において，前期課程の学生の主な入学理由は，「出身大学だから」が18%，「希望する研究分野があるから」が26%，「就職等将来を考慮して」が13%，「研究環境が整っているため」が12%となっている。後期課程の学生は，「希望する研究分野があるから」が最も多く27%，次いで「就職等将来を考慮して」が18%，「研究環境が整っているから」が18%，「出身大学だから」が14%であった。大学院進学における志望順位について，当大学院を第一志望としていたものの割合は，本学出身者では前期課程で95%，後期課程で80%に対し，他大学出身者では，前期課程で100%，後期課程で100%であった。

「大学院での勉学で目指すもの」では，前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業

人」48%，「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」34%，「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」17%の順であった。後期課程では，「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員」が44%で最も多く，次に「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が33%，「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」が22%であった。

「授業の内容や進め方」に対して，前期課程では，「満足している」28%，「どちらかといえば満足している」72%で，あわせて100%であった。後期課程では，「満足している」22%，「どちらかといえば満足している」78%とあわせて100%であった。以上の教育課程や授業内容への満足度は，概ね高いものであった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は，前期課程では「20～40時間未満」が28%，「40～60時間未満」が24%，「60時間以上」が10%となっている。後期課程では，「20～40時間未満」，「40～60時間未満」，「60時間以上」のいずれもが22%であった。本調査項目における「授業以外の自分で行う研究活動」の定義に問題があると考えられることから，今後の調査において設問の方法を検討する必要である。

研究指導としては，前期課程において，助教から指導を受ける院生の割合は52%で最も多く，次いで教授が31%，講師が14%であった。後期課程では，教授が44%と最も多く，次いで講師，助教がともに22%であった。前回調査に比べ，教授が直接の指導教員となっている割合が高くなっている。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で，前期課程では「30分未満」が31%と最も多く，次いで「90分～5時間未満」が28%，「30～90分未満」が21%の順となっている。後期課程では，「30～90分未満」が56%，「30分未満」が22%となっている。ただし，この回答は今年度のCOVID-19感染に伴う登校禁止等の影響も大きいと思われる。

「研究指導の内容や進め方について」の設問に対する前期課程の回答は，「どちらかといえば満足している」が最も多く52%，「満足している」の38%と合わせると，90%であった。後期課程の回答は，「満足している」22%と「どちらかといえば満足している」56%をあわせて78%であり，「不満足である」という回答はなかった。

論文のテーマについての満足度では，前期課程の「満足している」，「どちらかといえば満足している」をあわせた人の割合が93%，後期課程では88%であった。

「指導教員とのコミュニケーションに関する」設問では，前期課程の学生は，「ある程度とれている」が48%，「充分とれている」が41%，「あまりとれていない」が10%であった。同じ設問に対して，後期課程では「ある程度とれている」が67%，「充分とれている」が22%で，「あまりとれていない」が11%であった。「まったくとれていない」という回答は前期課程，後期課程ともになく，前回調査に比べ改善している。

「大学院の教育レベル」に関する設問では，前期課程，後期課程ともに「充分に行われている」と「ある程度行われている」とをあわせて100%であった。

「研究環境に対する満足度」においては，前期課程では，研究環境に「どちらかといえば満足している」55%，「満足している」34%，「どちらかといえば不満足である」が10%，「不満足である」は0%であった。後期課程では，研究環境に，「満足している」が11%，「どちらかといえば満足している」89%，「どちらかといえば不満足である」および「不満足である」はともに0%であった。

「研究環境に満足していない理由」を尋ねた設問では，前期課程では「研究時間」が50%，「施設・設備」「その他」がともに25%であった。後期課程では，不満足はなかった。

「所属教育部に対する満足度」の設問では，前期課程学生は，「満足している」が38%，「どちらかといえば満足している」が59%であった。後期課程学生は，「満足している」が33%，「どちらかといえば満足している」が67%であり，「不満足である」は0%であった。前回調査にあった後期課程の学生

の中に，一定数，現在の研究環境やテーマ，教員とのコミュニケーションなどに問題を抱えている学生がいるという問題は解決しているように思われる。

「図書館の利用頻度」については，前期課程で「半年に１回程度来館する」の 34%が最も多く，次に「１か月に１回程度来館する」が24%であった。後期課程では「半年に１回程度来館する」の33%が最も多く，次に「１週間に２～３回くらい来館する」が 22%であった。

「図書館のサービスに対する満足度」については，前期課程，後期課程ともに「満足している」，「どちらかといえば満足している」の合計で100%であった。

「入学後の海外渡航経験」に関しては，１回以上渡航経験のあるものが前期課程で10%，後期課程で44%であった。「国際学会での研究発表」に関しては，全員が無回答であった。ただし，この設問はCOVID-19 感染の影響がかなり大きいと考えられる。

日本人学生の「英会話」に関して，「日常会話ができる」と「なんとか日常会話ができる」をあわせて前期課程では25%，後期課程で44%であった。全学で比較して特段，栄養生命科学教育部の学生が英会話を苦手にしているという訳ではないが，回答に主観が入っている可能性がある。一方で，「語学に関する自己学習」は，「何もしていない」が前期課程では 49%，後期課程では 44%であった。

「学習への取り組み」に関して，「現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか」について，「良く学習している」と「かなりしている」を合わせると，前期課程では 76%，後期課程では 78%であった。

「本学の教育への期待」に関して「あなたの将来のために，本学の教育に何を望みますか」について，前期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究」が 21%，「企業等での長期間の実践的なインターンシップ」が 17%，「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が 15%，「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」が13%であった。後期課程では，「複数の教員による多様な視点に基づく教育･研究」が 35%，「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が 29%，「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」が 24%であった。

「本学の国際化への対応」については，「非常に積極的であると思う」，「どちらかといえば積極的であると思う」を合わせると，前期課程では 76%，後期課程では 78%であった。

「進路選択･就職について」に関する設問の中で，前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは 14%で，「奨学金等の援助があれば進学したい」の 10%とあわせて 24%であった。これは前回調査の 28%とほぼ同様である。なお，進学希望先を本学としたものは 57%であった。一方，43%が「未定」と答えた。前期課程の学生の就職希望職種は，「大学，官公庁の教育・研究職」および「大学，官公庁の教育･研究職以外の公務員」をあわせて 19%，「企業等の研究職」および「専門職（医師など）」をあわせて 53%であった。後期課程の就職希望職種は「大学，官公庁の教育・研究職」が 67%，「企業等の研究職」が 33%であった。

「進路選択で重視する要件」を尋ね，３個以内での複数回答結果では，前期課程では「就職先の将来性・安定性」が 24%で，次いで「収入」が 22%，「能力を発揮できること」16% であった。後期課程では，「能力を発揮できること」30%，「収入」が 26%，「就職先の将来性・安定性」および「勤務地の地理的条件」が 11%であった。前期課程，後期課程ともに前回調査と大きな変化はなかった。

「進路選択の情報の入手手段」について，前期課程では，「Web・インターネット」29%，「先輩・知人」24%，「指導教員」13%，「就職情報誌・新聞・マスコミ」10%の順であった。後期課程では，「指導教員」が 30%，「Web・インターネット」が 25%，「先輩・知人」20%，「就職情報誌・新聞・マスコミ」15%であった。前期課程・後期課程ともに，前回調査と大きな違いはない。

「キャリア支援室利用状況」については，前期課程は過去の利用も含めてキャリア支援室の利用は52%で，前回より増加している。後期課程は過去の利用も含めて33%であった。大学院生は専門性の高い資

格を持ち特殊な業種へ就職することが多く，その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いためにキャリア支援室を利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果は，さまざまな面でCOVID-19による影響が大きく，いままでの調査と単純に比較することはできないと考えられる。

8－7　保健科学教育部

保健科学教育部における前期課程在籍者は58人，回答者は42人，回収率は72.4%であった。後期課程在籍者は22人で，回答者は9人，回収率は40.9%であった。留学生は，前期課程在籍者は2人，後期課程在籍者は2人である。第7回調査の回収率と比較すると，前期課程では約7％上昇し，後期課程では約5％上昇した。回収率を高めるため指導教員から丁寧に調査への協力依頼を行った結果と言えるが，両課程とも社会人が多く，回収率を高めにくい状況は継続している。電子メールやＷｅｂ上での回答等，回収方法の工夫を継続的に講じる必要がある。

第1章「本調査の対象者について」では，回答者の出身地は，前期課程の43%が「徳島県」で，第7回調査よりも7％低下した。次いで「近畿」(24%)，徳島県以外の「四国」(14%）の順であった。後期課程では，「徳島県」が67%，徳島県以外の「四国」が22%，「近畿」が11%ずつで，第7回調査と比較し，徳島県の割合は約30%上昇した。

回答者の出身大学（大学院）は，前期課程では「徳島大学」が62%で， 第7回調査より13%減少した。後期課程は「徳島大学大学院」が44%，徳島大学以外の「国内の大学院」と「高等専門学校の専攻科」がそれぞれ11%であった。社会人が占める割合は，前期課程40%， 後期課程78%であり， 後期課程は全教育部の中で社会人学生の割合が最も高い。

第2章「家族･住居･通学について」の「家庭の収入」では，前期課程は500～750万円未満が48%で最も多く，次いで250～500万円未満（26%），750～1,000万円未満と250万円未満がそれぞれ12%であった。後期課程は，500～750万円未満が33%で最も多かった。

「住居区分」では，前期課程で最も多かったのが，「アパート・マンション（家族と別居)」で60%，次いで「自宅（家族と同居)」が38%で，第7回調査とほぼ同様の傾向であった。社会人学生の割合が高い後期課程は「自宅（家族と同居)」が89%と大半を占めた。

「婚姻状況」は，前期課程では「配偶者なし・子供なし」が71%で，第7回調査より18%減少した。「配偶者あり･子供あり」は19%で，第7回調査より8％増加した。授業や研究をしているとき，子供の世話をしているのは，「配偶者」と「親や親戚」を合わせると40%で，保育施設や小学校等の回答が合わせて30%と増加傾向にある。後期課程の「配偶者なし・子供なし」は33%，「配偶者あり・子供あり」が56%で，授業や研究をしているとき，子供の世話をしているのは，「配偶者」と「親や親戚」を合わせると55%で，家族や親戚の協力を得られている様子がうかがえる。

「通学方法」は，前期課程では，「自転車」通学が50%で最も多く，次いで「自動車」が31%であった。社会人学生の割合が高い後期課程では，「自動車」が78%である。「通学時間」は，前期課程では，「15分未満」が55%，「15分～30分未満」が31%で「30分以内」が9割近くを占め，「2時間以上」は5％であった。後期課程は，「15分未満」が11%，「15分～30分未満」が56%で「30分以内」が約7割を占めた。「2時間以上」は22%であり，県外の学生は通学に長い時間を費やしている。

第3章「収支出について」の「1か月の平均収入額」については，前期課程では35%の学生が5万円未満の収入であるが，35%は20万円以上の収入を得ている。前期課程留学生では，「3～5万円未満」が50%，「10～15万円未満」が50%であった。後期課程では，30万円以上が44%で最も多く，第7回調査より19%増加した。「親等からの援助」は，前期課程の60%が全くないと答えており，第7回調査

より24%増加した。以下,「3万円未満」(17%),「3～5万円未満」(12%),「5～7万円未満」(10%)となり，収入面での独立傾向がうかがえる。後期課程は，78%は援助が全くないと回答していた。

「1か月の平均支出額（授業料支出は除く)」は分散しているものの，前期課程で「5～7万円未満」が21%で最も多く，次いで「15～20万円未満」が19%であった。10万円未満の区分を合算すると，57%が支出を10万円未満に抑えていた。社会人学生の割合が高い後期課程では,「15～20万円未満」と「30万円以上」がそれぞれ33%で，教育部の中で20万円以上の割合が最も高かった。

「奨学金」について，前期課程では,「現在受給中であるが，更に希望する」(31%）と「現在受給していないが，希望する」(5%）を合わせると全体の36%が奨学金を希望しているが，残りの64%は受給も希望もしていない。また，後期課程で奨学金を希望するのは33%で， 67%は奨学金を受給も希望もしていない。第7回調査と比べ，受給希望者は前期課程，後期課程でそれぞれ8%増加した。

「現在アルバイトをしているか」では，前期課程では，アルバイトをしている割合は36%であった。前期課程のアルバイトをしている者のうち,「アルバイトの従事時間」は，60%が週に10時間未満で，20時間を越えるものは20%であった。アルバイトの目的は,「生活費や学費のため」が41%で,「アルバイトの収入額」は,「10～15万円未満」が最も多く27%であり，他の教育部に比べアルバイトによる収入額は多い傾向がある。次いで「3万円未満」,「3～5万円未満」,「7～10万円未満」がそれぞれ20%であった。「アルバイトのトラブル」は,「無回答」が7%いたものの，93%はトラブルがなかった。また，社会人学生の割合が高い後期課程ではアルバイトは11%であった。

第4章「健康状態について」では,「睡眠時間」は前期課程で「4～6時間未満」が50%,「6～8時間未満」が48%であった。後期課程では,「4～6時間未満」が33%,「6～8時間未満」が67%で，睡眠不足に留意が必要である。「気になる症状」については，前期課程では「ない」が57%,「時々ある」が26%であった。症状として「頭痛」(29%),「めまい・立ちくらみ」(14%),「生理痛・生理不順」(14%),「アトピー・アレルギー」(14%),「不眠」(29%),「その他」(71%）と多岐に渡り，分類しにくい多様な症状を抱えている。後期課程では78%が気になる症状を抱えているが，症状に関する有効回答は得られていない。

「主な悩みと不安」については，前期課程の31%は「ない」と回答しており，第7回調査の42%より11%低下し，不安を抱えている学生が増加する傾向にある。最も多い悩みは「勉学」(36%)，次いで「就職や進路」(33%）であった。また17%が「経済状態」と回答していた。後期課程では，67%が「勉学」と回答しており，第7回調査より29%増加している。次いで「就職や進路」(44%）であった。「相談相手」は，前期課程は,「家族」が64%,「友人」が57%,「教員」が19%であった。後期課程は,「家族」が78%,「教員」が44%で,「友人」と「誰にもしない」がそれぞれ22%であった。

現在の「精神状態」は，前期課程では「気分は普通」が50%で最も多い一方で,「なんとなく不安」,「落ち込みやすい」,「やる気がでない」を合わせると25%で，精神状態への支援の必要性がある。後期課程では， 「いらいらする」と「落ち込みやすい」を合わせると44%で，心理状態への支援が必要である。

男子の78%は非喫煙者であったが，22%は喫煙者であった。女子は100%が非喫煙者であった。飲酒は男女共に「たまに飲酒する」が最も多く5割程度であった。

「キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門」を利用したことがあると回答したのは前期課程で45%であった。「キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門があることを知らなかった」学生は24%で，第7回より増加傾向を示した。後期課程で利用したことがある学生は78%であった。

第5章「学生生活上の問題点」において,「迷惑行為を受けたことがあるか」では，前期課程の90%が受けたことはなかったが，2%が「大学内でアカハラを受けた」と回答した。後期課程では全員が迷惑行為を受けていなかった。

「キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）の利用」について，「利用したことがある」学生は前期課程で５％，「知らない」と回答した学生が 48％で，「知らない」と回答した割合は第７回調査よりも６％増加していた。後期課程では11％が「使用したことがある」と回答した。また，利用した学生は，前期課程，後期課程共に 100％が「満足である」か「どちらかといえば満足である」と回答しており，第７回調査と同様，高い満足度を維持している。

盗難や強盗，傷害，痴漢事件の被害については，前期課程の 98％が「被害に遭ったことがない」と回答したが，「盗難に遭ったことがある」が２％であった。後期課程で被害に遭った学生はいなかった。また，前期課程で交通事故の「被害者となったことがある」と回答したのは 14％，「被害者・加害者の両方になったことがある」が 10％であった。後期課程では「被害者となったことがある」が 56％，「被害者・加害者の両方になったことがある」が 11％であった。大麻・覚せい剤などの薬物使用は前期課程，後期課程ともに０％であった。

「大学事務室の対応満足度」は，「満足している」と「どちらかといえば満足である」を合わせた割合は，前期課程で 93％，後期課程は 89％であった。

第６章「修学状況について」の「教育理念・方針と教育に対する満足度」では，前期課程において，「教育理念や教育方針を知っている」割合は，「良く知っている」「だいたい知っている」の合計が 59％で第７回調査より６％増加した。後期課程は「良く知っている」と「だいたい知っている」の合計が 77％で，第７回調査より 11％減少した。教育理念や教育方針に沿った教育を受けていると「思う」は，前期課程で 92％， 後期課程が 86％であった。教育課程の満足度は，前期課程では，「満足している」「どちらかといえば満足している」が 96％，「どちらかといえば不満足である」「不満足である」が４％であった。後期課程は，「満足している」「どちらかといえば満足している」が 89％で，第７回調査より 11％低下した。

徳島大学出身者は，前期課程は 100％，後期課程は 83％が第一志望で入学していた。他大学卒業者の大学院進学の際には，前期課程の 80％，後期課程の 67％が「第一志望だった」と回答した。「現在所属する大学院に入学した主な理由」について， 前期課程では「希望する研究分野があるから」が最も多く 31％，次いで「出身大学だから」(23％)，「指導教員に勧められたから」（９％），「就職等将来を考慮して」（９％）であった。「研究環境が整っているため」も８％あった。後期課程では，「希望する研究分野があるから」が 23％で最も多く，次いで「指導教員に勧められたから」(18％)，「地元の大学だから」（14％)，「出身大学だから」（９％)，「継続して修学するため」（９％)，「先輩や友人に勧められて」（９％）であった。

「大学院での勉学により目指すもの」については，前期課程では「高度な専門的知識･能力を持つ，高度専門職業人」が 76％と最も高く，減少傾向にあった第５～７回調査から転じて増加傾向を示した。一方，後期課程では 「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」が 56％，次いで「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」(33％)，「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」（11％）であった。後期課程の学生は大学教員を目指す学生の割合が教育部の中で最も高かった。

「授業の内容や進め方」について，「満足している」「ある程度満足している」と回答した学生は，前期課程で 93％，後期課程では 100％で，第７回調査と同様であった。

「授業以外の研究活動に費やす１週間の平均時間」について，前期課程では「５時間～ 10 時間未満」が最も多く 24％，また，５時間未満の区分をまとめると 45％になり，教育部全体（５時間未満が 21％）よりも研究活動に費やす時間が少なかった。一方，「40 ～ 60 時間未満」と「60 時間以上」の合計は 15％であった。社会人学生の割合が高い後期課程では研究時間が少ない傾向はさらに顕著であり，「90 分～５時間未満」が 56％と第７回調査よりも５時間未満の学生が 18％増加した。

「研究を直接指導している教員」について，「教授」と回答した学生は，前期課程では 67％，後期課程

は100％で，後期課程は教育部の中で最も多かった。また，「指導教員から研究指導を受けている１週間の平均時間」について，前期課程では「30分～90分未満」が43％で最も多く，次いで「30分未満」「90分～５時間未満」がそれぞれ26％であった。後期課程では「30～90分未満」が78％で，次いで「30分未満」「90分～５時間未満」がそれぞれ11％であった。研究の進行状況によって指導の重点が異なるため，学年によって差が生じている可能性がある。

「研究指導の内容や進め方についての満足度」について，「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は，前期課程が93％，後期課程は89％で，第７回調査より微増している。「修士論文の研究テーマに関する満足度」について，「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は96％，「博士論文の研究テーマに関する満足度」については全員が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答していた。

「指導教員とのコミュニケーション」について，前期課程では「充分とれている」「ある程度とれている」98％で，第７回調査より９％増加している。「まったくとれていない」学生はいなかった。後期課程では「充分とれている」と「ある程度とれている」を合わせると89％であったが，第７回調査では０％だった「あまりとれていない」が11％に増加した。

「大学院に相応しいレベルでの教育」については，前期課程において，「充分に行われている」が57％で第７回調査より４％増加している。「あまり行われていない」「全く行われていない」を合わせると４％であった。後期課程では，「充分に行われている」と「ある程度行われている」の合計が100％であった。

「現在の研究環境についての満足度」は，前期課程の91％が「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答した。後期課程では，「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計が66％となり，第７回調査より34％低下した。前期課程における「研究環境に満足していない理由」は，「施設・設備」が50％，「研究費用」「研究時間」「その他」がそれぞれ17％であった。後期課程では，「施設・設備」と「研究費用」がそれぞれ40％であった。

「所属している教育部･専攻の全体としての満足度」について，「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は，前期課程で95％，後期課程で88％であり，後期課程の11％は「どちらかといえば不満足である」と回答しており，改善が望まれる。

「図書館の利用頻度」について，前期課程では「半年に１回程度利用する」学生が最も多く40％，次いで「１か月に１回程度利用する」が21％であった。「１年に１回程度か，それ以下の来館頻度である」は14％，「１週間に１回程度利用する」は12％であった。後期課程では「１年に１回程度か，それ以下の来館頻度である」が最も多く33％で，社会人学生にとって利用しにくい状況が推測される。電子ジャーナルやデータベース等，非来館利用も含めた利用目的では，前期課程では「図書等の貸し出し」（32％），後期課程では「図書等の閲覧やコピー」（32％）が最も多かった。「図書館のサービスに対する満足度」について，「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は，前期課程で95％，後期課程が89％で，第７回調査よりも満足度は上昇していた。

「現在所属している大学院にふさわしい学習をしているか」について，「よく学習している」「かなりしている」と回答した学生は前期課程では72％で第７回調査と比較して12％減少している。後期課程では100％で，第７回調査より25％増加した。

「入学後の海外渡航の経験」について，前期課程で「ない」と回答した学生は86％，「１回」または「２回」と回答した学生がそれぞれ７％であった。後期課程は67％が「ない」と回答した。前期課程で海外渡航の経験のある学生のうち「学会参加」目的は29％であった。後期課程は「学会参加」が67％であった。

「国際学会での研究発表」について，「国内の国際学会での発表」がある学生は，有効回答では前期課程，後期課程，共に100％であり，第７回調査から大幅に増加した。

「英会話能力」について，「できない」「あまりできない」と回答した学生は前期課程で63%，後期課程では33%であり，第７回調査から減少した。しかしながら，前期課程，後期課程の両方で「専門用語を使った会話ができる」は０％であった。

「語学力を高めるためにしていること」では，前期課程の73%は「何もしていない」と回答した。「つとめて外国人と英語でコミュニケーションする」が10%であった。後期課程では「何もしていない」が31%，「ラジオ・テレビの英会話番組で勉強している」，「外国のラジオ，テレビを視聴している」がそれぞれ23%であった。「何もしていない」と回答した学生の割合は特に後期課程で第７回調査よりも32%減少していた。後期課程では語学力向上のための意識向上が進んでいることがうかがえる。

「あなたの将来のために本学の教育に望むこと」について，前期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が最も多く21%，次いで「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が19%であった。「特にない」は10%であった。後期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」と「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」がそれぞれ30%で最も多かった。大学院教育への多様な希望に応じたカリキュラム設計やシラバス作成が必要である。

「本学の国際化への積極性」について，「非常に積極的であると思う」「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した学生は，前期課程で74%，後期課程は89%で，どちらも第７回調査より増加している。

第７章「進路選択・就職について」では，前期課程の学生で「博士（後期）課程への進学」について「進学したい」，「奨学金等の経済的支援があれば進学したい」と回答したのは41%，「就職したい」と回答したのは40%であり，第７回調査よりも21%進学志向が高まった。後期課程への進学意志のある学生のうち，本学を希望しているのは88%で，第７回調査よりも31%増加した。前期課程で就職を希望する学生のうち「専門職（医師等）」と回答した学生が41%で最も多かった。「進路選択で重視する要件」は，前期課程では能力を発揮できること」が最も多く25%，次いで「就職先の将来性・安定性」（22%），「収入」（21%），「勤務地の地理的条件」（14%）であり，これらの４項目が主要件になっていた。後期課程も同様の傾向であった。

「進路を考える上での情報入手手段」について，前期課程では，「Web・インターネット」が最も多く29%，次いで「先輩・知人」が26%，「指導教員」は21%で，第７回調査とほぼ同様の傾向を示した。後期課程では，「指導教員」の割合が高く，42%であった。後期課程の学生にとって指導教員からの情報は重要であることがうかがえる。

「キャリア支援室の利用状況」については，前期課程の88%，後期課程の89%がキャリア支援室を「利用したことがない」と回答しており，第７回調査とほぼ同様の結果を示した。保健科学教育部の大学院生は専門性の高い免許や資格を持ち，比較的限定された業種へ就職することが多いため，キャリア支援室の情報や支援よりも他のサポートを利用していることが推測される。「就職に関する大学への要望」は前期課程では「就職情報誌など就職関係書籍の充実」が25%で最も多く，次いで「面接対策・履歴書の書き方などの実践的指導の充実」（20%）であった。後期課程では「面接対策・履歴書の書き方などの実践的指導の充実」が最も多く29%，次いで「企業説明会の内容充実」，「就職ガイダンスの充実」が同率で21%であった。実践的な内容の就職活動支援に加えて，専門性の高い業種への就職支援の充実が望まれる。

以上を踏まえ，以下の３点を今後の課題としてあげたい。

１．学生が抱える悩みの解消としての「研究時間の確保」

前期課程，後期課程共に最も多い悩みが「勉学」であった。「経済状態」を悩みとする割合と比較すると，前期課程では約二倍，後期課程では約三倍に上った。この結果は，経済状態を悪化させることなく勉学に打ち込めた結果と捉えることもできるが，社会人学生が多いため，十分な収入を得る就労

環境が得られていると同時に，勉学や研究に割く時間の確保に苦労している一面を示しているものと考えられる。今回の調査においても，奨学金の受給や受給希望が低率である一方で，アルバイトの時間や収入が多く，研究時間を割いて収入を得ている背景がうかがえた。就労活動が研究活動の障害とならないよう，奨学金制度の充実等の経済支援策が望まれる。

2．国際学会への積極的な参加への継続的な支援

今回の調査では国内の国際学会への参加と研究発表が大幅に増加したが，海外での口頭発表は非常に少ない。その背景に語学力の問題と旅費等の経済的な問題がある。語学力を高める取り組みへの動機づけの機会を増やすことや，資金獲得に早急に取り組む必要があるが，コロナ禍において普及した遠隔会議形式の学会開催によって旅費の問題が解消され，語学力向上のための機運が高まることを期待したい。

3．アカデミックハラスメントの根絶

学生生活上の問題点として，前期課程の２％が「学内でアカハラを受けたことがある」と回答したことは決して看過できない問題である。副指導教員やアドバイザー教員の指定等，複数の教員が関わる仕組みが構築されたところであり，前回の第７回調査の６％からの数値改善が進んでいると判断されるが，引き続き各教員の意識改革が必要である。定期的な研修の機会を設ける等，アカデミックハラスメントが起こらない対策が不可欠である。

８－８　先端技術科学教育部

先端技術科学教育部の学生数は，前期課程が 320 人，後期課程が 95 人である。今回の調査における学生の回答率は，前期課程が 27%，後期課程が 36%であり，第７回調査に比べると，前期課程で 49 ポイント，後期課程では 12 ポイント減少した。本教育部の回答率は前期・後期課程ともに全体の中で低い水準であった。Web 上での調査実施は今回が初めてであったが，調査に積極的に参加してもらうためには，学生への丁寧でこまめな協力依頼に加え，Web 調査ならではの工夫が必要と考える。調査対象数が少ないことから本調査結果が全体像を正確に現しているとは言い難く，解釈には注意を要する。

第１章「本調査の対象者について」より，前期課程の出身地は前回調査とほぼ同様であり，徳島県 24%，徳島以外の四国 11%，中国 16%，近畿 39%で徳島県と近隣府県で９割を占めた。後期課程では徳島 49%，近畿 23%，徳島以外の四国３％となり，徳島県出身者の割合が倍増した。また，前期課程の本学出身者は 91%を占め，後期課程でも前回調査より 23 ポイント増の 49%であった。一方，徳島大学大学院修士・博士前期課程出身者は 18 ポイント減の 11%であった。社会人と留学生の割合は，前期課程ではそれぞれ２％，6%，後期課程では 17%，49%で，前回調査とほぼ同じ数字であった。

第２章「家族・住居・通学」より，家庭の年間所得が 500 万円未満の割合は，前期課程では前回調査より 17 ポイント増の 50%，後期課程では５ポイント増の 68%であった。この所得階級には，新型コロナウイルス蔓延による経済悪化の煽りを受けた家庭もあると考えられる。奨学金等の制度によって，教育にかかる家計の経済的負担が軽減されることを期待する。

住居は，前期課程の 22%，後期課程の 29%が家族と同居の自宅，前期課程の 75%，後期課程の 60%が家族と別居のアパート・マンションで，前回調査とほぼ同様の結果であった。ただし，国際交流会館の利用は，前期課程でゼロ，後期課程でも６％のみで，留学生の住居としての役割を減じている。住居費が４万円未満の割合は，前期課程では 47%，後期課程では 57%であった。それぞれ前回調査の 67%，71%より減少しており，住居環境の変化が窺えた。配偶者や子供の有無，研究や授業中の子供の世話については前回調査と同様であった。通学方法は，前期，後期課程ともに自転車が最も多く，それぞれ 69%，37%，次いで徒歩の 14%，26%であった。前回調査に比べると，後期課程では，徒歩，バス・

JR がそれぞれ 13 ポイント，11 ポイント増加し，自転車は 22 ポイント減少した。通学時間は，前期，後期課程ともに 8 割前後が 30 分未満で前回調査と大きく変わらなかったが，後期課程では 2 時間以上が 5 %から 11%に増加した。先のバス・JR 利用の増加を説明するものかもしれない。

第 3 章「収入・支出について」より，平均収入月額は前回調査とほぼ同様であった。前期課程では，3 万円未満が 45%と最も多くを占め，25 万円未満まで収入額の増加とともに割合が減少している。後期課程では，3 万円未満がやはり最も多く 34%であったが，3 万円以上から 30 万円以上まで広く分布し，収入額とその割合に傾向は読み取れない。また，親等からの援助については，前期課程では，全くないと 3 万円未満の援助がそれぞれ 18%，26%，後期課程では，全くないが 60%を占め，前回調査とほぼ同じ結果であった。

奨学金については「受給中であるが，更に希望する」が，前期課程で 39%，後期課程で 43%と同等であったが，「現在受給していないが，希望する」が前期課程の 10%に対し，後期課程では 31%と高い割合を示した。前期課程では 5 割，後期課程では 7 割を超える学生が奨学金を希望しており，教育支援のより一層の拡充が図られるべきである。一方，アルバイトをしている学生は，前期課程 60%，後期課程 40%で，そのうち，週 10 時間以上従事している学生は，前期，後期課程ともにほぼ 50%であった。また，アルバイトの目的も「生活費や学費のため」が多くを占め，前期課程 38%，後期課程 78%となっており，後期課程の学生にはより手厚いサポートが必要であることがわかる。また，前期課程の 27%，後期課程の 21%の学生がアルバイトでトラブルに遭遇している。後期課程の学生については前回調査よりトラブルに遭遇する割合は増加しており，適切なアルバイトの斡旋や指導が求められる。

第 4 章「健康状態について」より，睡眠時間の時間別割合は前期，後期課程とも前回調査と同様で，「6 ～ 8 時間未満」の学生が前期，後期課程ともに 6 割を占めた。また，気になる症状が「時々ある」または「常にある」の割合も，前期，後期課程ともに前回調査の 44%，61%から 38%，49%に低下している。ただし，常に気になる症状では，アトピー・アレルギーが前期課程では 57%，後期課程では 100%と，前回調査の 37%，29%より大幅に増加した。新型コロナ禍にあって生活習慣の乱れが一因となっているかもしれない。

主な悩みや不安については，前期課程では経済状態および勉学がともにほぼ 3 割で，前回調査で最も多かった就職や進路を上回った。新型コロナウイルス蔓延による経済状況の悪化や授業形態の変容，昨今の売り手市場を反映した結果と思われる。後期課程でも経済状態，勉学がそれぞれ 37%，31%で，前回調査と同様に上位であった。悩みについての相談相手は主に友人や家族で，後期課程では教員への相談が前回調査より増えている。しかし，誰にも相談しないと回答した学生はやや増加傾向にあり，前期課程で 22%，後期課程で 17%であった。また，現在の精神状態については，「充実している」または「気分は普通」が，前期課程 74%，後期課程 86%であったが，前回調査と同様，一部の学生は「落ち込みやすい」，「やる気が出ない」等の問題を抱えている。悩みや不安，個々の精神状態の解決については，履修相談室やキャンパスライフ健康支援センター・保健管理部門の活用も望まれるが，前期課程の 16%，後期課程では 49%が，「本部門があることを知らない」または「知っているが行ったことがない」と回答した。入学ガイダンスや学生アドバイザーによる学生へのセンター利用の周知，また，センターを気軽に利用できるような工夫も求められる。

第 5 章「学生生活上の問題点について」より，迷惑行為は前期，後期課程ともに 9 割近くは迷惑行為を受けたことはないと回答した。しかし，後期課程では「大学内でアカハラを受けた」が前回調査の 2 %より 11%に大きく増加し，前期課程でも 2 %がアカハラを受けている。また，「大学内でセクハラを受けた」も後期課程のみで割合は少ないが看過できるものではない。個々の教員の見識を高めることが最も重要であるのは当然だが，研修等によって定期的に意識づけをすることも必要である。一方，インターネットによる誹謗・中傷やいたずら電話など，匿名を盾とする迷惑行為も散見し，継続した注意喚

起，対策が必要である。アカハラを受けた時の相談先は，友人，家族，教員で割合に偏りはないが，相談の窓口機関であるキャンパスライフ健康支援センター・総合相談部門への相談は少ないようである。本部門の利用者には概ね満足のいくサービスが提供できていると考えるが，「本部門があることを知らない」または「知っているが行ったことがない」との回答も，前期課程で83%，後期課程では88%と多い。同センター・保健管理部門と同様に継続して利用促進を図るべきである。

犯罪被害については，前期課程では17%が盗難に，後期課程では３%が盗難，同じく３%が痴漢に遭っている。交通事故については，前期課程で23%，後期課程で26%が被害者・加害者のいずれかを経験している。現金や貴重品，自転車の盗難，また，交通事故も含め，心がけ次第である程度は回避できるため，犯罪被害や事故に係る教育と指導，繰り返し注意喚起を行う必要がある。両課程の学生とも違法薬物の使用はなかった。

大学事務室の対応について，「どちらかといえば不満足」または「不満足」とした学生は，前期，後期課程でそれぞれ16%，3%で，概ね対応には満足している。

第６章「修学状況について」より，教育部の教育理念や教育方針を，「よく知っている」または「だいたい知っている」は，前期課程で前回調査より20ポイント増の63%，後期課程では69%で，そのうち，その理念や方針に沿った教育を受けていると答えた学生は，前期課程で91%，後期課程では79%であった。また，教育課程および授業の内容や進め方について，「満足している」または「どちらかといえば満足している」は，前期，後期課程ともに９割を超えた。

本学大学院を第１志望とした学生は，本学出身者では，前期課程では前回調査とほぼ同様の89%，後期課程で前回調査より11ポイント増の90%であった。他大学卒業者では，前期課程60%，後期課程71%で，それぞれ16ポイント減，10ポイント増となった。大学院への入学理由は，前期課程では「出身大学だから」が30%で最も多く，次いで「希望する研究分野があるから」，「就職等将来を考慮して」，「継続して修学するため」がほぼ同じ割合を占めた。後期課程では「希望する研究分野があるから」を理由とする学生が26%で最も多く，「就職等将来を考慮して」は少数の５%で，研究マインドの涵養が窺えた。また，「指導教員に勧められたから」と答えた後期課程の学生は前回と同様に10%で，進学の実現において指導教員が一定の役割を担っていることが窺えた。大学院の勉学で最も目指すところは，前期課程では前回調査と同様に高度専門職業人，後期課程では研究者であった。後期課程では前回最も多かった高度専門職業人を研究者が上回った。

授業以外の自分で行う研究活動に，週40時間（週５日，１日平均８時間）以上を費やす学生は，前期課程では18%，後期課程では51%で，各々，前回調査より９ポイント，３ポイントの減であった。一方，研究活動が週10時間（週５日，１日平均２時間） に満たないとの回答は，前期課程で24%，後期課程で18%であったが，各々，前回調査より６ポイント，２ポイント減じている。新型コロナウイルスへの対応から思うように研究時間が取れない状況であったと思うが，前回調査と大きな違いは見られなかった。しかしながら，本教育部の学生の研究実績を考えると，研究活動が週40時間に達していない学生が前期課程で８割，後期課程で５割いるとの結果は，俄には信じがたい。指導教員から与えられた課題にも相当の時間を費やしている筈である。調査の設問文や設問枝等の検討，改善が必要であると思われる。

直接の指導教員が教授である割合は，前期課程41%，後期課程80%で，前期，後期課程の指導教員に占める教授の割合の違いは前回調査の17ポイント差より広がった。研究指導を受ける時間は，前期課程では前回調査とほとんど変わらず，週30分未満の割合が18%，30～90分未満が53%，90分～５時間未満は28%である。後期課程では週30分未満の割合が34%，30～90分未満が26%，90分～５時間未満は34%であった。両課程とも，研究指導，研究論文テーマ，研究環境，大学院全体について，「満足している」または「どちらかといえば満足している」が８～９割以上である。学生の多くが大学院レベルに概ね相応しい教育を受けていると回答しているが，より一層の満足度を得るには，施設・設

備，研究費の充実が必要である。指導教員とのコミュニケーションも良好ではあるが，コミュニケーションが「あまりとれていない」または「まったくとれていない」と回答している両課程の１割前後の学生を減らすべく，対策を講じるべきである。週30分未満の研究指導は短いようにも感じるが，コミュニケーションが充分にとれていれば問題はないと考える。

図書館利用について，新型コロナウイルス感染対策の影響からか，前期，後期課程ともに，月１回程度を超えて来館している学生は４割程度に留まり，一方，年に精々１回しか来館しなかった学生の割合は，前期課程で３割，後期課程では４割に迫り，前回調査よりも増加している。図書館を利用する主な目的は，両課程ともに「図書等の貸し出し」であるが，後期課程では，「自習」や「電子ジャーナル・データベース」の割合が比較的高くなっている。図書館のサービスに対し，100％近い学生が「満足している」または「どちらかといえば満足している」との高い評価であったが，図書資料や電子コンテンツの不充実に対する不満の声も複数挙がっている。

学習への取り組みについて，現在所属している大学院に相応しい学習を「よくしている」または「かなりしている」を合わせると，前期，後期課程とも８割程度である。後期課程では，前回調査の９割より低下した。大学院レベルに相応しい教育が概ね行われているとの回答は９割に達していたが，学習意欲を高め，維持する教育手法も求められる。

海外渡航の経験について，１回以上経験した学生は，前期課程30％，後期課程47％で，前回調査とほぼ同様の結果であった。その目的は，前期課程では，観光を除けば，学会参加，次いで留学が多く，両者で45％であった。後期課程では，学会参加を目的とする渡航が観光を上回る46％で，留学目的と合わせると54％であった。海外渡航についての今回の結果は，多くが新型コロナ禍以前の実績によると考えられるが，前期，後期課程ともに前回調査とほとんど内容は変わらなかった。英会話について，「何とか日常会話ができる」のレベルまで含めれば，前期課程で33％，後期課程で56％である。語学力向上のための自己学習としては，TOEIC，TOEFL 等の受験が両課程とも最も多く，その他の手段も含めて語学力向上に努めている学生は前期課程で61％，後期課程で64％であった。実践的なコミュニケーションから語学を身に着けようとする学生の割合は，前回調査と同様に両課程とも１割に満たない。

自分の将来のために本学の教育に望むこととして，前期，後期課程ともに，「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が２割と最も高い割合を占めたが，６つの選択肢の中で際立った選択傾向はなく，前回調査と変わらない結果であった。また，本学の国際化への対応については，「非常に積極的であると思う」または「どちらかといえば積極的であると思う」が前期課程で68％，後期課程で83％であった。前期課程では10ポイント低下しており，積極的とは思えない理由として，学内，研究室で英語を話す機会がないことや，留学支援が手薄であること，英語授業の物足りなさ等が挙がっていた。

第７章「進路・就職について」より，後期課程へ進学したいと回答した前期課程の学生は５％ほどで，そのうち３％は経済的支援を条件としている。また，就職希望職種としては，前期課程で技術職が73％，後期課程では大学・官公庁の教育・研究職が27％，技術職が31％，企業等の研究職が19％であった。進路選択で重視される上位３項目は，前期，後期課程ともに，前回調査と変わらず，収入，就職先の将来性・安定性，能力を発揮できることであった。就職先の将来性・安定性は後期課程に比べ前期課程でより重視されている。進路の情報入手先として，Web・インターネットが前期，後期課程ともに最も利用されており，次いで，前期課程では先輩・知人，後期課程では指導教員らとなっている。また，就職情報誌・新聞・マスコミの利用が増加している。特に後期課程では，Web・インターネットの利用と合わせ44％で，前回調査より16ポイント高くなっている。進路先を考える上で，より客観的な情報を求める傾向が窺える。就職に関する大学への要望においても，就職情報誌など就職関係書籍の充実や企業説明会の内容の充実を求める学生は少なくない。キャリア支援室について，「現在も利用している」または「以前に利用したことがある」とする回答は，前期課程で62％，後期課程では17％で，前回調査か

ら各々，12 ポイント増，10 ポイント減であった。キャリア支援室では，学生の要望に応じた取り組みにより，サービス向上が図られているが，調査回答の中には，キャリア支援室が提供するサービスと学生の要望に乖離があるとの意見もある。キャリア支援室の利用推進および利用離れの歯止めには，継続してサービス内容を見直し，改善する必要があると考える。

今回の調査の結果から読み取れる課題は以下の通りである。特に新型コロナ禍においては，大学院への進学や修学の継続を断念することがないよう，1，2 について重点的な配慮が必要である。

1．奨学金等による生活支援・教育支援の一層の拡充
2．授業方法の工夫ならびにカウンセリングによる勉学上の不安の解消
3．悩みや不安の相談機関の利用周知
4．アカハラやセクハラへの意識啓蒙
5．研究施設・設備の充実
6．英語での情報発信や英会話活用の機会の創出
7．学生の要望に合致した進路情報の提供

最後に，本節の冒頭にも記したように，本調査の回収率は低く，本教育部の実態を正確に把握するには十分なデータとは言えない。回収率の高い教育部の調査の案内や依頼の方法などを参考とし，また，学生が回答に負担を感じないような工夫を行うことによって，回収率を向上することが求められる。

（特記）留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。本学大学院に在籍する留学生は139 名であり，前期課程で 56 名，後期課程で 83 名である。第 7 回調査と比較して計 54 名の減少となっており，前期課程では 36 名，後期課程では 18 名減少した。留学生の割合は，前期課程では 5.9%，後期課程では 19.2% である。留学生の回答率は，前期課程で 46.4%，後期課程で 48.2% であり，第 7 回調査と比較して前期課程，後期課程ともに減少している。

留学生の住居区分に関しては，前期課程では自宅（家族と同居）はみられず，67% がアパート・マンション（家族と別居），15% が国際交流会館に居住していたが，後期課程では 5 % が自宅，73% がアパート・マンション，15% が国際交流会館に居住していた。第 7 回調査と比較して，自宅と国際交流会館での居住は減少し，アパート・マンションでの居住が増加した。住居費用について見ると ,3 万円未満が前期課程では 65%，後期課程では 57% ともっとも多く，3 ～ 4 万円未満が前期課程で 13%，後期課程で 29% であった。留学生の半数以上は 3 万円未満の居住費で生活していた。

収入については，前期課程の 1 か月の平均収入は 3 万円未満が 44% で，3 万～ 5 万円未満が 30% であり，多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。後期課程の 76% が 10 万円未満，20% が 10 ～ 15 万円未満の収入を得ており，第 7 回の結果と比較すると，平均収入が減少した。親等からの援助額については，前期課程の 19% は援助が全くなく，援助があったとしても 66% が 7 万円未満である。後期課程に関しては，51% の留学生が親等からの援助を受けていないことが分かった。第 7 回調査と比較して，留学生への親からの援助が増加していることが分かる。奨学金希望者は，前期課程では 100%，後期課程では 98% と非常に高い。アルバイトについては，前期課程の 52%，後期課程の 29% がアルバイトをしているが，これは第 7 回の調査結果（前期課程 47%，後期課程 22%）よりも増加している。アルバイトの収入金額は，第 7 回調査では，前期課程では 7 万円以上が 11%，後期課程では 21% であったが，今回の調査ではすべて 7 万円未満であった。これらの結果を見る限り，第 7 回調査より留学生の全体の収入は減っており経済状況は良いとは言えず，奨学金やアルバイトなどでの収入が必要となっている。

留学生の健康状況については，気になる身体症状が「ある」とした学生は 53% で，第 7 回調査と比べ

ると減っている。悩みや不安は「ない」とした者が約２割であったが，「経済状態」の悩みと不安を約７割近くの学生があげており，回答者全体の割合に比べてかなり高く，大学としての支援の強化も求められる。留学生は悩みごとを，友人，家族，教員などに相談しているようである。一方悩みを誰にも相談しないと回答した留学生は約１～２割みられた。現在の精神状態では，留学生では約８割以上が「充実している」または「気分は普通」を選んでいる。

教育課程に「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が，前期課程で96%，後期課程100% である。また，９割を超える留学生（前期課程では全ての学生）が概ね大学院に相応しいレベルの教育が行われていると回答している。第７回調査の結果と同様で，満足できる数値であった。本学を選んだ理由と目的では，両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が多かった。

留学生の研究活動については，週20時間以上研究活動を行っている割合が，前期課程では34%，後期課程では82%であった。第７回調査の結果より前期課程においては33%減少しているが，後期課程では変わりはなかった。また指導教員から研究指導を受けている１週間の平均時間は「30～90分未満」と「90分～５時間未満」に集中した。研究指導の内容や進め方については，全てが「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した。論文の研究テーマに関しては９割を超える留学生が概ね満足している。指導教員とのコミュニケーションに関する結果も良好で，コミュニケーションが「まったくとれていない」との回答はなかった。研究環境では，９割を超える留学生（前期課程では全ての学生）が概ね満足していた。所属大学院に対して，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した留学生の割合は，前回同様100%近くあった。新型コロナ禍のため，対面授業や学内への立ち入りが制限されてはいたが，指導教員の工夫した指導によって，研究指導や研究内容に対しての満足度は高かったと考えられる。

日本語に関しては，「なんとか日常会話ができる」以上の回答をした留学生は，前期課程では92%，後期課程では64% であった。第７回調査の時と比較すると，前期課程で22%の増加，後期課程で４%の増加であった。また，前期課程では78%，後期課程では81% の留学生が日本語コースを「受講している」，「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており，日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる。また，日本語コースの満足度については，「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した留学生では，前期課程では100%，後期課程では100%（前回調査と比較し11%増加）と高い満足度を示している。留学生の日本語学習において本学で開講されている日本語コースが重要な役割を果たしており，今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

大学院での学習への取り組み状況についての質問に対して，「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した留学生は，前期課程では100%と前回の調査より16%増加し，後期課程でも98%で前回の調査より４%増加している。

本学の国際化への対応については，前期課程の100%，後期課程の91% が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えており，第７回調査と比較して，前期課程では５%増加，後期課程では13%増加している。従って本学が行っている国際化への対応は留学生に評価されているものと考えられる。

前期課程学生の進学選択に関して，全体として「進学したい」が30%，「経済的支援があれば進学したい」が26%となっており，日本人学生に比べ進学意欲を持つ学生が多い。第７回調査結果と比較すると，「進学したい」は17%の増加である一方，「経済的支援があれば進学したい」は４%の減少である。また，進学希望者の47%は，本学の博士（後期）課程を希望しているが，前回調査より７%減少している。13%が他大学を希望，前回調査より２%減少している。進路選択で重視するものでは，前期課程・

後期課程の学生共に，「収入」，「就職先の将来性･安定性」，「能力を発揮できるところ」と続いた。進路情報の入手手段については，全体としては日本人学生とほぼ同様の傾向が見られたが，後期課程については「大学内資料」が14％で，「Web・インターネット」25％，「指導教員」20％に次いで多く，キャリア支援室や国際課における情報提供がある程度有効に機能しているものと思われる。また，キャリア支援室の利用状況については，前期課程の留学生の場合，「現在も利用している」，「以前に利用したことがある」が22％，後期課程では９％であり，前期課程の学生は日本人学生の約半分にとどまっていた。留学生については，特に前期課程では日本人学生に比べて利用率が低いが，語学や文化など特異な支援項目もあり，インターナショナルオフィスにも支援を求めながら就職活動が行われているものと思われる。利用率を高めるさらなる工夫が必要であると思われる。就職に関する大学への要望で多かった内容は，前期課程では「面接対策･履歴書書き方」，「就職ガイダンス」，「就職情報誌」，「企業説明会」，そして後期課程では「面接対策・履歴書書き方」，「就職情報誌」，「企業説明会」などが続いた。

今後の課題

本学では，第３期中期目標期間中に350人以上の外国人留学生を受け入れる目標を立てている。また，「徳島大学改革プラン」においても，外国人留学生を日本に定住させることを目標に，学部留学生を増加させ，外国人留学生の在籍者率を３％から６％に引き上げる目標を掲げ，加えて日本人学生のグローバル化を推進するため，海外派遣を倍増する目標も掲げている。しかし，2020年の新型コロナ禍により，インバウンド学生の受け入れプロセスに影響が出たため，新入留学生数が減少している。また，留学生の平均収入が減少し，さらに，卒業生の帰国や就職も困難になるなど，卒業後の進路にも影響を与えている。コロナ禍前の状況にいつ戻ることができるかは不明であるが，上記の目標を達成するとともに，留学生支援に向けて以下のことを考える。

１．渡日前入学許可制度により，優秀な留学生の入学実績が蓄積された。コロナ禍で，現地での渡日前入学許可制度の説明会等が難しくなっており，オンライン説明会，オンライン入試相談等実施した。このようなオンラインを用いたリクルート活動を充実させるとともに，各卒業留学生同窓会や現地拠点との連携を推進し，優秀な人材を受け入れる必要がある。

２．経済状況が恵まれてない留学生に対する住宅，奨学金や授業料免除制度の拡充，TA／RA制度の活用などを含むさらなる支援を充実し，安心して勉学できる環境を整備する必要があると思われる。留学生へのサポート体制の充実のため，オンライン相談などを導入する必要がある。

３．コロナ禍により，留学生の日本文化体験や国際交流の機会が制限されている。留学生が日本文化理解や日本語能力を向上するため，日本人学生や地域住民との交流に関してオンラインによる取り組み等を整備する必要があると思われる。同様に，日本人学生の国際化意識の向上および異文化体験，英語能力，コミュニケーション能力の向上を強化する必要もある。すでに実施されているオンライン海外留学プログラムなどを維持・拡大することが求められる。

４．コロナ禍により，留学生の就職は困難になっている。インターナショナルオフィス，キャリア支援室，留学生共同サポートセンターなどの学内外の関連機関が連携して，オンライン留学生の就職支援，特に県内就職支援を強化する必要がある。

第９章　総括と提言

大学院生を対象とした学生生活実態調査は，大学院生の就学及び生活の実情を的確に把握し，大学として支援する事項を見出すことが主な目的である。今回（第８回）の調査は，本学大学院に在籍する1,370 名（前期課程 938 名（うち留学生 56 名），後期課程 432 名（うち留学生 83 名））を対象に行い，全体のアンケート回収率は 37％であった。回収率は，第５回 53％，第６回 60％，第７回 66％と着実に向上していたが，今回は新型コロナウイルスの影響により，初めて WEB による調査となったため，回答率が減少していることが考えられる。本調査目的である学生の生活実態を正確に把握するためには，より高い回収率が望まれることから，特に回収率の低い研究科・教育部においては今後，回収率の向上に向けた取り組み・工夫が求められる。

今回の調査結果は，２年前に実施した前回（第７回）調査から数値の変動はあるものの，傾向は大きくは変わっていない。研究科・教育部間で結果にバラつきがあるが，本調査の目的である大学院生の支援に大学全体としてどう活かすかという観点から，以下に総括と提言を取りまとめた。

１．経済状態について

大学院生を取り巻く経済状態は依然として厳しいことが窺われ，奨学金希望者の割合は両課程ともに約半数に上る。特に後期課程では，いずれの研究科・教育部においても保護者等からの経済的支援を受けていない大学院生の割合が最も多く，全体では 64％（前期課程 28％）に上る。そのため，収入面での独立傾向が強く，アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した割合が後期課程（64％）の方が前期課程（39％）よりも高く，また，10 万円以上のアルバイト収入を得ている大学院生が後期課程で 13％（前期課程２％）という結果に繋がっていると思われる。アルバイトに 25 時間以上従事している大学院生も少なからずいることから，学業への支障が危惧される。経済的に援助が必要な大学院生が学業に専念する時間を持つことができる支援の構築は，大学院の充実に向けて取り組むべき継続的重要課題の一つである。

２．健康状態について

身体的健康については，約半数の大学院生が「気になる症状がある」と回答しており，症状の多くは生活習慣の不良を原因として発生していると考えられることから，健康管理に対する学生の意識向上対策が求められる。精神的健康については，約７割の大学院生が悩みや不安などの何らかの精神的不調感を持っており，その多くは「勉学」，「就職」，「経済状態」といった学生特有の問題であるが，これには新型コロナウイルスの影響によるさまざまな方面の行動制限も少なからず影響していると思われる。この結果から，健康面・精神面の問題に対する支援の強化が望まれるが，悩みや不安の相談相手は身近な友人や家族が主であり，専門家による支援が得られるキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）や保健管理部門の利用は依然として低調である。支援窓口としてのキャンパスライフ健康支援センターを気軽に利用してもらうための一層の啓蒙活動に加え，指導教員が学生の変調を一早く把握し，必要に応じて大学院生に当センターの利用を促すことも必要であろう。

３．生活上の問題点について

大学院生の約１割が，何らかの迷惑行為を受けている。ハラスメント（「セクハラ」，「アカハラ」，「飲酒強要」）は，残念ながら今回の調査においても皆無とはならず，引き続き適切な予防啓発活動が望まれる。支援窓口となる総合相談部門（学生相談室）の利用率は 12% であり，利用後の満足度が高い。なお，同部門の認知率，利用率はともに蔵本地区で低い傾向にあり，認知度向上対策が求められる。

交通事故（約 30％），盗難被害（約 10％）を経験している大学院生がいることから，身近な事件・

事故防止に向けた啓蒙活動の強化・継続が必要である。

4．修学状況について

前期・後期課程ともに，授業および研究指導に対して高い満足度が維持されており，教員との意思疎通も良好で，全体として大学院生の 90% 以上が研究科・教育部に満足しており，今後も高い満足度が維持されるように努力を継続することが求められる。研究環境に対しても 80% 以上が概ね満足しているが，一方で，満足していない大学院生が少なからずおり，その理由として「施設・設備」，「研究費用」が多い。大学の財政事情が厳しく，教員個々の研究費獲得への依存度が今後更に高まることが予想される状況からは，すぐの改善は難しいと言わざるを得ない。また，「研究時間」と不満の理由にあげる大学院生も約２割いることから，指導教員による何らかの対応が望まれる。

図書館の利用頻度は研究科・教育部間で大きなばらつきがあるが，図書館のサービスに対して約 90％の大学院生が満足しており，評価が高い。今回の調査においても，Web を介した学術雑誌やデータベースの利用頻度が高いことが再確認され，大学院生の日々の学習や研究活動に必要不可欠なこれら閲覧サービスの質・量の維持・充実は強く望まれる。

徳島大学の国際化への取組みは大学院生から一定の評価を受けているが，一方で，学生の英会話習得に向けた学習努力や，海外渡航経験，国際学会における発表経験などは低調に推移しており，学生の国際化意識は高いとはいえない。今回調査においては，新型コロナウイルスの影響も考えられるが，今後，オンラインを有効活用した研修や学会参加など状況に合った新しい方法を検討する必要がある。また，この傾向の原因を分析し，国際的に通用する有能な人材育成に向け，グローバル化教育の整備・推進，国際学会への発表支援などを組織的に強化していくことが求められる。

5．進路・就職について

前期課程から後期課程への進学を希望する大学院生の割合が18％であり，高いとはいえない。後期課程への進学を促すためには，経済的支援や修了後の就職先の開拓など大学院生が安心して進学できる環境整備を進めていくことが必要である。

キャリア支援室の利用は，依然として「利用したことがない」との回答が両課程とも半分以上あり，まだ十分に活用されていない。学生の就職希望先は高度な専門職，研究職，技術職など研究科・教育部間で異なるが，就職に関する学生の要望の多くはキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであることから，キャリア支援室は各研究科・教育部と連携してサービス内容の周知を徹底すれば，大学院生にとって貢献度の高い情報提供ソースになると期待される。

6．留学生について

留学生の学習への取り組み状況は良好で，日本人学生の学習意欲や国際化意識の向上に良い影響を及ぼしていることが期待される。留学生の良好な学習への取組み状況や教育課程への高い満足度を維持し，大学院の国際化を加速していくためには，日本人学生と同様にニーズの高い経済的支援と健康面に関する支援，就職支援を充実し，安心して学習できる環境を整備することが望まれる。また，修学・生活支援に繋がる日本語学習の充実と英語による留学生への各種サポート体制の整備に，継続して取り組んでいく必要がある。

あ と が き

平成17年度から隔年で継続的に行われている大学院生を対象とした生活実態調査は，今回で８回目となります。これまでのアンケート結果と比べて全体的に大きな変化は見られませんが，新型コロナウイルスによる社会活動の低下の影響が今後じわじわと表れてくることが予想されます。アンケートの回収率に目を向けると，感染拡大防止の観点から今回初めてWEBによる調査となったため，前回まで増加傾向にあった回収率が減少に転じました。回収率が低下すると，福利厚生および修学指導における課題を見出しにくくなります。以前より，大学院生を取り巻く経済状態は厳しいものでしたが，今後一層厳しくなることが予想されます。また修学におけるオンラインへのシフトや対面コミュニケーションの制限による健康面への影響も危惧されます。急激に社会情勢が変化したことから，学生生活の実態をより正確に把握する必要があります。調査結果に基づいて必要な改善を図り，どのような改善がなされたかをわかりやすくフィードバックすることが，継続的に調査を行うことの重要性の理解を深めます。このように，双方向性のある生活実態調査の充実に取り組むことが今後の課題と考えております。留学生にとっても状況は同様であり，各種サポート体制の一層の充実が求められます。

最後になりましたが，今回の調査にご協力いただいた大学院生諸君，調査・分析，報告書の執筆を担当された委員の先生方，およびご協力頂いた事務職員の皆様に深く感謝します。

学生生活支援室長

吉　村　　弘

CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

大学院生生活実態調査報告書

第8回

徳島大学

令和3年3月

徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。（令和2年3月24日）

・認定評価機関：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

・認定期間：7年間

・（令和2年4月1日～令和9年3月31日）